

年報（令和元年度）

年報

令和元年度



第三十八号

群馬県立小児医療センター



第38号



GUNMA CHILDREN'S MEDICAL CENTER
群馬県立小児医療センター

◇ 基本理念

小児の専門病院として、
未来あるこどもたちの^{いのち}生命をまもり、
すこやかな成長発達を支援します。

◎ 基本方針

- 1 小児の専門病院として、高度で安全かつ先進的な周産期・小児医療を提供し、地域の中核病院の役割を果たします。
 - 2 子どもの権利の尊重とチーム医療により、安心して信頼できる医療を提供します。
 - 3 地域の関係機関と連携して、診療・研究及び研修を行い、周産期及び小児の医療・保健レベルの向上に努め、子どもの望ましい成長・発達を支えます。
 - 4 適正な情報公開と診療情報の共有により、健全で透明性の高い病院経営に努めます。
-

☆子ども憲章

- 1 子どもは、安心できる環境の中で、良質でおもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 子どもとその家族は、医療について年齢や理解度に応じた十分な説明と情報の提供を受ける権利があります。
そして、不必要な医療処置や検査から守られ、家族が治療に参加できるように配慮されます。
- 3 子どもとその家族は、医療について自由に意見を述べ自ら医療を選択しあるいは拒否する権利があります。
- 4 子どもとその家族は担当医以外の医師の考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
- 5 子どもは年齢や症状に応じた養育を受ける権利があります。
- 6 子どもとその家族は、自己の診療録の開示を求める権利があります。
- 7 子どもとその家族は、いつでもプライバシーが守られ、個人情報の保護を受ける権利があります。
- 8 子どもの権利条約を守ります。

★職員倫理要綱

- 1 職員は、病める子どもたちの治療はもとより、子どもの成長発達を家族とともに支えるよう、医療を受ける者とその家族の人格を尊重し奉仕しなければならない。
- 2 職員は、医療を受ける者に優しい心で接し、医療の内容をよく説明し、理解と信頼を得るよう努めなければならない。
- 3 職員は、医療を受ける者の知る権利と自己決定の権利を尊重し擁護しなければならない。
- 4 職員は、守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めなければならない。
- 5 職員は、国籍、人種、民族、宗教、信条、性別及び年齢にかかわらず、すべてに平等に、優しい心で接しなければならない。
- 6 職員は、常に自らも研鑽に努め、安心して信頼される最善の医療が提供できるように心がけなければならない。
- 7 職員は、互いに尊敬し協力して医療に尽くさなければならない。
- 8 職員は、医療の公共性を重んじ、医療を通じて社会の発展に尽くさなければならない。
- 9 職員は、国が定める医療に関する倫理指針を遵守しなければならない。
- 10 職員は、群馬県職員としての自覚を持ち、お互いに協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

～令和元年度の出来事から～



第一回在宅療養支援委員会勉強会（6月20日）
講師：西村 怜 医師



医療安全講演会（10月18日）
講師：危機管理専門家・航空評論家
元日本航空機長 小林 宏之 先生



登録医大会（11月5日）



サービス向上委員会接遇研修（11月14日）
講師：清水 真理子 医長
川崎 陽子 臨床心理士



感染防止対策カンファレンス（12月13日）
講師：国立国際医療研究センター国際感染症センター
国際感染症対策室医長 忽那 賢志 先生



クリスマス会（12月22日）



第 133 回センター講話会 (2 月 5 日)
講師：昭和大学歯学部 口腔衛生学講座
名誉教授 向井 美恵 先生



消防訓練 (夜間想定訓練) (3 月 2 日)



カーポート設置 (9 月)



非常用放送設備アンプ更新 (2 月)



超伝導磁気共鳴画像診断装置 (MRI 装置) 更新 (9 月)



動画ネットワークシステム更新 (11 月)

巻頭言

院長 外松 学

昨年5月1日に天皇陛下が即位され、30年余り続いた平成は幕を閉じ、令和の時代が始まりました。即位を祝うパレードは、台風19号による被害に配慮し11月に延期となりました。世界を見渡すと、各地で政情は不安定化を増し、予想を超えた自然災害も多発していますが、令和はどんな時代になって行くのでしょうか。一抹の不安を持ちながらも、令和の時代に希望をもつのは私だけではないのでしょうか。

昨年に引き続き、9月から10月にかけて、立て続けに東日本を台風が襲いました。大雨被害が発生し、19号では各地で河川の氾濫や土砂崩れが発生しました。印象に残ったのは、我々の身近である北陸新幹線の車両120両が水没している映像でした。最終的に全て廃車となったようでした。明るい話題と言えば、ラグビー日本チームがラグビーW杯日本大会でベストエイトに入ったことでしょうか。日本ではラグビーはあまり話題にならないスポーツだと思っていましたが、日本中がラグビーで沸いた瞬間だったようです。

院内に目を向けると、病院経営に関しては一昨年4月の就任あいさつで三つの改善目標を職員に提示しました。1) 入院患者数の増加、2) PICU 加算が算定できる患者数の増加、3) 手術数の増加、の三点です。昨年度はこの目標に近づくことができ黒字決算となりましたが、今年度は1月から3月の病床利用率が低迷してしまいました。結果として、総入院患者数が大幅に減少して赤字決算となりました。原因を究明して来年度に向けた方策を検討する必要があるようです。もう一つの大きな出来事は院内でレベル4bの医療事故が発生したことです。ご本人さまとご家族のかたには多大な苦痛とご心配をおかけしたことを深くおわび申し上げます。また、その事故内容につきましては、1月に記者会見を開きご報告させていただきました。今後は職員全員が一丸となって再発防止に努めて参る所存でございます。

昨年10月には山本一太新知事が当センターを訪問されました。当センターの懸案になっている施設の老朽化と総合周産期母子医療センターの問題について意見交換をさせていただきました。また、施設内の見学もしていただき、実情を理解していただきました。

最後に、年明けからは中国から始まった新型コロナウイルス感染の世界的な蔓延が連日の話題になりました。群馬県でも3月7日に第1例目が発生し、県を挙げての対策が本格化しました。その後、県内の患者も徐々に増加しており、新年度になってもその勢いは続いているようです。現時点では、その終息の見込みはたっていないようです。新年度は新型コロナウイルス感染で振り回されるような気がしています。

令和2年6月

県立病院 赤字1億3100万

昨年度 入院、外来増で過去最少

県立4病院を運営する県病院局は8日までに、2018年度決算が1億3100万円の赤字になったと発表した。入院、外来患者が増加し、収支は前年度より3億3100万円改善した。病院局が設置された03年度以来、赤字が続いているが、赤字額は過去最少となった。

売上高に当たる病院事業収益は、4病院と病院局総務課を合わせて290億3200万円。経費に当たる病院事業費用は、291億6300万円だった。入院収益と外来収益の合計が前年度比で13億円以上増えたことにより、赤字幅が縮小した。赤字だったのは心臓血管センター（前橋市）とがんセンター（太田市）。病院局発足以来の累積損失は、約74億9千万円となった。県立病院は第4次病院改革プラン（18～20年度）に基づく経営改善を進め、黒字化を目指している。

七夕 思い思いの短冊



闘病の子ども励ます竹贈る

小児医療センターに

病気の子どもたちに七夕

を楽しんでもらおうと、渋川ロータリークラブ（浦野

忠夫会長）は5日、渋川市の県立

小児医療センター（外松学院長）に七夕飾り用の竹10本を寄贈した。写真。

竹には子どもたちが思い思いの願いを書いた短冊が飾られ、受納式に参加した12人の会員がほほ笑ましく觀賞した。外松院長から感謝状を受け取った浦野会長は、「病気と闘っている子どもたちに夢と希望を与えたい」と力を込めた。外松院長は「立派な竹をいただきありがたい。子どもたちの切実な願いがかなうように祈りたい」と感謝した。

七夕は同センターの恒例行事で、同クラブは2014年から竹を寄贈している。

渋川

ヒヤリ・ハット4906件 県立4病院

県立4病院（心臓血管、がん、精神医療、小児医療の各センター）から2018年度に報告があった「ヒヤリ・ハット」事例について、県は2日、前年度より890件少ない4906件だったと発表した。医療事

故の報告数は11件となり、前年度から半減した。レベル別に見ると、患者に実害がないとされるレベル1が最多の2112件。観察が必要なレベル2が1215件、消毒など簡単な処置や治療が必要なレベル

3aは112件だった。

医療事故は、手術や入院日数の延長などが必要になったレベル3bが10件、入院患者が自殺したレベル5（死亡）が1件だった。

レベル3aでは、気管に装着するチューブ状の器具が夜間に外れた事例があった。病院側が気付き、外れないようにする補助具を使って対応した。

県病院局は「報告件数の減少に取り組み、できるだけ安全な医療を提供していきたい」としている。

医療ミス10代男性昏睡

小児医療センター 過失認め賠償方針

県立小児医療センター
(渋川市)は23日、入院し
ていた10代の男性患者の呼
吸を助けるため気管に挿入
していた管が外れているこ
とに気付かず、一時的に心

肺停止となる医療事故があつたと発表した。男性は蘇生したが、現在も意識がなく自発呼吸できない状態という。病院側は全面的に過失を認め、家族に賠償金を支払う方針を示した。看護師への教育を見直すなどして再発防止に努めるとしている。

事故があつたのは昨年8月の早朝で、看護師4人が勤務していた。血液中の酸素量などを計測する機器のセンサーに異常が出たが、看護師は機器の故障などと思ひ込み、管が外れていることに気付かなかつたという。その後、管の状態を確認して判明した。男性は心肺蘇生によって一命を取り留めたものの低酸素脳症となつた後遺症で、現在も昏睡状態が続いている。男性は生まれつき重度の心身障害があり、呼吸を確保するために管を常時入れしておく必要があつた。出生直後から入院を繰り返し返していたが、2018年3月から呼吸困難が悪化したため再び入院していた。

事故後、病院は事故調査委員会を設置し、調査してきた。所管する県病院局は同日、管理監督上の責任があつたとして院長と看護部長を嚴重注意処分、看護部長を注意処分とした。病院は、再発防止策として①看護師教育の見直し②看護マニュアルの改訂③シミュレーション研修の実施などに取り組む。

県庁で記者会見した外松学院長は「患者と家族に対する思いをさせてしまったことを深くおわび申し上げる」と謝罪。その上で、「安全管理体制に課題があつた。病院の職員が一致協力し、県民からの信頼を回復できるよう努力したい」と述べた。

教えてドクター

感染防げ 新型コロナウイルス



県立小児医療センター
アレルギー・感染免疫・呼吸器科
清水 彰彦 さん

新型コロナウイルスによる肺炎 (COVID19) 拡大を受け、国は全国的なスポーツや文化イベントの中止・延期、規模縮小の対応をはじめ、全国の中小高校や特別支援学校を臨時休校にするよう要請するなど大きな影響が出ている。県立小児医療センターアレルギー・感染免疫・呼吸器科医師の清水彰彦さんは「情報に流されず、感染しない、感染させない対策を取ってほしい」と訴える。

誰でも感染し得るウイルス

コロナウイルスは、風邪の原因の4種類と、2002～03年に30を超える国や地域で拡大した重症急性呼吸器症候群 (SARS) と重症肺炎を起こす中東呼吸器症候群 (MERS) の計6種類が知られていました。

新型コロナウイルスは、昨年12月に中国の湖北省武漢市で発見された7番目の新たなコロナウイルスです。これまで人類に感染したことがないウイルスのため、誰にでも感染する可能性があります。グローバル化で人の往来が激増し、人から人への感染が起き、世界中で感染が広がっています。

高齢や基礎疾患で重症化

飛沫感染と接触感染が主な感染経路です。飛沫感染は、咳などで出たしぶきでおおよそ2メートル以内の人に感染します。接触感染では、ウイルスが付着したドアノブや机などに触

れることで手指が汚染され、目や鼻、口を触ることで感染します。

濃厚接触は、感染症が疑われる人との同居や、タクシーなどの車内に一定時間一緒にいたり、近距離で会話をしたりすることを言います。適切な感染対策をしないと、ウイルスに感染する可能性が高くなります。

潜伏期間は平均5日、最短1日、最長で14日とされています。PCR検査で感染の有無を判断します。致死率は約2%と推定され、SARSの約10%、MERSの約30%と比べ低いですが、患者数が多いため、亡くなる人の数は多くなっています。1人の患者から1.4～2.5人に感染させると推定され、インフルエンザと同程度の感染力です。

8割以上の患者は軽症です。重症化しやすいと判明しているのは、高齢者と糖尿病や高血圧、心臓血管疾患や慢性閉塞性肺疾患などの基礎疾患がある人。重症例対象の研究では、ほとんどの症例に発熱、多くは咳や呼吸困難が起こります。筋肉痛や倦怠感も比較的多いです。重症化で、両肺に肺炎が広がり、血液中の酸素濃度が維持できなくなったり、血圧が下がったりします。不整脈や腎臓の障害も報告されています。

長引く発熱は相談を

対策として、自分が感染しない、他人を感染させない視点が必要です。最も重要なのは、せっけんでの手洗いやアルコール製

剤による手指消毒です。不用意に目や口を触らないことも大切です。体調不良時は、仕事を休み外出を控え、咳やくしゃみが出る時はマスクやハンカチなどで口や鼻を押さえる「咳エチケット」を徹底してください。

現状で確立した治療法はありません。安静にして十分に水分と栄養を取ることです。不安をあおるデマも多く、正しい情報なのか注意することも必要です。のどの痛みや発熱など風邪のような症状から始まることが多いとされ、「37.5度以上の発熱が4日以上続く」か「強いだるさや息苦しさがある」人以上は、県保健予防課などに相談してください。

感染症対策

手洗い (爪は短く、時計や指輪は外す)

- ① 手をぬらし、せっけんで手のひらをこする。
- ② 手の甲をのぼすようにこする。
- ③ 指先・爪の間を念入りにこする。
- ④ 指の間を洗う。
- ⑤ 親指と手のひらをねじり洗い。
- ⑥ 手首も忘れずに洗う。清潔なタオルでよく拭く。

咳エチケット (人が多い場所では必ず口・鼻を覆う)

- ・マスクを着用 (隙間がないよう鼻まで覆う)
- ・【マスクがない時】ティッシュ・ハンカチで覆う
- ・【とっさの時】服の袖で覆う

日ごろから規則正しい食事、十分な睡眠を取り、ストレスをためないように心掛けています。毎年必ずインフルエンザの予防接種を行い、海外の出張や旅行



**健康
流儀**

など行く時は、必要な予防接種を受けています。山登りや釣りなどのアウトドアが趣味で、好きなことをして、心身ともにリフレッシュしています。 (清水)

目 次

業務編

1. 第一病棟	3
(1) 総合内科	6
(2) 腎臓内科	6
(3) 神経内科	7
(4) アレルギー感染免疫・呼吸器科	7
(5) 遺伝科	7
2. 第二病棟	9
(1) 小児外科	9
(2) 形成外科	10
(3) 整形外科	12
3. 第三病棟	15
(1) 循環器科	15
(2) 心臓血管外科	16
(3) 血液腫瘍科	16
4. 小児集中治療部	17
5. 新生児未熟児病棟	20
6. 産科病棟	25
7. 麻酔科	27
8. 放射線科	28
9. 歯科・障害児歯科	29
10. 放射線課	31
11. 検体検査課・生理検査課	34
12. リハビリテーション課	37
13. 栄養調理課	43
14. 臨床工学課	44
15. 薬剤部	46
16. 看護部	48
(1) 第一病棟	55
(2) 第二病棟	55
(3) 第三病棟	56
(4) NICU 病棟	57
(5) GCU 病棟	58
(6) 小児集中治療部	59
(7) 産科病棟	60
(8) 手術室	61
(9) 外 来	62

(10) サービス向上委員会	63
17. 母子保健室	65
18. 地域医療連携室	68
19. 医療安全管理室	69
20. 感染対策室	73

研究研修編

1. 学会報告	79
◆小児内科	79
<神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科>	
<血液腫瘍科>	
◆小児外科	82
<一般外科><形成外科><整形外科>	
◆産科	83
◆麻酔科	84
◆歯科	84
◆検体検査課・生理検査課	84
◆放射線課	85
◆リハビリテーション課	85
◆栄養調理課	85
◆臨床工学課	85
◆看護部	85
2. 誌上発表	86
◆小児内科	86
<神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科>	
<血液腫瘍科>	
◆小児外科	88
<一般外科><整形外科>	
◆歯科	88
◆検体検査課・生理検査課	88
◆放射線課	89
3. 単行本・その他	89
◆小児内科	89
<循環器科><アレルギー感染免疫・呼吸器科>	
4. 班会議等報告書	89
◆小児内科	89
<アレルギー感染免疫・呼吸器科>	
5. 講演	89
◆小児内科	89
<神経内科><循環器科><アレルギー感染免疫・呼吸器科>	

◆小児外科	90
<整形外科>	
◆歯科	90
6. 講習会・研修会	91
◆小児内科	91
<循環器科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科>	
◆検体検査課・生理検査課	91
◆放射線課	91
◆リハビリテーション課	91
◆栄養調理課	92
◆臨床工学課	92
◆薬剤部	92
◆看護部	92
◆母子保健室・地域医療連携室	93
7. 学会長・座長・その他	93
◆小児内科	93
<循環器科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科>	
<血液腫瘍科>	
◆小児外科	93
<一般外科><形成外科>	
◆リハビリテーション課	94
◆臨床工学課	94
◆看護部	94
8. 学生講義	94
◆小児内科	94
<神経内科><循環器科><新生児科><アレルギー感染免疫・呼吸器科>	
◆歯科	95
◆リハビリテーション課	95
◆臨床工学課	95
◆看護部	95
9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス	97
10. 小児医療センター講話会	98
11. クルズス（臨床講義）	98
12. CPC	98
13. その他	98
(1) 研究会・セミナー等	98
14. 公的資金による研究	99
1 院内研究費による研究	
2 院外研究費による研究	

統計編

1. 管理業務	108
(1) 会計	108
①経営分析	
②収益的収入及び支出	
③月別医業収益内訳	
2. 診療業務	114
(1) 総括表	114
(2) 月別・科別外来患者受診の状況	116
◆ 1日平均外来患者の状況	
(3) 月別入退院患者数	119
◆ 1日平均入院患者の状況	
(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数	121
◆地域別新規登録患者数	
◆地域別入院患者の状況	
◆地域別利用状況	
(5) 年齢階層別状況 (新規登録患者)	126
◆年齢階層別状況	
(6) 救急医療	127
①救急医療の状況	
② NICU 市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況	
(7) 予防接種実施状況	129
①月別実施状況	
②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況	
③推移	
(8) 疾病分類別入院患者数	130
①第一病棟	
②第二病棟	
形成外科	
整形外科	
③第三病棟	
④新生児未熟児病棟	
(9) 麻酔	135
①月別麻酔件数	
②年齢階層別状況	
(10) 放射線	136
①依頼科別件数	
②月別件数	
③検査種別件数	
ア CT	

イ	MRI	
ウ	RI	
エ	X-TV	
オ	US	
カ	心臓カテーテル	
キ	一般撮影	
ク	ポータブル撮影	
ケ	画像データコピー	
(11)	臨床検査	140
	①検査の状況	
	②血液製剤取り扱い状況	
	③分割取り扱い状況	
	④幹細胞保存	
(12)	薬剤	142
	①調剤等の状況	
	ア 処方箋の枚数等	
	イ 調剤件数内訳	
	②注射剤の状況	
	ア 注射箋等の枚数等	
	イ 抗がん薬調製数	
	③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況	
	④薬剤情報件数等	
	⑤製剤等の状況(種類別、製剤件数及び量)	
	⑥薬効別薬品購入額	
(13)	リハビリテーション	147
	①診療点数	
	②延べ治療件数	
	③延べ単位数	
	④年齢別患者実数	
	⑤リハビリテーション算定区分別実績	
(14)	栄養	150
	①一般食の種類と食数	
	②離乳食の種類と食数	
	③特別食の種類と食数	
	④調乳の種類及び人数・本数	
	⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数	
	⑥NST(栄養サポートチーム)	
	ア NST介入状況	
	イ 院内NST勉強会実施状況	
(15)	臨床工学課	154
	①臨床業務症例数	

ア	体重別体外循環症例数	
イ	疾患別内視鏡手術症例数	
②	月別始業点検件数	
③	月別人工呼吸器使用中点検件数	
④	月別院内修理件数	
⑤	月別定期点検件数	
(16)	母子保健室	158
①	精密健康診査	
ア	保健福祉事務所・保健所別受診状況	
イ	科別・年齢別受診状況	
ウ	3歳児健康診査・精密検診実施状況	
エ	1歳6か月児健康診査・精密検診実施状況	
オ	科別受診状況及びその結果	
②	子どものこころの発達相談	
ア	来院経路及び年齢別実施状況	
イ	相談件数及び相談後の対応状況	
③	新生児・未熟児病棟(A)および他病棟(B)入院患児の退院連絡	
ア	退院連絡後の状況	
イ	体重別退院連絡実施状況	
④	関係機関との連携状況	
①	から③の事業以外の相談・問い合わせ数	
⑤	関係機関との連携会議	
⑥	子ども虐待防止対策事業	
⑦	心理判定・心理カウンセリング	
<	心理判定>	
ア	心理判定	
イ	アの年齢別被検査者数	
ウ	依頼科	
<	心理カウンセリング>	
ア	心理カウンセリング	
イ	初回心理カウンセリング実施時受診科	
<	精神科コンサルタント>	
⑧	研修会等	
⑨	学会・研修会参加状況	
⑩	群馬県先天性代謝異常等検査事業	
⑪	親の会への支援	
⑫	その他	
(17)	地域医療連携室	166
①	医療相談件数	
ア	相談内容及び件数(地域医療連携室)	
イ	公費負担医療費申請等事務取扱件数	

- ウ 身体障害者手帳
- ②子ども虐待防止対策事業
- ア 院内 CAPS 開催状況
- イ 要支援事例検討会状況

総括編

1. 沿革	171
◆開院後の歩み	172
2. 施設	
(1) 敷地・建物の面積	186
(2) 病棟構成並びに建物配置図	186
(3) 施設・設備の設置状況	187
(4) 付属設備 主なる付属設備一覧	193
(5) 重要物品 主なる医療機器一覧	196
3. 組織	
(1) 機構	199
(2) 人事	200
①役職者名簿	
②職種別・部門別職員配置状況	
4. 運営	
(1) 診療制度	202
(2) 院内会議の状況	206
令和元年度のあゆみ	207
職員名簿、職員異動状況	208
編集後記	211

業 務 編

1. 第一病棟

令和元年度の第一病棟は神経内科 5 名 (10 月から 6 名)、アレルギー感染免疫・呼吸器科 4 名の医師で主な診療を行った。入院患者は 1,037 名であり昨年度の 1,057 名とほぼ横ばいであった (入院患者詳細は別表 1-3 参照、死亡例なし)。

多種多様な疾患・患者を受け入れ、県内唯一のこども病院として求められる医療水準を維持する事は決して容易なことではなく、医師・看護師・他スタッフの献身的努力はもちろん、患者や患者家族の理解や協力を支えられて居ます。県内外あるいは院内からの要求に応えられないこともあると思いますが、他医療機関とも連携しながら、自分たちの役割を果たし続ける所存です。今後ともご理解・ご支援よろしく申し上げます。

(椎原 隆)

表1 第一病棟主診断別入院患者

疾患名	人	疾患名	人	疾患名	人
食物アレルギー	193	睡眠時無呼吸症候群	6	MELAS症候群	2
気管支炎	96	埋伏歯	5	感染性心内膜炎	2
肺炎	83	腎炎	5	強直間代発作	2
てんかん	66	IgA血管炎	4	急性穿孔性虫垂炎	2
う蝕	57	ネフローゼ症候群	4	低血糖症	2
麻痺	52	嘔吐症	4	脱髄性多発神経炎	2
気管支喘息	51	劇症肝炎	4	滲出性中耳炎	2
低ガンマグロブリン血症	49	逆流性食道炎	4	その他	82
胃腸炎	43	敗血症	4		
糖原病2型	25	新生児発熱	3		
筋ジストロフィー	21	胃食道逆流症	3		
脊髄性筋萎縮症	20	起立性調整障害	3		
痙攣	16	トリソミー	3		
ミオパチー	15	アナフィキラシー	3		
慢性呼吸不全	15	咽頭炎	3		
脳症	14	麻痺性イレウス	3		
インフルエンザ	12	先天性多発性関節拘縮症	2		
脱水症	12	哺乳不全	2		
自己免疫性辺縁系脳炎	8	紫斑病	2		
蜂巣炎	7	ミラー・ディカー症候群	2		
川崎病	7	尿路感染症	2		
腸炎	6	急性喉頭炎	2	合計	1,037

表 2 第一病棟入院患者年齢構成

新生児	17 人	1.6%
1 か月～1 歳	95 人	9.2%
1 歳	149 人	14.4%
2 歳	95 人	9.2%
3 歳	80 人	7.7%
4 歳	84 人	8.1%
5 歳	93 人	9.0%
6 歳	64 人	6.2%
7 歳	42 人	4.1%
8 歳	36 人	3.5%
9 歳	32 人	3.1%
10 歳	49 人	4.7%
11 歳	39 人	3.8%
12 歳	23 人	2.2%
13 歳	25 人	2.4%
14 歳	28 人	2.7%
15 歳	25 人	2.4%
16 歳	9 人	0.9%
17 歳	4 人	0.4%
18 歳	8 人	0.8%
19 歳	5 人	0.5%
20 歳以上	35 人	3.4%
合計	1,037 人	100.0%

表3 第一病棟科別入院患者数

アレルギー感染免疫・呼吸器科	507人	48.9%
神経内科	399人	38.5%
歯科	68人	6.6%
循環器科	44人	4.2%
外科（小児外科）	10人	1.0%
一般内科（小児科）	4人	0.4%
血液腫瘍科	3人	0.3%
新生児科	2人	0.2%
合 計	1,037人	100.0%

(1) 総合内科

総合内科外来は(月)午前を清水(彰)、午後を鏑木(多)・河崎、(火)午前を山口・鈴木、午後を道
和、(水)午前を野村・清水(有)、午後を山口、(木)午前を清水(有)・鈴木・森田、午後を椎原、(金)
午前を鈴木・柴、午後を大和・森田が担当した。原則として午前中に受け付けるようにしている
が、午後にも急患を受けている。1次および2次医療機関からのご紹介により診療を行っている。
またリハビリテーション前の診察も行っている。予防接種は他の医療機関での接種が困難な方を
中心に主として感染症外来で実施している。総合内科を受診し、入院する場合は多くが第一病棟へ
の入院となるので、入院患者数、およびその疾患については第一病棟の業務編をご参照いただき
たい。なお入院診療も含め紹介の依頼があった場合には原則的に全てお引き受けする方針であるが、
常勤医師がない等の理由で診療が困難な疾患については他の医療機関に受け入れていただいでい
る。さらには他の医療機関から医師を派遣していただき、より多様な疾患や病態に対応するよう
にしている。入院が必要と予測される場合や基礎疾患等から特別な対応を要する場合などは地域医療
連携室および外来診療部門があらかじめご相談を受け円滑な受け入れを心がけている。

(山田佳之)

(2) 腎臓内科

腎臓内科は令和元年度も常勤医が不在のままであり、外来診療のみ継続した。腎臓外来は、(火)
の1,3,5週を丸山、(木)の1,3,5週を群馬大学小児科の池内助教、(金)の2,4週を鎌が担当した。前
年度と同様に初診患者は(木)のみの受け入れとさせていただいたが、令和元年度の延べ受診患者
数は790名であり、前年度より19名減少する結果となった。常勤専門医不在のため、急性・慢性
ともに腎臓疾患の入院管理はできなかった。常勤医の復活が待たれるところである。

(丸山健一)

(3) 神経内科

令和元年度神経内科外来担当は以下の通りで、外来患者数は新患 122 (昨年度 137) 名、再来 3,946 (昨年度 4,048) 名と若干減少傾向でした。10 月から森田孝次医師が加わりました。

月曜午前、金曜終日 椎原 隆
月曜午後、水曜終日 渡辺美緒
月曜午前 迫 恭子 (非常勤) / 清水有紀
火曜終日 清水信三 (非常勤)
第三水曜午後 竹澤伸子 (非常勤)
木曜午前 鈴木江里子 / 森田孝次
木曜終日 道和百合

県内で高い専門性を持って神経疾患に対応できる医療機関は限られており、少子化とは言っても、当院当科に対する重症・稀少あるいは慢性疾患などの要請はむしろ増えている。しかしながら当センターは医療機関としては規模が小さく、医療スタッフ全体の数は多くないため、特に夜間や休日の対応は十分でない事もあります。紹介や転院のタイミングの調整をお願いすることもあると思いますが、自分たちが機能不全に陥ること無くより長く県内外の医療に貢献することが重要な課題と認識しています。皆様のご理解とご協力に感謝します。

(椎原 隆)

(4) アレルギー感染免疫・呼吸器科

アレルギー感染免疫・呼吸器科ではアレルギー性疾患および感染症、膠原病、免疫不全症、呼吸器疾患の診療を行っている。最近では好酸球性消化管疾患、消化管アレルギーおよびその関連疾患の診療が当科の特色の 1 つとなっている。また昨年度からの感染症診療および感染管理業務の強化に加え、今年度は膠原病、免疫、炎症性疾患を専門とする野村 滋医師が着任し、さらに多種多様な炎症性疾患に対して専門性の高い診療が可能になり、総合診療を担当する科としても診療の幅が広がった。今年度も医師 4 名体制で業務にあたった。また多くの初期研修医を受け入れた。今年度はより多岐にわたる食物アレルギーや感染症、免疫疾患の患者を受け入れた。院外活動では日本小児アレルギー学会による食物アレルギーおよび小児気管支喘息の診療ガイドライン作成に取り組み、感染症やアレルギーに関する講演を積極的に行った。研究研修編に記載しているが、当科で経験した症例、および感染症、好酸球、好酸球性消化管疾患、消化管アレルギー、細胞分離法、フローサイトメトリーを用いた新しい検査についての研究成果について学会・論文発表を行った。

当科の外来診療は月曜から金曜まで毎日、午後に行っている。経口食物負荷試験は入院での施行が多い。また感染症コンサルトについては院内外ともに随時受けている。当科では他科が担当している様々な基礎疾患のある方の診療、つまり境界分野の診療にあたることが多い。また患者様とご家族の家庭や集団での生活に対する支援にも力を入れている。総合内科としての役割と専門医療を診療の両輪として取り組んでいる。

(山田佳之)

(5) 遺伝科

遺伝科は平成 19 年 4 月に常勤化されて以降、令和元年度に 13 年目を迎えました。前年度に引き続き、常勤医 1 名での体制で山口 有が担当しました。

診療内容は先天性疾患・遺伝性疾患についての診断や情報提供、遺伝相談 (遺伝カウンセリン

グ)、健康管理のための他科紹介などで、外来診療に加えて入院患者のコンサルテーションを行いました。専門外来は金曜午前および午後に加え、月曜午前の枠を増やすとともに他科受診に合わせて受診できるよう調整を行っています。

外来患者数は、院外紹介の新規患者が 23 人 (前年度 21 人)、院内紹介の新規患者が 91 人 (前年度 84)、遺伝科常勤化に伴う再紹介患者が 22 人 (院外 3 人・院内 22 人: 前年度各 6 人・36 人)、再診 574 人 (前年度 404 人) でした。院外からの新規患者は、群馬大学医学部附属病院 (9 人)、太田記念病院 (2 人)、原町赤十字病院 (2 人) の他、桐生厚生総合病院、群馬県立がんセンター、群馬中央病院、公立碓氷病院、公立富岡総合病院、国立病院機構沼田病院、ベル小児科クリニック、めぐみこどもクリニック、横田マタニティホスピタル、の県内 12 施設、大阪大学医学部附属病院、埼玉県立小児医療センター、長野県立こども病院の県外 3 施設よりご紹介をいただきました。院内紹介/再紹介の依頼元は新生児科 34 人、神経内科 21 人、循環器科 19 人、産科 7 人、整形外科 7 人、総合内科 5 人、血液腫瘍科 4 人、アレルギー感染免疫科 1 人、形成外科 1 人、外科 1 人、歯科 1 人、耳鼻科 1 人、内分泌科 1 人でした。

診断のための遺伝学的検査を行えるよう、保険診療内での検査以外にも、他施設との共同研究による研究的遺伝子解析の実施体制を更に整えました。研究的遺伝子解析については、昨年度に引き続き、慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センターや、未診断疾患イニシアチブ (IRUD) への参加を中心に患者さんの紹介、検査の実施を行いました。

診断された遺伝性疾患について根拠に基づいた健康管理を継続的に行っていくためには、疾患に関する家族の理解を深め、各科と連携して診療を行うことが重要と考えています。当センターでは平成 21 年度より集団診療・家族会 (Down 症候群に対する集団診療「あさがおの会」、13 トリソミー・18 トリソミーの家族会「あさがお」各年 2 回) が継続されており、令和元年度もその運営に母子保健室/地域医療連携室/新生児科/神経内科/歯科/リハビリ科/栄養調理課と共に関わりました。

(山口 有)

2. 第二病棟

第二病棟は外科系病棟であり、外科、形成外科、整形外科が計 27 床にて運用している。また同じ棟内にある DAY 病棟は外科、形成外科、歯科が 2 床にて運用している。

平成 31 年度 (令和元年度)、第二病棟の入院患者数は 841 人であり、平成 30 年度の 840 人とほぼ同数であった。

第二病棟在院日数は 7.8 日であり、平成 30 年度の 9.13 日より短縮した。延べ患者数は 6,539 人であり、平成 30 年度の 7,691 人より 1,152 人減少している。

第二病棟一日平均患者数は 17.9 人であり、平成 30 年度の 21.1 人より 3.2 人減少した。

第二病棟病床利用率は 66.2% であり、平成 30 年度の 78.0% より 11.8% 減少した。

平成 31 年度の DAY 病棟の入院患者数は 417 人であり、平成 30 年度の 413 人とほぼ同数であった。

DAY 病棟病床利用率は 56.8% であり、平成 30 年度の 56.4% より 0.4% 増加した。

(西 明)

(1) 小児外科

診療体制では、内田康幸先生、島田修平先生が各大学の医局人事で異動となり、かわりに群馬大学から小山亮太が加わって、西 明、高澤慎也、高本尚弘、小山亮太の 4 人体制で診療しました。医局人事の都合で人員が一人減となったため若い先生たちはかなり大変な 1 年だったと思います。その分一人ずつの経験症例は充実したと思います。いろいろな大学から若い先生に来てもらうというスタイルをとっているのでもこういう事態は今後もありえると感じました。

入院数 593 例 (昨年度 681 例)、うち手術数 493 例 (昨年度 521 例)、新生児手術例は 36 例 (昨年度 40 例)、腹腔鏡手術 104 件 (去年度 130 件) でした。

昨年度は西が子供と遊んでいるときに指をけがしてしまって手術を一時離脱する事態となり迷惑をかけたのですが、今年は胸部痛、痔疾、腰痛などがでてきて、寄る年波には勝てないと感じる 1 年でした。今年も高澤先生をはじめ外科のみんなにかなり負担をかけてしまいました。外科としては、びっくりするような症例も多々ありましたが、大きな問題もなく 1 年過ごすことができました。ありがとうございました。

今年度は新しい試みとして小腸カプセル内視鏡を導入しました。適応症例は多くて、出血源不明の下血や、原因不明の腹痛、好酸球性胃腸炎や炎症性腸疾患でも小腸の検索を行いました。合併症は経験されず、今まで得られなかった情報が得られていて非常に有用と感じています。御家族の満足度も非常に高かったです。

いろいろな科や手術室や病棟の看護師の方々やメディカルの方々の皆さんの協力のもと優れた治療法を取り入れることができました。ありがとうございました。

(西 明)

<手術症例>

手術症例 R1(H31)年度(重複含む)

正中頸嚢胞、側頸瘻手術	2	腸重積観血的整復	3
気管切開	7	ヒルシュスプルング病根治手術	3
喉頭気管分離術	5	直腸肛門奇形手術(低位)	10
気胸手術(胸腔鏡)	0	直腸肛門奇形手術(中間位・高位)	1
肺葉切除(開胸)	0	肛門疾患	7
肺葉切除(胸腔鏡)	1	胆道閉鎖症手術	3
肺分画症手術(胸腔鏡)	0	胆道拡張症手術(開腹)	0
A型食道閉鎖症手術	0	胆道拡張症手術(腹腔鏡)	0
C型食道閉鎖症手術	0	脾臓摘出術(開腹)	1
食道バンディング	1	水腎症手術	0
食道アカラシア手術(腹腔鏡)	0	膀胱尿管逆流症手術	2
胃・食道逆流防止手術	2	悪性腫瘍手術	1
胃・食道逆流防止手術(腹腔鏡)	23	良性腫瘍手術	6
横隔膜ヘルニア手術(開腹)	3	腫瘍生検	2
横隔膜ヘルニア手術(胸腔鏡)	1	中心静脈カテーテル挿入	21
先天性腹壁異常手術	1	鼠径ヘルニア(精巣水腫含む)手術	93
胃手術(胃瘻含む)	8	鼠径ヘルニア(精巣水腫含む)手術(腹腔鏡)	60
肥厚性幽門狭窄症手術	4	精巣固定術	42
腸閉鎖・狭窄症手術	3	気管支鏡	2
腸回転異常症手術	6	上部消化管内視鏡(治療含む)	53
虫垂炎手術(開腹)	0	下部消化管内視鏡(治療含む)	28
虫垂炎手術(腹腔鏡)	15	小腸カプセル内視鏡	15
人工肛門造設	12	その他手術	34
人工肛門閉鎖	6		
イレウス手術	5	合	計
小腸切除	1		493

(2) 形成外科

令和元年度は平成31年4月に西村 怜医師がレジデントとして赴任し、浜島と西村医師の専門医1名+レジデント1名という2人体制で診療を行った。また、以前に当院に勤務していた専門医である荒木夏枝医師に前年度と同様に非常勤として水曜日に勤務していただいた。手術日である水曜日が専門医2名+レジデント1名となり、並列手術を行うこともあった。

<外来診療>

外来診療は月曜日・木曜日の午後に行い、新患者は月曜日・木曜日の午前中の予約診察として行った。また、月曜日の午前中に外来で血管腫に対するレーザー治療を行った。

令和元年度の新患者数は482人、再診患者数は3,840人、総数4,322人で前年度と比較して新患者数は7%増加した(平成30年度の新患者数は449人、再診患者数は3,909人で、総数4,358人)。

<手術>

手術は、水曜日・金曜日に入院全身麻酔手術及び日帰り全身麻酔手術を行っている。また金曜日

午後には、手術枠の空きが有る場合に外来局所麻酔手術を行った。

令和元年度の形成外科の手術件数は1,190件で、全身麻酔209件(入院141件、日帰り全身麻酔下手術68件)、局所麻酔981件であった。前年度と比較すると全身麻酔手術は若干増加したが、局所麻酔手術が減少した(平成30年度の形成外科の手術件数は1,349件で、全身麻酔201件(入院137件、日帰り全身麻酔下手術64件)、局所麻酔1,148件)。

手術症例を手術内容区分に従って分類し、その術式とともに以下に示す。

(1) 新鮮熱傷	0件	
(2) 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷	0件	
(3) 唇裂・口蓋裂	32件	
口唇鼻形成術	10件	
口蓋形成術	12件	(耳鼻科で鼓膜切開もしくは鼓膜チューブ留置術を同時施行8例)
口唇鼻形成術・口蓋形成術同時施行	1例	
顎裂部骨移植術	9件	
(4) 手、足の先天異常、外傷	18件	
多指症手術	6件	
多趾症手術	2件	
合指症手術	2件	
合趾症手術	4件	
多合趾症手術	2件	
母指形成術	1件	
先天性絞扼輪手術	1件	
(5) その他の先天異常	86件	
副耳切除術	14件	
耳瘻孔切除術	13件	
小耳症術後修正術	1件	
耳介形成術	4件	
睫毛内反症手術	11件	
舌小帯形成術	6件	
漏斗胸手術(Nuss法)	9件	
漏斗胸手術(Nuss法術後バー抜去)	4件	
漏斗胸手術(Nuss法術後修正術)	2件	
臍ヘルニア形成術	21件	
包茎手術	1件	
(6) 母斑、血管腫、良性腫瘍	75件	
母斑切除術	29件	
良性腫瘍切除術	39件	
血管腫切除術	5件	
静脈奇形硬化療法	2件	
(7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建	0件	
(8) 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド	4件	

瘢痕拘縮形成術	4 件
(9) 褥創、難治性潰瘍	0 件
(10) 美容外科	0 件
(11) その他	975 件
レーザー治療	975 件 (うち全身麻酔下 9 例)

手術内容に関しては、例年と特に大きな変化は認めなかった。

口唇口蓋裂に対するチーム医療は、歯科、リハビリ科 (言語療法士) などと共同して継続して行っている。出生前診断をうけた両親に対しては産科外来で出生後の治療につき説明を行うこともある。術前顎矯正は歯科にて早期から行う症例がほとんどとなった。リハビリで言語診察・訓練が増加しており、言語聴覚士の増員が課題である。

血管腫、特に乳児血管腫に対するロングパルスダイレーザー V-beam による治療は、前年に引き続き月曜日午前中に行っている。20～30 人のレーザー治療を行っているが、月曜日が祝日になることが多く、予約を入れるのが困難な状況は変わらない。

当院での漏斗胸に対する Nuss 法手術は平成 11 年 8 月から始まり、今年度で 20 年となった。これまでに 134 例に Nuss 法手術を施行してきた。この Nuss 法に関する研究会として「Nuss 法漏斗胸手術手技研究会」がある。Nuss 法の普及、発展への貢献、また現在では Nuss 法のみならず他の手術手技も含めた漏斗胸治療を対象とした研究会で、小児外科医、形成外科医、胸部外科医、心臓外科医などの外科系医師に加え、看護師、理学療法士など多職種が参加して、昨年までに 18 回開催されている。今回、令和元年 11 月 23 日に第 19 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会を浜島が会長として前橋で開催させていただいた。当院で Nuss 法手術を行うようになって 20 年という節目の年にこのような研究会を開催できたのも、治療にご協力いただいている小児外科、麻酔科、循環器科をはじめとする医師や看護師、理学療法士などのスタッフのおかげである。また研究会当日の運営にもご協力いただき、盛会に開催できたこと感謝するとともに、今後も協力してよりよい漏斗胸治療を行っていきたいと考えている。

(浜島昭人)

(3) 整形外科

1. スタッフ

部長: 富沢仙一

資格: 日本整形外科学会専門医、日本スポーツ協会スポーツドクター、運動器リハビリテーション認定医

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会、日本リハビリテーション学会、日本足の外科学会、日本創外固定学会、日本二分脊椎研究会、脳性麻痺の外科研究会、日本関節鏡学会、関東整形災害外科学会

部長: 浅井伸治

参加学会: 日本整形外科学会、日本小児整形外科学会、関東小児整形外科研究会幹事、日本小児股関節研究会

2. 総括

整形外科医二人体制で行っている。診療体制は下記のようにあり昨年度と同様である。

当科の特色は、脳性麻痺や二分脊椎に対する包括的治療の試みと、さらに、変形治癒骨折や低身長に対し骨延長術、創外固定術、また浅井医師による小児股関節手術治療である。

整形外科外来は、21 診察室、22 診察室は診察を主体の部屋とし、23 診察室は処置室とし、ギプス処置、装具作製等を行っている。

骨長補正術は、以前は短肢側の骨延長術のみであったが、8-プレートによる成長抑制術が差の小さい場合には有用であり、片側肥大症例(或いは片側低形成症例)に行われている。

小児股関節疾患について、自己血採血、股関節造影し、2 期的に内反骨切りを行う例が増加し、4 例を行った。

	月	火	水	木	金
午前	再来	手術	再来	小手術、総回診	再来
午後	新患	手術	新患	書類、BTX	リハビリ

整形外科研修医の後期研修医の研修受け入れはなかった。

3. 外来

総受診者数 3,479 人、新患 323 人、再来 3,156 人であった。総受診者数は 262 人減少し、新患は 60 人減少し、再来者は 202 人の減少であった。当科における新患数は入院、外来で他科からの予定外の紹介や過去の通院患者の新規受診なども含まれており、診察日の実際の総受診者の記録が電子カルテに反映されないために、実際の受診者数との乖離がある。

外来日には、主に、午前中を再来に、午後を新患にあてた。予定ギプス等の処置は再来終了時刻を目安にギプス処置枠を置いて、行なった。小児整形外科的ギプスは 68 回行った。現在、外来を能率的に進めるために、前日までの予約患者リストにてレントゲン検査者や装具作成者をピックアップし滞りのない流れを作っている。それでも外来の待ち時間が長くなりつつある。医師補助員が外来時に 1 名ついた。

4. 病棟入院患者数

延べ入院患者数は 49 人であった。創外固定装着症例は 1 人であった。

対象疾患が下肢荷重関節の児の手術が多いため、在院日数は長くなる傾向がある。比較的年長児、学童期にある患者が治療対象となることが多く、赤城特別支援学校が併設されていたことは有用であった。

5. 手術件数

手術は 64 件、うち麻酔下の検査を 18 件(関節造影 14 件、自己血採血 4 件)行なった(別表 1 参照)。

なお、手術に関する施設基準について、区分 2 に分類される手術:「靭帯断裂形成手術等」については、手術なし、区分 3 に分類される手術:「内反足手術等」については、1 例の手術を実施した。脚長補正術に関しては、骨延長術(Ilizarov Frame 使用) 1 例、成長軟骨抑制術 3 例(8 プレート使用)行った。

脳性麻痺児に対するボトックス施注は 22 例に行った。

(浅井伸治)

別表1【手術件数】90件

関節鏡	
膝	0
足	0
関節造影	
肩関節	1
肘関節	1
股関節	6
膝関節	3
足関節	3
自己血採血	4
骨生検	0
筋性斜頸	1
先天性股関節脱臼	
徒手整復	0
観血整復	1
Salter手術	0
減捻内反骨切術	0
ペルテス病	
徒手整復	0
内反骨切り	2
大腿骨頭こり症	0
骨折観血的整復固定術	2
偽関節手術	0
矯正骨切り術	2
創外固定器使用手術	1*
骨延長術	
大腿骨	1
脛骨	1
成長軟骨抑制術	
大腿骨遠位	3
脛骨近位	3

骨、軟部腫瘍	
摘出術	2
先天性ばね指	
腱鞘切開	3
骨関節感染症	
切開、洗浄	0
断端形成術	1
軟部組織感染症	0
先天性内反足	
後内方解離	1
エバンス	1
三関節固定術	0
尖足変形	
後方解離	0
先天性垂直距骨	
内外前方解離	1
脳性麻痺	
股関節観血授動術	0
膝関節観血授動術	0
足関節観血授動術	0
二分脊椎	
後方解離	0
後内方解離	0
エバンス	0
組み合わせ	0
三関節固定術	0
抜釘術	20
創外固定器除去手術	2
計	64

*: 同時処置として重複を示す

3. 第三病棟

第三病棟(血液腫瘍・循環器)の延べ入院患者数は6,243人で、内訳は循環器科・心臓血管外科: 62.0%、血液腫瘍科 33.6%、その他: 4.4%、1日平均入院患者数は20.6人、年間病床利用率は68.7%であった。

第三病棟の病室の不足や比較的医療的ケアが多い重症患者をPICUから受け入れなければならない状況があり、安全管理上の問題にも努力をし、PICUから循環器・心臓血管外科患者の退室や受け入れが比較的スムーズに行われるようにしている。年間病床利用率が上昇したため、病室の不足時には予定入院患者の一部や比較的循環が安定した患者を他病棟に移動させるなど、病院全体として対応した。循環器疾患と血液腫瘍疾患という重症疾患を扱う病棟であり、それぞれ高度の専門知識と看護力を必要とする分野である。小児がんの化学療法を行う一方で、重症心疾患の術前管理や心不全管理を行うなど、疾患概念が全く違う患者の看護を同時に行う看護師の負担は大きい。医療安全を考慮しながら、患者家族を中心に考えられる業務環境を整えていきたい。

(河崎裕英)

(1) 循環器科

令和元年度は、小林富男、下山伸哉、池田健太郎、田中健佑、新井修平の5名体制に加え、前半に斎藤淑人、後半に稲田雅弘の2名の後期研修医を迎えて診療を行った。年間総入院患者数は609名であった。断層心エコーは外来3,573件、入院3,035件、胎児エコーは111件であった。心臓カテーテル検査は195件であった。Catheter interventionは、バルーン拡張術45件、血管内コイル塞栓7件、経皮的ASD閉鎖術5件、Amplatzer PDA閉鎖栓1件、PDAコイル塞栓7件、Vascular plug 1件、ステント留置1件、カテーテルアブレーション6件、BAS 9件の計82件であった。循環器科関連の死亡は7件であった(表1)。

循環器科では重症患者を多く扱っており、毎日循環器科・心臓外科でチームカンファレンスを行い治療方針の検討を行っている。またPICUが円滑に運営できるようベッドコントロール会議を毎日行い緊急患者に対応できるよう努めている。

令和2年度も群馬県内唯一の小児循環器科として質の高い医療を提供できるよう努めていきたい。

(池田健太郎)

表 1 循環器科関連の死亡患者

No	年 齢	性 別	死 亡 日	診 断	解 剖	Ai
1	3m	M	2019.4.26	polysplenia, AVSD, 十二指腸閉鎖	なし	なし
2	6y8m	M	2019.5.12	AVSD, 腸管イレウス	あり	あり
3	6m	F	2019.5.17	HLHS	なし	なし
4	1m	M	2019.5.27	asplenia, SV, PA, TAPVC	なし	なし
5	1y7m	M	2019.9.9	TOF, PA, MAPCA	なし	あり
6	4y3m	F	2019.9.21	SV, 出血後水頭症	なし	なし
7	14d	M	2019.10.8	TAPVC, PVO	あり	あり

(2) 心臓血管外科

令和元年度は岡 徳彦、友保貴博、林 秀憲医師の3名が心臓血管外科チームとして診療にあたりました。年間を通して良好な手術成績を残すことができ、また症例数も昨年度より18%増加しました。重症な心疾患を多く扱っているにも関わらずこのような良好な成績を残すことができたのも、小児循環器科を含めた循環器チーム、その他の診療科、診療部門との連携、協力があったからこそと感謝しております。今後ともこの成績を維持し、更なる症例数増加を目指し努力していきたいと思っております。

(岡 徳彦)

(3) 血液腫瘍科

令和元年度の血液腫瘍科総入院数(再入院を含む)は、昨年と同様である。

実入院数は54例、新規入院患者数は31例と、ともに微増している。疾患の内訳は、白血病・リンパ腫 63.9%、固形腫瘍 8.8%、非腫瘍性血液疾患 16.6%、脈管系奇形 4.4%、その他 6.3%であった。

昨年度から引き続き血管腫に対するプロプラノロール投与のクリニカルパス入院が増加している。今年度から、入院中および退院後の小児がん患児やその家族を支援する目的に、当院に関わりのあったご家族を中心に様々な支援活動をしていただく試みを開始した。今後、発展させていく予定である。

(河崎裕英)

4. 小児集中治療部

令和元年度は小児集中治療部（以下 PICU）の機能の向上を目指すことを目指し、専任医師を固定配置する方針として4年目となった。オープン ICU 形態での運営は続いており、令和元年度は循環器科田中、下山が専任として運営を担当し、各科入室者の担当医との協力のもと運営した。令和元年度に PICU で治療・管理を行った患者数はのべ312（前年334）名で、8床の運用で1日平均入院患者数は6.4（前年6.3）名、平均入室日数は7.5（前年6.9）日と前年と比較し入室者数はほぼ同様に、入室期間は増加の傾向を示した（表1）。特筆すべきは令和元年度後半から COVID-19 による感染が国内で拡大してきていることである。幸いにも全国的に現時点では小児の感染者は多くはないが、当院は重症心疾患患者等ハイリスクと思われる患者が非常に多く、未知のウイルスの脅威に対しどのように県内の重症小児感染者に対応するか、PICU 部門でも他院の ICU 部門と連携の模索を始めている。これらは令和2年度においても大きな影響を及ぼすと思われる。

全入室患者のうちわけは、約6割は手術後の管理のための入室で、その他は一般病棟入院中の患者状態悪化で入室になったケース31件（前年43件）、外来からの直接入院15件（前年15件）、当院産科での出生後の入院（胎児診断後）9件（前年11件）であった。また、他院からの重症者の転院は29件（前年33件）と増加傾向であり、いずれのケースも緊急入室であった（表2）。

PICU への新規入室制限を余儀なくされ入室制限を行った日数は100日（27%）と30年度の65日（18%）と比較し増加していた。一般病棟との連携が改善されてはいるが、重症疾患患者数の増加とともに長期在室の傾向とならざるを得ない点、また、PICU での管理は必須ではないが一般病床では管理が困難な病状の患者さんも多く、PICU と一般病棟の中間の管理ができる病床が当院ではないこともこれらの大きな要因である。令和元年度も県内で当院でのみで対応可能な重症者の入院依頼を断らざるを得ないケースは存在し、入室制限で予定手術が延期になるなどの影響も出ており、小児の重症者を受け入れる県内唯一の PICU を有効に活用するためには、現状の病院施設や病棟体系で対応する限りは限界があり、やはり PICU と一般病棟との間の HCU の機能を持つ病棟の必要性が痛感させられる。

表1 平均在室日数

診療科	平成29年度	平成30年度	令和元年度
全診療科	7.3	6.9	7.5
循環器科・心臓外科	9.4	9.5	9.7
アレルギー・呼吸器・感染免疫科	9.4	12.2	17.9
神経内科	4.8	3.5	4.1
血液腫瘍科	4.7	2.3	7.6
整形外科	3.0	1.3	1.0
外科	1.8	3.1	1.5
形成外科	0.9	1.2	0.9
その他内科系診療科	0.5	0	0

また、新生児・乳児への緊急開胸ECMO装着などPICU内での手術を含めた緊急処置は35(前年31)件あり、PICU内での迅速な対応が求められている状況は同様であった。通常の呼吸循環管理等以外の特殊な治療としては、ECMO 4(前年0)件、CHDF 6(前年18)件、血漿交換 21(前年3)件、NO吸入治療 28(前年28)件、N₂吸入治療 3(前年3)件であった。その他、脳低温療法 2件、腹膜透析 11件、PMX 4件であった。

科別在室日数では循環器科・心臓血管外科患者が81(前年75)%を(図1)、診療科別入院患者数も図2のごとく循環器科・心臓血管外科が63(前年55)%、外科が18(前年25)%を占め、従来と同様に術後患者の管理が中心であった。

また、PICU入室者を年齢構成別にみると、新生児(1ヶ月未満)と1歳未満の乳児(1月-1歳未満)が37%と多くをしめ、30年度の36%とほぼ同様であった(図3)。例年同様1歳未満の先天性心疾患患者の入室の影響が大きいものと考えられた。心臓外科手術に関しては重症疾患症例が年々増加傾向にありNorwood手術を始め難易度の高い手術が行われるが、気道や消化器系の他領域の基礎疾患を有することが多く、入室期間が長期化する一因と考える。多領域にわたる疾患を有する患者が増加しているため、当院の小規模で各科との連携がしやすいメリットを活かし、専任医師を中心に専門科との連携を行うことで複雑疾患の治療をすすめている。多職種連携に関しては数年前から行われているリハビリテーション科と協力して早期リハビリテーション介入、歯科診療やNST、心のサポートチームの介入、30年度から臨床工学部門や感染症科、薬剤部と連携し毎朝の多職種カンファレンスを通して、より早い効率的な回復を目指し、徐々に軌道に乗ってきている。

表2 他院からの転院患者疾患名

疾 患	症 例 数
脳炎・脳症	1(3)
痙攣重積等	5(4)
先天性心疾患	9(5)
心筋疾患等	1(4)
後天性心疾患	3(3)
呼吸器感染等	4(3)
急性腹症等	0(4)
尿路感染症	1(0)
不慮の事故/外傷	3(0)
その他	2(7)
合 計	29(33)

また、PICUにおける死亡患者は7(前年6)名(約2%)であった。そのうち5名は重症心疾患に対する心臓手術術後、重症基礎疾患を有する児の原因不明の腸管壊死、心肺停止後各1名であった。

緊急性を要する患者搬送においてはヘリポートが設置されていないなど不利な面は指摘されているが、人的資源も乏しく緊急患者受け入れ体制の連絡体制が不十分でもあり、長期的視点に立った自施設の整備および県内の救急医療連携体制の整備の向上が望まれる。

最後にCOVID-19感染対応も含めPICUの役割を効果的に果たすため、他施設との連携強化と当院PICUの行うべき役割は今まで以上に重要である。また、自施設での重症疾患の管理に対応できる医師育成・確保、計画的な重症疾患の管理に対応できる看護師の育成の重要性を痛感させられている。

(下山伸哉)

図1 診療科別在室日数

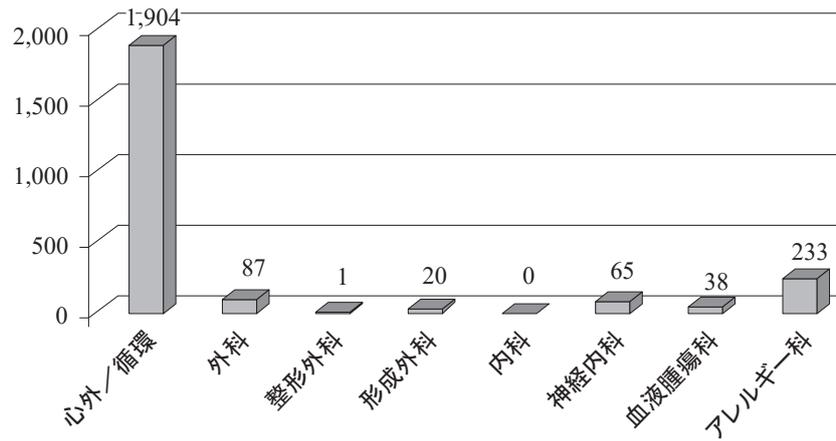


図2 診療科別入院患者割合

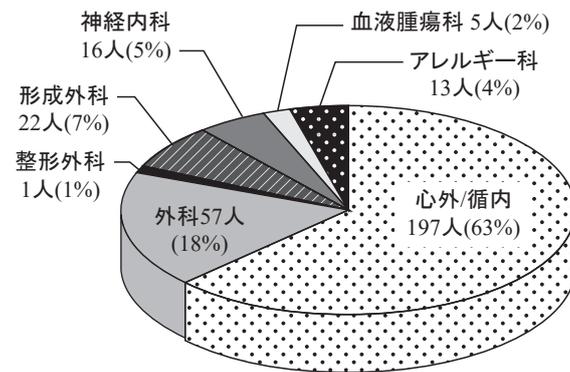
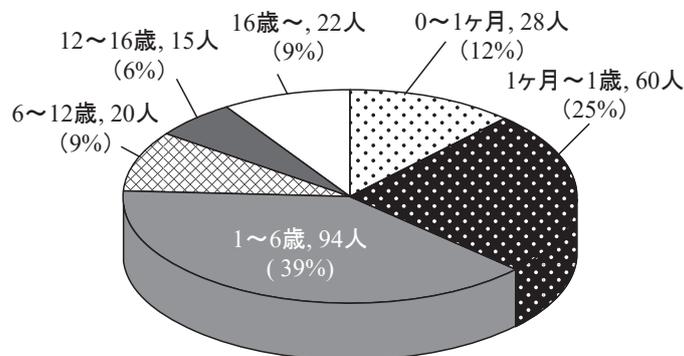


図3 PICU入院患者年齢分布



5. 新生児未熟児病棟

今年度の入院患者数は285名で、昨年度と同程度であったが、最近数年間、極低出生体重児の入院数は減少傾向にあり、今年度は39名であった。県全体の調査でも、県内NICUへの極低出生体重児の入院数は減少傾向にあり、低出生体重児の割合は上昇傾向だが、出生数自体の減少が大きくなり、その影響で極低出生体重児も減少していること、他県の新生児受け入れ施設が整備されてきたため県外からの入院が減少していることなどが考えられる。今後、県内の新生児医療体制ならびに当院NICUのあり方を検討する必要がある。

極低出生体重児の入院数は減少しているが、CHDFを要する代謝異常の患者や新生児重症仮死などで低体温療法を要する低酸素性虚血性脳症の患者、壊死性腸炎など入院中に重症の合併症を来した患者は例年と同様もしくは増加傾向にあり、当院NICUに要求される医療水準も年々高まってきている。

そのような状況下で、医師の働き方改革を進めることが求められ、当科でもNICUの医師当直を夜勤の体制に切り替える試みを行った。医師の数が夜勤体制とするには十分でないため、真の働き方改革を実現するには程遠いが、今後、医師の数およびレベルをいかに確保するかを考慮しながら医師の勤務体制の改善を図っていく必要がある。

新型コロナウイルス感染症流行のため、3月に予定していたオープンカンファレンスは中止となったが、新生児蘇生法関係の研修会は例年どおり開催することができた。総合周産期母子医療センターのNICUとして今後も県内の周産期医療の発展のために尽力していきたい。

(丸山憲一)

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総数
500g未満	1	0	1
500～999g	20	4	24
1000～1499g	12	2	14
1500～1999g	21	6	27
2000～2499g	36	23	59
2500g以上	66	94	160
計	156	129	285

◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	1	0	1
23 週	2	1	3
24 週	4	1	5
25 週	4	0	4
26 週	3	1	4
27 週	5	0	5
28 週	4	0	4
29 週	1	0	1
30 週	1	0	1
31 週	8	1	9
32 週	4	2	6
33 週	5	2	7
34 週	14	3	17
35 週	13	4	17
36 週	11	11	22
37 週	13	28	41
38 週	25	28	53
39 週	16	21	37
40 週	15	18	33
41 週	5	6	11
42 週	0	1	1
不明	2	1	3
計	156	129	285

◆疾患の分布

呼吸窮迫症候群	27	新生児仮死	35
胎便吸引症候群	7	新生児重症仮死	47
新生児一過性多呼吸	57	新生児けいれん・けいれんの疑い	9
肺浮腫・出血性肺浮腫	3	頭蓋内出血	8
肺出血	3	低酸素性虚血性脳症	5
気胸・気縦隔	11	頭蓋縫合早期癒合症	2
無呼吸発作・反復性無呼吸	29	脳梁欠損・脳梁低形成・脳梁欠損の疑い・脳梁低形成の疑い	5
喉頭軟化症	1	小脳低形成	5
胸水貯留	1	墜落産児	2
新生児持続性肺高血圧症	9	小頭症	1
慢性肺疾患	14	脳室拡大	3
誤嚥性肺炎・誤嚥性肺炎の疑い・誤嚥の疑い	2	多嚢胞性脳軟化症	2
先天性横隔膜ヘルニア	5	髄膜瘤・髄膜瘤の疑い	1
声門下狭窄・喉頭狭窄・声門下粘膜肥厚・声帯浮腫	1	大槽拡大	1
肺嚢胞性変化・気腫性肺嚢胞	1	横紋筋融解症	1
Dry lung syndrome	1	大脳皮質形成異常	1
CPAM・CPAM の疑い	1	髄鞘形成遅延	1

◆疾患の分布

脳静脈奇形	1	イレウス (原因不明)	2
高インスリン血性低血糖症 (一過性・持続性)	2	食道穿孔	1
新生児高ビリルビン血症	160	腹腔内出血	1
新生児重症黄疸	5	壊死性腸炎・壊死性腸炎の疑い	2
未熟児くる病	31	肝内石灰化	1
汎下垂体機能不全・下垂体機能不全の疑い	1	B型肝炎陽性母体からの出生児	2
新生児低血糖症	12	臍帯嚢胞・臍頭部嚢胞性腫瘤	1
高血糖	3	輪状臍	1
甲状腺機能低下症・先天性甲状腺機能低下症	1	仮性メレナ	1
尿崩症・尿崩症の疑い	1	先天性十二指腸狭窄	1
くる病の疑い	1	肝線維症・肝線維症の疑い	1
オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症	1	絞扼性イレウス	2
副腎結節性病変	1	先天性心疾患	
敗血症・菌血症・敗血症性ショック	10	VSD	22
先天性サイトメガロウイルス感染症	1	DORV	1
細菌性髄膜炎	2	肺動脈狭窄	1
尿路感染症	1	ASD	3
驚口瘡	1	TOF	1
先天梅毒	2	ECD・房室中隔欠損症	2
侵襲性カンジダ感染症	1	MR	1
新生児特発性嘔吐症	4	動脈管早期収縮・動脈管早期収縮の疑い	2
腸回転異常症・中腸軸捻転	6	TAPVR・TAPVR の疑い	3
腸穿孔	3	大動脈縮窄症・大動脈縮窄の疑い	1
胃食道逆流症・胃食道逆流症の疑い	5	症候性動脈管開存症	27
胎便関連性腸閉鎖症・胎便関連性腸閉鎖症の疑い	1	心筋肥厚・心筋症・肥大型心筋症・一過性心筋肥厚に伴う循環不全	1
小腸捻転・結腸小腸捻転	2	発作性上室性頻拍	2
先天性食道閉鎖	2	心不全・心機能低下・うっ血性心不全	1
鎖肛・鎖肛の疑い	8	上室性不整脈・上室性期外収縮・上室性頻脈	2
急性胃粘膜病変	3	心室性期外収縮	1
腹壁破裂	1	左上大静脈遺残	3
小腸閉鎖	1	除脈・洞性徐脈	1
ミルクアレルギー・ミルクアレルギーの疑い・好酸球性胃腸炎	12	肺高血圧	8
門脈体循環シャント	1	PFO	1
鼠径ヘルニア	9	Ebstein 奇形・Ebstein 奇形の疑い	1
ヒルシュスプルング病・ヒルシュスプルング病の疑い	1	右側大動脈弓	2
胆汁うっ滞性肝炎・肝障害	1	右室低形成	2
胎便性腹膜炎	1	大動脈 2 尖弁・大動脈 2 尖弁の疑い	1
胆石症	1	動脈管瘤	2
臍ヘルニア	5	末梢性肺動脈狭窄	3
肝被膜下出血・肝出血・肝損傷	1	心軸異常	1
腸重積	1	肺動脈弁狭窄	3
胆汁うっ滞・一過性胆汁うっ滞・胆汁うっ滞の疑い	1	出血性ショック	1
総胆管拡張症・総胆管拡張症の疑い	2	単一臍帯動脈	1
肝不全	1	心房中隔瘤	1

◆疾患の分布

ポッターシークエンス	1	尿道下裂	2
胎児水腫	3	馬蹄腎・癒合腎	1
ピエールロバンシークエンス	1	腎嚢胞	1
Apert 症候群	1	停留精巣	2
OHVIRA 症候群	1	腎低形成・腎無形成	1
可逆性脳梁膨大部病変を有する軽度脳症の疑い	1	多嚢胞腎	1
口唇裂・口蓋裂	14	低 K 血症	1
小顎症	2	尿管機能障害・尿管機能障害の疑い	2
顔面骨低形成	1	腎形成異常・異形成	1
21 トリソミー・21 トリソミーの疑い	14	VUR	1
18 トリソミー	2	卵巣嚢腫・嚢胞	2
13 トリソミー	1	低 Na 血症	1
4p モノソミー	1	低 Mg 血症	1
染色体転座	1	重複子宮・重複膈の疑い	1
難聴・難聴の疑い	14	二分陰囊	1
中耳炎	2	代謝性アシドーシス	1
副耳	2	小陰茎	1
未熟児網膜症	6	性分化疾患	2
白内障・先天性白内障	1	移動性精巣	1
鼻涙管閉塞の疑い	1	尿管異所性開口の疑い	1
眼裂狭小	1	多指症	2
小耳症・小耳介	3	合指症	2
耳介奇形	1	膝関節脱臼・反張膝・膝関節亜脱臼	1
耳介低位	1	thanatophalic 骨異形成症 1 型	1
視神経乳頭萎縮	1	単純性血管腫	1
未熟児貧血	47	乳児寄生性紅斑	5
貧血・重症貧血・鉄欠乏性貧血・乳児貧血	10	頭皮欠損	1
遺伝性球状赤血球症・遺伝性球状赤血球症の疑い	1	多臓器不全	1
血管腫・莓状血管腫・血管腫の疑い	1	双胎	29
DIC	5	品胎	6
血小板減少症	2		
Rh 血液型不適合	1		
帽状腱膜下出血	2		
双胎間輸血症候群受血児	1		
双胎間輸血症候群供血児	1		
頸部リンパ管腫・頸部リンパ管腫の疑い	2		
ABO 不適合	6		
溶血性貧血	2		
ビタミン K 欠乏症	1		
水腎症・水腎症の疑い	4		
高 K 血症	3		
脱水	1		
急性腎不全・腎不全	5		
低 Ca 血症	2		

◆新生児未熟児病棟死亡症例及び剖検

	年齢	性別	病名	剖検	Ai
1	0歳	女	超低出生体重児、新生児重症仮死、呼吸窮迫症候群、新生児遷延性肺高血圧、新生児高ビリルビン血症、急性腎不全、高血糖、播種性血管内凝固	なし	なし
2	0歳	女	新生児仮死、低酸素性虚血性脳症、出血性ショック、急性腎不全、肺出血、頭蓋内出血、侵襲性カンジダ感染症 (<i>Candida glabrata</i>)、新生児痙攣、肺高血圧	なし	あり
3	0歳	女	肝間葉性過誤腫、胎児水腫、症候性動脈管開存症、腹腔内出血、腸閉塞、肝不全、腎不全、新生児高ビリルビン血症、早産児	あり	なし
4	0歳	女	超低出生体重児、新生児重症仮死、一絨毛膜2羊膜性双胎第2子、呼吸窮迫症候群、新生児高ビリルビン血症、動脈管開存症、新生児壊死性腸炎、回腸穿孔、肝被膜下血腫	なし	あり
5	0歳	男	thanatophoric 骨異形成症1型、低出生体重児、新生児重症仮死、呼吸窮迫症候群	なし	あり
6	0歳	男	新生児重症仮死、脾損傷、多臓器不全、高K血症、代謝性アシドーシス、急性腎不全	あり	あり
7	0歳	女	悪性ラブドイド腫瘍、胎児水腫、早産児、新生児重症仮死、呼吸窮迫症候群、貧血、血小板減少症	あり	あり
8	0歳	男	Potter 症候群、新生児遷延性肺高血圧、新生児仮死、低出生体重児	なし	あり
9	0歳	女	18トリソミー、極超低出生体重児、新生児重症仮死、先天性食道閉鎖、心室中隔欠損、新生児高ビリルビン血症、小脳低形成、脳梁欠損、反復性無呼吸	なし	なし
10	0歳	女	18トリソミー、超低出生体重児、新生児仮死、先天性食道閉鎖、心室中隔欠損、右大動脈弓、呼吸窮迫症候群、反復性無呼吸、新生児高ビリルビン血症、うっ血性心不全、未熟児くる病、鉄欠乏性貧血、未熟児貧血、誤嚥性肺炎、出血性胃潰瘍、低K血症、低Na血症、ビタミンK欠乏症、小脳低形成	なし	なし
11	0歳	女	新生児仮死、帽状腱膜下血腫、播種性血管内凝固	あり	あり

6. 産科病棟

平成30年度の途中から佐藤達也先生が病棟医長となり、令和元年度も引き続き同様の体制で開始となった。フルタイム常勤3名、日勤常勤1名、群馬大学産科婦人科教室からの当直業務のパート医2名と、前年度途中からの常勤医減と比較すると当直や待機回数がかなり緩和され、人員確保の重要性を思い知らされた1年であった。

臨床成績概要は表1の通りである。平成30年度は新規外来患者数453名(平成30年度414名)、入院患者数302名(同297名)、分娩数222件(同220件)であり、ここ数年の傾向として新規外来患者の増加が認められる。県内産科施設の超音波技術の向上などが要因として考えられる。

緊急母体搬送受け入れ数は79件(平成30年度80件)、当院への母体搬送依頼総数94件(同92件)、受け入れ率85.1%(同78.6%)であり、受け入れ率は増加する一方である。

当院から他院に母体搬送となる搬出は6件あり、平成29年度の12件、平成30年度の9件からさらに減少した。妊娠中の母体合併症が4件、産褥出血が2件と、例年通り小児病院の特性に関連したものであった。

胎児先天異常の死亡例に関しては、胎内死亡2例、人工妊娠中絶5例であり、前年度とほぼ同数であった。

研修の面では、新生児科と共同で12月にオープンカンファレンスを行った(例年であれば3月も行うが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった)。また、県内の周産期医療に携わる医療従事者を対象に、日常診療で困難と感じた症例に関する検討を行う2回目の周産期勉強会を、群馬大学と共同して行った。

(木暮さやか)

表1 産科臨床成績概要(令和元年度)

新規外来患者数	453名	出生数	246名	
入院患者数	302名	< 1000g	25名	
		1000-1499g	13名	
分娩数合計	222例	1500-1999g	21名	
単胎分娩	201例	2000-2499g	45名	
双胎分娩	18例	2500-3999g	142名	
品胎分娩	3例	4000g \leq	0名	
多胎分娩率	9.5%	死産児数	4名	
帝王切開数	77例	34.2%	児入院数	
単胎	64例	31.8%	新生児科	147名
双胎	11例	61.1%	循環器科	10名
品胎	2例	66.7%		
母体搬送依頼連絡数	94件			
母体搬送受入数	79件			
受入不可数	15件			
受入率	85.1%			
母体搬送搬出数	6例			
妊娠中母体合併症	4例			
産褥出血	2例			

表 2 胎兒先天異常症例 (死亡例)

●胎內死亡: 2 例

左心低形成症候群

胎兒發育不全

●人工妊娠中絶: 5 例

potter sequence 2 例

大動脈離断症 1 例

無頭蓋症 1 例

cystic hygroma 1 例

7. 麻 醉 科

今年度は、手術部門システムを導入していただき、円滑な手術室運営を行うことができた。請求漏れの減少や、統一されたデータベースの活用など、収益増加に貢献できるよう、有効活用していきたい。

人事については、今年度もレジデント枠を維持していただくことができ、昨年度と同様の5人体制となった。レジデント枠は菅原、三森、望月が4か月毎に勤務した。小児麻酔を集中して経験してもらうことができ、有意義な研修ができたと好評を得た。

今年度の麻酔科管理手術件数は924件であり、昨年度より40件減少した。全身麻酔は844件、脊髄くも膜下麻酔は73件で、昨年度より全身麻酔件数は増加したが、脊髄くも膜下麻酔件数は2件微増した。内訳では、一日入院手術(日帰り手術)は83件で昨年度より22件減少し、産科の帝王切開も76件で増加したが、心臓外科手術は107件であり前年度より13件程増加した。麻酔科管理症例数はやや減少したが、COVID-19の影響から、次年度はさらに減少するものと考えられる。

麻酔薬や麻酔方法は大きな変化はなかった。前年度に診療点数加算が認められた神経ブロックは、今後も適応症例に対して積極的に行っていく方針である。

次年度はCOVID-19感染拡大の懸念から手術件数が減少することは避けられないが、麻酔科の体制を維持・強化し、安全な手術室運営に努めていきたい。

(松本直樹)

8. 放射線科

医師 1 名、技師 12 名で例年通りの業務を行った。

画像検査所見を記載した総人数は、前医で行われた紹介患者を含めて、X線検査; 18,559 名 (昨年度 19,749 名)、超音波検査; 1,275 名 (1,751 名)、MRI; 797 名 (900 名)、CT; 495 名 (496 名)、RI; 79 名 (84 名)、死後画像診断 (Ai); 15 名 (12 名) であった。

この他に、セカンドオピニオンも含む院外症例の画像コンサルテーションにも随時対応した。

(畠山信逸)

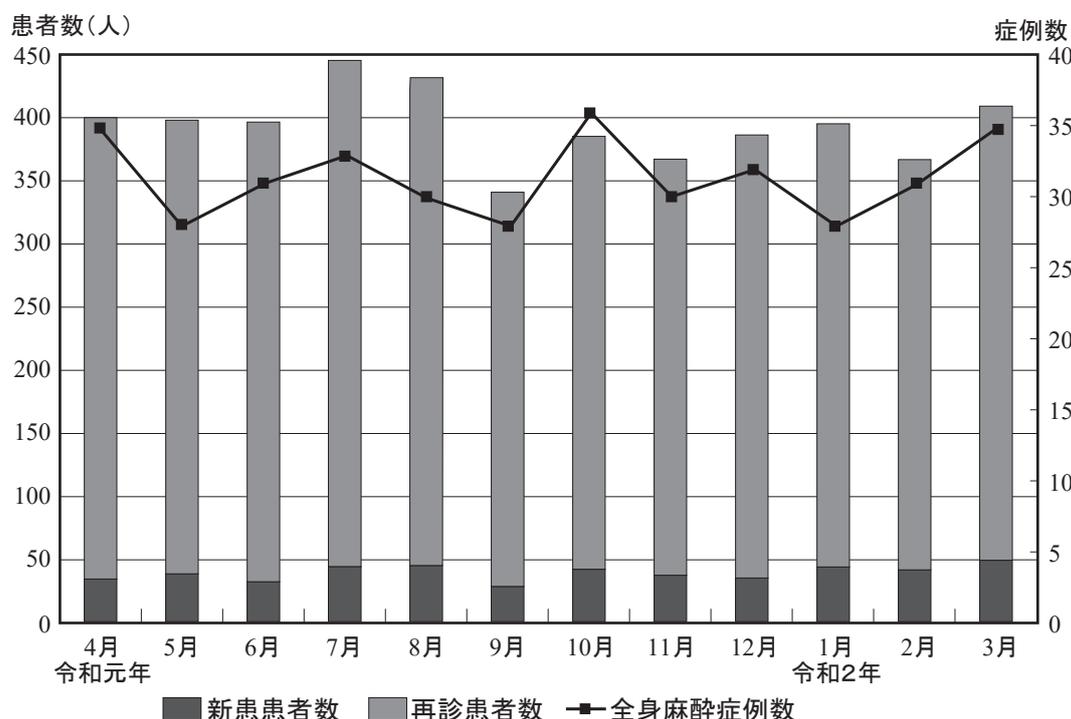
9. 歯科・障害児歯科

(スタッフ)

平成 17 年に当科が開設して 15 年目となった今年度の診療体制は、常勤歯科医師の変更はなく、非常勤歯科麻酔業務を中島淳歯科医師から平成 25 年度に当科で勤務経験のある市川怜那歯科医師にお願いした。歯科衛生士も前年度と同様に常勤 4 名 (正規職員 1 名、実務研修生 3 名) 非常勤職員 1 名の体制で診療を行った。

(診療実績)

診療実績は、新規患者数が 465 名 (前年度比 101%)、延べ受診者数は 4,736 名 (前年度比 103%) で前年とほぼ同様であったが、全身麻酔下歯科治療は昨年度より 33 例増加し 377 症例と大幅に増加した。各月の受診状況は、新規患者数や再診患者数共に大きな増減はなく、学校の長期休暇中に受診患者が大幅に増加する傾向は、夏休み以外顕著ではなかった。



Graph 1: 令和元年度月別歯科運営状況

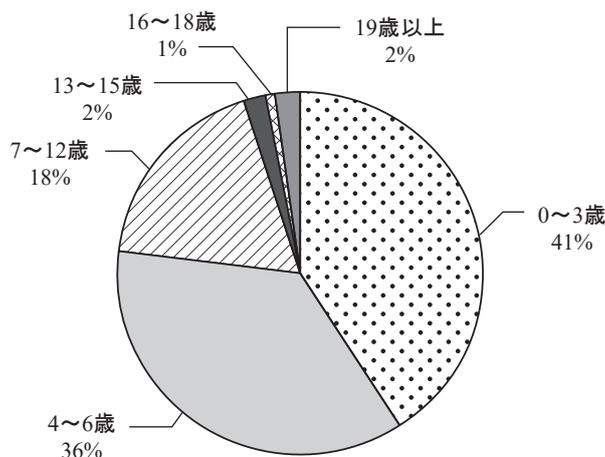
(受診患者と診療内容)

群馬県は他県と同様に少子高齢化が進行しているが、当科における昨年度の新規患者数の減少は今のところ見られない。また、新規患者における院外紹介率は年々上昇 (65.6%) しており、群馬県唯一の小児・障害児三次歯科医療機関である当科のニーズは依然高いことが示唆された。

患者層の内訳に関しては、院内紹介では小児神経科や小児循環器科、遺伝科からの紹介が多く、三次歯科医療機関として、全身管理が困難な患者が多く、例年と同様であった。院外からの紹介も、例年通り精神遅滞や発達障害児の多数歯齲蝕 (うしょく = 虫歯) の全身麻酔下歯科治療依頼に加え、低年齢定型発達児の多数歯齲蝕の治療依頼や、口腔外科症例 (過剰埋伏歯、舌小帯異常、粘液嚢胞) の紹介数が多かった。特に近年虐待等で問題となっている要保護、要支援児童の患者が増えており、歯科大学のない群馬県においては当科が受け皿とならざるを得ないと考えている。新規患者の年齢分布の傾向も例年同様 3 歳未満の受診率が約 42%、6 歳未満でみると全体の約 78% と

例年同様の傾向であった (Graph2)。

平成 28 年度から開始した「障害児嚥下機能支援事業 (通称: もぐもぐ相談)」は、今年度も群馬県保健予防課石田圭吾医長にご指導いただき継続することができた。



Graph 2: 新規患者の年齢分布

(病院歯科として)

今年度も第一、第二、第三、PICU各病棟への歯科衛生士による週一回の病棟ラウンドを継続した。年々病棟スタッフと歯科衛生士の連携が強化されてきていることを実感している。これは当科が周術期口腔衛生管理症例だけでなく、病棟内全患者を対象としたサポートを継続してきたことが要因と考えられ、各病棟スタッフの口腔衛生管理への意識も徐々に変化しつつあるので、今後も継続していきたいと考えている。

(まとめ)

受診患者数や全身麻酔症例数は依然増加傾向にあるが、歯科スタッフの高い安全意識と日々の努力で大きな事故なく運営を行うことができた。全身麻酔下歯科治療に関しては、毎月 30 症例前後をコンスタントに行うことができ、数年前から導入している待機患者リストが功を奏している。小児麻酔は体調不良による延期の頻度が成人症例に比べ高いことが一般に知られているところであるが、待機患者リストを活用することで、急な延期に対しても待機患者に積極的に振替えることで、診療枠の無駄を減少させることが可能となっている。今後も初診から治療までの期間減少を可能な限り目指していきたい。

このように外来業務だけでなく、病棟との連携や待機患者の管理等、当院における歯科衛生士の役割は年々増加しており、人材確保と育成が大きな課題である。近年、歯科衛生士不足が国会でも問題になる程人材確保が難しくなっており、依然として高いニーズのある当科の医療を安全に提供できる体制基盤の整備が必要であり、適正なスタッフ配置を継続して要望していきたい。

一方、年度第四四半期に中国で発生したコロナウイルスが世界的な広がりを見せており、日本における感染患者の拡大状況次第では今後の診療体制に大きな影響を及ぼすことが懸念される。歯科は以前より医療従事者のウイルス感染リスクが高いと言われており、当科も感染対策に関してはこれまで以上に対策を講じていきたいと考えている。

最後に、今後もこれまでと同様に、患者や家族が安心して通える診療科を目差し、当科スタッフの健康を守りながら、群馬県における小児・障害児歯科医療の最後の砦としての役割を果たしていきたい。

(木下 樹)

10. 放射線課

【人 事】

令和元年度は長年当課を支えてくださった都丸技師長が、がんセンター技術部長として、茂木主幹が、がんセンター放射線治療課長として異動となった。都丸技師長・茂木主幹にはこれまでの多大な功績に深く感謝すると共に新たな職場でのご活躍を祈念する。転入者はがんセンターから佐々木課長、そして下田技師が正規職員として配属となった。また大川・田中レジデントが新規配属となった。若い力を存分に発揮して活躍することを期待している。

【業務・設備】

正規職員 7 名 (再任用職員 1 名)、レジデント等 3 名 (令和元年度より実務研修生からレジデントへ名称変更)、非常勤職員 2 名と受付事務担当職員 1 名の体制で業務を遂行した。10 月より育休職員が復帰し通常の人員体制に戻った。10 数年来の業務量の増加、内容の変化に安全に安定した業務体制として対応していくためにも長年切望しているレジデントの定数化による正規職員数の増員を望む。

今年度は X 線 CT 認定技師・Ai 認定診療放射線技師の認定資格を 1 名ずつ取得することができた。今後も職員の資質向上、検査技術向上のためにも認定資格取得を推進していく。また、例年どおり新規採用看護職員を中心とした MRI 検査・放射線検査の安全講習を行い、県民健康科学大学等からの実習生を延べ 20 名受け入れた。

平成 31 年 4 月 1 日に放射線部門に係る医療法施行規則の一部が改正され、令和 2 年 4 月 1 日より施行されることとなった。これにより患者様への放射線の安全利用を目的とした診療用放射線に係る安全管理体制の確保が義務づけられた。具体的には診療用放射線に係る安全管理のための責任者の配置・指針の作成・職員研修の実施・被ばく線量管理、記録等である。放射線部門として関係部署と調整を行い令和 2 年度からの管理体制スタートに向け準備を行なった。

設備については MRI、動画ネットワークシステムが更新された。MRI 装置は消費増税の関係で 10 月までに稼働させる短期スケジュールであった。その状況下、台風 19 号の影響で装置搬入延期が危ぶまれたが院内外関係部署の協力のおかげで予定どおり稼働することができた。今回の装置は完全なリプレイスではなく装置の一部 (マグネット) を再使用する形式を選択したことでリプレイスと同等の機能・性能でイニシャルコスト削減、工事期間の短縮を図ることができた。更新は平成 18 年以来であり新装置にはフルデジタルシステム・小児専用コイル・新しい体動補正技術・高速撮影技術など最新技術が搭載され臨床において大変有用に活用している。また動画ネットワークシステムもサーバー容量を増加して更新し、増加する画像データへの対応と安定稼働を実現できた。また老朽化の進んだ移動型 X 線撮影装置も更新した。次年度以降も血管撮影装置等の大型機器が更新時期を迎えており、順次適正な時期の更新を望む。

業務多忙の中、人事異動・装置更新・法改正など変化の大きかった一年で大過なく、奮闘し、自己研鑽を積みつつ業務に取り組んでくれたスタッフに深く感謝する。

【検 査】

各検査の前年度件数比は、CT 検査 98.4%、MRI 検査 92.4%、RI 検査 93.3%、X 線透視検査 84.4%、超音波検査 95.4%、カテーテル検査 100.1%、一般撮影検査 100%、ポータブル撮影 90.5%、画像コピー97.1%で全体として 96.9%となっている(令和元年度詳細は統計編)。

【学会・研修等】

本年度の学会・研修会等の参加は以下のとおりである。

件 名	期 日	場 所
第 75 回日本放射線技術学会総会学術大会	4/11～14	横浜市
第 42 回日本小児放射線技術研究会	4/13	横浜市
第 12 回冠動脈模型作成セミナー	6/5	品川区
第 243 回群馬 MR 研究会	6/19	前橋市
第 12 回群馬 GYRO USERS MEETING	6/25	前橋市
第 13 回業務拡大に伴う統一講習会	7/6	前橋市
医療被ばく低減認定のための講習会	7/20	前橋市
日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構第 12 回認定講習会	7/27	荒川区
長野県立こども病院 MRI 見学研修	8/20,27 9/3,17	安曇野市
東関東ブロック Compressd SENSE 研究会	8/24	港区
2019 年度群馬県がん検診エックス線撮影従事者講習会	9/10	前橋市
PHILIPS MRI 集中トレーニング	9/11-12	品川区
第 35 回日本診療放射線技師学術大会	9/14-16	さいたま市
第 47 回群馬小児循環器研究会	9/21	前橋市
第 16 回群馬 Ai 研究会	10/10	前橋市
第 246 回群馬 MR 研究会	10/16	前橋市
第 58 回全国自治体病院学会	10/24-25	徳島市
X 線 CT 認定技師指定講習会	11/9-10	市川市
第 39 回群馬 MR 医学研究会	11/15	前橋市
第 8 回群馬 GE CT USERS MEETING	11/21	前橋市
第 4 回群馬心臓核医学講演会	12/13	前橋市
第 60 回群馬県核医学技術懇話会	1/23	前橋市

件名	期日	場所
第13回群馬GYRO USERS MEETING	1/28	前橋市
第30回臨床画像診断懇話会テクニカル分科会	1/19	前橋市
2019年度死亡時画像診断(AI)認定講習会	2/1-2	世田谷区
第9回X線CT認定技師認定試験	2/2	世田谷区
第41回医療放射線の安全利用フォーラム	2/23	荒川区

(佐々木 保)

11. 検体検査課・生理検査課

【人 事】

令和元年度の検査課は、正規職員 10 名（うち 1 名は育休中）と実務研修生等 6 名で業務に当たった。令和 2 年 1 月下旬から 2 月上旬に正規職員 1 名が介護休暇を取得したため、一時的には 14 名で業務を行った。また、妊娠のため 2 名が宿直免除となったことも重なり、平成 17 年から続く 24 時間体制（宿直体制）は 12 名（正規職員 6 名、実務研修生等 6 名）により維持された。

【業 務】

検体検査では、尿素窒素、クレアチニン、尿酸、総カルシウム、無機リン、グルコースについて、県内はもとより全国的にシェアが広く、現行試薬より安価で同等の結果が得られる試薬の導入を検討した。いずれも良好な結果が得られたため採用され、コスト削減に繋がった。また、アンバウンドビリルビンの分析装置である UB アナライザ UA-2（アロウズ）、血中アンモニア分析用のドライケム NX10N（富士フイルム）、さらにインバータヘマトクリット遠心機 3220（クボタ）が更新された。老朽化著しかったフリーザーも、バイオメディカルフリーザー MDF-MU339（PHC）に更新された。病理検査では電気解剖のこぎりを購入、設置し、解剖時の労力削減に結びついた。また、内視鏡検体採取時の検体の乾燥を防ぐため、手術室に 6 分画カセット用ガイドプレートとろ紙を配布し、利用をお願いした。これにより検体の固定前乾燥が減り、良好な標本作製が可能になった。CPC は 1 回開催し、2 症例を検討した。

細菌検査では、個々に検査が行われていたノロウイルス、ロタウイルス、便アデノウイルスの迅速キットについて、抽出液が 1 本で済みかつロタウイルスと便アデノウイルスが同時に検査可能なものに変更した。また、細菌培養検査の検査材料である喀痰については、Geckler-Gremillion 分類により顕微鏡的品質評価を実施することとした。年度末には新型コロナウイルス感染症対策の一環として、リアルタイム PCR の準備を整えた。

生理検査では、ポータブル心電計に故障が多発していたが、多機能心電計 ECG-2450（日本光電）に更新された。

なお、年度末には試薬管理システムを導入し、試薬管理の省力化を図るとともに発注および納品処理が簡便化され、事務局の負担軽減にも繋がった。

【委 員 会】

- ・臨床検査委員会は、働き方改革の一環として年 4 回から 2 回の開催となった。各分析装置の精度管理報告をはじめ、外部委託検査項目などについて検討した。
- ・輸血療法委員会は年 6 回開催した。血液製剤の使用状況報告をはじめ、輸血後のバッグの返却、保管について検討し、試験的導入を開始した。輸血勉強会は新型コロナウイルス感染症の影響で延期（中止）された。
- ・院内感染対策委員会は年 12 回および臨時で 4 月に 1 回開催した。定例の委員会ではウイルス迅速検査の陽性数、耐性菌の検出状況、抗菌薬の使用状況、血流感染サーベイ等について報告、検討した。臨時の委員会では、病棟で発生した感染性胃腸炎のアウトブレイクについて対応を検討した。

【学会・研修会等】

参加状況を表1に示した。

また、日本臨床衛生検査技師会の学会誌「医学検査」に2編、「小児科診療」に1編の論文を発表するとともに、日本感染症学会、日本臨床微生物学会、小児循環器学会、群馬県庁臨床検査技師会で各1題の口演発表を行った。

表1 学会・研修会などへの参加状況

件名	期日	場所
第93回日本感染症学会総会・学術講演会	4月4～6日	名古屋
第67回日本輸血・細胞治療学会総会	5月23～25日	熊本
JCA-ZS050 基礎コース講習	5月29～31日	東京
検体採取等に関する厚生労働省指定講習会	6月15～16日	東京
令和元年度前期 輸血検査・管理業務研修会	6月25日	東京
第55回小児循環器学会総会・学術集会	6月27～29日	札幌
第36回輸血検査基礎実技研修会	6月29日	前橋
血液ガスセミナー2019 TOKYO	7月20日	東京
検体採取等に関する厚生労働省指定講習会	8月3～4日	東京
検体採取等に関する厚生労働省指定講習会	8月24～25日	東京
第36回北関東病院感染対策懇話会	8月28日	前橋
第15回群馬県合同輸血療法委員会世話人会	9月4日	前橋
2019年度群馬県臓器移植院内コーディネーターグループ研修会	9月26日	前橋
キャリアデザイン研修	9月27日	前橋
第59回日本臨床化学会年次学術集会	9月28～29日	仙台
日本臨床検査自動化学会 第51回大会	10月3～5日	横浜
第47回日本救急医学会総会・学術集会 脳死判定セミナー	10月4日	東京
第64回群馬県医学検査学会	10月13日	高崎
会議運営力(ファシリテーション)研修会	10月18日	前橋
JCA-ZS050 基礎コース講習	10月23～25日	東京
日本臨床微生物学会 感染症学セミナー2019	11月1～3日	東京
ARCHITECT i1000SR トレーニングコース	11月7～8日	松戸
第66回日本小児総合医療施設協議会	11月14～15日	那覇
検体採取等に関する厚生労働省指定講習会	11月23～24日	東京
キーオペレーターアドバンストレーニングコース	12月5日	東京
第22回関甲信支部・首都圏支部輸血検査研修会	12月15日	取手
第37回小児臨床検査研究会	11月30日	東京
2019年度日臨技臨床検査精度管理調査総合報告会	11月30日	東京

件名	期日	場所
令和元年度院内感染対策講習会	1月15～16日	東京
第28回関甲信支部・首都圏支部病理細胞診検査研修会	1月19日	川越
2019年度群馬県臓器移植院内コーディネーターグループ研修会	1月21日	前橋
第31回日本臨床微生物学会総会・学術集会	1月31～2月2日	金沢
第22回エコーウインターセミナー	2月8～9日	松本
令和元年度第2回群馬県臓器移植院内コーディネーター研修会	2月14日	前橋
日本小児総合医療施設協議会 第8回小児感染管理ネットワーク	2月14～15日	横浜
令和元年度 ImSAFER による事例分析研修	2月22日	前橋

(田中伸久)

12. リハビリテーション課

【人 事】

令和元年当初は、理学療法士 5 名 (正規 4 名・実務研修生等 1 名)、作業療法士 3 名 (正規 1 名・実務研修生等 2 名)、言語聴覚士 2 名 (正規 1 名・実務研修生等 1 名) の常勤の技術職 10 名と受付 1 名で開始、年度後半は常勤 9 名及び非常勤療法士の協力のもと入院・外来リハビリテーションに取り組んだ。

理学療法士は、前年度末で 3 年間の実務研修終了した 1 名が退職、新卒の理学療法士 1 名を実務研修生等に迎えた。

言語聴覚士は、前年度末の言語聴覚士の実務研修生枠の募集に応募はなく 1 名減でスタート、1 名が 8 月 19 日～12 月 6 日まで産前産後休暇、12 月 7 日～育児休暇中である。実務研修生が産休代替職員に変更となり、今年度後半の常勤は産休代替え職員 1 名のみとなった。言語聴覚士 2 名分の実務研修生等の募集の応募者はゼロであった。

作業療法士は、今年度末に退職の実務研修生 1 名 (在職 5 年) が退職、交代で実務研修生 1 名が入職予定である。

当センターから言語療法士の正規枠増員の要望をあげて頂いたが、残念ながら認められなかった。

【業務業績】

今年度の新規患者数は、年間で入院 371 人 (前年度 474 人)、外来 269 人 (前年度 346 人)、合計 640 人 (前年度 820 人) であった。前年度は、実務研修生と正規職員を合わせて常勤 11 名であったが、今年度は常勤 9 名でスタート、8 月から 8 名での対応、うち 1 名は新卒実務研修生等であり、実質 7.5 名で業務にあたった。人員減で、対応可能な患者数は限られ、その結果実績の減少となった。

- ・理学療法部門は、常勤 5 名、うち 1 名は新卒 1 年目であり、4 月は新人研修・技術研修などを受け、5 月より慢性期の入院患者に対応しはじめ、院外研修会への参加や学会発表にも取り組めた。リハビリテーションの質の確保には、臨床から学ぶことと併行し、学会等での報告や研修会等参加も大切である。今後も課員全体で取り組みたいと考える。
- ・言語聴覚部門は、常勤 2 名でスタートし、年度途中で産休代替え職員 1 名となった。対応可能な件数は半減し、前年度の継続患者への対応で精一杯であり、新規患者依頼を全て受けることは難しい状況であった。しかし 1 名でも常勤言語聴覚士が在職することで、診療報酬上、障害児リハビリテーションの施設基準を継続維持することが出来、外来リハビリテーション全体の収益の減少を抑えることに役立っている。同じ職種が 1 名しかいないことによる負担は大きかったが、リハビリテーション 3 職種のチームでサポートし、医師や歯科などにもご協力頂き、大きなトラブルもなく取り組めた 1 年であった。
- ・作業療法部門は正規 1 名、実務研修生 2 名で前年度と同様の人員配置であった。また、多指症術後の手装具作成や医療的ケア児の在宅移行へ向けた調整、SMA 児へのスピルラザ投与症例の機能評価を実施し国内学会で発表するなど、各スタッフの専門性を発揮しスムーズに業務を行うことが出来た。

リハビリテーション技術職のうち、作業療法士と言語聴覚士においては、正規職員 1 名のみで実務研修生の育成を繰り返している。最新の小児医療に沿ったリハビリテーション体制の維持には、

人材の長期的な育成も必須である。

【業務・取り組み】

1. リハビリテーション診療体制の整備

適時調査や個別指導の機会を通し診療報酬のリハビリテーション算定に関わる書類や事務作業の流れやリハビリテーション記録の徹底に取り組んだ。

- ①各科の主治医からのリハビリテーション依頼・処方、リハビリテーション部門システムへの取り込み、医師とリハビリテーション技術職によるリハビリテーション実施計画書の作成とご家族への説明・了解の徹底に取り組んだ。
- ②外来リハビリテーションの開始前には、診察にてリハビリテーション実施可能な状態であることの確認が必要とされている。総合内科や外来看護に協力頂き、リハ前診察の実施を徹底した。
- ③長年、外来診察にあわせ障害児リハビリテーションを継続している対象患者 115 名のリハビリテーション内容を主治医と確認し、処方の出し直しや実施計画書の作成、リハビリテーション部門システムの修正などに取り組んだ。今後も長期発達フォローが必要となる障害児リハビリテーション対象患者においては、定期的なリハビリテーション内容の再評価やリハビリテーション再処方を依頼医とともに検討する必要がある。

2. がんリハビリテーション研修会の参加

がんリハビリテーションは、主に入院治療に伴う機能低下を来した患児の運動機能改善の役割を果たしている。病室・病棟内での歩行練習や筋力増強練習の自主トレーニングメニュー呈示などにも必要に応じて取り組んでいる。平成 28 年度 154 件/63,035 点、29 年度 204 件/86,130 点、30 年度 360 件/102,910 点、令和元年度 144 件/39,975 点であった。今年度も当院でのがんリハビリテーションの算定継続のため、医局・看護部の協力のもと研修会に参加した。引き続き治療や看護ケアを協力して小児のがんリハビリテーションに取り組んでいきたいと考えている。

2019 年度 がんリハビリテーション研修

日 時: 令和 2 年 1 月 25 日・26 日 場所: 国立看護大学校

参加者: 加藤英子 (作業療法士)、秋山友香 (理学療法士)、宮前仁美 (第 3 病棟看護師)、河崎裕英 (第三内科部長)

3. 医療安全

転倒・骨折など、リハビリテーションを行う際のリスクに対し、課内でのリスクに関わる研修・情報交換・声かけを行うことで、幸いなことに転倒などの事故を回避することが出来た。多様な疾患・病態・重症度に対応する当院リハビリテーションに合わせたリスク管理に取り組む必要がある。医療安全において重要となる 5S 活動では、課内の 5S の取り組み報告と 5S ラウンドにおいて院内で表彰状を頂き、課員全員での取り組みの励みとなった。

4. 要支援事例のリハビリテーション

医療事故後の患者様の日々の丁寧なリハビリテーションや、日々の声かけは、ご家族の心証を改善し、信頼関係の再構築に役立つと考えられる。また、当院では要支援事例のリハビリテーションも少なくない。不適切な環境で育つ慢性疾患児は発達に障害を来すこともあり、育児環境や家族への対応に神経を使いながらの発達支援は、リハ職の精神的負担の大きい事例である。課内の情報

共有により、スタッフの心理的負担の軽減に今後も取り組みたいと考えている。

5. 在宅療養移行支援・退院支援

リハ職の今年度支援会議への参加回数は17回、退院後の家庭及び学校の環境整備や学校での介助方法の提案などが主であった。訪問看護ステーションを利用する症例も多く、退院前の訪問看護師や訪問リハビリテーション職との情報交換の機会も増えている。

外来リハビリテーションを受けている子ども達が日常的に通う療育施設や児童デイサービス、保育園、学校の担当者など関係機関との連携・連絡が73回あった。内容は、リハビリテーション経過の書面報告、電話での対応、ご家族の希望もあれば実際のリハビリテーション場面に同席して頂くなどであった。

また、院内で開催された患者家族会においては、ダウン症の患者家族会「あさがおの会」、口唇口蓋裂の患者家族会に出席、開催に協力した。

【人材育成】

1. 外部機関への見学研修

- 1) 青柳のどか 群馬中央病院 小児言語聴覚療法の見学 令和元年10月21日
- 2) 白田由美子 静岡こども病院 小児病院リハビリテーション体制の見学 令和元年5月31日

2. 学会発表

理学療法3件、作業療法1件、学会発表を行った。

発表者	共同研究者	演 題	学 会 名	場 所	発表日
熊丸めぐみ	池田健太郎、木島久仁子、藤井美香、福島富美子、大嶋 瑛、瀬下愛子、都丸健一、下田隼人、重田夢華、小林富男	成人移行期支援としてのフォンタン手術後患者への集団教育—体験型教育プログラムを実施して—	第55回日本小児循環器学会総会・学術集会	札幌	2019/6/28
熊丸めぐみ	鳥越和哉、下山伸哉、岡 徳彦、小林富男	小児先天性心疾患手術後患者における リハビリテーションの特徴	第25回日本心臓リハビリテーション学術集会	大阪	2019/7/14
秋山友香	神子嶋誠(埼玉医科大学保健医療学部)、小野正恵(東京逋信病院)ら	体操教室終了後のダウン症児のフォローアップの検討—PBSの信頼性と発達との関連性—	第54回日本発達障害学会	札幌	2019/8/25
六本木温子	加藤英子、白田由美子、渡辺美緒	ヌシネルセン投与を行った脊髄性筋萎縮症I型児の運動機能変化とリハビリテーション経過について	第53回日本作業療法学会	福岡	2019/9/7

3. 講習会・研修会参加

件名	場 所	期 日
第 122 回日本小児科学会学術集会、日本小児呼吸学会委員会 将来構想委員会、第 26 回小児呼吸セミナー	石 川	2019/4/19～21
第 61 回日本小児神経学会学術集会	名 古 屋	2019/5/31～6/2
渋川地区医療・看護・介護連携フォーラム	渋 川	2019/6/23
障害を理由とする差別の解消の推進に関する研修会～障害平等研修～	前 橋	2019/9/24
群馬県特別支援教育研究会 難聴・言語障害教育部会 第 3 回中北ブロック研究会	伊 勢 崎	2019/10/2
第 7 回専門アドバイザー研修会	前 橋	2019/11/15
第 52 回日本小児呼吸器学会、将来構想委員会、呼吸理学療法 WG	鹿 児 島	2019/11/15～16
第 6 回日本小児理学療法学会学術大会	福 岡	2019/11/16～17
第 71 回臨床実習指導者講習会	高 崎	2019/12/7～8
理学療法士講習会基礎編「内部障害系理学療法の基礎 —安全で効果的なアプローチのために—」	福 井	2019/11/23
2019 年度第 7 回がんのリハビリテーション研修	東 京	2020/1/25～26
群馬県理学療法士協会第 4 回臨床実習指導者講習会	前 橋	2020/1/25～26

【地域貢献】

1. 院内講師

- 1) 萩原絵梨(作業療法士) おすすめしたい遊び方 あさがおの会 令和元年 6 月 3 日
- 2) 白田由美子(理学療法士) 呼吸理学療法と排痰機器 看護新人教育研修 令和 2 年 2 月 21 日

2. 院外講師

講 師	主 催	内 容	日 時
白田由美子	高崎健康福祉大学 保健医療学部理学療法学科	発達障害系理学療法	2019/4 月～9 月 (5 日間)
六本木温子	群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部	発達過程作業療法学Ⅱ	2019/6/4・11
中野まりえ (非 常 勤)	群馬県難聴言語研究会 中北ブロック研究会	口蓋裂の構音指導	2019/10/2
熊丸めぐみ	国立大学法人秋田大学	呼吸・循環系理学療法学	2019/11/11
六本木温子	群馬県教育委員会 特別支援教育課	令和元年度第 7 回専門アドバイザー研修会	2019/11/15
熊丸めぐみ	福井県理学療法士会	理学療法士講習会基礎編「内部障害系理学療法の基礎」循環器疾患の理学療法	2019/11/23

3. 特別支援学校機能強化モデル事業への協力

(文部科学省補助事業 群馬県教育委員会主催)

- | | | |
|------------------|---------------|-----------------|
| 1) 代 美穂 (理学療法士) | 吉岡町立明治小学校 | 令和元年 7 月 11 日 |
| 2) 加藤英子 (作業療法士) | みなかみ町立古馬牧小学校 | 令和元年 9 月 2 日 |
| 3) 臼田由美子 (理学療法士) | 渋川市長尾小学校 | 令和 2 年 1 月 24 日 |
| 4) 萩原絵梨 (作業療法士) | みなかみ町立月夜野北小学校 | 令和 2 年 2 月 21 日 |
| 5) 六本木温子 (作業療法士) | 沼田市立沼田小学校 | 令和 2 年 2 月 26 日 |

4. 他医療機関からの研修・見学

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1) 療育センターきぼう 金高由奈作業療法士 | 令和元年 4～10 月 (月 1 回) |
| 2) 群馬県作業療法士会主催高校生作業療法体験 1 名 | 令和元年 7 月 30 日 |
| 3) 本庄市吉沢病院 市川美奈子理学療法士 | 令和元年 6 月～令和 2 年 3 月 (月 1 回) |
| 4) 熊谷総合病院理学療法士 3 名 外来理学療法の見学 | 令和 2 年 1 月 21 日 |
| 5) 埼玉医科大学病院理学療法士 2 名 小児心臓リハ見学 | 令和 2 年 1 月 21～22 日 |
| 6) 名古屋大学病院理学療法士 3 名 小児心臓リハ見学 | 令和 2 年 2 月 13 日 |

5. 臨床実習等の受け入れ

令和元年度の「理学療法作業療法学校養成施設指定規則」改正に伴い、臨床実習指導者要件として、5年以上の業務従事経験及び厚生労働省指定の臨床講習会の受講修了が義務化された。理学療法士 2 名が受講、引き続き学生実習の受け入れ体制を準備した。

- 1) 鳥越 和哉 日本理学療法士協会主催第 71 回臨床実習指導者講習会
会場: 群馬パース大学、令和元年 12 月 7～8 日
- 2) 熊丸めぐみ 日本理学療法士協会主催第 102 回臨床実習指導者講習会、
会場: 群馬大学保健学科、令和 2 年 1 月 25～26 日

学生実習受け入れ状況

養成校名	実習期日	実習日数	人数
高崎健康福祉大学理学療法専攻見学実習	2019/7/5	1 日	3 名
群馬大学理学療法学科 4 年生総合実習 I	2019/8/19～10/11	38 日	1 名
群馬大学理学療法学科 4 年生総合実習 II	2019/10/21～12/13	38 日	1 名
群馬大学理学療法学科 3 年生基礎的技能研修	2019/12/9,11,18	3 日	4 名
群馬大学理学療法学科 3 年生評価実習 I	2020/2/3～2/13	9 日	2 名
群馬医療福祉大学作業療法専攻 3 年評価実習	2020/1/14～1/30	14 日	1 名
群馬大学理学療法学科 3 年生評価実習 II	2020/2/17～3/5	14 日	1 名

【各職能団体に関連する活動】

各職員の経験と専門性を生かし、臨床の質の向上と地域連携に役立てたいと考える。

- 1) 日本小児呼吸器学会将来構想委員会委員: 臼田由美子
- 2) 群馬県呼吸リハビリテーション研究会世話人: 臼田由美子・熊丸めぐみ
- 3) 群馬県重症心身障害研究会世話人: 臼田由美子
- 4) 日本心臓リハビリテーション学会評議員: 熊丸めぐみ

- 5) 全国自治体病院協議会令和元年度リハビリテーション部会幹事: 熊丸めぐみ
- 6) 群馬県理学療法士協会地域局小児リハ部員: 鳥越和哉
- 7) 群馬県作業療法士会発達支援推進グループ長: 六本木温子
- 8) 群馬県言語聴覚士会言語聴覚療法発達・聴覚グループ部員: 松下郁江

(臼田由美子)

13. 栄養調理課

【人 事】

令和元年度は、正規職員 7 名 (管理栄養士 3 名 (うち 1 名育休)、調理師 4 名)、育休代替職員 (管理栄養士) 1 名と委託会社職員 15 名で業務を行った。委託業務内容は、仕込み作業を除いた調理、調乳、洗浄である。

【設 備】

給食管理システム及び保温冷配膳車 2 台を更新した。

【業 務】

- 1 食数は、前年比で一般食は 96.5%、離乳食は 103.9%、特別食は 162.3%であった。調乳数は、前年比でミルクの人数が 89.1%、本数が 91.3%、濃厚流動食・成分栄養剤等の人数は 103.2%、本数は 112.6%と増加した。
- 2 食物アレルギー患者への対応として、1 日入院の食物負荷試験 (週 3 回) に立ち会い、食生活全般や加工食品の表示の見方などの指導をした。
- 3 栄養委員会は、令和元年 6 月、9 月、令和 2 年 3 月に開催し、離乳食パンフレットの更新や入院診療計画書の記載内容について協議した。
- 4 NST (栄養サポートチーム) の活動は、勉強会の実施と入院時の栄養アセスメント及び第 1・3・5 火曜日のラウンドを実施した。
- 5 あさがおの会において、栄養に関する講義等を行った。
- 6 病棟からの依頼により、ミルク及び経腸栄養剤に関する講義を行った。(3 回)

【学会・研修会等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、以下のとおりである。

件 名	期 日	場 所
全国自治体病院協議会栄養部会研修会	7/12	東 京 都
第 66 回日本栄養改善学会学術総会	9/5~7	富 山 県
全国自治体病院協議会栄養・調理師研修会	11/8	東 京 都
全国自治体病院協議会群馬県支部栄養部会研修会	1/29	桐 生 市

(島田純子)

14. 臨床工学課

【人 事】

今年度は、職員の増減はなく、正規職員 4 名で業務を行った。

【設 備】

医療機器購入(5年計画の5年目)は、シリンジポンプ(TE-351Q)5台(SP-120)10台、輸液ポンプ(TE-281A)5台、人工呼吸器(ハミングビュー)1台、非挿管用人工呼吸器(インファントフロー SiPAP)1台、NPPV専用装置(V60)1台、新生児用保育器(インキュアイ)3台、開放型保育器(インファウォーマアイ)1台、光線治療器(BiliLux)1台、除細動器(TEC-5631)2台のほか、特別枠の予算で新生児用保育器(インキュアイ)7台、緊急で血液ガス分析装置(スタットプロファイル フォックスウルトラ)1台を購入した。

その他、手術室のベッドサイドモニターの更新を行った。

【業 務】

今年度の体外循環症例は、79症例で昨年度比118%(昨年度67症例)となった。最低体重は2.3kg、最高体重は71.7kg、平均 11.3 ± 10.9 kgであった。無輸血手術は29症例(36.7%)手術室抜管は12症例(15.2%)であった。術式別の症例数は、VSD closure 26症例(32.9%)が最も多く、次にASD closure 8症例(10.1%)、TOF repairとShunt手術がそれぞれ6症例(7.6%)であった。緊急手術は、2症例とともにTAPVC repairであった。

心臓カテーテル検査は、193症例でバルーン拡張術43症例(22.3%)、コイル塞栓術12症例(6.2%)、バルーン心房中隔裂開術8症例(4.1%)、心筋焼灼術7症例(3.6%)、心房中隔欠損カテーテル治療6症例(3.1%)、心臓電気生理学的検査5症例(2.6%)、動脈管開存症カテーテル治療2症例(1.0%)であった。また、緊急心臓カテーテル検査は、2症例(1.0%)で、その内訳は、大動脈弁バルーン拡張術と肺動脈弁バルーン拡張術が各1症例であった。

内視鏡手術は、123症例でそのうち緊急手術は、13症例(10.6%)で全てが腹腔鏡下虫垂切除術であった。

血液浄化療法は、12症例で昨年度比240%(昨年度5症例)となった。治療の内訳は、CHDF 7症例、PE 3症例、DHP 2症例であった。今年度は、血球貪食性リンパ組織球症(HLH)による血液浄化療法施行が多かったことが特徴的であった。

補助循環(ECMO)業務は3症例で、その内の1症例は、EBウイルスによる血球貪食性リンパ組織球症(HLH)に伴う急性呼吸窮迫症候群(ARDS)への呼吸補助であった。

一酸化窒素吸入療法は、31症例で心臓周術期が24症例、新生児高血圧症が7症例であった。また、低酸素吸入療法を3症例に行った。

脳低温療法は5症例で、新生児重症仮死(2症例)と心肺停止蘇生後(3症例)に行った。

その他、ペースメーカ植込み術が2症例、植込み型ペースメーカフォローアップが71症例で、その内8症例が緊急のペースメーカチェックであった。

ME機器管理業務では、人工呼吸器、保育器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、麻酔器、人工心肺装置、血液浄化装置、補助循環装置、体外式ペースメーカ、除細動器、分娩監視装置など計571台の定期点検を行い、院内修理は100台であった。

人工呼吸器の使用 midpoint 検は、毎日機器の動作確認や呼吸器回路の不具合等のチェックを行い、安

全性の確保に努めている。今年度は、延べ5,070台の使用 midpoint 検を行った。また、定期的(1ヶ月毎)に呼吸器の回路交換も行った。

機器を使用する前の動作チェックである始業点検としては、主に人工呼吸器や麻酔器、シリンジポンプ、輸液ポンプ等を行い、今年度の実績は6,693台であった。麻酔器始業点検においては、日毎に担当者1名が早出出勤をし、手術室全5台の始業点検を8時30分までに終了させ、安全性の確保に努めている。また、心臓カテーテル検査室にある麻酔器については、全身麻酔で検査を行う前に始業点検を行っている。今年度は、合計で1,213台の麻酔器の始業点検を行った。

新規に購入した開放型保育器については、機器の取扱方法や特徴、トラブル時の対処法などの説明会を行い、33名が参加した。また、7月には、医療機器安全管理委員会主催で、「NPPVについて」の勉強会を行った。参加者は、13名と少なかったが、活発な質疑応答や勉強会終了後も講師と雑談を含めて、色々な質問や意見などがあり、とても充実した内容になった。

その他、教育業務として看護部、各病棟に対するME機器説明会やトラブル対応等の勉強会の開催をはじめ、臨床工学技士養成校への外部講師も行った。

また、高橋技師が、3学会合同呼吸療法認定士認定試験を受験し、見事合格した。これにより、呼吸療法認定士は3名となった。その他の認定士は、体外循環技術認定士が4名、透析技術認定士が1名、臨床ME専門認定士が1名である。

【学会・研修等】

今年度の学会及び研修会の参加状況は、下記の通りである。

件名	期日	場所
第26回日本体外循環技術医学会関東甲信越地方会大会	4/13～4/14	山梨県
第29回日本臨床工学会	5/18～5/19	岩手県
第55回日本小児循環器学会学術集会	6/27～6/29	北海道
第64回日本透析医学会学術集会	6/28～6/30	神奈川県
第35回日本人工臓器学会教育セミナー	7/13～7/14	東京都
第18回群馬県臨床工学技士会学術大会	7/28	群馬県
第24回3学会合同呼吸療法認定士認定講習会	8/30～8/31	東京都
第45回日本体外循環技術医学会大会	10/5～10/6	愛知県
第30回日本急性血液浄化学会学術集会	10/26～10/27	静岡県
第10回関東臨床工学会	10/27	茨城県
第22回日本成人先天性心疾患学会各術集会	1/17～1/19	東京都
第9回日本医療マネジメント学会群馬県支部学術集会	1/26	群馬県
CEのための医療安全フォーラム	2/28	東京都

(関明彦)

15. 薬 剤 部

【人 事】

令和元年度は正規職員が1名増員となり8名、嘱託職員1名、臨時職員1名、調剤助手3名で業務を行った。

【業 務】

チーム医療の推進に関しては、薬剤師がICTラウンド・コアチームのメンバーとして参加し、感染防止対策加算1の取得に貢献した。また、ASTのメンバーとして抗菌薬適正使用支援加算の取得にも貢献した。TDMについては、医師から依頼を受けて各種検査値に基づき、最適な投与計画を提案し、抗菌薬の適正使用に貢献した。また、特定抗菌薬使用届の提出を徹底し、耐性菌の発生予防に寄与した。PICUで平日行われているカンファレンスに薬剤師1名が参加し、抗菌薬を含めた医師の処方設計を支援した。

PICU病棟において、指示書に基づき患者毎の注射薬払出を実施するとともに、基本輸液に関して薬剤部での無菌調製を実施している。

<薬剤管理指導業務>

薬剤管理指導業務は、産科病棟の帝王切開及び切迫早産の患者及び第3病棟循環器科及び血液腫瘍科の一部患者に対し270件の薬剤管理指導業務を行った。さらに、加算対象ではないが、平成24年5月から産科医師からの依頼により、付属児の新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症予防のため、母親へのケイツーシロップ服薬指導を継続実施した(129件)。

<調剤業務>

入院処方箋枚数はほぼ横ばいで、院外処方箋の発行率は89.6%だった。

なお、医師業務負担軽減の一環として、院外処方箋に関する調剤薬局からの疑義照会受付の窓口としての薬剤部の対応は、592件であった。対応の結果処方変更となった場合、医師の業務負担軽減のため電子カルテへの薬剤部での代行入力280件であった。院内処方箋、注射箋に関する医師への問い合わせは1,339件であった。また、医師に代わり薬剤師が1,048件(院内処方箋、注射箋)の代行修正を行った。入院時の持参薬の鑑別報告は77件となった。

<無菌調製業務>

化学療法処方鑑査、抗悪性腫瘍薬の調製及びTPNの無菌調製を実施した。

抗悪性腫瘍薬の注射剤は調製者の被爆が問題となることから、平日だけではなく休祭日も薬剤師が安全キャビネットにて調製を行った。特に揮発性の高い薬剤は、調製者保護のため抗がん剤暴露閉鎖システムによって調製している。

退院後も在宅でTPNを継続して使用している患児については、TPNを無菌調製できる調剤薬局との連携、無菌調製を応需する薬局の無い地域の患者には薬剤部で輸液を調製・交付し、ショートケア時の輸液の調製など、個々のケースに応じてきめ細かい対応を行った。

<製剤業務>

医師の要望により市販されていない小規格の坐剤、麻薬を含むMK注腸液、医薬品以外の物を原

料とする軟膏(カラヤ入軟膏)、安息香酸 Na 注射液の注射剤等に加え、令和元年度新たに 20%トリクロロ酢酸液を調製することになり、調製方法等確認し調製を行った。

<DI 業務>

「薬剤部インフォメーション」として、医薬品の適正使用に関する情報や薬事委員会で採用となった医薬品に関する情報提供を行った。厚生労働省からの「医薬品・医療機器等安全性情報」は情報が迅速に伝わるよう従来の供覧の他に、メールによる直接配信を行った。また、各部署からの照会に随時応じ、情報提供件数は 183 件であった。

<退院時服薬指導業務>

第 3 病棟の一部の患者に対し退院時薬剤情報管理指導を行った。また、退院時薬剤情報管理指導料を算定していない患者に対しても、主に退院時の処方について薬効説明と注意点、飲み方の確認等を行い、薬剤情報提供書及びお薬手帳用シールを交付し、お薬手帳を所持していない方には手帳もあわせて交付した。また、当院の薬剤を常時在庫している保険薬局は少ないため、外来時に支障なく院外処方に対応できるよう院外処方の説明を行い、初回時には在庫の有無を電話確認するなど円滑に外来に移行できるよう対応した(退院時服薬指導 183 件)。

在宅療法支援担当看護師長と連携し、無菌調製製剤を必要とする外来患者と無菌調剤を応需できる保険薬局の間を調整し、院外処方せん応需と在宅患者訪問薬剤管理指導を実施できた。

さらに血液腫瘍科急性リンパ性白血病治療の維持療法が在宅でスムーズに行えるよう地域薬局へ当院での治療の経過とこれからの投与予定を連絡し、抗がん薬等ハイリスク薬の管理連携をはかった。

<医薬品の適正管理>

在庫管理システムを使用し経営課と協力、入在庫管理を行った。また、各病棟に定数配置されている医薬品については、定数を見直し院内在庫の適正化に努め、期限切れ薬品等、病棟配置薬の定期点検を実施した。

【委員会】

令和元年 5 月 16 日、9 月 12 日、12 月 19 日、令和 2 年 3 月 5 日、計 4 回に開催した。新規採用医薬品 43 品目(うち院外専用 14 品目)、購入中止医薬品 24 品目(うち製造中止品 13 品目)について承認された。特定の患児のみに使用し、それ以外は在庫を置かない一時採用品は 55 品目だった。また、事務局提案による後発医薬品の採用は 5 品目であった。後発医薬品指数(後発医薬品がない医薬品を除く後発医薬品の数量ベースの採用率)は 87.30%で後発医薬品使用体制加算 1 取得の基準に適合していたが、カットオフ値が年度途中で 50%を下回ったため加算の取得が出来なくなった。

(伊藤理恵)

16. 看護部

【看護要員】

- ・定数 211名 現員数 226名
(正規 209名、再任用 1名、嘱託 3名、賃金 13名)
- ・採用 16名 正規 13名、転入者 3名
- ・退職 12名 正規 11名、賃金 1名

【組織】

令和元年度は、新任看護師長2名が誕生しプリセプター制を導入し、副看護師長を各部署3名体制(業務・教育・リスク)とし各部署の充実を図った。キャリアアップ・チャレンジ制度において、看護技術コースの2名が修了し3名転出し2名転入した。看護管理コースの1名は、3か月間自部署研修をし、その後3病院に出向し研修を行った。感染管理認定看護師が1名合格し2名となった。令和元年度看護部は、看護部長1名、副看護部長1名、各部署看護師長9名、教育担当師長1名、在宅療養支援担当師長1名、GRM1名、感染対策室1名を配置し連携を取りながら充実を図った。

令和元年度は、小児専門病院であり、総合周産期医療センターとして、安全で質の高い看護を提供するために、体制整備・人材育成・病院経営への参画が課題として取り組んだ。そして、看護部理念を見直しし、知識技術はもちろんのことではあるが、ホスピタリティマインドを考え変更し、更なる患者・家族にあたたかい心で寄り添うことを目的とした。

【看護活動】

看護部の理念

あたたかな心で患者と家族を支えます。

【令和元年度の目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する
 - 1) 患者誤認2レベル以上を0にする
 - 2) PNS(パートナーシップ・ナーシング・システム)の定着とマインドの醸成を図る
2. 人材育成を推進する
 - 1) クリニカルラダーの見直しをする
 - 2) 入職から2年以内の看護職員の精神的要因での離職を0にする
3. 病院経営に積極的に参画する
 - 1) 効率的な空床利用をする
(ベッドコントローラー設置・レスパイトの受入・産科病床の利用)
 - 2) 新規加算取得を増やす
(外来・退院・在宅に関するもの)

【評価】

看護部理念を見直しし、誰もが空で言えるものであり、小児周産期専門チームの一員として、子どもと家族に寄り添い、その子らしい成長・発達を考えた支援の提供をしていかななくてはならない。さらに、あたたかな心と柔軟な思考で時代に合った看護の実現に向けて、この理念に変更した。

安全で質の高い看護を提供について、看護部の医療安全及びヒヤリハット報告については、0レベル211件、1レベル346件、2レベル171件、3aレベル30件、4bレベル1件のトータル756件(73件増加)であった。内容は、ドレーン・チューブ、与薬(内服)、与薬(注射)、食事と栄養の順である。3aレベル以上も多くあるため、内容を検討し、次年度の協力を図る。また、内容の変化はないが、部署で同一のことが繰り返されていることがあるため、問題の捉え方が充分でないことが考えられるため、今後の課題である。また、患者誤認についても2レベル以上はなかったが、0～1レベルが15件発生している。その多くが確認不足や確認ルールを怠ったものであった。また患者誤認は重大事故になりうるため次年度の課題である。

PNSについては、副看護師長が中心となり、各部署の整合性を図り統一を行った。まだ夜間の体制が不十分であることやマインドが充分でないところがある。

人材育成の推進については、全職員の育成のため、日本看護協会クリニカルラダーに則ったものに変更していくことで、全国の標準に合わせていくことを目的として改訂を試みたが、全ての見直しにはならなかった。また移行期にあるため、現在のクリニカルラダー評価要件(日々の看護実践評価・レベルアップ)見直しした。看護実践評価については、日々の看護を見直す良い機会となった。新人看護職員については、精神面も多方面からフォローアップし、精神的な理由での離職はなかった。

病院経営に参画するについては、看護部でベッドコントロールを行い、できるだけ速やかに入院が出来るようにしたが、スムーズでないこともあるため継続して取り組みたい。病床利用率は76.2%→72.1%と低下し、PICU加算取得率(50%→39.6%)低下した。レスパイトは、延べ人数で93人→70人で減少し、産科病床は増加したが、第一病棟・GCUが減少した。また、新規加算取得については、産後ケアとして産後2週間健診(助産外来)、産後ケアを導入できた。入退院支援加算3取得に向けて、3月からNICUで手順に沿って運用を開始した。来年度は加算取得に向けて、専任看護師を配置する予定である。

【次年度の目標】

1. 安全への取組を強化する
2. 質の高い看護を提供する
3. 病院経営に積極的に参画をする

(清水奈保)

令和元年度院外研修(学術集会・研修会・セミナー・救護など)

主催	研修・学会名	日程	場所	氏名	人数
長期	認定看護管理者ファーストレベル	6月4日～10月30日(114時間)	前橋 群馬看護教育センター	北爪 幸子 狩野 由紀	2
	小児在宅ケアコーディネーター研究会	6月8日・9日のみ	京都橘大学	戸川 里紗	1
	認定看護管理者セカンドレベル	7月2日～1月16日(186時間)	前橋 群馬看護教育センター	大平 典子	1
	新人看護職員実地指導者研修	10月3日～10月28日(5.5日)	前橋 群馬看護教育センター	登山 茉美	1
	新人看護職員研修責任者研修	11月5日～11月27日(5日)	前橋 群馬看護教育センター	宮川 祐子	1
自治体病院	看護管理研修会	8月7日～9日	全国都市会館	村上 容子	1
	医療安全管理者養成研修会(管理コース)	12月9日～10日	全国都市会館	浅野 香	1
	医療安全管理者養成研修会(実践コース)	12月11日～13日	全国都市会館	浅野 香子 村上 容子 村宮 川祐子	3
	医療安全管理者養成研修会(管理コース)	12月14日～15日	全国都市会館	村上 容子 福島 富美子	2
日本看護協会	'19重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修会	6月30日	群馬 群馬県看護協会	青木 秀佳 外丸 子恵 金子 友洋 高橋 志のぶ 小林 志のぶ	5
看護業務研究会	第3回病院看護業務研究会	2月18日	群馬 群馬県看護協会	宮川 祐子 村上 容子 浅野 香子 大野 典子 大藤 織富 齊藤 富島	6
学会・学術集会・研修会等	ImSAFERによる事例分析研修	2月25日	群馬県庁	青木 秀佳	1
	医療対話推進者養成研修	6月20日、21日 7月11日	群馬県庁	齊藤 織子 佐川 有友 星山 典子 大平 綾子	4
	日本小児看護学会第29回学術集会	8月3日・4日	ロイトン札幌	外丸 利介 若林 大子 佐川 有美 藤井 奈保 清水 泰子 石坂 八重子	7
	第50回日本看護学会看護管理学術集会	10月23日～24日	名古屋国際会議場	清水 奈保	1
	日本緩和医療学会学術集会	6月21日～22日	パシフィコ横浜	石関 梨華	1
	日本看護倫理学会	6月8日～9日	大阪市中央公会堂	宮川 祐子	1
	第14回医療の質・安全学会学術集会	11月29日～30日	京都国際会議場	清水 奈保 福田 円	2
	第55回小児循環器学会	6月27日・28日・29日	札幌コンベンションホール	千明 桃子 樺沢 彩	2
	日本小児がん看護学会	11月15～16日	広島コンベンションホール	石関 梨華 荒木 七仁 宮前 美大 登山 芥介 若林 大	1
	日本がん看護学会	2月22～23日	東京フォーラム	石関 梨華	1
	北関東病院感染対策懇話会	8月28日	ベイシア文化ホール	北爪 幸子	1
	第35回日本環境感染学会総会・学術集会	2月14日、15日	パシフィコ横浜	北爪 幸子 石川 さやか	2
	群馬県看護学会	11月13日	ベイシア文化ホール	宮川 祐子	1
	第31回日本手術看護学会 関東甲信越地区	6月15日	パシフィコ横浜	片貝 まさみ 黒岩 徹 笠原 絵明 川浦 秀	4

主催	研 修 ・ 学 会 名	日 程	場 所	氏 名	人数
学 会 ・ 学 術 集 会 ・ 研 修 会 等	群馬県手術看護学会 手術看護中堅者セミナー	5月11日	前橋赤十字病院	片貝まさみ 小林育代 黒岩原寿 笠原 絵	4
	群馬県院内コーディネーター研修会	6月11日	群馬県健康づくり財団	笠原 寿 絵 堤 万希子	2
	群馬県中材業務研究会 講演会	7月20日	前橋テルサ	小林育代 黒岩原寿 笠原 絵 熊谷扶美子	4
	群馬県手術看護研究会 手術新人セミナー	8月31日	群馬大学附属病院	片貝まさみ 笠原 寿 絵 日景智博 磯部 樹	4
	日本成人先天性心疾患学会	1月17日～19日	東京コンファレンスセンター・有明	笠原 寿 絵	1
	第33回日本手術看護学会年次大会	10月11日、12日	岡山コンベンションセンター ホテルグランヴィア岡山他	片貝まさみ 笠原 寿 絵	2
	Nuss 法漏斗胸手術手技研究会	11月23日	前橋テルサ	片貝まさみ 小林育代 黒岩原寿 笠原 絵 齊藤春恵 川浦秀明 高橋健一 熊谷扶美子	8
	群馬県手術看護研究会 全体集会	11月2日	群馬県看護教育センター	片貝まさみ 笠原 寿 絵 小林育代 小藤 春	4
	群馬県緩和医療研究会	10月5日	群馬県立県民健康科学大学	石 関 梨 華	1
	2019年度救急医療における 脳死患者の対応セミナー	9月15日	日本光電株式会社 フェニックスアカデミー	笠原 寿 絵 小林志のぶ	2
	2019年救急医療における脳死患者の 対応セミナー	9月17日	東京	堤 万希子	1
	関東甲信越地区セミナー 手術看護管理の視点とリスクマネジメント	11月30日	光の家会館	笠原 寿 絵	1
	医療対話推進者養成研修	7月11日	群馬県庁	大平 典子	1
	日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セ ミナー	6月12日～14日	岡山大学病院	兵藤有希恵 大須智恵	2
	日本褥瘡学会関東信越地方会	7月13日	朱鷺メッセ	金子 優子	1
	2019年度小児在宅移行支援指導者養成 研修	8月1日～2日 11月22日	秋葉原コンベンションセン ター	飯沼麻由美 大平 典子	2
	27th 群馬県救急医療懇談会	9月1日	バイテック文化ホール	清水 奈保	1
	群馬病弱児療育研究会	2月15日	群馬県社会福祉総合センター	荒木 七生	1
	死の臨床研究会	11月3日、4日	神戸	石 関 梨 華	1
	臓器移植における基礎知識と看護実践	6月26日～28日	神戸研修センター	黒田 佐織	1
	臓器提供に係る周術期対応に関する研修 会	12月14日	ふくしま医療器機開発支援セ ンター	笠原 寿 絵	1
	脳死下臓器提供グループ臓器提供手術シ ミュレーション	12月26日	館林厚生病院	笠原 寿 絵	1
	院内コーディネーター研修会	1月21日	前橋赤十字病院	堤 万希子	1
	脳死下臓器提供グループ研修会	1月21日	前橋赤十字病院	笠原 寿 絵	1
	群馬県臓器移植院内コーディネーター研 修会	2月14日	群馬県健康づくり財団	笠原 寿 絵	1
	臓器移植に関するワークショップ	10月3日	幕張メッセ	青木 秀佳	1
	小児集中ネットワーク会議	7月26日	兵庫県立こども病院	木島久仁子	1

主催	研修・学会名	日 程	場 所	氏 名	人数	
学 会 ・ 学 術 集 会 ・ 研 修 会 等	小児集中治療ワークショップ	10月19日、20日	大阪国際交流センター	荒木七生 樋口真梨子	2	
	脳死判定セミナー	10月4日	東京国際フォーラム	平田裕香	1	
	小児脳死判定セミナー	2月15日	ウエスタ川越	笠原寿絵	1	
	関東甲信越地区セミナー 周術期における看護記録	2月22日	光の家会館	石北淳美	1	
	医療・病院管理研究会 チーム医療における看護職の役割	9月14日	公益法人 医療・病院管理研究協会	星山友絵	1	
	小児慢性疾患患者に関わる専門職のための 成人移行期支援フォローアップ講座	11月9日、10日	成育医療センター	近藤龍平	1	
	日総研 災害発生時に求められる初期対応の 実際	6月2日	飯田橋レインボービル	殿木裕美	1	
	日総研 災害対策委員が進める体制整備	8月31日	LMJ 東京研修センター	岩井 淳	1	
	エンゼルメイクアカデミア	4月13日、5月11日、6月8日、 7月13日、8月3日、9月7日、 12月14日	国際ファッションセンタービ ル	木暮奈櫻 原田育江	2	
	小児がん看護専門研修	12月15日	埼玉県立小児医療センター	木暮奈櫻 原田育江	2	
	ALSO プロバイダーコース	9月22日、23日	前橋赤十字病院	狩野英美子 小林恭子	2	
	ALSO プロバイダーコース	2月29日、3月1日	群馬大学医学部保健学科	榎山由美	1	
	日本更年期と加齢のヘルスケア学会/日 本サプリメント学会	10月27日	コングレスクエア日本橋	狩野英美子 小林恭子	2	
	周産期メンタルヘルスケア学会	10月26日、27日	千葉大学	高橋洋子	1	
	産前産後ケア・子育て支援学会	8月18日	五反田文化センター	狩野英美 小池智美	2	
	母乳育児支援学習会	6月16日	高崎市総合福祉センター	篠原由美子	1	
	WHC 研修	12月15日	自治医科大学	狩野英美 小池智美	1	
	WHC 研修	1月12日	自治医科大学	小池智美	1	
	社会人基礎力を身につけさせる具体的な 関わり方	10月26日	日総研ビル	狩野英美 榎山由美	2	
	NCPR F コース	9月7日	愛育病院	狩野英美	1	
	産後ケア研修	9月18日	群馬県医師会館	小池智美	1	
	地域助産師交流研修会 名市大学学びなおし出張講座 2019in 吾 妻	9月28日	長野原町住民総合センター	狩野英美	1	
	栃木県助産師会研修	3月1日	佐野厚生病院	小池智美	1	
	血液ガスセミナー	7月20日	ステーションコンファレンス 東京	金子優子 高橋ゆり菜	2	
	定着 PNS	2月15日	飯田橋レインボービル	小谷陽子 平田裕香	2	
	埼玉県立大学認定看護師教育課程 緩和ケア認定看護師フォローアップ研修	9月11日	埼玉県立大学	石関梨華	1	
	ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成 プログラム	2月15日～16日	東邦大学看護学部	石関梨華	1	
	第29回日本看護教育学会学術集会	8月24日	前橋テルサ	金子友香 小林岩藤 齊藤春恵	1	
	群馬ストーリーナビゲーション講習会	9月14～16日	群馬大学附属病院刀城会館	高橋裕也	1	
	群馬看護協会	【公開講座】小論文・レポートの書き方	5月28日	群馬県看護協会研修センター		2
	群馬看護協会	【公開講座】看護師の問題解決への支援	6月26日	群馬県看護協会研修センター		2

主催	研 修 ・ 学 会 名	日 程	場 所	氏 名	人数
群馬県看護協会	看護研究の基礎～これさえマスターすれば大丈夫～	6月27日	群馬県看護協会研修センター		2
	終末期がん患者のスピリチュアルペインとそのケア	7月2日	群馬県看護協会研修センター		3
	ノンテクニカルスキルの基本的な考え方と医療現場での使い方	7月10日	群馬県看護協会研修センター		4
	<DVD 活用研修>看護補助者活用推進の責任者研修	7月12日	群馬県看護協会研修センター		1
	現場で活かす感染対策の基礎知識	7月17日	群馬県看護協会研修センター		5
	看取りケア～最後まで自分らしく生活できるように支援する～	7月18日	群馬県看護協会研修センター		3
	動画で学ぶ摂食嚥下の基礎知識(基礎編)	7月24日	群馬県看護協会研修センター		1
	思春期のケア～自己肯定感を育てる保健指導の取り組み	7月27日	群馬県看護協会研修センター		6
	★災害支援ナースの第一歩～災害看護の基礎知識～	8月6・7日	群馬県看護協会研修センター		2
	助産外来における超音波診断の実際と母体救急・産科出血時の対応	7月28日	群馬県看護協会研修センター		2
	看護研究データの分析～量的データの分析・基礎編～	8月9日	群馬県看護協会研修センター		5
	看護の中の倫理(初級編)～信頼される看護職を目指して～	8月21日	群馬県看護協会研修センター		8
	いざ!という時の急変時の看護(基礎編)	8月22日	群馬県看護協会研修センター		2
	医療安全に役立つ看護記録	8月24日	群馬県看護協会研修センター		9
	看護の中の倫理～信頼される看護職を目指して～	8月20日	群馬県看護協会研修センター		3
	医療安全に役立つ看護記録	8月23日	群馬県看護協会研修センター		9
	看護の中の倫理(中級編)	9月5日	群馬県看護協会研修センター		5
	【公開講座】看護管理における倫理	9月6日	群馬県看護協会研修センター		2
	看護管理者による看護研究支援	9月10日	群馬県看護協会研修センター		6
	特性のあるスタッフに対する理解と接し方	9月20日	群馬県看護協会研修センター		10
	急変時の対応に役立つアセスメント	9月18日	群馬県看護協会研修センター		6
	褥瘡ケア(初級編)～実践で困らないための褥瘡ケアの基礎知識～	9月19日	群馬県看護協会研修センター		3
	産科救急・新生児救急(新卒者)	9月27日	群馬県看護協会研修センター		1
	助産師が活用する3つの質問票と地域連携について	9月28日	群馬県看護協会研修センター		3
	災害看護(応用編)	10月1日	群馬県看護協会研修センター		2
	退院支援～具体的事例を通じて困難事例の退院支援を学ぶ～	10月9日	群馬県看護協会研修センター		1
	はじめよう!!小児訪問看護 第1回	9月21日	群馬県看護協会研修センター		3
	はじめよう!!小児訪問看護 第2回	10月26日	群馬県看護協会研修センター		1
	認定看護管理者研修(フォローアップ研修)	10月17日	群馬県看護協会研修センター		4
	メンタルヘルス(新卒者)	10月17日	群馬県看護協会研修センター		11
医療安全管理者ネットワーク:午前一般公開講座	10月24日	群馬県看護協会研修センター		2	
小児救急看護に必要な看護実践能力	10月25日	群馬県看護協会研修センター		3	
感染管理～職場で中心になって活動するためのポイント	10月29日	群馬県看護協会研修センター		3	

主催	研 修 ・ 学 会 名	日 程	場 所	氏 名	人数
群馬 県 看 護 協 会	人工呼吸療法を受ける患者への基本的な看護援助	10月30日	群馬県看護協会研修センター		1
	プリセプターフォローアップ研修	11月1日	群馬県看護協会研修センター		1
	国際助産の日の記念行事「女性の身体性を取り戻す」	11月9日	群馬県看護協会研修センター		3
	クリニカルラダーの活用と効果的な看護師教育	11月15日	群馬県看護協会研修センター		5
	小児の退院支援と在宅支援研修	11月19日	群馬県看護協会研修センター		14
	褥瘡・創傷ケア(中級編) ～看護実践能力を高めるための知識と技術～	11月20日	群馬県看護協会研修センター		2
	ファシリテーターの技法を学ぶ	11月26日	群馬県看護協会研修センター		8
	認定看護管理者(フォローアップ研修)	11月28日	群馬県看護協会研修センター		2
	医療安全対話推進研修～日常業務に生かすための対話技法を考える～	11月28日	群馬県看護協会研修センター		2
	糖尿病腎症重症化予防～腎不全・透析導入にならないために～	11月29日	群馬県看護協会研修センター		1
	周産期のメンタルヘルス(新卒者)・助産師のキャリアデザイン	12月6日	群馬県看護協会研修センター		1
	災害支援ナースフォローアップ研修	12月9日	群馬県看護協会研修センター		2
	医療現場におけるヒューマンエラー	12月12日	群馬県看護協会研修センター		3
	看護職が果たすべき看護の役割	12月14日	群馬県看護協会研修センター		3
	座りすぎが健康を損なう	12月21日	群馬県看護協会研修センター		1
うつ・自殺予防研修第1回	8月1日	群馬県看護協会研修センター		3	
県市町村職員合同研修	法制執務	6月18日、19日	群馬県自治研修センター	高野朝乃	1
	データ分析・情報活用力向上	7月5日	群馬県自治研修センター	黒田 佐織 石関 梨華 田島 伴美	3
	戦略的思考力向上	7月26日	群馬県自治研修センター	黒岩 徹	1
	ティーチング&コーチング	8月27日	群馬県自治研修センター	黒岩 智香	1
	クレーム対応	8月19日	群馬県自治研修センター	高倉 和枝	1
	論理的な話し方	9月18日	群馬県自治研修センター	飯田 尚絵	1
	タイムマネジメント	10月8日	群馬県自治研修センター	小池 智美	1
	折衝・交渉力	12月4日	群馬県自治研修センター	高橋 洋子 田中 絢	2
	ワンペーパー作成力	12月6日	群馬県自治研修センター	和田 千恵	1
	問題解決力	12月18日	群馬県自治研修センター	狩野 英美	1
論理的な話し方(第2回)	2月18日	群馬県自治研修センター	千明 理恵	1	

(1) 第一病棟

令和元年度は、看護師 31 名（うち院内異動 3 名、院外異動 1 名）、看護助手 3 名、保育士 2 名（うち院内異動 1 名）でスタートした。看護師は 5 月に新採用 3 名配属、1 名育休復帰、7 月に 1 名産休、10 月に 1 名育休復帰、12 月に 1 名産休、2 月に 1 名育休復帰、3 月に 1 名産休となった。保育士は 4 月に 1 名異動があった。看護体制では副看護師長が 3 名となった。

今年度は看護部の目標に沿って、以下の病棟目標を挙げて取り組んだ。

【令和元年度第一病棟目標】

1. 患者誤認 2 レベル以上を 0 にする
 - 1) スタッフ全員がマニュアルに沿った確認行動がとれる
 - 2) ベッドサイドでの確認行動がとれる
2. PNS の運用を見直す
 - 1) 記録による時間外削減を図る
 - 2) 時間の使い方を見直すことで、患者ケアを充実させる
3. 在宅移行患者の支援を充実させる
 - 1) 指導マニュアルとチェック表を見直す
 - 2) 在宅移行時の流れを整理し全スタッフがマニュアルに沿って行動できる

【結果・評価】

目標 1 について

患者誤認は 3 件あり、手順のルールが徹底出来るようスタッフに繰り返し呼びかけた。輸液については確認行動の監査を行い、自己評価が高く確認行動が正しく実施できないスタッフには結果のフィードバックを行い、輸液ラインの確認ポイントについてはデモンストレーションで各自の確認行動を見直し、再認識の場とした。

目標 2 について

PNS の業務改善アンケートの結果から、日々の看護体制を「3 チーム制・補完あり」から「4 チーム制・補完なし」とした。時間内での看護記録や保清の時間確保ができ、患者の看護ケアについてペアで責任を持つことが増加した。また、記録を始める時間は午前から意識して行うようになり、時間外業務は看護記録のみでなく、主に緊急入院の対応であった。

目標 3 について

医療ケアのある患児へ在宅移行への指導を行い、試験外泊を通して指導マニュアルとチェック表の見直しを行った。修正した手順をスタッフに周知し、在宅移行患者への支援で活用をはじめている。

(村上容子)

(2) 第二病棟

令和元年度は、看護師 25 名（うち新採用 3 名）、看護助手 3 名、保育士 2 名でスタートした。看護師は 10 月に 1 名異動、1 月に 1 名退職となり、3 月の時点では看護師 23 名であった。

【令和元年度第二病棟目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する

- 1) マニュアルに準じた行動をとる
- 2) PNS の定着のための業務改善を行う
2. 人材育成を推進する
 - 1) 個々のレベルアップができるために第二病棟のチェックリストが活用できる
 - 2) 自己研鑽のために院内外の研修に参加する
3. 病院経営に積極的に参画をする
 - 1) 新規加算取得のための在宅マニュアルを整備する

【結果・評価】

目標 1 について

輸液に関するインシデントは、輸液監査を実施しその結果マニュアルに準じた行動がとれるようになり減少したと考えられる。

内服に関するインシデントは続いてみられたため、今後内服監査を実施し各々がマニュアルに準じた行動がとれるようにしていく必要がある。

PNS の手順を作成し、定着できた。PNS 監査表を用いて評価することもできた。ペアで行動することで、承認し合う言葉かけが多くなり、確認行動ができ安全な看護を提供することができた。また記録の超過勤務は稼働率とは比例しないが、記録の時間外が平均 30～75 分だったものが、PNS 導入により平均 15～30 分と時間外削減にもつながった。今後は教育面での改善を行っていききたい。

目標 2 について

新人年間計画表・第二病棟到達目標評価表・業務前チェックリスト・重症前チェックリストを活用することで、できること、できないことが明確になり次の目標を定めながら行動できた。しかしスタッフ全員にチェックリストを浸透させることができず、チェック後そのままになってしまったことがあった。

院内研修参加率 56%、院外研修参加率 60%だった。今後も多くの研修に参加するよう促していく。

目標 3 について

院内小児在宅用医療的ケアマニュアルとは別に、退院支援計画チェックリストの作成を行った。今後使用後の評価・修正に努めていく。

(福島富美子)

(3) 第三病棟

令和元年度の第三病棟は、看護師 28 名 (うち非常勤 2 名)、保育士 3 名、看護助手 3 名、クラーク 1 名で始動した。その後 4 月末から新採用職員が 3 名配置・5 月の連休明けから育児休暇後の職員 1 名が配置となり、看護師 32 名の体制となった。

循環器科・血液腫瘍科ともに、子どもたちや家族の支援について、看護師だけでなく医師、ME、理学療法士・言語療法士・作業療法士、歯科医師・歯科衛生士、保育士、ソーシャルワーカーや在宅支援看護師、地域の保健師や訪問看護師と協力して取り組んだ。

【令和元年度第三病棟看護目標・評価】

1. 確認行動を徹底し、患者誤認を 0 にする。
2. 業務改善を実践し、全勤務帯の PNS とリシャッフルを定着する
3. PNS マインドの醸成に向けて、監査項目を改善する (出来ている項目 20%増加)
4. 病院経営に関する知識を習得し、効率的な病床運用を実践する (病床利用率 70%以上)

【結果・評価】

目標 1 について

患者誤認は、年間 7 件発生となった。患者に深刻な有害事象が起きることはなかったが、ともすればそのような事態につながる危険もあり得る。どれも決められた確認行動の不履行によるエラーであった。輸液の際の具体的な確認行動を見える化して配置するなどの対策を実施した後は、同じエラーを防ぐことが出来ている。今後も定期的な監査や改善策の見直しを図り、患者誤認 0 を目指していく。

目標 2 について

業務の効率化や患者満足度の改善に向けた業務改善に取り組み、効果を上げることは出来た。PNS の補完 4 重構造を目指して日々の業務や患者支援に活かすことが出来、PNS 体制での新人看護師育成やリーダー育成に成果を上げることが出来た。リシャッフルの定着や夜間帯の PNS の具体的な取り組みについては、まだ課題が残っているため、目標達成率 60%。

目標 3 について

院内全体の統一した監査を実施。改めて課題を共有できたが、同一監査表での変化を見ることは出来なかったため、目標達成指標である、出来ている項目の増加の評価は出来なかった。ただし、昨年度の病棟内アンケート結果と今年度の監査を比較すると、PNS の定着やマインドの醸成について改善された状況が明らかになった為、目標達成率 60%。

目標 4 について

病床利用率や患者の重症度が高い時期の病床運営では、スタッフの疲弊はあったが、PICU の後方病床としてのベッドコントロールやショートケアの受け入れ等により、目標である病床利用率 70%以上を達成することが出来た。また、PNS 体制が軌道に乗りつつあることでそれぞれが補完し合えたことは、時間外を軽減できた要因の一つではないかと考える。

次年度は、安全な医療・看護の提供を重点課題とし、病棟一丸となって取り組むとともに、PNS 体制に係わる教育システムの醸成や、患者・家族満足の上と職員満足の上に向けていきたい。

(石坂泰子)

(4) NICU 病棟

令和元年度は、看護師 35 名でスタートした。5 月に看護師 1 名が産休に入り、1 名が育児休暇明けで配属となった。6 月に看護師 1 名が退職した。5 月に看護師 1 名が病気休暇となり 10 月に退職した。また、11 月に看護師 1 名が産休に入り、院内異動で看護師 2 名が配属となったため、3 月末の時点で 34 名であった。

【令和元年度 NICU 病棟目標】

1. チームワークを大切にして、NICU で安全で質の高い看護を提供する
 - 1) 確認行動マニュアルを遵守し、患者誤認 2・3a レベル 0 を維持する

- 2) PNS の体制整備を推進し、夜勤で PNS を導入する
- 3) 承認とホスピタリティマインドを推進し、PNS マインドが上期より下期は 10%以上向上する
- 2. コミュニケーションを向上させ、NICU 看護師として共に成長し合う
 - 1) PNS での職員同士のコミュニケーションの向上により、お互いに看護を学び合える
- 3. 一人ひとりが組織における NICU の役割を認識し、病院経営に参画する
 - 1) NICU 加算を意識して早期から長期入院患者の転棟準備を進め、ベッドコントロールが円滑に進むように他病棟との調整を図る
 - 2) 看護記録の見直しをし、記録による時間外を昨年度より 10%削減する

【結果・評価】

目標 1 について

安全唱和や確認監査を継続し、確認行動の意識づけと PNS 体制での確認行動の徹底により、患者誤認 0 を維持できた。夜勤での PNS 導入に関しては、1 月に試験導入し体制検討して 2 月から導入できた。PNS 推進リーダーを中心にマインドを意識した行動を示し、職員からは承認の増加や良い点に目を向けるなど変化を感じるとの意見があったが、アンケートの結果には変化がなかった。

目標 2 について

グループのリーダーを中心に考えを伝えあうコミュニケーション機会を増やす取り組みを進めた。指導における上下関係が緩和され、面接時には相手からの学びを職員全員が具体的に述べられ、学び合えていることが確認できた。

目標 3 について

計画的なケア導入開始や転棟サマリの早期記入など積極的に転棟準備を進めたが、転棟先病棟との体制整備には至らなかった。記録に関しては係を中心に簡潔な記録記載に取り組み変化した部分があったが、目標時間外削減 (10%、一人当たり 2 分) には至らず、前年度に比較し月平均一人当たり 20 分の増加となった。

(齊藤織恵)

(5) GCU 病棟

令和元年度は、看護師 20 名、看護助手 3 名でスタートした。4 月下旬に新人職員の配属となり、5 月 GW 後に看護助手 1 名と育児休暇明けの看護師 1 名が配属となった。6 月末に看護助手 1 名が退職し、11 月に看護師 2 名が異動し、育児休暇明けの助産師の新たな配属、新人職員 1 名の退職があった。1 月には、看護助手が 1 名採用配属となり、3 月末時点で、看護師 21 名、看護助手 4 名と出入り多い年となった。

【令和元年度 GCU 病棟目標】

- 1. 安全で質の高い看護を提供する
 - 1) 母乳間違いをゼロにする
 - 2) PNS に対する知識を深め、知識レベルを 100%とする
- 2. 人材育成を推進する
 - 1) 新人看護職員の精神的要因での離職をゼロにする
- 3. 病院経営に積極的に参画する

1) 新生児治療回復室入院医療管理料算定内での退院 85%を目指し、計画的に退院支援を行う

【結果・評価】

目標 1 について

1) 母乳間違いゼロを達成できた。確認行動がスタッフ一人一人に根付いている結果だと考える。今後も継続していきたい。

2) 1 回目の PNS の知識アンケート結果が、55.6%、1 月に行った 2 回目のアンケート結果は、75%と、目標達成できなかった。しかし、パートナーシップマインドの知識確認については、84～85%となったことを考慮すると部署内での PNS の知識レベルは向上したと評価できる。今後もマインドの醸成を推進し、100%を目指し PNS の定着に繋げる。

目標 2 について

2 名の新人職員が配属となり、1 名の職員は家庭の事情で退職となった。新人職員は 1 名となったが、スタッフの支援を受け、新人職員自ら積極的にコミュニケーションを図り、看護業務の実践ができた。精神的要因での退職はなかったため、目標は達成できた。

目標 3 について

管理料算定内での退院は 79.3%であり、昨年度とほぼ同等の結果となった。患者家族に社会的支援を要した状況が少なくなかった。計画的な退院支援に向けて、指導状況の把握ができる記録の整備を実施した。直接的に目標達成に繋がらなかったが、スタッフ間の情報共有を円滑にすることはできた。今後は、家族背景を更に意識し計画的な退院支援を行っていく。

(浅野 香)

(6) 小児集中治療部

令和元年度は、看護師 27 名、看護助手 1 名、病棟クラーク 1 名、ドクタークラーク 1 名 (第 3 病棟と兼務) でスタートした。6 月産休者がおり看護師は 26 名となったが、9 月と 10 月に 1 名ずつ増員があり 3 月の時点では看護師 28 名であった。

【令和元年度 PICU 病棟看護目標】

1. チューブトラブルに関するインシデントが前年度を下回る
2. 皮膚トラブルに関するインシデントが前年度を下回る
3. PNS 方式で終日看護が実践出来る
4. 承認活動を実践出来る
5. ラダーを活用し、看護師としての能力の向上を図る
6. PICU 看護師の役割を認識し、病院経営に参画する

【結果・評価】

目標 1 について

前年度よりインシデント件数 47 件から 28 件に減少させることが出来た。医師・看護師がともに実施する処置に関しては、話し合いを持ち共通認識を持って、対応する事が出来るようになった。

目標 2 について

前年度より 15 件から 7 件に減らすことが出来た。アセスメントが不足する部分もあり、今後も継続する必要がある。

目標 3 について

終日 PNS 体制は出来なかった。PNS が浸透しない原因をスタッフアンケートから問題抽出し対策を考えた。PICU で必要とされる PNS の概念から複眼を課題に取り組む。

目標 4 について

確認まで実施出来たが、承認行動まで至らなかった。承認行動の内容を理解して活動する事が出来なかったためと考える。

目標 5 について

PICU ラダーは積極的に活用し、レベルアップをする為の活動を実施する事が出来た。院内ラダーは内容がより明確となり、自分のレベルを見つめ直す機会となったが、活用までには至らなかった。今回の一連の流れを理解し、次年度に繋げたい。

目標 6 について

病棟運営・ベッドコントロールに対する考えを院長、医師、看護部長・他部署の師長と意見交換を行い、病院としての方針を共有した。ベッドコントロールについてスタッフと話し合う機会を増やすことができた。

(黒田佐織)

(7) 産科病棟

令和元年度は、助産師は、新採用 2 名を加え 16 名、看護師 6 名、看護助手 1 名、クラーク 1.5 名でスタートした。5 月に助産師が育児休暇明けで 1 名配属となり、6 月に助産師が 1 名産休に入り、その後退職した。9 月に看護師 1 名異動となり、助産師 1 名育児休暇明けで配属となった。3 月に助産師 1 名病気休暇になりそのまま産休に入った。

【令和元年度産科病棟】

1. 安全で質の高い看護を提供する
 - 1) PNS 導入後の体制とパートナーシップマインドの確認
 - 2) 母性看護における看護診断について理解を深め、個別性のある看護が提供できる
 - 3) 電子パスに移行と評価を行い、記録の質向上につなげる
2. 人材育成を推進する
 - 1) 新採用者の育成と支援に病棟全体で取り組む
 - 2) 病棟学習会と研修後の伝達講習を行い、知識と技術の向上につなげる。
3. 病院経営に積極的に参画する
 - 1) 産後 2 週間検診の体制を統一し導入できる
 - 2) 令和元年度 10 月の導入を目指し、産後ケアの準備を進める
 - 3) 支援が必要な産婦に的確な母乳育児支援を行うことができる

【結果・評価】

目標 1 について

PNS マインドの勉強会を行った。電子パスへの移行ができた。ただ、パスへ移行したことにより、かえって看護診断することの機会が減り、看護診断についての理解は深められなかった。

目標 2 について

新採用者用と異動者用の教育計画を副看護師長や係と共に構築した。全体的に見える化が出来て

なかったため明文化した。各自が研修をしてきた後、グループ会の中で、勉強会等の伝達講習を行った。

目標3について

産後2週間検診の体制を整え、5月から150件実施できた。産後ケアは10月からの導入に間に合うように準備でき3月までに2例実施できた。今後もその都度振り返りを行ないながら進めていきたい。母乳育児支援を円滑に行うために、システムの構築が必要となり、看護研究の形をとり66件実施し、昨年度から40%の増加となった。

(丸山美幸)

(8) 手術室

令和元年度の手術室は、4月に看護師2名が院内・県立病院から転入となり、看護師11名、看護助手2名でスタートした。年度内の異動はなく、1年が経過した。

平成31年4月1日より周術期患者情報システム(オルシス)の運用が開始となった。

【令和元年度手術室看護目標】

1. 根拠に基づいた周術期看護が展開できる
 - 1) 院内研修でPNSについて学び、手術室PNSの基盤をつくる
 - 2) 実施した看護計画、記録の振り返りを行い、妥当性を評価する
2. 各自が手術室の目標達成に向けた役割行動がとれる
 - 1) 委員会・係の活動カレンダーを使用し、年間計画に沿って行動を行う
3. 診療材料のコストを意識した手術準備ができる
 - 1) 使用しなかった診療材料の現状を把握する
 - 2) 準備物品の見直しを行い、廃棄物品を削減する

【結果・評価】

目標1について

PNS研修を元に、手術看護システム(オルシス)での看護計画・実施・評価について検討した。看護計画の立案は、器械出し看護師と協働して外回り看護師の業務として定着した。

監査結果からは、アセスメント内容に個人差があることがわかり、手術看護の教育が必要と考える。看護記録、評価についても個人レベルで行っているため、看護記録基準を作成し定期的な監査ができるよう体制を整えていく。

目標2について

委員会・係の活動カレンダーは、上期には70%、下期には全員が作成できた。個人差はあるが、パートナー同士で協力し活動できた。カンファレンスルームに掲示したことで各自の進行状況が把握しやすかった。師長・副看護師長のサポート体制については、リーダー会議等で確認が必要である。

目標3について

使用しなかった診療材料の現状は把握できてなかった。手術中止連絡の遅れから未使用診療材料の廃棄があったため、中止連絡体制の見直しを行った。

現行のキット化された物品は定数変更が困難なため、業者の検討を行った。産科に関しては、診療材料委員会との連携もあり、より安価で定数変更が容易なキットを導入予定である。各診療科で

特殊性があるため、各診療科の医師と話し合い無駄を減らしていきたい。また、コスト意識に関して看護師の個人差が大きいため、コスト意識の向上が課題である。

(片貝まさみ)

(9) 外 来

令和元年度の外来は、看護師 16 名、看護助手 2 名でスタートした。看護助手は、1 名異動により 1 名となった。

【平成 31 年度・令和元年度外来目標】

1. 安全で質の高い看護を提供する
 - 1) 患者誤認 2 レベル以上をゼロにする
 - 2) PNS を導入できる
2. 人材育成を推進する
 - 1) 外来マニュアルを見直し、看護の標準化を図る
3. 病院経営に積極的に参画をする
 - 1) 在宅指導管理料と加算を意識的に捉え、情報を共有する
 - 2) 診察延長に関わらない時間外勤務を 1 ヵ月あたり 1 時間以内にする

【結果・評価】

目標 1 について

外来におけるヒヤリ・ハットとして①検査が終了せずに帰宅してしまった。②採血時の患者誤認・検体間違いが挙げられた。①に関しては検査課・放射線課・GRM と協働し検査マップを作成し運用した。それにより検査忘れによるヒヤリ・ハットはなくなった。②に関しては今年度も 2 件あり確認マニュアルの変更を検討したが決定までには至らなかったため、引き続き検討が必要と思われる。PNS に関しては職員の 75% が非常勤職員である外来において年間パートナーのシステムが導入できず実施までに至らなかった。まずは PNS 導入に向け業務の見直しが必要であると考え。

目標 2 について

外来で実施されている検査等のマニュアルに関しては見直しができる。業務マニュアルが PNS 導入のためのマニュアルにできていない為、今後の課題である。

目標 3 について

持ち帰り物品を渡すにあたり、在宅指導管理料と加算を意識的に考え、必要とされる物品に関しては渡せるよう工夫した。また、持ち帰り物品の必要数を考慮し定数の見直しを在宅担当師長と調整していった。反対に過剰に持ち帰り物品の請求する場合はご家族に説明し、物品の使用法や保管方法などを一緒に考え削減に取り組むことができた。持ち帰り物品に関し、ルールが曖昧になっていたこともあるためさらに今後も検討が必要であると考え。胃瘻に関しては SPD 化することで物品の在庫削減に取り組むことができた。時間外に関しては、業務終了前の声掛けにより非常勤職員の時間外はほぼゼロにできた。常勤職員の時間外は約 6 割が診療延長によるものであった。外来の時間外削減には医師の予約の取り方も含めた診療のあり方に関する取組が必要であると考え。そのことが外来における患者満足度の一つである待ち時間削減にもつながるのではないかと考える。

(高橋敦子)

(10) サービス向上委員会

委員長: 都丸八重子 (副看護部長) 副委員長: 篠澤雅之 (総務課課長)

委員: 今井正浩 (事務局長)、近藤愛子 (医事課)、田中亜由子 (産科医)、清水真理子 (内科医)、宮下新菜 (検体検査課)、下田寛貴 (放射線課)、青柳のどか (リハビリ)、神保直樹 (栄養)、石田拓也 (薬剤)、若井美佳 (歯科衛生士)、長峰雅史 (地域連携室)、石坂泰子 (第三病棟師長)、山本 (第一病棟)、唐沢 (第二病棟)、高橋恵里香 (第三病棟)、黒岩智香 (NICU)、羽鳥悌枝 (GCU)、田中絢子 (産科病棟)、大崎育子 (PICU)、日影智行 (手術室)、高野朝野 (外来)、

開催日: 定例開催日 4回/年 第3火曜日 16:45～

【目的】

1. 職員一人ひとりの接遇の向上を図る。
2. 患者・家族の権利を尊重し、思いやりのある医療サービスを提供する。
3. 活動報告

1) 患者満足度調査

入院患者・家族 148 名、外来患者・家族 160 名の回答を得た。満足度に関しては入院全体では満足・やや満足を合わせ 76%と昨年より上昇を認めた。外来全体は満足・やや満足合わせ 80%で昨年より上昇した。自由記載では「駐車場が広く乗降しやすい」「院内がきれい」という反面「売店が狭い」など施設面に対する意見と職員の対応に対し個人に対する意見も見られた。施設面に関して大幅な改善は難しいが安全面や機能性に関して患者家族の意見を真摯に受けとめ、出来る限りの改善しサービス向上に努めていきたい。

2) ご意見箱

総数 37 件 (感謝 4 件、改善対応 21 件、対応困難 6 件、取組継続 1 件、その他重複) であり、総数について昨年より 55%減少した。改善対応は 21 件で昨年とほぼ同数件であり、対応困難事例は設備に関するものが 4 件、職員の勤務時間に対するものが 2 件であった。外来や病棟の環境に関する意見には、可能な限り改善し安全な環境づくりに努めた。また改善対応を求める意見の中にも職員への感謝の言葉が明記されており励みとなった。

3) 接遇研修・接遇マニュアル

今年度は院内に勤務する職員へアンケートを行い研修会を開催した。

研修会は令和元 11 月 14 日 (木) 研修会議室にて二部構成にて行った。1 部を接遇アンケートから病院職員として呼吸器・アレルギー科清水真理子医師よりアンケートの結果から接遇マニュアルに関して職員への周知の未熟や職員満足から肯定的意見だけではなく否定的な意見があり日頃の患者家族への関係性や職務遂行においてストレスがあることなどが紹介された。それを踏まえ第 2 部では患者・家族の診療を通して臨床心理士の立場からと題し川崎陽子臨床心理士から家族の思いの重さやそれに共感することでのストレスには、共感ではなく慈悲として対応することが効果的であると言われた。参加者は医師 6 名、看護職 39 名、技術職 14 名、事務 2 名だった。終了アンケート結果から接遇に関する職員の意見がわかった。ストレスを抱え込まないことが患者の満足に繋がる対応が出来るので日頃から抱え込まない様にしたい等の意見があった。

4) ボランティア

入院中の患者・家族を対象にミニコンサートなどクリスマス会を開催できた。G-FIVE によるショーに子ども・家族だけでなく参加した全てのボランティア (職員も含む) が楽しい一時を過ごすことが出来た。また、花壇の整備ボランティア『ひまわり』が季節毎に花を植え、ボランティア担当が交代で水やりを行った。宿泊棟管理『ひまわり会』読み聞かせ『おはなしの風 のん気・こ

ん気・元気』『アロマセラピー ハンドマッサージ』の活動により患者家族へのサービスに努めた。

令和元年度も各部署の委員を中心に全職員協力して、患者・家族へのサービス向上と職員の接遇に向けて活動を行った。

(都丸八重子)

17. 母子保健室

(1) はじめに

当室は、昭和 57 年のセンター開院時から『高度医療を背景として、保健所や市町村の母子保健に対する専門的保健指導を担う部門』として設置され、現在、子どもたちの健やかな成長と発達を支援することを理念とし、入通院児をもつ家族支援に対応するため、多様な相談を受けつつ関係機関との連絡調整機能を担っている。

令和元年度の母子保健室の室員は、室長(院長が兼務)、保健師 3 名(駐在 1 名・駐在嘱託 1 名・嘱託 1 名)、臨床心理士 1 名(嘱託)の 4 名体制で、地域医療連携室の MSW や在宅療養支援師長と連携しながら相談業務に従事している。

近年、社会情勢の変化や家族背景が変化している中、虐待予防も見据えて院内外関係者の多くの協力をいただきながら関係機関との連絡調整や支援会議を開催するなど、緊急性と継続支援の必要性が高い案件がますます多くなっている。このため、院内各部門及び地域の保健・福祉・教育関係者等と適時に協議しながら連携を深め家族支援を行っている。

(2) 令和元年度実績

①精密健康診査

市町村の乳幼児健康診査の結果、精密検査該当で受診した児について、必要に応じて市町村保健師と連携を図り、受診同席を行いながら受診結果の把握及びその後の支援を行っている。

令和元年度の受診者は 82 人、受診結果は要観察 54 人(65.9%)、要治療 19 人(23.2%)で、要観察児は当センター外来又は市町村でフォローアップされている。

②子どものこころの発達相談

子どもの心理的な発達を支援するため、月 4 回臨床心理士によるカウンセリングと必要に応じて保健師による相談を実施し、相談終了後には主治医を含めたカンファレンスを行っている。

相談者は、院内各診療科からの紹介と前年度の継続事例であり、実人数 48 人、延べ人数 113 人で、30 年度への継続事例 18 人(37.5%)、相談終了は 32 人(66.7%)、他機関紹介は、1 人であった。相談内容は発達に関係した養育や育児環境の調整が最も多く、行動の問題が次に多い傾向が続いている。

③新生児・未熟児病棟入院児の退院連絡

退院後の養育状況の把握と育児支援を目的として、市町村保健師に家庭訪問を依頼している。継続支援には地域との連携が不可欠であり、令和元年度の訪問依頼件数は 243 件であった。

訪問依頼への返信数は 233 件、そのうち、訪問実施は 224 件(96.2%)で、件は訪問に替えて乳児健診等で対応されていた。情報提供書として退院後 2 週間以内に市町村に連絡することを目標に各病棟や医事課スタッフと連携して早期に連絡できるよう努力している。

④育児相談及び関係機関との連携状況

育児に関わる一般的な相談をはじめ、療育や受診に関わる相談と支援に伴う関係機関との調整を行っている。内訳をみると、家族からの相談が 787 件、市町村との連携が 516 件、院内関係部署との連絡調整が 497 件であった。支援や事業に伴う関係機関との連絡総数は 2,103 件で、連絡方法別

にみると、電話が 1,173 件、面接が 930 件であった。

⑤関係機関連携会議

環境等の調整が必要な家庭の支援のため、地域機関(市町村、児童相談所、学校、保育所等)との間で連携会議を開催しており、令和元年度は 6 回開催した。

⑥子ども虐待防止対策事業(母子保健室・地域連携室)

地域医療連携室と協働で事務局を担っている。院内虐待防止委員会のもと緊急対応や虐待防止に向けての研修会などを開催した。

詳細については、地域医療連携室の事業内容を参照していただきたい。

⑦臨床心理士による発達検査及び心理カウンセリング

当院は総合周産期総合母子医療センターの機能をもつことから、極低出生体重児全員の成長発達確認(1歳6か月・3歳・6歳時点の発達検査等)及びその他主治医が必要とした児の発達検査やカウンセリングを行い、必要に応じて地域との連携を行っている。

また、発達相談日以外にも緊急度により心理カウンセリングを行っている。平成 30 年度における発達相談日以外の心理カウンセリングは、対象 77 家族で延べ 429 回、産科からの依頼が 30%、続いて神経内科から 26%であった。産科からの依頼が増加している。臨床心理士が 1 名欠員となったため、カウンセリングや相談件数が昨年度より減少した。

⑧産後ケア事業

令和元年度から産後ケア事業の受け入れ産科病棟で開始された。実施主体は市町村であるため、利用する場合の市町村等への連絡調整を行った。

⑨研修会等

看護大学学生への実習中の講義等を適時行っている。

院内では看護部の新規採用職員研修、院外では群馬大学保健学科ではゲスト講師、医療的ケア児等コーディネーター養成研修での講師なども勤めた。

⑩先天性代謝異常等マス・スクリーニング事業

本事業の事務局として、患者情報の管理(精密検査対象児及び継続治療児等のフォローアップ)を行っている。平成 25 年 10 月からタンデムマス法検査の導入がされ、現在、発見可能な疾患が 20 疾患となった。保護者の不安等への対応については、地域機関である保健所・保健福祉事務所と連携して不安の軽減と解消に努めている。

また、毎年度、先天性代謝異常等対策委員会を開催している。

(3) まとめ

母子保健室はセンター開院時から病院と地域との橋渡し役として、多くの保護者から相談を受け、相談内容に応じて関係機関との連絡調整の役割を担ってきた。

特に、ここ数年は婚姻外出産、育児経験不足(養育力低下)、家庭環境不全、育児支援者の不在、経済的困窮等の要支援家庭の増加や、障害受容が困難な家族、虐待事例等、児童相談所等の関係機

関との調整や家族支援に時間を要するハイリスク事例がますます増加している。

産科病棟等協力し、産後ケア事業もスタートした。産婦さん方の必要なフォローのため市町村等の連絡調整に努めている。

令和元年度は、全国こども病院保健師等連絡会の幹事病院として当院で情報交換や研修会も実施することができ、他県のこども病院の状況など伺うことができた。

今後も疾患を抱えながら成長していく子どもたちと見守るご家族が安全かつ安心して日常生活が過ごせるようひとり一人の相談に真摯に向き合い、主治医と相談しながら母子保健室ならではの多職種のチームとして得意分野を最大限発揮した相談体制に努め、関係セクションとの協働を継続し、地域の関係機関との連携を強化していきたい。

(高橋雪子)

18. 地域医療連携室

地域医療連携室は2階のリハビリテーション室隣に新設後2年目を迎えた。地域医療連携室(相談窓口)にはメディカルソーシャルワーカー(MSW)2名、在宅療養支援担当の看護師長1名が常時、勤務している。在宅療養・退院に向けた支援、福祉制度の案内、心配事やお困り事の相談などを受けている。患者様をご紹介いただく窓口(予約・受付窓口)は受付の地域医療連携担当が受けて地域医療連携室長および当該科医師と相談して対応している。退院時共同指導料2、介護等連携指導加算、患者サポート体制充実加算の3つの加算を取得し、毎週、金曜日午前には定例の患者サポートカンファレンスを行っている。地域連携室が主催した患者様の支援会議も昨年は46件となっており、医療連携のより一層の充実に向けて取り組みをすすめている。

(山田佳之)

19. 医療安全管理室

1. 令和元年度医療安全管理体制

医療安全管理室長 副院長 小林富男

専任安全管理推進者(ゼネラルリスクマネージャー:GRM) 看護師長 福田 円

非常勤職員 1名

委員会等	開催日	構成員	令和元年開催実績
医療安全管理委員会 ＜医療安全管理体制の方針決定機関＞ 委員長: 小林副院長 副委員長: 福田 GRM	原則毎月 第2火曜日	17名	定例12回
診療関連死原因検討委員会 委員長: 小林副院長 副委員長: 浜島医療局長	原則月1回 開催日随時決定	15名	8回開催
リスクマネジメント委員会 ＜医療安全対策の実行機関＞ 委員長: 福田 GRM 副委員長: 片貝師長	原則毎月 第3水曜日	28名	定例12回
看護部リスクマネジメント委員会 ＜看護部内の医療安全対策検討＞ 委員長: 福田GRM 副委員長: 片貝師長	原則毎月 第3水曜日	11名	定例12回
患者相談窓口	責任者: GRM 福田		相談件数2件

2. 令和元年度医療安全講演会・研修開催状況

対象	開催日	参加人数	参加率	テーマ・内容	講師
全職員 対象	R1.6.17・18・19・20・21 7.8・11	418	91.1%	記録と情報管理	GRM 福田 円
	H30.9～10月		100%	患者確認自己評価	
	R1, 10, 18 10.21, 23, 25	391	84.4%	ヒューマンエラー	危機管理専門家 小林宏之 先生
	R1.6.24	76	統一救急カート勉強会	下山伸哉 部長 木島久仁子 副主幹 富樫哲雄 主任 諏佐和也 主任	
	R1.11.8	83	判例から医療倫理について考える	稲葉一人 病院局顧問	
	2019/1/21 (H30年度)	37	「使える?それとも修理? ME 機器異常時見極めポイント」	高橋祐樹 技師	
	R2.1.28/29/30/31	259	患者誤認防止 DVD 勉強会	リスクマネジメント委員会 患者誤認防止ワーキンググループ	
看護部	H31.4.5	安全の基本		医療安全管理室	
	R1.9.30	リスクと対応		GRM 福田 円	
	R1.5.27	KYT 危険予知訓練・部署目標		上武大学 看護学部 千明政好 先生 GRM 福田 円	
	R1.9.17	KYT 危険予知訓練・中間フォローアップ			
	R2.2.25	KYT 危険予知訓練・最終取り組み報告			

3. 医療事故及びヒヤリ・ハット事例調査集計

1) 医療事故及びヒヤリ・ハット報告数

1,006 件。H30 年度比較 57 件増加 (6%) 3b: 1 件 (-1) 4b: 1 件 (+1)

件数的には大幅増加ではなかったが、看護部の報告件数の増加が影響しており、部署により増減の差があった。

2) 項目別発生割合

①ドレーン・チューブの使用管理 24% ②与薬 (内服) 11% ③検査 11%の順。

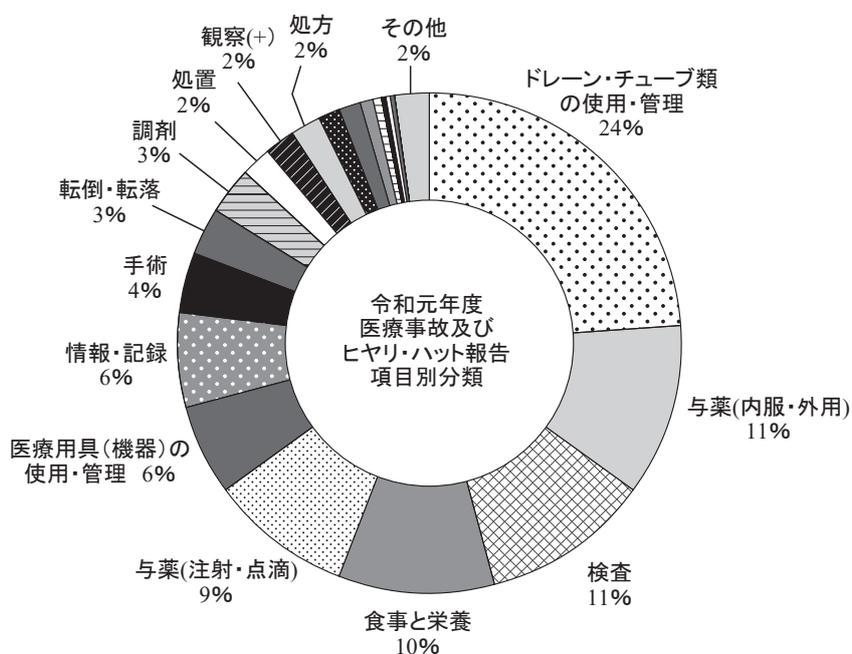
栄養調理課からの報告の減少により順位が入れ替った。

3) 事故発生日時

平日日勤 10 時～11 時台の発生ピークに変化はなく、12 時～14 時の発生増加、17 時～19 時台の件数減少が認められた。

4) 患者誤認

25 件発生。H30 年度比較 4 件削減 (16%)。2 レベル以上は 4 件。医師が関係したもの 7 件 (28%)、看護部 15 件 (60%) 一人あたりの発生状況では①医師②放射線③看護師の順であった。



	レベル 件数	レベル							
		0	1	2	3a	3b	4a	4b	
ドレーン・チューブ類の使用・管理	241	18	99	95	27	1	0	1	
与薬(内服・外用)	115	31	78	5	1	0	0	0	
検査	111	46	47	18	0	0	0	0	
食事と栄養	100	56	39	5	0	0	0	0	
与薬(注射・点滴)	86	13	52	20	1	0	0	0	
医療用具(機器)の使用・管理	61	23	29	9	0	0	0	0	
情報・記録	59	54	5	0	0	0	0	0	
手術	39	24	12	3	0	0	0	0	

	レベル	0	1	2	3a	3b	4a	4b
	件数							
転倒・転落	30	0	11	19	0	0	0	0
調剤	27	23	3	1	0	0	0	0
処置	23	5	5	10	3	0	0	0
観察(+)	22	2	10	9	1	0	0	0
処方	21	15	5	0	1	0	0	0
輸血	12	4	6	2	0	0	0	0
説明	12	11	1	0	0	0	0	0
感染防止	8	1	4	3	0	0	0	0
麻酔	5	2	1	1	1	0	0	0
清拭・入浴介助等	2	0	0	2	0	0	0	0
環境整備	2	1	1	0	0	0	0	0
事務	2	2	0	0	0	0	0	0
歯科医療用具(機器)・材料の使用・管理	2	1	1	0	0	0	0	0
排泄の介助	1	0	1	0	0	0	0	0
移送	1	0	1	0	0	0	0	0
分娩	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	24	16	5	3	0	0	0	0
合 計	1,006	348	416	205	35	1	0	1

4. 患者・家族相談件数

相 談 内 容	件数
医師に関する事	1件
看護に関する事	1件
	計2件

5. 医療安全地域連記加算に係る相互評価

日 程	評価を実施した施設	評価を受けた施設
令和元年 11月21日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅰ 群馬県立精神センター
令和元年 12月12日	加算Ⅰ 群馬県立精神センター	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター
令和2年 2月27日	加算Ⅰ 群馬県立小児医療センター	加算Ⅱ 北関東循環器病院

6. リスクマネジメント委員会活動

委員長: 福田 円

副院長: 片貝まさみ

委員: 高澤部長 (外科)、福田部長 (新生児)、大和医長 (血腫)、道和部長 (内科)、森田部長 (内科)、山崎部長 (麻酔)、佐藤医長 (産科)、新井医長 (循環器)、殿木副主幹 (第一)、亀井主幹 (第二)、北爪主幹 (第三)、狩野副主幹 (NICU)、眞下主幹 (GCU)、高橋主任 (産科)、黒岩主任 (OPE)、青木主任 (PICU)、佐川主幹 (外来)、高橋副主幹 (薬剤部)、佐藤主幹 (検査)、吉田技師 (放射線)、磯田主任 (栄養)、六本木主任 (リハビリ)、高橋技師 (ME)、太田主幹 (総務課)、楠実務研修 (歯科)

1) 活動内容

(1) 事故及びヒヤリ・ハット報告の周知、問題の共有、対策検討、知識の修得

(2) WG 活動

フィッシュ活動	コミュニケーションの活性化を図るため、THANKS カードを導入し表彰
患者誤認	患者誤認ポスター掲示、指差し唱和、DVD 作成、勉強会開催
災害対応	BCP の内容確認、実践可能なマニュアルの検討、防災器具の設置
5S 活動	院内ラウンドによる日頃の評価と 5S 取り組みを 1 月発表会実施、表彰

7. 今後の課題

1) 4b 事故発生の教訓を活かし、シミュレーション教育の実施

2) 患者誤認事故の削減

3) 与薬確認監査 (内服・外用) の実施と輸液確認監査の継続

4) 各部署の取り組み支援の強化

(福田 円)

20. 感染対策室

1. 令和元年度感染対策体制

感染対策室長 山田佳之医師

感染対策医師 小泉亜矢医師 清水彰彦医師

感染対策担当看護師 (感染管理認定看護師: ICN) 石川さやか看護師

感染対策担当薬剤師 高橋大輔薬剤師

感染対策担当検査技師 三宅妙子検査技師

委員会等	開催日	構成員	H 30 開催実績
院内感染対策委員会 委員長: 山田佳之 副委員長: 清水彰彦	毎月第4水曜日	46名	第4水曜日と緊急時開催 計20回開催
ICT委員会 委員長: 清水彰彦 副委員長: 山田佳之 小泉亜矢 石川さやか 三宅妙子 高橋大輔	第1・3火曜日	26名	第1・3火曜日開催 計20回開催
リンクナース会 委員長: 石川さやか 副委員長: 黒田佐織	第3月曜日	11名	第3月曜日開催 計10回開催

2. 感染対策室年間目標

1) 院内感染対策の実施

- (1) 院内感染発生時の分析並びに院内感染拡大防止及び再発防止策の検討・実施
- (2) 院内感染対策のための啓発、教育及び広報
- (3) 平時の感染予防策方法の検討・見直し

2) 職員が正しい感染防止対策行動がとれるよう、感染対策に関する相談に対応する

- (1) 相談内容の分析・検討
- (2) 感染対策マニュアルの改訂

【実践評価】

1)-(1)について

PICU では、MRSA 検出状況を監視し新規 MRSA 患者の発生状況により、対策レベルを4つに層別化して対応している。新規 MRSA 患者が4週間に3件発生した場合には、ICN による手洗い監視と个人防护具の正しい着脱手順を指導した。このように MRSA を含め、耐性菌の検出状況を常に監視し、必要な対策を実施できたことで个人防护具の在庫状況が厳しい中でも、介入後は MRSA 患者が新規発生することなく経過できている。

1)-(2)について

院内感染状況、コンサルテーション内容、ICT ラウンドの結果、または最新の感染の知見に基づ

き、必要と考えられた研修を計画・実施した。結果、看護部職員の感染対策研修年2回参加率が昨年度95.4%から今年度97.2%と上昇できた。内容、参加率は以下表に表す。

令和元年度研修内容

◇全職種対象

年 月 日	内 容	講 師	参加人数	備 考
5月20日から6月21日	手指衛生研修	ICT／ICTリンク委員	511	参加率96.9%
10月24・28・29日	インフルエンザ研修	石川看護師	473	参加率89.6%

◇任意研修

年 月 日	内 容	講 師	参加人数
5月22・23日	職業感染研修	石川看護師	22日68人 23日44人
12月13日	AMR時代の抗菌薬適正使用	国立国際医療研究センター 忽那賢志先生	69人 加算2施設12人
3月4日	AST活動報告 新型コロナウイルス感染症について知っておくべきこと	高橋薬剤師／清水医師	139人(DVD配布) 加算2施設8名

◇部門別研修

年 月 日	内 容	講 師	参加人数	対 象
4月8日	新入職者研修	清水医師／石川看護師	18人	新入職者
4月10日	看護ラダーⅠ	石川看護師	11名	看護師新入職員
7月18日	ノロアウトブレイク報告	石川看護師	16人	第一病棟職員
10月4日	看護助手対象研修	石川看護師	17人	看護助手
11月6日	看護ラダーⅢ・Ⅳ	石川看護師	19人	看護部職員
11月21日	群馬県立赤城特別支援学校 教員 対象研修	石川看護師	12人	群馬県立赤城特別支援学校 教員
1月27日	新入職者フォローアップ研修	石川看護師	12人	看護部職員
2月7日	看護ラダーⅢ・Ⅳフォローアップ 研修	石川看護師	17人	看護部職員
2月21日	新型コロナウイルス感染症について知っておくべきこと	清水医師	156人	

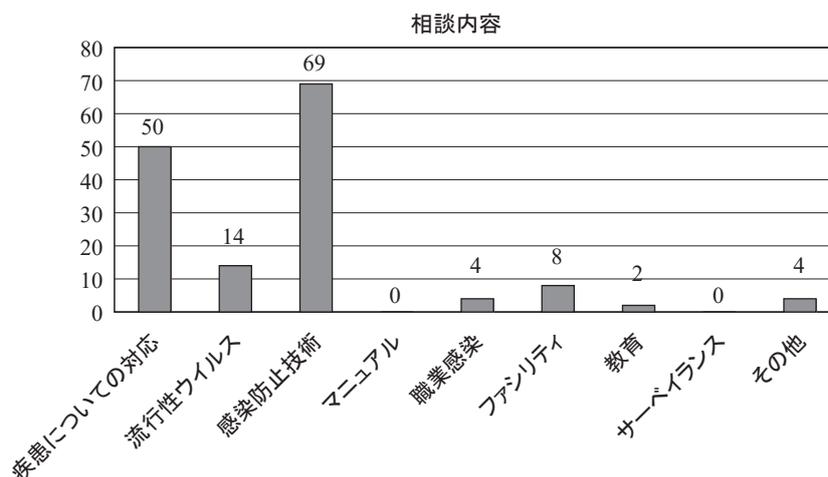
1-(3)について

ICT委員のうち、山田佳之医師、小泉亜矢医師、清水彰彦医師、石川さやか看護師、高橋大輔薬剤師、三宅妙子検査技師により、毎週木曜日院内ICTラウンドおよびASTラウンドを実施した。院内ICTラウンドでは月別にラウンド内容を変更し、感染管理上問題点を写真付き報告書にまとめ、各部署職員に周知した。また、感染防止対策地域連携加算チェックの際に改善を求められた点だが、継続して改善できているか確認することができた。ASTラウンドでは抗菌薬使用患者毎にカンファレンスを実施し、必要と判断された場合、感染対策担当医師、感染対策担当薬剤師から各主

治医に介入することができた。

2-(1)について

感染対策室に寄せられた相談内容を 1: 疾患についての対応 2: 流行性ウイルス (麻疹・水痘・風疹・ムンプ) 3: 感染防止技術 4: マニュアル 5: 職業感染 6: ファシリティ (洗浄・消毒・滅菌、廃棄物、リネン) 7: 教育 8: サーバイランス 9: その他の 9 項目に分けて集計した。集計結果は以下の通りである。



2-(2)について

2-(1)の集計結果から、感染対策マニュアルの内容を改訂した。環境整備の方法、インフルエンザの対応について、保健所の届出事項、職員の健康管理など計 6 回改訂を実施することができた。

3. ICT 委員会

委員長: 清水彰彦医師

副委員長: 山田佳之医師 小泉亜矢医師 石川さやか看護師 三宅妙子検査技師
高橋大輔薬剤師

委員: 下山伸哉 松本直樹 木暮さやか 高本尚弘 福田 円 黒田佐織 磯田有香
下田寛貴 鳥越和哉 坂口真弓 太田知幸 山崎綾美 鳥山和久 渡邊佳世
高橋沙織 高倉和枝 千明理恵 樋口真梨子 熊谷扶美子 高野朝乃

1) 活動内容

- (1) 院内細菌・ウイルス検出状況報告・情報共有
- (2) 院内感染状況報告・情報共有
- (3) 抗菌薬適正使用ラウンド報告・ICT ラウンド報告
- (4) その他: 勉強会・研修会案内、感染防止対策地域連携加算相互チェック案内など

(石川さやか)

研究研修編

1. 学会報告

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 渡辺美緒. 群馬県における医療的ケア児の実数調査報告. 第122回日本小児科学会学会学術集会, 石川, 2019. 4. 19.
- 2) 渡辺美緒, 清水有紀, 鈴木江里子, 道和百合, 椎原 隆, 六本木温子, 臼田由美子. ヌシネルセン治療を開始した脊髄性筋萎縮症 I 型の14歳女児例. 第61回日本小児神経学会学術集会, 愛知, 2019. 5. 31.
- 3) Yuki Shimizu, Yuri Dowa, Takashi Shiihara, Mio Watanabe, Eriko Suzuki, Hideyuki Asai, Nodoka Hinokuma, Mitsuhiro Kato. A case of developmental and epileptic encephalopathy caused by a novel SCN2A gene variant the 20th Annual Meeting of Infantile Seizure Society (ISS), Nagoya, 2019. 5. 31.
- 4) Yuri Dowa, Takashi Shiihara, Yuko Shimizu-Motohashi, Nodoka Hinokuma, Hideyuki Asai, Mitsuhiro Kato. Distinctive features of different SCN2A gene mutations. 15th Asian Oceanian Congress of Child Neurology. Kuala Lumpur. Malaysia. 2019. 9. 21.

<循環器科>

- 1) 浅見雄司, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸哉, 松井謙太, 林 秀憲, 友保貴博, 岡 徳彦, 小林富男. Fontan candidate の片側肺動脈低形成に対してIntrapulmonary-artery septationを行い, Fontan型手術に到達できた2例. 第55回小児循環器学会, 札幌, 2019. 6. 28.
- 2) 新井修平, 池田健太郎, 浅見雄司, 田中健佑, 下山伸哉, 小林富男. 当院における小児頻脈性不整脈に対するピソプロロールテープ剤の使用経験. 第55回日本小児循環器学会総会・学術集会, 北海道, 2019. 6. 28.
- 3) 池田健太郎, 新井修平, 浅見雄司, 田中健佑, 下山伸哉, 小林富男, 小野 博, 金子幸裕. 肺静脈狭窄を繰り返し, 病理所見で肺静脈壁の弾性繊維および平滑筋の消失を認めた右肺欠損・総肺静脈還流異常の1例. 第55回日本小児循環器学会学術集会, 札幌, 2019. 6. 29.
- 4) 下山伸哉, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 小林富男. 漏斗胸患児の胸郭変形による心室への圧迫の影響. 第55回日本小児循環器学会学術集会, 札幌, 2019. 6. 29.
- 5) 下山伸哉, 新井修平, 浅見雄司, 田中健佑, 池田健太郎, 小林富男. 川崎病に合併した関節症状を有する症例の検討. 第39回日本川崎病学会学術集会, 東京, 2019. 10. 26.
- 6) 池田健太郎, 浅見雄司, 新井修平, 田中健佑, 下山伸哉, 小林富男, 佐々木健人, 中村紘規, 内藤滋人. リード抜去を前提として経静脈的にICD植え込みを行った7才男児例. 第24回日本小児心電学会学術集会, 愛媛, 2019. 11. 29.
- 7) 池田健太郎, 浅見雄司, 新井修平, 田中健佑, 下山伸哉, 小林富男, 林 秀憲, 友保貴博, 岡 徳彦. 心房穿孔の1例. 第6回 informal JPIC 関東甲信越研究会, 東京, 2019. 12. 1.
- 8) 高橋 駿, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸哉, 小林富男. 無症状で発見された左冠動脈右バルサルバ洞起始症の一例. 第211回日本小児科学会群馬地方会, 前橋, 2019. 12. 7.
- 9) 池田健太郎, 浅見雄司, 新井修平, 田中健佑, 下山伸哉, 小林富男, 林 秀憲, 友保貴博, 岡 徳彦. TAPVC 術後末梢性PVOに対しバルーン拡張術が有効であった3例. 第31回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会, 沖縄, 2020. 1. 25.
- 10) 池田健太郎, 浅見雄司, 新井修平, 田中健佑, 下山伸哉, 小林富男. 総肺静脈還流異常症術後肺高血圧に関する検討. 第26回日本小児肺循環研究会学術集会, 東京, 2020. 2. 8.

<新生児科>

- 1) 小泉亜矢, 丸山憲一, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鎚木浩太, 宮川陽一. 当院における在胎 22 週出生児の短期予後に関する検討. 第 122 回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019. 4. 19.
- 2) 丸山憲一. 群馬県内の母乳栄養の児の割合の地域間での違いに関する検討. 第 122 回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019. 4. 20.
- 3) 福田一代, 丸山憲一, 小泉亜矢, 市之宮健二, 山崎 優, 鎚木浩太, 宮川陽一. 喉頭蓋嚢胞の 1 例. 第 55 回日本小児放射線学会学術集会, 神戸, 2019. 6. 21.
- 4) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 山崎 優, 鎚木浩太, 宮川陽一. 在胎 21 週 1 日で出生し重篤な合併症無く生存退院した男児の治療経験. 第 210 回小児科学会群馬地方会講話会, 高崎, 2019. 7. 7.
- 5) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鎚木浩太, 宮川陽一. 当科による消防学校救急科における新生児蘇生法実習. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 松本, 2019. 7. 14.
- 6) 小泉亜矢, 丸山憲一, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鎚木浩太, 宮川陽一. 広範な心石灰化病変と頻脈性不整脈を呈した新生児ループスの早産児例. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 松本, 2019. 7. 14.
- 7) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 山崎 優, 鎚木浩太, 宮川陽一. 急性期離脱後に原因不明の溶血性貧血を発症した極低出生体重児 6 例の検討. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 松本, 2019. 7. 14.
- 8) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 山崎 優, 鎚木浩太, 宮川陽一. 在胎 21 週 1 日で車中分娩し重篤な合併症なく生存退院した男児の治療経験. 第 27 回群馬県救急医療懇談会, 中之条, 2019. 9. 1.
- 9) Ichinomiya K, Maruyama K, Koizumi A, Fukuda K, Yamazaki Y, Kaburagi K, Honma H. Long-Term Outcomes of Severe Small-for-Gestational Age Infants Born Before 28 Weeks of Gestation. The 15th Congress of Asia Society of Pediatric Research, Manado, 2019. 9. 10.
- 10) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 山崎 優, 鎚木浩太, 本間春奈. 当施設の超早産児管理. 第 13 回 NRN Database Quality Improvement Conference, 東京, 2019. 9. 21.
- 11) 小泉亜矢, 丸山憲一, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鎚木浩太, 本間春奈. 当院における未熟児動脈管開存症に対するイブプロフェンの治療経験. 第 35 回群馬周産期研究会, 前橋, 2019. 9. 21.
- 12) 丸山憲一. 群馬県内の母乳栄養の地域差の経時的変化に関する検討. 第 46 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 奈良, 2019. 11. 2.
- 13) 小泉亜矢, 丸山憲一, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鎚木浩太, 本間春奈. 当院における未熟児動脈管開存症に対するイブプロフェンの治療経験. 第 64 回日本新生児成育医学会・学術集会, 鹿児島, 2019. 11. 27.
- 14) 山崎 優, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 鎚木浩太, 本間春奈, 古庄知己. COL1A2 変異による Ehlers-Danlos syndrome/ Osteogenesis imperfecta overlap syndrome の姉弟例. 第 64 回日本新生児成育医学会・学術集会, 鹿児島, 2019. 11. 28.
- 15) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鎚木浩太, 本間春奈. 早産児, 低出生体重児における肝芽腫発見のための定期的検査の実態に関する全国調査. 第 64 回日本新生児成育医学会・学術集会, 鹿児島, 2019. 11. 29.
- 16) 本間春奈, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鎚木浩太, 木暮さやか, 西 明, 高本尚弘, 山口 有, 浜島昭人. 胎児 MRI で Currarino 症候群が疑われた 4p-症候群の 1 例. 第 211 回

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 清水彰彦, 山田佳之. 小児の院内発症の下痢患者に便中ウイルス抗原迅速検査を行うべきか?. 第 93 回日本感染症学会学術大会, 名古屋, 2019. 4. 5.
- 2) 山田佳之, 鎌 裕一, 清水真理子, 清水彰彦, 島袋美起子, 加藤政彦. 当院における小児食道好酸球増多疾患の細菌の特徴. 第 122 回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019. 4. 21.
- 3) Shimizu A, Yamada Y. The relationship between positive drain tip cultures and the incidence of surgical site infection after pediatric cardiovascular surgery. Ljubliana, Slovenia, 2019. 5. 9.
- 4) 高澤慎也, 清水彰彦, 島田脩平, 内田康幸, 高本尚弘, 山田佳之, 西 明. 乳児結節性多発動脈炎の治療経過中に小腸狭窄によるイレウスを発症した一例. 第 56 回日本小児外科学会学術集会, 久留米, 2019. 5. 23.
- 5) 清水真理子, 山田佳之, 佐藤絵里子, 鎌 裕一, 島袋美起子, 清水彰彦, 加藤政彦. 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症に対する負荷試験の検討 (ミニシンポジウム). 第 68 回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2019. 6. 15.
- 6) 鎌 裕一, 加藤政彦, 山田佳之, 額賀真理子, 煙石真弓, 田端秀之, 平井康太, 望月博之. 小児気管支喘息の急性増悪時における細菌感染の関与-続報 (ミニシンポジウム). 第 68 回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2019. 6. 15.
- 7) 小針靖子, 清水真理子, 田端洋太, 平形絢子, 今井 朗, 高野洋子, 清水彰彦, 山田佳之, 前田昇三. 新生児 TSS 様発疹症 (NTED) 症状を呈した新生児仙骨部皮下膿瘍の一例. 第 210 回日本小児科学会群馬地方会講話会, 高崎, 2019. 7. 7.
- 8) 清水真理子, 清水彰彦, 野村 滋, 山田佳之. モンテルカストとプロトンポンプ阻害薬との併用が奏効した小児好酸球性食道炎の 1 例. 第 2 回日本アレルギー学会関東地方会, 東京, 2019. 9. 14.
- 9) 清水彰彦, 山田佳之, 塚越博之, 小泉亜矢. 全ゲノムシーケンス解析により *cylA* 遺伝子の欠損が明らかになった非溶血性 B 群連鎖球菌による菌血症・髄膜炎の 1 例. 第 51 回日本小児感染症学会学術大会, 旭川, 2019. 10. 27.
- 10) 清水真理子, 鎌 裕一, 山田佳之. 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症における負荷試験陽性患者の特徴. 第 46 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 奈良, 2019. 11. 2.
- 11) 清水真理子, 山田佳之, 鎌 裕一, 清水彰彦, 西 明, 加藤政彦. 先天性食道狭窄と好酸球性食道炎との鑑別を要した症例の検討. 第 56 回日本小児アレルギー学会学術大会, 千葉, 2019. 11. 3.
- 12) 山田佳之. 小児病院での臨床検査専門医としての取り組み. 第 66 回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 2019. 11. 24.

<血液腫瘍科>

- 1) 大和玄季, 河合智子, 柴 徳生, 原 勇介, 大木健太郎, 鍋木多映子, 吉田健一, 白石友一, 宮野 悟, 清河信敬, 富澤大輔, 嶋田 明, 外松 学, 荒川浩一, 足立壮一, 多賀 崇, 堀部敬三, 小川誠司, 秦健一郎, 林 泰秀. 小児急性骨髄性白血病における網羅的メチル化解析 -The JCCG-JPLSG AML-05 study-. 第 81 回日本血液学会学術集会, 東京, 2019. 10. 11-13.
- 2) 鍋木多映子, 大和玄季, 柴 徳生, 吉田健一, 原 勇介, 白石友一, 大木健太郎, 外松 学, 荒川浩一, 松尾英将, 嶋田 明, 滝 智彦, 清河信敬, 富澤大輔, 堀部敬三, 宮野 悟, 足立壮一, 多賀 崇, 小川誠司, 林 泰秀. 343 遺伝子カスタムパネルを用いた標的シーケンスで同定された小児急性骨髄性白血病

における遺伝子変異. 第 81 回日本血液学会学術集会, 東京, 2019. 10. 11-13.

- 3) 大和玄季, 村松秀城, 渡邊智之, 出口隆生, 岩本彰太郎, 長谷川大輔, 照井君典, 植田高弘, 横須賀とも子, 田中司朗, 柳沢 龍, 康 勝好, 齋藤明子, 堀部敬三, 林 泰秀, 足立壮一, 水谷修紀, 多賀 崇, 伊藤悦朗, 渡邊健一郎. 一過性骨髄異常増殖症患者における白血病発症関連因子について: JCCG JPLSG TAM-10 study-. 第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会, 広島, 2019. 11. 14-16.
- 4) 鍋木多映子, 大和玄季, 柴 徳生, 吉田健一, 原 勇介, 白石友一, 大木健太郎, 外松 学, 荒川浩一, 松尾英将, 嶋田 明, 滝 智彦, 清河信敬, 富澤大輔, 堀部敬三, 宮野 悟, 足立壮一, 多賀 崇, 小川誠司, 林 泰秀. 小児急性骨髄性白血病患者における KMT2C 変異と PHF6 変異の臨床的意義について. 第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会, 広島, 2019. 11. 14-16.
- 5) Yamato G, Muramatsu H, Watanabe T, Deguchi T, Iwamoto S, Hasegawa D, Terui K, Ueda T, Yokosuka T, Toki T, Tanaka S, Yanagisawa R, Koh K, Saito A, Horibe K, Hayashi Y, Adachi S, Mizutani S, Taga T, Ito E, Watanabe K. Predictive factors of the development of leukemia in patients with transient abnormal myelopoiesis and Down syndrome: the JCCG study JPLSG TAM-10. 61st Annual Meeting of the American Society of Hematology, Orlando, FL, USA, 2019. 12. 7-10.
- 6) Yamato G, Kawai T, Shiba N, Hara Y, Ohki K, Kaburagi T, Yoshida K, Shiraishi Y, Miyano S, Kiyokawa N, Tomizawa D, Shimada A, Sotomatsu M, Arakawa H, Adachi S, Taga T, Horibe K, Ogawa S, Hata K, Hayashi Y. Significant features of DNA methylation at bivalent promotor and repressed polycomb regions in pediatric AML-the JCCG study, JPLSG AML-05-. 61st Annual Meeting of the American Society of Hematology, Orlando, FL, USA, 2019. 12. 7-10.
- 7) Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Shiraishi Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Matsuo H, Shimada A, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Horibe K, Miyano S, Ogawa S, Adachi S, Hayashi Y. Recurrent gene mutations in pediatric patients with AML by targeted sequencing -the JCCG study, JPLSG AML-05-. 1st Annual Meeting of the American Society of Hematology, Orlando, FL, USA, 2019. 12. 7-10.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 高澤慎也, 島田脩平, 内田康幸, 高本尚弘, 西 明. 腹腔鏡下噴門形成術の術後管理における経鼻空腸チューブの有用性の検討. 第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 東京, 2019. 2. 14.
- 2) 高澤慎也, 島田脩平, 内田康幸, 高本尚弘, 西 明. 手術枠のネット予約導入による手術時期の変化. 第 56 回日本小児外科学会学術集会, 久留米, 2019. 5. 23.
- 3) 高澤慎也, 清水彰彦, 島田脩平, 内田康幸, 高本尚弘, 山田佳之, 西 明. 乳児結節性多発動脈炎の治療経過中に小腸狭窄によるイレウスを発症した一例. 第 56 回日本小児外科学会学術集会, 久留米, 2019. 5. 24.
- 4) 高本尚弘, 島田脩平, 内田康幸, 高澤慎也, 西 明. 癒着性腸閉塞に対する保存療法から手術移行例への予測因子の検討. 第 56 回日本小児外科学会学術集会, 久留米, 2019. 5. 24.
- 5) 島田脩平, 内田康幸, 高本尚弘, 高澤慎也, 西 明. 軸捻転後に消失した肺葉外肺分画症の 1 例. 第 56 回日本小児外科学会学術集会, 久留米, 2019. 5. 24.
- 6) 内田康幸, 島田脩平, 高本尚弘, 高澤慎也, 西 明. 遷延する胆汁うっ滞により, 開腹胆道造影, 肝生検を要した超低出生体重児の 1 例. 第 56 回日本小児外科学会学術集会, 久留米, 2019. 5. 25.
- 7) 西 明, 高澤慎也, 島田脩平, 内田康幸, 高本尚弘. 胆道閉鎖症に対する肝門空腸吻合における肝門

部結合織切離部からの出血に対するデンプン由来吸収性局所止血剤アリスタ AH 使用の初報告. 第 56 回日本小児外科学会学術集会, 久留米, 2019. 5. 25.

- 8) 高本尚弘, 戸塚綾美, 吉田有希, 下田寛貴, 島田脩平, 内田康幸, 高澤慎也, 西 明. FPD 搭載ポータブル撮影装置と透視下での ED tube 挿入の比較検討. 第 55 回日本小児放射線学会学術集会, 神戸, 2019. 6. 21.
- 9) 高澤慎也, 高本尚弘, 内田康幸, 島田脩平, 西 明. 精巣固定術におけるダルトス筋膜貫通部縫縮の再挙上防止効果についての検討. 第 28 回日本小児泌尿器化学会総会学術集会, 佐賀, 2019. 7. 3.
- 10) 高澤慎也, 佐藤達也, 木暮さやか, 小泉亜矢, 京谷琢治, 丸山憲一, 西 明. 新生児卵巣嚢胞の予後予測因子としての胎児期嚢腫径の変化についての検討. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 松本, 2019. 7. 13.
- 11) 小山亮太, 高本尚弘, 高澤慎也, 西 明. 先天性横隔膜ヘルニア術後長期経過後の気胸・多発ブラに対し胸腔鏡下ブラ切除術を行った 1 例. 第 54 回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 大宮, 2019. 10. 12.
- 12) 小山亮太, 高本尚弘, 高澤慎也, 西 明. ピコプレップ配合内用剤の使用経験. 第 27 回小児集中治療ワークショップ, 大阪, 2019. 10. 19.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人, 佐々木淑恵, 荒木夏枝, 西村 怜, 林 稔, 濱田泰志. Nuss 法術後合併症に対する手術施行例の検討. 第 62 回日本形成外科学会学術集会, 札幌, 2019. 4. 17.
- 2) 上塘彩子, 林 稔, 徳中亮平, 辰田紗世, 佐々木淑恵, 藤橋政亮, 浜島昭人, 濱田泰志. 両側骨盤半截後に作成した骨盤ソケットとリハビリにより自宅退院に繋がった一例. 第 62 回日本形成外科学会学術集会, 札幌, 2019. 4. 17.
- 3) 浜島昭人. 特別企画群馬県立小児医療センターの現状と問題点. 第 1 回小児形成外科症例検討会, 東京, 2019. 7. 21.
- 4) 浜島昭人. シンポジウム群馬県立小児医療センターにおける口蓋裂手術. 第 37 回昭和大学医学部形成外科学教室同門会学術集会, 東京, 2019. 9. 7.
- 5) 佐々木淑恵, 浜島昭人, 西村 怜. 3D スキャンを使用した漏斗胸胸郭の計測. 第 19 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 前橋, 2019. 11. 23.
- 6) 西村 怜, 浜島昭人, 荒木夏枝, 佐々木淑恵, 西 明, 高澤慎也, 高本尚弘, 小山涼太, 清水彰彦. Nuss 法早期に創部感染を起こし, 多量胸水貯留を来した 1 例. 第 19 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 前橋, 2019. 11. 23.

<整形外科>

- 1) 田澤昌之, 富沢仙一, 浅井伸治, 品川知司, 金子洋之, 長田純一. 尖足変形を伴った脚長不等児に対する手術前後の 3 次元歩行解析. 第 30 回日本小児整形外科学会, 大阪, 2019. 11. 22.

◆産科

- 1) 木暮さやか, 松田知子, 佐藤達也, 京谷琢治. 出生後に児に乳児血管腫を認め, 肝血管内皮腫が疑われた胎盤絨毛血管腫の一例. 第 55 回日本周産期新生児医学会, 長野, 2019. 7. 13.
- 2) 松田知子, 木暮さやか, 佐藤達也, 京谷琢治. 出生前診断し得た 21 トリソミーに合併した胎児無眼球症の一例. 第 55 回日本周産期新生児医学会, 群馬, 2019. 7. 13.

- 3) 佐藤達也, 松田知子, 木暮さやか, 京谷琢治. 心臓脱, 完全大血管転位症を合併した不完全型 Cantrell 症候群の一例. 第 55 回日本周産期新生児医学会, 長野, 2019. 7. 14.
- 4) 佐藤達也, 道崎 護, 田中亜由子, 木暮さやか. 当院における羊水染色体検査の検討. 第 35 回群馬周産期研究会総会, 群馬, 2019. 9. 21.
- 5) 道崎 護, 田中亜由子, 木暮さやか, 佐藤達也. 当院で経験した胎児性分化疾患の 2 例. 第 35 回群馬周産期研究会総会, 群馬, 2019. 9. 21.
- 6) 道崎 護, 田中亜由子, 木暮さやか, 佐藤達也. 亜急性に経過したと考えられる母児間輸血症候群の 1 例. 第 138 回関東連合産婦人科学会, 群馬, 2019. 10. 19.
- 7) 佐藤達也. 抑えておきたい胎児心エコースクリーニングのポイント. 第 2 回群馬産科婦人科超音波セミナー, 群馬, 2019. 11. 20.
- 8) 佐藤達也. 胎児頭蓋ろうの一例. 第 28 回オープンカンファレンス, 群馬, 2019. 12. 1.
- 9) 田中亜由子. 4q 部分モノソミー～ 6p 部分トリソミーの一例. 第 28 回オープンカンファレンス, 群馬, 2019. 12. 1.
- 10) 田中亜由子. タナトフォリック骨異形成 I 型の胎児診断例. 第 28 回オープンカンファレンス, 群馬, 2019. 12. 1.
- 11) 佐藤達也. 胎児 13 トリソミー症候群の一例. 第 28 回オープンカンファレンス, 群馬, 2019. 12. 1.
- 12) 田中亜由子. 胎児期から観察し得た新生児巨大肝間葉性過誤腫の一例. 第 28 回オープンカンファレンス, 群馬, 2019. 12. 1.
- 13) 佐藤達也, 道崎 護, 田中亜由子, 木暮さやか. 双胎経膈分娩の不成功に関連する因子と児の予後に関する検討. 第 170 回集談会, 群馬, 2020. 2. 15.

◆麻 酔 科

- 1) 松本直樹. 先天性心疾患患者に対する非心臓手術の麻酔～術前評価と術中モニタリング. 日本臨床麻酔学会 第 39 回大会, 軽井沢, 2019. 11. 7.

◆歯 科

- 1) 大嶋 瑛, 木下 樹, 萩原大子, 瀬下愛子, 深山治久. 群馬県立小児医療センター歯科・障害児歯科における過去 14 年間の全身麻酔症例の検討. 第 47 回日本歯科麻酔学会, 岡山, 2019. 10. 26-27.
- 2) 楠 幸代, 瀬下愛子, 坂口真弓, 石田圭吾, 萩原大子, 大嶋 瑛, 木下 樹. 口唇口蓋裂児・家族の会開催のためのアンケート—小児専門病院歯科衛生士の役割—. 第 36 回日本障害者歯科学会大会, 岐阜, 2019. 11. 23-24.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 中村瑠里, 清水彰彦. 小児心臓外科手術後のドレーン先端培養陽性は手術部位感染の発生を予測するか? 254 症例・555 検体の後方視的検討. 第 93 回日本感染症学会総会・学術講演会, 名古屋市, 2019. 4. 6.
- 2) 丸山裕子, 小林富男, 関 満, 中島公子, 高橋 駿, 新井修平, 田中健佑, 池田健太郎, 下山伸也, 岡 徳彦. 超音波 Shear wave Elastography を用いた Fontan 術後患者の肝硬度の検討. 第 55 回小児循環器学会総会・学術集会, 札幌市, 2019. 6. 27.
- 3) 松井重徳, 田中伸久, 三宅妙子, 神山晴美, 富岡千鶴子. 迅速検査陽性時の細菌培養検査の有用性. 第 38 回群馬県庁検査技師会学術発表会, 前橋市, 2020. 1. 25.

- 4) 宮下新菜, 清水彰彦. 当院で経験した小児の *Burkholderia cepacia* 菌血症の 2 症例. 第 31 回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 金沢市, 2020. 2. 2.

◆放射線課

- 1) 萩原祐輔. 当院における頭部一般撮影検査について. 第 42 回日本小児放射線技術研究会, 小児における頭部検査の実際. (シンポジウム), 横浜, 2019. 4. 13.
- 2) 清水宏史, 木暮義法, 茂木彰子, 吉田有希, 下田寛貴, 木暮初男, 萩原祐輔, 山田照枝, 佐々木 保. 小児放射線検査における水晶体被ばく線量評価. 第 58 回全国自治体病院学会, 徳島, 2019. 10. 24.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ, 池田健太郎, 木島久仁子, 藤井美香, 福島富美子, 大嶋 瑛, 瀬下愛子, 都丸健一, 下田隼人, 重田夢華, 小林富男. 成人移行期支援としてのフォンタン手術後患者への集団教育—体験型教育プログラムを実施して—. 第 55 回日本小児循環器学会総会・学術集会, 札幌, 2019. 6. 28.
- 2) 熊丸めぐみ, 鳥越和哉, 下山伸哉, 岡 徳彦, 小林富男. 小児先天性心疾患手術後患者におけるリハビリテーションの特徴. 第 25 回日本心臓リハビリテーション学術集会, 大阪, 2019. 7. 14.
- 3) 秋山友香, 藤井美里, 今泉友希, 神子嶋誠, 小野正恵. 体操教室終了後のダウン症児のフォローアップの検討—PBS の信頼性と発達との関連性—. 第 54 回日本発達障害学会, 札幌, 2019. 8. 25.
- 4) 六本木温子, 加藤英子, 臼田由美子, 渡辺美緒. ヌシネルセン投与を行った脊髄性筋萎縮症 I 型児の運動機能変化とリハビリテーション経過について. 第 53 回日本作業療法学会, 福岡, 2019. 9. 7.

◆栄養調理課

- 1) 島田純子. もっと野菜を 350 (さんごーまる) プロジェクト～高校生の食育推進～. 第 66 回日本栄養改善学会学術総会, 富山, 2019. 9. 7.
- 2) 磯田有香, 高澤慎也, 小山亮太, 高本尚弘, 神保直樹, 島田純子, 西 明. 小児慢性便秘患者に対する食物繊維負荷および乳製品除去による食事療法の効果について. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020. 2. 27.

◆臨床工学課

- 1) 下田隼人. NO (一酸化窒素) 吸入療法に関する実態調査. 第 55 回日本小児循環器学会学術集会, 北海道, 2019. 6. 28.

◆看護部

- 1) 千明桃子. ファンタン手術後に高度医療依存となった患者の両親の思いと行動. 第 55 回日本小児循環器学会, 札幌, 2019. 6. 28～29.
- 2) 若林大介. 小児専門病院に勤務する医療従事者の移行期医療支援に関する意識調査～現状と課題の把握～. 第 29 回日本小児看護学会学術集会, 札幌, 2019. 8. 3～4.
- 3) 外丸恵利. 軟骨無形成症患児の両側大腿骨創外固定器装着術後の看護について～両側大腿骨同時骨延長と二期的片側大腿骨・対側下腿骨骨延長の比較～. 第 29 回日本小児看護学会学術集会, 2019. 8. 3～4.
- 4) 石関梨華. PICU 看護師の終末期ケアを実践する時の困難の解明. 第 39 回群馬緩和医療研究会, 前橋, 2019. 10. 5.

- 5) 清水奈保. A 県立病院における新任看護師長の教育プログラムの構築—学習ニード・教育ニードとマネジメントリーダーの結果を反映させた教育—. 第 50 回日本看護学会—看護管理—学術集会, 名古屋, 2019. 10. 23~24.
- 6) 高橋沙織. 長期入院する13トリソミー・18トリソミーの子どもをもつ家族への支援検討～家族の思い・要望を明らかにして～. 第 29 回日本新生児看護学会学術集会, 鹿児島, 2019. 11. 28~29.
- 7) 茂木ゆう子. 極低出生体重児の回腸ストーマケアの実態調査. 第 33 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 静岡, 2020. 2. 7~8.
- 8) 荒木七生. PICU で人工呼吸器管理を受けている患者への学習支援. 第 41 回群馬病弱児療育研究会, 前橋, 2020. 2. 15.

2. 誌上発表

◆小児内科

<神経内科>

- 1) Hibata A, Kasai M, Hoshino A, Miyagawa T, Matsumoto H, Yamanaka G, Kikuchi K, Kuki I, Kumakura A, Hara S, Shiihara T, Yamazaki S, Ohta M, Yamagata T, Takanashi JI, Kubota M, Oka A, Mizuguchi M. Thermolabile polymorphism of carnitine palmitoyltransferase 2: A genetic risk factor of overall acute encephalopathy. *Brain Dev.* 41: 862-869, 2019.
- 2) Hazama K, Shiihara T, Tsukagoshi H, Matsushige T, Dowa Y, Watanabe M. Rhinovirus-associated acute encephalitis/encephalopathy and cerebellitis. *Brain Dev.* 41: 551-554, 2019.
- 3) Takata A, Nakashima M, Saitsu H, Mizuguchi T, Mitsunashi S, Takahashi Y, Okamoto N, Osaka H, Nakamura K, Tohyama J, Haginoya K, Takeshita S, Kuki I, Okanishi T, Goto T, Sasaki M, Sakai Y, Miyake N, Miyatake S, Tsuchida N, Iwama K, Minase G, Sekiguchi F, Fujita A, Imagawa E, Koshimizu E, Uchiyama Y, Hamanaka K, Ohba C, Itai T, Aoi H, Saida K, Sakaguchi T, Den K, Takahashi R, Ikeda H, Yamaguchi T, Tsukamoto K, Yoshitomi S, Oboshi T, Imai K, Kimizu T, Kobayashi Y, Kubota M, Kashii H, Baba S, Iai M, Kira R, Hara M, Ohta M, Miyata Y, Miyata R, Takanashi JI, Matsui J, Yokochi K, Shimono M, Amamoto M, Takayama R, Hirabayashi S, Aiba K, Matsumoto H, Nabatame S, Shiihara T, Kato M, Matsumoto N. Comprehensive analysis of coding variants highlights genetic complexity in developmental and epileptic encephalopathy. *Nat Commun.* 10: 2506, 2019.

<循環器科>

- 1) Maria Hennig, Lea Ewering, Simon Pyschny, Shinya Shimoyama, Maja Olecka, Dominik Ewald, Manuela Magarin, Anselm Uebing, Ludwig Thierfelder, Christian Jux, Jörg-Detlef Drenckhahn. Dietary protein restriction throughout intrauterine and postnatal life results in potentially beneficial myocardial tissue remodeling in the adult mouse heart. *Sci Rep.* 9(1): 15126, 2019.
- 2) 福田あずさ, 荒木美樹, 平田裕香, 福島富美子, 石井陽一郎, 田中健佑, 下山伸哉, 宮本隆司, 小林富男. 先天性心疾患と出生前診断を受けた妊婦の支援の検討 PICU 看護師による出生前訪問を振り返って. *日本小児循環器学会雑誌.* 35(4): 264-270, 2019.
- 3) Nakajima K, Seki M, Hatakeyama S, Arai S, Asami Y, Tanaka K, Ikeda K, Shimoyama S, Kobayashi T, Miyaomto T, Okada Y, Arakawa H, Takizawa T. Visual liver assessment using Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging of patients in the early post-Fontan period. *Sci Rep.* 10(1): 4909, 2020.

<新生児科>

- 1) 市之宮健二, 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 鍋木浩太, 宮川陽一, 岡庭 隼, 小野 博. 心筋の高度な石灰化と心内構造変化を伴った心原性胎児水腫の1例. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 55: 144-150, 2019.
- 2) 丸山憲一. NICUにおける腹部超音波検査. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 54: 1373-1375, 2019.
- 3) 丸山憲一, 小泉亜矢, 井上文孝, 福田一代, 市之宮健二, 鍋木浩太, 宮川陽一. 小児病院の周産期センター化が極低出生体重児の長期予後に及ぼす影響: 第1報 3歳時の新版K式発達検査の結果についての検討. 小児科臨床. 72: 1689-1693, 2019.
- 4) 丸山憲一, 小泉亜矢, 福田一代, 市之宮健二, 山崎 優, 鍋木浩太. 当科による消防学校救急科における新生児蘇生法実習. 日本周産期・新生児医学会雑誌. 55: 987-992, 2019.
- 5) 丸山憲一. 冷凍母乳の管理のポイント. with NEO. 33: 67-73, 2020.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) Yagi H, Takizawa T, Sato K, Inoue T, Nishida Y, Ishige T, Tatsuki M, Hatori R, Kobayashi Y, Yamada Y, Arakawa H. Severity scales of non-IgE-mediated gastrointestinal food allergies in neonates and infants. *Allergol Int.* Volume 68, Issue 2: 178-184, 2019.
- 2) Kobayashi Y, Konno Y, Kanda A, Yamada Y, Yasuba H, Sakata Y, Fukuchi M, Tomoda K, Iwai H, Ueki S. Critical role of CCL4 in eosinophil recruitment into the airway. *Clin Exp Allergy.* doi: 10.1111/cea.13382. 49 (6): 853-860, 2019.
- 3) Shimizu A, Shimabukuro M, Shimizu M, Asai S, Tomizawa S, Hatakeyama S, Yamada Y. Painful Subcutaneous Edema of the Lumbar Region in IgA Vasculitis. *Pediatrics International.* 61 (6) : 624-625, 2019.
- 4) Miyamoto T, Ozaki S, Inui A, Tanaka Y, Yamada Y, Matsumoto N. C1 esterase inhibitor in pediatric cardiac surgery with cardiopulmonary bypass plays a vital role in activation of the complement system. *Springer, Heart and Vessels.* (1): 46-51, 2019.
- 5) Shimizu A, Tanaka K, Takazawa S, Nishi A, Shimoyama S, Kobayashi T, Imagawa T, Hirato J, Yamada Y. A large superior mesenteric artery aneurysm and ileal obstruction: a rare presentation of polyarteritis nodosa in an infant. *Oxford Medical Case Reports.* Volume 2019 Issue 9: 401-404, 2019.
- 6) Watanabe S, Yamada Y, Murakami H. Expression of Th1/Th2 cell-related chemokine receptors on CD4⁺ lymphocytes under physiological conditions. *International Journal of Laboratory Hematology.* 42(1) : 68-76, 2019.
- 7) Kama Y, Kato M, Yamada Y, Koike T, Suzuki K, Enseki M, Tabata H, Hirai K, Mochizuki H. The Suppressing Role of *Streptococcus pneumoniae* Colonization in Acute Exacerbations of Childhood Bronchial Asthma. *Int Arch Allergy Immunol.* 181 (3): 191-199, 2019.
- 8) Yagi H, Takizawa T, Sato K, Inoue T, Nishida Y, Yamada S, Ishige T, Hatori R, Inoue T, Yamada Y, Arakawa H. Interleukin 2 receptor- α expression after lymphocyte stimulation for non-IgE-mediated gastrointestinal food allergies. *Allergol Int.* in press, 2020.
- 9) Koizumi A, K Maruyama, Ohki Y, Nakayama A, Yamada Y, Kurosawa H, Tsukagoshi H, Fujiu T, Takahashi M, Kimura T, Saruki N, Murakami M, Arakawa H. Prevalence and Risk Factor for Antibiotic-resistant *Escherichia coli* Colonization at Birth in Premature Infants: A Prospective Cohort Study. *The*

Pediatric Infectious Disease Journal. in press, 2020.

- 10) Yamada Y. Unique features of non-immunoglobulin E-mediated gastrointestinal food allergy during infancy in Japan. Current Opinion in Allergy and Clinical Immunology. in press, 2020.
- 11) 清水彰彦. 重症心身障害児におけるヒトメタニューモウイルス感染症の臨床像の検討. 小児感染免疫. 31(3): 235-240, 2019.
- 12) 山田佳之, 荒川浩一. 第 14 章おもな抗喘息薬一覧表 ガイドライン解説 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2017. 日本小児アレルギー学会誌. 第 33 巻第 3 号: 340-343, 2019.
- 13) 山田佳之. 3. 新生児・乳児消化管アレルギー・好酸球性消化管疾患～広義の消化管アレルギー～ 36. 食物アレルギー (成人含む) 専門医のためのアレルギー学講座. アレルギー. 68(9): 1102-1109, 2019.
- 14) 山田佳之. 消化管アレルギー 特集／知らぬと見逃す食物アレルギー. デルマ. No.289 別刷, 67-73, 2019.
- 15) 山田佳之. 好酸球性消化管疾患の治療戦略 特集 好酸球が関与する難治病態と治療戦略. アレルギーの臨床 臨時増刊号. Vol. 39(14): No.536, 17-20, 2019.
- 16) 山田佳之. 第 14 章 主な抗喘息薬一覧表 小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2017 《2019 年改訂版》. 日本小児アレルギー学会作成. 218-229, 2019.

<血液腫瘍科>

- 1) 大和玄季, 金兼弘和. 自己免疫性溶血性貧血を発見の契機とする先天性免疫異常. 血液内科 78 巻 2 号 P239-244, 2019

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明, 小山亮太, 高本尚弘, 高澤慎也. 【ピンチ！私はこうして切り抜けた】 停留精巣 萎縮精巣摘出術後 9 年後に腹腔内精巣が見つかった. 小児外科. 51: 979-981, 2019.
- 2) 西 明, 内田康幸, 五嶋 翼, 谷 有希子, 高澤慎也, 黒岩 実. Hassab 手術を行った小児門脈圧亢進症 5 例の長期経過. 日本小児外科学会雑誌. 55: 927-932, 2019.
- 3) 島田脩平, 高澤慎也, 内田康幸, 高本尚弘, 西 明. 【小児外科診療における合併症, 偶発症-とっさの処置, その後の対応】 胃固定術後に発生した網嚢ヘルニア. 小児外科. 51: 241-244, 2019.

<整形外科>

- 1) 浅井伸治, 富沢仙一, 柳川天志, 斎藤健一, 品川知司. 骨線維異形成骨切除後の広範な骨欠損に対する Masquelet 法に Hexapod 型創外固定器が有用であった 1 例. 平成 30 年度秋季群馬県医学会, 群馬医学. No.110 (53-56 頁), 2019 別冊.

◆歯 科

- 1) Atsushi Nakajima, Akira Ohshima, Haruhisa Fukayama, Tatsuki Kinoshita. Preoperative Management of Patient With Cornelia de Lange Syndrome and Tetralogy of Fallot. Anesth Prog, 66: 159-161, 2019.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 田中伸久, 三宅妙子, 新井菜津子, 佐藤敦子. 当院におけるヒトメタニューモおよび RS ウイルス迅速

診断キット陽性例の検討. 小児科診療. 82(6): 802-806, 2019.

- 2) 新井菜津子, 田中伸久. 多項目自動血球分析装置 XE-5000 で測定した髄液細胞数の小児参考基準値. 医学検査. 68(4): 728-730, 2019.
- 3) 三宅妙子, 田中伸久, 佐藤敦子. 小児のウイルス性胃腸炎における迅速診断キット陽性例の検討. 医学検査. 69(1): 728-730, 2020.

◆放射線課

- 1) 萩原祐輔. 当院における頭部一般撮影検査について. 日本小児放射線技術研究会誌. No.45 MARCH: 19-22, 2020.

3. 単行本・その他

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 小林富男. 川崎病診断の手引きガイドブック 年長児例, 日本川崎病学会編, 東京, 診断と治療社, 2019, p13-14.
- 2) 下山伸哉, 石毛 崇, 荒川浩一. II 心筋疾患 薬剤性心筋炎—メサラジンによる薬剤性心筋炎の小児例, 日本臨牀 (別冊)『特集 循環器症候群 (第3版) I』, 東京, 日本臨牀社, 2019, p328-332.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. 3. 感染症 § 22-7 インフルエンザ (小児). 監修 猿田享男 (慶応義塾大学名誉教授), 北村 惣一郎 (国立循環器研究センター名誉総長), 1361 専門家による私の治療 (2019-20 年度版), 東京, 日本医事新報社, 2019, p1386-1388.
- 2) 山田佳之. 好酸球性食道炎・胃腸炎の診断と治療. 永田 真編集, 医学のあゆみ BOOKS トータルアプローチ アレルギー診療 重要基礎知識 40, 東京, 医歯薬出版株式会社, 2019, p156-163.

4. 班会議等報告書

◆小児内科

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. 好酸球性消化管疾患, 重症持続型の根本治療, 多種食物同時除去療法の診療体制構築に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業). 令和元年度分担研究報告書, 2019.
- 2) 山田佳之. 好酸球性消化管疾患, 重症持続型の根本治療, 多種食物同時除去療法の診療体制構築に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業). 平成 29 年度—令和元年度総合研究報告書, 2019.

5. 講演

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 渡辺美緒. ここまできた脊髄性筋萎縮症 (SMA) の診断と治療—早期発見・早期治療・リハビリテーションの重要性—. 第 66 回日本小児保健協会学術集会 (共催セミナー), 東京, 2019. 6. 21.
- 2) 渡辺美緒. 医療①. 令和元年度群馬県医療的ケア児等コーディネーター養成研修, 前橋, 2019. 11. 28.

- 3) 渡辺美緒. 当院における SMA の症例について. SMA Forum in Gunma, 前橋, 2019. 11. 28.
- 4) 渡辺美緒. 気管切開・気管カニューレの管理. 小児等在宅医療に関わる「医療的ケア研修会」(群馬県小児科医会), 桐生, 2020. 1. 16.

<循環器科>

- 1) 小林富男. 群馬県の児童生徒の心臓性突然死, ニアミスの現状. 群馬県学校心臓検診講習会, 前橋, 2019. 7. 12.
- 2) 池田健太郎. 2次検診の進め方. 群馬県学校検診講習会, 前橋, 2019. 7. 12.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. 好酸球性消化管疾患 (EGIDs). 教育講演第 68 回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2019. 6. 15.
- 2) 山田佳之. 新生児・乳児消化管アレルギー. 第 13 回相模原臨床アレルギーセミナー, 横浜, 2019. 8. 4.
- 3) 清水彰彦. みんなで取り組む抗菌薬適正使用～さようなら「念のため, 抗菌薬」～. 群馬県立がんセンター 院内感染対策講演会, 太田, 2019. 9. 6.
- 4) 山田佳之. 新生児・乳児消化管アレルギーガイドラインについて. 第 438 回相模原市医師会小児科医月例懇話会, 神奈川, 2019. 9. 11.
- 5) 清水彰彦. 医療現場で役に立つインフルエンザの知識と感染対策. 群馬県看護協会渋川地区支部研修会, 渋川, 2019. 10. 18.
- 6) 山田佳之. 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症と好酸球性消化管疾患. 基調発表第 46 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 奈良, 2019. 11. 2.
- 7) 清水彰彦. 抗菌薬 choosing wisely. JCHO 群馬中央病院 院内感染対策講演会, 前橋, 2019. 11. 18.
- 8) 清水彰彦. 漏斗胸手術後の発熱への対応と手術部位感染症の治療戦略. 第 19 回 Nuss 法漏斗胸手術研究会, 前橋, 2019. 11. 23.
- 9) 清水彰彦. 小児救急外来における感染症治療薬のエッセンス. 高崎市医師会小児救急医師研修会, 高崎, 2019. 11. 28.
- 10) 山田佳之. 講演「新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症診療ガイドライン作成での工夫」及びパネルディスカッション「これから診療ガイドライン作成グループに求められること」. 第 22 回診療ガイドライン作成グループ意見交換会, 東京, 2019. 11. 29.
- 11) 山田佳之. 小児における好酸球関連疾患について. アレルギー週間 2020 in 茨城, つくば, 2020. 2. 14.

◆小児外科

<整形外科>

- 1) 浅井伸治. 小児整形外科の実際. 第 1 回 GCMC 小児科セミナー, 前橋, 2019. 5. 19.
- 2) 浅井伸治. 症例検討 EDS 両側股関節亜脱臼の 1 例. 第 30 回関東小児整形外科研究会, 東京, 2020. 2. 1.

◆菌 科

- 1) 木下 樹. 咀嚼・嚥下機能の加齢変化とアセスメント. 第 59 回渋川摂食嚥下研究会, 渋川, 2019. 4. 2.
- 2) 木下 樹. 知的障害のある子どもの摂食指導. 令和元年度群馬県立館林特別支援学校公開講座, 館

林, 2019. 8. 1.

- 3) 木下 樹. 発達障害児の口腔ケア. 恩賜財団母子愛育会地域母子保健研修会, 東京, 2019. 10. 3.
- 4) 木下 樹. 知っておきたいお口の話. あさがおの会, 群馬県立小児医療センター, 2019. 11. 1.
- 5) 木下 樹. お口から見た子育て. 栃木県母子歯科保健研修会, 栃木県庁, 2019. 11. 14.
- 6) 木下 樹. 歯科から見た要保護要支援児童対策. 令和元年度群馬県歯科保健大会, 前橋, 2019. 11. 30.
- 7) 木下 樹. 障害児の口腔衛生管理. 日本重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修会, 東京, 2019. 12. 13.

6. 講習会・研修会

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 池田健太郎. 小児循環器科へようこそ！. 第1回 GCMC セミナー, 2019. 5. 19.
- 2) 新井修平. 小児心疾患の病棟管理. 第8回群馬小児循環器セミナー, 2019. 7. 27.
- 3) 浅見雄司. 小児心エコー. 第8回群馬小児循環器セミナー, 2019. 7. 27.
- 4) 田中健祐. 胎児心エコー. 第8回群馬小児循環器セミナー, 2019. 7. 27.
- 5) 池田健太郎. 小児循環器外来～私はこうしている～. 第8回群馬小児循環器セミナー, 2019. 7. 27.
- 6) 下山伸哉. 関連病院からご紹介いただいた患者様の経過報告 (感染性心内膜炎の臨床経過のまとめ). 第8回群馬小児循環器セミナー, 2019. 7. 27.
- 7) 小林富男. 川崎病性冠動脈瘤の長期予後. 第8回群馬小児循環器セミナー, 2019. 7. 27.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 小児. 医療通訳者養成講座 (2019年度第2回), 前橋, 2019. 10. 19.
- 2) 丸山憲一. 低出生体重児, 早産児の母乳育児. 群馬病院薬学研修会, 前橋, 2020. 2. 13.

<アレルギー・感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. 食物アレルギーについての最新情報～保護者の相談への対応を踏まえて～. 渋川保健福祉事務所研修会, 渋川, 2020. 2. 3.

◆検体検査課・生理検査課

- 1) 丸山裕子. ファロー四徴症. 第45回 Echo-G, 前橋, 2020. 1. 10.

◆放射線課

- 1) 佐々木 保. 放射線検査について. 令和元年度看護部新規採用者オリエンテーション, 群馬県立小児医療センター, 2019. 5. 20.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 第122回日本小児科学会学術集会, 日本小児呼吸学会委員会将来構想委員会, 第26回小児呼吸セミナー. 日本小児科学会, 石川, 2019. 4. 19～21.
- 2) 臼田由美子, 六本木温子. 第61回日本小児神経学会学術集会. 日本小児神経学会, 名古屋, 2019. 5. 31～6. 2.

- 3) 秋山友香. 渋川地区医療・看護・介護連携フォーラム. 渋川地区医療・介護・看護連携フォーラム 実行委員会, 渋川, 2019. 6. 23.
- 4) 熊丸めぐみ. 2019 年度全国自治体病院協議会リハビリテーション部会打ち合わせ会, 研修会. 全国自治体病院協議会, 東京, 2019. 9. 5～9. 6.
- 5) 加藤英子. 障害を理由とする差別の解消の推進に関する研修会～障害平等研修～. 群馬県健康福祉部障害政策課, 前橋, 2019. 9. 24.
- 6) 中野まりえ. 口蓋裂の構音指導について. 群馬県特別支援教育研究会 難聴・言語障害教育部会 第3回中北ブロック研究会, 伊勢崎, 2019. 10. 2.
- 7) 六本木温子. 発達障害支援人材育成研修会. 日本発達障害ネットワーク, 埼玉, 2019. 10. 14.
- 8) 六本木温子. 外部専門家配置事業における作業療法士の学校における取組み. 第7回専門アドバイザー研修会, 前橋, 2019. 11. 15.
- 9) 臼田由美子. 第52回日本小児呼吸器学会, 将来構想委員会, 呼吸理学療法 WG. 日本小児呼吸器学会, 鹿児島, 2019. 11. 15～16.
- 10) 臼田由美子. 第6回日本小児理学療法学会学術大会. 日本小児理学療法学会, 福岡, 2019. 11. 16～17.
- 11) 熊丸めぐみ. 循環器疾患の理学療法 理学療法士講習会基礎編 内部障害系理学療法の基礎 —安全で効果的なアプローチのために—. 福井, 2019. 11. 23.
- 12) 鳥越和哉. 第71回臨床実習指導者講習会. 日本理学療法士協会, 高崎, 2019. 12. 7. ～8.
- 13) 熊丸めぐみ. 群馬県理学療法士協会第4回臨床実習指導者講習会. 日本理学療法士協会, 前橋, 2020. 1. 25. ～1. 26.
- 14) 加藤英子, 秋山友香. 2019 年度第7回がんのリハビリテーション研修. ライフ・プランニング・センター, 東京, 2020. 1. 25. ～1.26.

◆栄養調理課

- 1) 島田純子. 離乳食について. あさがおの会, 群馬県立小児医療センター, 2019. 6. 3.

◆臨床工学課

- 1) 高橋祐樹. ME 機器の取り扱い. 令和元年度看護部新規採用者オリエンテーション, 群馬, 2019. 4. 9.
- 2) 高橋祐樹. インシデントレポートから伝えたいこと. 令和元年度医療機器安全研修, 群馬, 2020. 1. 17.

◆薬 剤 部

- 1) 高橋大輔. AST(Antimicrobial Stewardship Team) 活動報告. 感染対策講演会, 渋川, 2020. 3. 4.

◆看 護 部

- 1) 茂木ゆう子. 第24回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー. 岡山大学医学部附属病院, 2019. 6. 12～14.
- 2) 石坂泰子. 子育て期における女性のこころと体. 共愛国際大学, 前橋, 2019. 9. 17.
- 3) 北爪幸子. 「感染管理～職場で中心となって活動するポイント～」. 群馬県看護協会, 前橋, 2019. 10. 29.
- 4) 石坂泰子. 子育て期における女性のこころと体. しぶかわほっとプラザ, 渋川, 2019. 11. 6.
- 5) 木島久仁子. 小児の退院支援と住宅療養支援. 群馬県看護協会, 前橋, 2019. 11. 19.

- 6) 齊藤織恵, 小林理恵. 新生児蘇生法実習. 消防学校, 前橋, 2019. 11. 21~22.
- 7) 木島久美子. 重症心身障害児者の障害と看護「救急対応」. 福祉プラザさくら川, 東京, 2019. 12. 14.
- 8) 木島久美子. 小児患者へのケアのコツ. 前橋赤十字病院, 前橋, 2020. 2. 21.

◆母子保健室・地域医療連携室

- 1) 高橋雪子. 医療対話推進者研修会. 群馬県, 群馬県庁, 2019. 6. 21.
- 2) 高橋雪子. NICU からの在宅移行支援. 医療的ケア時等コーディネーター養成研修, 群馬県庁, 2019. 11. 29.
- 3) 高橋雪子. 医療機関における保健師活動. 群馬大学医学部保健学科地域看護学方法論 I, 群馬大学医学部保健学科, 2020. 1. 6.

7. 学会長・座長・その他

◆小児内科

<循環器科>

- 1) 小林富男. 第 26 回日本小児肺循環研究会 (座長), 会長要望演題 3「画像診断」, 東京, 2019. 2. 12.
- 2) 小林富男. 第 47 回群馬小児循環器研究会 (座長), 特別講演「川崎病診断の手引き」, 前橋, 2019. 9. 21.
- 3) 下山伸哉. 第 47 回群馬小児循環器研究会 (座長), 一般演題, 前橋, 2019. 9. 21.
- 4) 池田健太郎. 第6回 informal JPIC 関東甲信越研究会 (座長), 一般演題2「動脈管」, 東京, 2019. 12. 1.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 第 8 回ぐんま母乳育児支援ミーティング, 第 2 部講演, 伊勢崎, 2019. 11. 16.
- 2) 丸山憲一. 第 64 回日本新生児成育医学会・学会学術集会, ポスター発表「消化器 3」, 鹿児島, 2019. 11. 28.

<アレルギー感染免疫・呼吸器科>

- 1) 永田 智, 山田佳之. 第68回日本アレルギー学会学術大会 (座長), 消化管アレルギー: 診断・検査・予後, 東京, 2019. 6. 15.
- 2) 山田佳之, 大塚宜一. 第 46 回日本小児栄養消化器肝臓学会 (ワークショップ座長), 好酸球性消化管疾患, 奈良, 2019. 11. 2.
- 3) 山田佳之. 第 56 回日本小児アレルギー学会学術大会 (一般口演座長), 消化管アレルギー2, 千葉, 2019. 11. 3.

<血液腫瘍科>

- 1) 河崎裕英. 第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会 (座長), Oral Session2 AML, 広島, 2019. 11. 14.

◆小児外科

<一般外科>

- 1) 西 明. 第 56 回日本小児外科学会学術集会 (座長), 要望演題 2「重症心身障碍児の手術成績向上の秘策」, 久留米, 2019. 5. 23.

<形成外科>

- 1) 浜島昭人. 座長 Key Note Lecture, 第 19 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 前橋, 2019. 11. 23.
- 2) 浜島昭人. 会長, 第 19 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会, 前橋, 2019. 11. 23.

◆リハビリテーション課

- 1) 熊丸めぐみ. 第 38 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 (座長), 前橋, 2019. 10. 26.
- 2) 熊丸めぐみ. 第 20 回群馬呼吸リハビリテーション研修会 (座長), 前橋, 2019. 11. 30.

◆臨床工学課

- 1) 深町直之. 第 29 回日本臨床工学会 (BPA 優秀発表賞審査員), 一般優秀賞対象演題 6「体外循環」, 岩手, 2019. 05. 18.
- 2) 深町直之. 第 18 回群馬県臨床工学技士会学術大会 (座長), 教育講演「臨床現場を背景とする臨床工学研究の考え方と実際」群馬パース大学 芝本 隆教授, 群馬, 2019. 07. 28.
- 3) 深町直之. 第 10 回関東臨床工学会 (座長), 一般演題「機器管理②」, 茨城, 2019. 10. 27.

◆看護部

- 1) 齊藤織恵. 第 2 回日本新生児看護学会理事評議委員会, ホテル城山鹿児島, 鹿児島, 2019. 11. 28.

8. 学生講義

◆小児内科

<神経内科>

- 1) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生「臨床医学 4」神経・精神系疾患①発作性神経疾患, 重症心身障害者 (児), 群馬, 2019. 9. 3.
- 2) 椎原 隆. 群馬大学医学部医学科 4 年生「臨床医学 4」神経・精神系疾患③神経筋疾患と神経免疫疾患, 群馬, 2019. 9. 10.

<循環器科>

- 1) 下山伸哉. 小児期に特有な心疾患Ⅰ. 群馬大学大学院医学系研究科臨床医学Ⅰ, 前橋, 2020. 1. 9.
- 2) 下山伸哉. 小児期に特有な心疾患Ⅱ. 群馬大学大学院医学系研究科臨床医学Ⅰ, 前橋, 2020. 1. 22.
- 3) 下山伸哉. 小児期に特有な心疾患Ⅲ. 群馬大学大学院医学系研究科臨床医学Ⅰ, 前橋, 2020. 2. 6.

<新生児科>

- 1) 丸山憲一. 健康障害と回復過程各論 VII. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 4. 24, 5. 15, 22, 29, 6.5, 12, 7.3, 10, 17, 31.
- 2) 丸山憲一. 新生児学, 周産期ハイリスク論 II. 高崎健康福祉大学大学院, 高崎, 2019. 4. 10, 17, 24, 5. 8, 15, 22, 29, 6. 5, 12, 19, 26, 7. 3, 10, 17, 24, 12. 4, 6, 11, 25.
- 3) 丸山憲一. 子どもの保健. 新島学園短期大学, 高崎, 2019. 4. 12, 26, 5. 10, 17, 24, 31, 6. 7, 14, 28, 7. 5, 12, 19, 20, 26, 8. 2.
- 4) 丸山憲一. 小児・新生児. 群馬県消防学校, 前橋, 2019. 11. 21.

<アレルギー・感染免疫・呼吸器科>

- 1) 山田佳之. 群馬大学医学部チームワーク実習. 群馬県立小児医療センター, 渋川, 2019. 6. 13-14.
- 2) 山田佳之. 応急措置総論. 群馬県消防学校, 前橋, 2019. 11. 13.

◆歯科

- 1) 木下 樹. (口唇口蓋裂のチーム医療), 群馬大学医学部チームワーク実習. 群馬県立小児医療センター, 2019. 5. 23.
- 2) 木下 樹. 老年看護学各論 I, 渋川看護専門学校看護学生講義. 渋川看護専門学校, 2019. 6. 24.
- 3) 木下 樹. 人体の構造と機能IV, 渋川看護専門学校看護学生講義. 渋川看護専門学校, 2019. 7. 16, 7. 23.
- 4) 木下 樹. 歯科麻酔学実習 (全身麻酔術前評価実習), 東京医科歯科大学歯学部学生実習. 東京, 2019. 9. 30.
- 5) 木下 樹. 健康障害と回復過程各論 II, 渋川看護専門学校看護学生講義・実習. 渋川看護専門学校, 2019.11.19, 11. 26.
- 6) 木下 樹. 障害児, 有病児の歯科保健, 東京工科大学看護学生実習講義. 東京工科大学蒲田キャンパス, 2019. 11. 8.

◆リハビリテーション課

- 1) 臼田由美子. 発達障害系理学療法. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2019. 4. 25, 5. 16, 5. 23, 6. 6, 6. 13.
- 2) 六本木温子. 発達過程作業療法学 II. 群馬医療福祉大学リハビリテーション学部, 前橋, 2019. 6. 4, 11
- 3) 熊丸めぐみ. 呼吸・循環系理学療法学. 国立大学法人 秋田大学, 秋田, 2019. 11. 11.
- 4) 熊丸めぐみ. 重度発達障害理学療法学. 国立大学法人 秋田大学, 秋田, 2019. 11. 11.

◆臨床工学課

- 1) 深町直之. 「体外循環の理解」. 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2019. 4. 12~5. 31.
(毎週金曜日)
- 2) 深町直之. 「体外循環の実際」. 東京工科大学 医療保健学部 臨床工学科, 東京, 2019. 6. 7~7. 26.
(毎週金曜日)
- 3) 深町直之. 「循環代行技術学: PCPS, IABP」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2019. 7. 6.
- 4) 深町直之. 「生体機能代行装置実習」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2019. 7. 20, 8. 2.
- 5) 深町直之. 「生体機能代行装置実習」. 北里大学保健衛生専門学院 臨床工学専攻科, 新潟, 2019. 9. 6, 9. 27.

◆看護部

- 1) 石坂泰子. 基礎助産学～妊娠出産をめぐる問題～. パース大学, 高崎, 2019. 4. 24.
- 2) 清水奈保. 看護の役割と機能. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 5. 14.
- 3) 清水奈保. 小児看護学概論. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 5. 20, 5. 27.
- 4) 宮川祐子. 小児看護学方法 「病気・障害を持つ子どもと家族の看護」, 「子どもの状況 (環境) に特徴づけられる看護」, 「障害のある子どもと家族の看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2019. 6. 5, 6. 12.

- 5) 木島久仁子. 小児看護学方法論Ⅰ・子どもの示す主な症状とその看護. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2019. 6. 6, 6. 13.
- 6) 福島富美子. 症状を示す小児の看護, 子どもにおける疾病の経過と看護, 検査・処置を伴う看護技術. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2019. 6. 19, 6. 26, 7. 10.
- 7) 片貝まさみ. 小児看護学各論Ⅰ「病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 7. 1, 7. 8.
- 8) 高橋敦子. 「様々な状況にある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 7. 2, 7. 9, 7. 16.
- 9) 金子友香. 子どものアセスメント「系統看護学講座 小児看護学概論小児臨床看護総論」. 伊勢崎敬愛看護学院, 2019. 7. 3.
- 10) 齊藤織恵. 「新生児の看護」, 「染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護」. 伊勢崎敬愛看護学院, 伊勢崎, 2019. 7. 17, 7. 24.
- 11) 石関梨華. 終末期の子どもと家族の看護. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2019. 7. 18.
- 12) 齊藤織恵. NICUとハイリスク新生児のケア. 高崎医師会立看護専門学校, 高崎, 2019. 9. 6.
- 13) 永沢育子. 「ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援Ⅰ」, 「ハイリスク・異常分娩・産褥のアセスメントと支援」. 高崎看護専門学校, 高崎, 2019. 9. 9～10.
- 14) 都丸八重子. 急性期にある子どもと家族の看護. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 9. 17, 9. 24.
- 15) 大平典子. 小児看護学各論Ⅰ「未熟児の特徴とハイリスク新生児の看護①・②」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 9. 18, 9. 30.
- 16) 丸山美幸. 小児看護学各論Ⅰ「先天的疾患のある子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 9. 18.
- 17) 石関梨華. 小児がんの子どもとその家族の看護. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 9. 19.
- 18) 丸山美幸. 小児看護学各論Ⅰ「医療的ケアを必要として退院する子どもと家族の看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 9. 25.
- 19) 片貝まさみ. 小児看護学各論Ⅰ「手術を受ける子どもと家族」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 9. 30.
- 20) 石関梨華. 「終末期の子どもと家族の看護」, 「苦痛や疼痛のある子どもの看護」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 10. 3.
- 21) 小林理恵. 小児看護学方法論Ⅱ「ハイリスク新生児と家族への看護」. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2019. 10. 23.
- 22) 村上容子. 小児看護学各論Ⅱ「子どもの検査・処置に伴う看護技術」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 11. 5, 11. 12, 11. 19.
- 23) 浅野 香. 小児看護学各論Ⅱ「救命救急処置が必要な小児と家族」. 渋川看護専門学校, 渋川, 2019. 11. 22, 11. 29.
- 24) 木島久美子. 小児看護学各論Ⅱ: 小児看護技術演習ー子どもの心肺蘇生法ー. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2020. 1. 15.
- 25) 富樫哲雄. 小児看護学各論Ⅱ: 小児看護技術演習ー子どもの心肺蘇生法ー. 高崎健康福祉大学, 高崎, 2020. 1. 15.

9. 定期的研究・抄読会・カンファレンス

月曜日	8:00～8:30	PICU カンファレンス
	16:45～	産科病棟カンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
	17:00～	内科系合同カンファレンス
	17:00～	新生児科カンファレンス
	17:00～	小児外科合同カンファレンス
	17:15～	第一病棟カンファレンス
	17:30～	血液腫瘍科カンファレンス
	18:00～	血液腫瘍科抄読会
	18:00～19:00	循環器カンファレンス
	18:00～	第一病棟・新生児科カンファレンス (適時)
	火曜日	8:00～8:30
13:30～		産科・新生児科合同カンファレンス 産科・新生児科合同カンファレンス終了後～産科・新生児科抄読会
15:00～16:00		麻酔科抄読会
16:30～17:00		心臓カテーテルカンファレンス
17:00～17:30		PICU カンファレンス
8:00～8:30		PICU カンファレンス
水曜日	16:00～16:30	出生前合同カンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
	8:00～8:30	PICU カンファレンス
木曜日	10:30～12:00	全科症例検討会・総回診
	13:00～15:00	外科病棟症例カンファレンス
	14:00～16:00	群大小児科教授回診 (第3木曜)
	16:30～	出生前診断カンファレンス (適時)
	16:45～	産科病棟カンファレンス
	17:00～17:30	PICU カンファレンス
	7:45～8:30	循環器科・心臓血管外科合同カンファレンス
	8:00～8:30	PICU カンファレンス
金曜日	9:00～9:30	抄読会
	12:30～	アレルギー・感染免疫・呼吸器科勉強会
	16:00～17:00	心臓外科症例カンファレンス
	17:00～	産科・新生児科合同カンファレンス
	17:00～17:30	第三病棟会
	17:00～17:30	PICU カンファレンス

月一回 神経内科・遺伝科症例検討会

10. 小児医療センター講話会

1) 第 133 回 2020.2.5

招請講演

『小児の摂食嚥下障害の評価と臨床対応』

—発達期嚥下調整食分類 2018 と栄養管理—

昭和大学歯学部 名誉教授 向井美恵

11. クルズス (臨床講義)

1) 実施なし

12. CPC

1) 第 106 回 2019.12.4

No301 循環器科: 下山, 新井

6 歳男 (臨床診断: 完全型房室中隔欠損症術後, 21trisomy)

No302 新生児科: 市之宮

60 日女 (臨床診断: 肝間葉性過誤腫)

13. その他

(1) 研究会・セミナー等

◆小児内科

<新生児科>

- 1) 第 2 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) スキルアップ講習会 (S コース), 2019. 7. 2.
- 2) 第 18 回群馬県立小児医療センター新生児蘇生法 (NCPR) 講習会 (Bコース), 2019. 10. 29.
- 3) 令和元年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 1 回), 2019. 11. 9.
- 4) 令和元年度群馬県救急救命士向け新生児蘇生法研修会 (第 1 回), 2019. 11. 9.
- 5) 群馬県消防学校新生児蘇生法実習, 2019. 11. 21, 22.
- 6) 令和元年度群馬県新生児蘇生法研修会 S コース (第 3 回), 2020. 1. 18.
- 7) 令和元年度群馬県新生児蘇生法研修会 (第 3 回), 2020. 1. 18.
- 8) 令和元年度群馬県救急救命士向け新生児蘇生法研修会 (第 2 回), 2020. 2. 2.

◆産科・新生児科

- 1) 第 28 回総合周産期母子医療センターオープンカンファレンス, 2019. 12. 1.

14. 公的資金による研究

1 院内研究費による研究

(1) 自主研究事業

■推奨テーマ

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
1	毛髪ミネラル検査による腸管切除後の微量元素欠乏スクリーニングの研究	高 澤 慎 也
		西 明
		高 本 尚 弘
		小 山 亮 太

■一般テーマ

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
1	小児下痢患者におけるClostridium difficile 感染症 (CDI) の診断精度向上のための2stepmethodの研究	清 水 彰 彦
		三 宅 妙 子
2	小児・障害児における咬合誘導の有用性について	木 下 樹
3	フォンタン術後患者および患者家族のための教育セミナー「いちごの会」の実施とその継続	池 田 健太郎
		小 林 富 男
		大 平 典 子
		石 坂 泰 子
		林 範 子
		石 沢 恵 理
		本 多 喜代美
		若 林 大 介
		黒 田 佐 織
		藤 井 美 香
		茂 木 歩 美
		富 樫 哲 雄
		小 谷 陽 子
		高 橋 敦 子
佐 川 有 子		
黒 岩 徹		
石 川 さやか		
熊 丸 めぐみ		
4	群馬県内における母乳栄養率の地域間格差に関する検討	丸 山 憲 一
5	漏斗胸 Nuss 法術後合併症に対する手術施行例の検討	浜 島 昭 人
		西 村 怜

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
6	極低出生体重児フォローアップデータベースの作成による発達外来の質の向上	市之宮 健 二
		丸 山 憲 一
		小 泉 亜 矢
		福 田 一 代
		山 崎 優
		鏑 木 浩 太
		本 間 春 奈
7	母指多指症 Wassel 分類Ⅳ 型における指軸偏位の検討	西 村 怜
		浜 島 昭 人
8	家族参加の機会を増加させることによる、愛着形成促進と親役割実感の獲得 ～身体計測カードの作成を通して～	飯 沼 麻由美
9	冷凍母乳間違いのない冷凍庫管理方法	萩 原 梨 絵
10	放射線技師における手指の職業被ばく線量の実態調査	清 水 宏 史
11	試験紙法尿たん白における偽陰性の検討	田 中 伸 久
12	超音波ガイド下腹直筋鞘ブロックにおける局所麻酔薬の矢状方向への広がり方 と換気条件の関係性の検討	廣 木 茜
13	先天奇形症候群児の家族の愛着形成	道 和 百 合
		大 平 典 子
		高 橋 雪 子
14	多職種における在宅医療的ケア児の支援体制構築に関する研究	渡 辺 美 緒
		朴 明 子
		市之宮 健 二
		大 平 典 子
		高 橋 敦 子
		高 橋 雪 子
		瀬 下 明日香
		白 田 由美子
近 藤 愛 子		
15	原因不明の神経疾患におけるメタボローム解析	清 水 有 紀
		道 和 百 合
		鈴 木 江里子
		渡 辺 美 緒
		椎 原 隆
16	NICU ポータブル撮影時のクベースによる撮影	大 川 夏 輝
17	血液ガス分析における開放検体の評価	笠 原 涉
18	心拍数のモニタリングによる宿直時の業務に対するストレス度評価	松 井 重 憲
19	消化管造影検査による体内残存造影剤が CT 検査に及ぼす影響	吉 田 有 希

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
20	家族の退院への不安を軽減するための支援	轟 木 由加里
		富 澤 はるみ
		山 崎 綾 美
		荻 野 健 太
		岡 田 美 和
21	病院説明会等のアピールポイント作成	丸 山 美 幸
22	当院における凝固時間検査の現状	新 井 菜津子
23	厚生労働省の産前・産後サポートガイドラインに沿って、出産後の母子に対する心身のケアや育児サポートを行うために産後ケアを実施する	天 田 美枝子
		野 田 暁 子
24	ATP 検査キットを使用した厨房内の衛生状態の調査	神 保 直 樹
		島 田 純 子
		磯 田 有 香
		萩 原 勝 代
25	腹腔鏡手術における気腹前後における呼吸パラメータの検討	黒 岩 陽 介
26	心臓外科手術中の経食道心エコー施行時における blind zone の術前 CT による予測因子の検討	松 本 直 樹
27	尿培養検査を見直す	三 宅 妙 子
28	脊髄性筋萎縮症 (SMA) 患児のリハビリテーションプログラム及び効果の検討	六本木 温 子
29	小児先天性心疾患手術後患者における ADL 拡大に関する調査	熊 丸 めぐみ
		千 明 桃 子
		友 保 貴 博
30	産後 2 週間健診を効果的に実施するための環境整備	高 橋 洋 子
		千 明 理 恵
31	H.influenzae の検査法の比較検討	宮 下 新 菜
		三 宅 妙 子
32	小児医療センター看護部の看護研究支援体制整備	金 子 友 香
33	小児撮影ポジショニングのトレーニング用ファントムの作成	佐々木 保
34	情緒の発達を促すための行事の実施	宮 嶋 佑 紀
		川 浦 彰 子
		藤 井 勇 気
35	氷点降下法による測定と、簡易式により概算される血清浸透圧の整合性の検討	桐 生 拓 哉
36	障害者歯科治療における歯科用 NiTi ファイルの有用性について	大 嶋 瑛
37	小児や障害児 (者) における視覚的アプローチを用いたプレバレーションの作成	若 井 美 佳
		瀬 下 愛 子
		坂 口 真 弓
		楠 幸 代
38	RhD 抗原欠損による膜タンパク質 CD47 への影響	神 宮 大 輝

No.	研 究 テ ー マ	氏 名
39	タブレットを使用した在宅呼吸器説明資料作成	下 田 隼 人
40	光や音を用いた入院生活のストレス軽減	浅 見 真 生
		田部井 美 玖
41	停留精巣術後微小石灰化と精巣発達の関連について	西 明
42	PICU 病棟でのきょうだい支援について	曾 根 ちひろ
		石 関 梨 華
		黒 田 佐 織
43	入院における便培養検査の3日ルールの検証	森 谷 晃
44	当院での放射線業務に関わる医療従事者の水晶体被ばくの実態把握	田 中 梨 恵
45	医師の勤務形態と血糖値の関連	高 本 尚 弘
46	病気の子どものきょうだい支援活動	原 田 育 江
		石 関 梨 華
		石 井 理 恵
		小 林 洋 子
		石 坂 泰 子
		都 丸 八重子
	朴 明 子	
47	帝王切開術中のオキシトシン投与による ST 変化と循環動態変動の検討	山 崎 聡 子
48	人工呼吸管理中の経肺圧の測定	下 山 伸 哉
		深 町 直 之
		下 田 隼 人

2 院外研究費による研究

(1) 県立病院総合研究(群馬県)(令和元年度)

- 1) 小児便秘症患者に対する食事療法の検討—食物繊維摂取量を考慮した栄養指導の効果及び牛乳アレルギーの関与について—. 主任研究者: 磯田有香. 副主任研究者: 高澤慎也. 分担研究者: 神保裕子, 高本尚弘, 西 明, 清水真理子, 山田佳之.
- 2) 小児外科用シュミレータを用いた胆管空腸吻合の練習効果の検討. 主任研究者: 高本尚弘. 副主任研究者: 西 明, 高澤慎也. 分担研究者: 小山亮太.
- 3) うっ滞性腸炎の高リスク疾患群における食事内容と腸内細菌叢の関連についての研究. 主任研究者: 高澤慎也. 副主任研究者: 西 明. 分担研究者: 高本尚弘.

(2) その他院外研究費による研究

- 1) 山田佳之. 令和元年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究C(一般). ウイルス感染喘息の病態における自然型及び獲得型アレルギーの病態解明と新規制御機構の検討. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 加藤政彦.
- 2) 山田佳之. 令和元年度厚生労働省厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業). 好酸球性消化管疾患, 重症持続型の根本治療, 多種食物同時除去療法の診療体制構築に関する研究. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 野村伊知郎.
- 3) 山田佳之. 令和元年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構研究費(革新的医療技術創出拠点プロジェクト, 橋渡し研究戦略的推進プログラム: シーズA). 3次元構造マイクロファイバーによる白血病微小残存病変モニタリング—がん(悪性腫瘍)の転移・再発指標としての血中循環腫瘍細胞モニタリングへの発展に向けて—. 研究分担者: 山田佳之, 研究代表者: 高井まどか.
- 4) 山田佳之. 令和元年度県立病院総合研究. 小児便秘症患者に対する食事療法の検討—食物繊維摂取量を考慮した栄養指導の効果及び牛乳アレルギーの関与について—. 分担研究者: 山田佳之, 主任研究者: 磯田有香.

統計編

1 管理業務

(1) 会 計

①経営分析

区 分		単位	令和元年度	平成 30 年度		
病 床	利 用 率	%	71.9	76.2		
患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	入 院	人	107.8	114.2	
		外 来	人	198.5	197.7	
	外 来 入 院 比 率		%	120.7	115.7	
	職 員 1 人 1 日 当 り 患 者 数	医 師	入 院	人	2.3	2.6
			外 来	人	4.3	4.5
		看 護 師	入 院	人	0.5	0.5
外 来			人	0.9	0.9	
収 入	患 者 1 人 1 日 当 り 診 療 収 入	入 院 診 療 収 入		円	86,660	85,762
		う ち	薬 品 収 入	円	4,895	6,197
			検 査 収 入	円	950	729
			放 射 線 収 入	円	151	130
		外 来 診 療 収 入		円	17,285	16,019
		う ち	薬 品 収 入	円	4,587	3,746
			検 査 収 入	円	2,748	2,702
			放 射 線 収 入	円	932	911
費 用	患 者 1 人 1 日 当 り 材 料 費	材 料 費		円	12,984	12,538
		う ち	薬 品 費	円	7,680	7,391
			診 療 材 料 費	円	5,004	4,855
診 療 収 入 に 対 する 割 合	投 薬 ・ 注 射 収 入		%	9.7	10.1	
	検 査 収 入		%	4.0	3.7	
	放 射 線 収 入		%	1.2	1.1	
対 医 業 収 益 比	医 療 材 料 費	薬 品 費		%	15.3	14.8
		そ の 他 の 医 療 材 料 費		%	10.0	9.8
		計		%	25.3	24.7
	職 員 給 与 費		%	81.5	77.3	
検 査 の 状 況	患 者 100 人 当 り	検 査 件 数		件	527	522
		放 射 線 件 数		件	40	40
	検 査 技 師 1 人 当 り	検 査 件 数		件	41,763	46,990
		検 査 収 入		千円	15,307	16,071
	X 線 技 師 1 人 当 り	放 射 線 件 数		件	5,998	5,998
		放 射 線 収 入		千円	8,393	8,226

29 年度	28 年度	27 年度	26 年度	25 年度	24 年度
70.9	71.4	73.5	69.2	73.5	74.3
106.3	107.1	110.3	103.8	110.2	111.4
189.9	190.7	193.9	191.2	190.8	189.1
119.4	118.5	116.7	123.1	115.7	113.9
2.6	2.4	2.5	2.4	2.4	2.7
4.6	4.3	4.3	4.4	4.2	4.5
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.8
84,584	81,467	80,675	87,441	78,463	79,433
3,366	1,861	1,917	2,002	5,656	6,483
736	945	762	684	1,080	1,134
141	157	108	124	489	468
16,557	16,854	16,636	15,614	15,437	14,100
4,648	4,781	5,140	4,393	4,540	4,014
2,706	2,574	2,407	2,262	2,303	2,059
973	952	830	842	791	779
12,815	11,940	11,885	12,412	11,415	11,252
7,365	6,683	6,528	6,490	5,057	6,256
5,113	4,939	5,040	5,624	4,840	4,996
8.5	7.4	7.9	6.9	11.3	11.2
3.8	3.9	3.6	3.3	3.9	3.4
1.2	1.3	1.1	1.1	1.5	1.3
15.0	13.9	13.6	13.1	13.6	13.5
10.5	10.4	11.2	11.9	11.0	10.8
25.5	24.3	24.8	25.0	24.6	24.2
81.4	85.1	81.0	78.7	78.7	75.6
552	548	509	519	481	476
42	39	47	45	43	41
42,742	42,528	37,115	39,911	37,959	41,417
13,992	14,204	12,013	11,951	13,698	14,152
5,896	5,614	6,793	6,393	6,257	5,873
8,428	8,381	7,244	7,333	9,417	9,189

②収益的收入及び支出

科 目	年 度	令和元年度		平成 30 年度		29 年 度	
		決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
病 院 事 業 収 益		6,319,790	100.0	6,402,746	100.0	5,961,445	100.0
医 業 収 益		4,383,884	69.4	4,482,505	70.0	4,182,516	70.2
入 院 収 益		3,420,381	54.1	3,576,199	55.9	3,281,682	55.0
外 来 収 益		823,283	13.0	772,753	12.1	767,134	12.9
そ の 他 医 業 収 益		140,220	2.2	133,553	2.1	133,700	2.2
医 業 外 収 益		1,920,837	30.4	1,920,241	30.0	1,778,930	29.8
受 取 利 息 配 当 金		108	0.0	99	0.0	100	0.0
補 助 金		18,508	0.3	19,650	0.3	19,486	0.3
負 担 金 ・ 交 付 金		1,471,043	23.3	1,460,339	22.8	1,331,884	22.3
長 期 前 受 金 戻 入		275,018	4.4	251,611	3.9	256,644	4.3
そ の 他 医 業 外 収 益		156,160	2.5	188,541	2.9	170,815	2.9
特 別 利 益		15,069	0.2	0	0.0	0	0.0
病 院 事 業 費 用		6,509,005	100.0	6,342,390	100.0	6,132,370	100.0
医 業 費 用		6,384,197	98.1	6,208,675	97.9	6,024,962	98.2
給 与 費		3,573,702	54.9	3,462,612	54.6	3,404,643	55.5
材 料 費		1,130,922	17.4	1,127,676	17.8	1,090,952	17.8
経 費		1,138,901	17.5	1,125,771	17.7	1,031,407	16.8
減 価 償 却 費		490,824	7.5	445,725	7.0	453,151	7.4
資 産 減 耗 費		12,413	0.2	11,320	0.2	5,113	0.1
研 究 研 修 費		37,437	0.6	35,572	0.6	39,695	0.6
医 業 外 費 用		108,471	1.7	103,383	1.6	107,408	1.8
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費		10,022	0.2	13,849	0.2	15,155	0.2
母 子 保 健 指 導 費		403	0.0	193	0.0	201	0.0
雑 損 失		98,045	1.5	89,341	1.4	92,053	1.5
特 別 損 失		16,337	0.3	30,332	0.5	0	0.0
収 支 差		▲ 189,215		60,356		▲ 170,925	

(単位：千円・%)

28年度		27年度		26年度		25年度		24年度	
決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
5,839,593	100.0	5,894,218	100.0	5,966,108	100.0	5,677,776	100.0	5,644,941	100.0
4,102,408	70.3	4,192,060	71.1	4,200,095	70.4	4,033,456	71.0	4,037,532	71.5
3,185,180	54.5	3,256,138	55.2	3,313,567	55.5	3,156,562	55.6	3,230,146	57.2
781,018	13.4	783,789	13.3	728,444	12.2	718,698	12.7	653,336	11.6
136,210	2.3	152,133	2.6	158,083	2.6	158,196	2.8	154,050	2.7
1,736,409	29.7	1,702,141	28.9	1,765,729	29.6	1,644,320	29.0	1,607,409	28.5
171	0.0	541	0.0	524	0.0	479	0.0	333	0.0
19,751	0.3	19,597	0.3	20,106	0.3	43,925	0.8	42,283	0.7
1,309,745	22.4	1,327,036	22.5	1,361,337	22.8	1,478,695	26.0	1,441,863	25.5
249,955	4.3	237,182	4.0	235,035	3.9				
156,786	2.7	117,785	2.0	148,727	2.5	121,221	2.1	122,930	2.2
777	0.0	17	0.0	284	0.0	0	0.0	0	0.0
6,103,576	100.0	5,988,480	100.0	7,186,361	100.0	5,485,445	100.0	5,311,825	100.0
5,980,166	98.0	5,847,341	97.6	5,777,535	80.4	5,382,080	98.1	5,180,352	102.6
3,491,030	57.2	3,394,094	56.7	3,305,522	46.0	3,175,105	57.9	3,053,602	60.5
1,020,160	16.7	1,039,635	17.4	1,049,436	14.6	990,649	18.1	978,925	19.4
982,641	16.1	955,823	16.0	970,270	13.5	950,423	17.3	871,021	17.2
416,370	6.8	405,399	6.8	404,954	5.6	220,381	4.0	235,228	4.7
24,189	0.4	9,531	0.2	5,730	0.1	4,779	0.1	7,232	0.1
45,775	0.7	42,859	0.7	41,623	0.6	40,743	0.7	34,344	0.7
92,321	1.5	110,000	1.8	102,502	1.4	102,917	1.9	116,238	2.3
15,945	0.3	17,154	0.3	17,203	0.2	18,830	0.3	20,602	0.4
116	0.0	363	0.0	339	0.0	440	0.0	774	0.0
76,260	1.2	92,482	1.5	84,960	1.2	83,647	1.5	94,862	1.9
31,089	0.5	31,139	0.5	1,306,324	18.2	448	0.0	15,235	0.3
▲ 263,984		▲ 94,261		▲ 1,220,252		192,331		333,116	

③月別医業収益内訳

区分		月別						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入院 収益	入院料	131,961,348	152,795,921	193,858,605	257,203,904	214,032,591	220,084,055	205,679,347
	給食料	3,254,019	3,669,670	4,377,168	4,793,136	4,209,921	4,690,134	4,243,543
	投薬	875,170	731,860	1,058,801	843,067	1,067,252	1,075,822	1,004,815
	注射	16,761,120	7,161,550	4,424,708	15,339,842	46,875,682	9,740,953	4,454,762
	処置及び手術	49,795,120	58,075,910	71,157,029	85,951,829	75,576,855	78,485,870	56,297,451
	検査	3,772,180	4,395,190	2,311,296	3,007,657	5,230,318	5,075,354	3,704,875
	X線	467,060	420,400	729,769	681,016	900,551	759,904	285,698
	その他	4,029,830	3,305,040	4,222,763	4,216,384	2,997,692	3,745,142	3,603,411
	計	210,915,847	230,555,541	282,140,139	372,036,835	350,890,862	323,657,234	279,273,902
外来 収益	初診料	1,396,840	1,418,700	1,492,627	1,936,447	1,803,535	1,286,918	1,615,148
	再診料	5,078,710	4,872,670	4,988,572	5,517,630	5,532,612	4,935,962	5,191,017
	投薬	155,160	1,609,730	146,150	186,552	181,823	643,858	338,296
	注射	455,080	692,430	155,145	17,565,349	23,364,731	26,913,110	32,577,313
	処置及び手術	2,487,580	4,047,730	3,968,847	2,815,064	3,701,249	4,120,298	4,745,036
	検査	10,221,970	9,820,080	9,796,795	13,439,654	13,009,452	10,561,831	10,583,871
	X線	3,550,090	2,965,580	3,207,637	4,879,685	4,634,525	2,961,919	3,853,973
	その他	26,614,585	24,826,043	28,432,887	25,423,819	23,112,931	24,176,200	27,113,162
	計	49,960,015	50,252,963	52,188,660	71,764,200	75,340,858	75,600,096	86,017,816
その他	8,145,532	12,270,960	8,764,028	10,489,194	9,382,081	8,780,434	10,297,291	
合計	269,021,394	293,079,464	343,092,827	454,290,229	435,613,801	408,037,764	375,589,009	

(単位：円・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和元年度計	平成30年度計	対前年比
194,543,038	216,252,741	169,042,427	163,945,975	199,250,064	2,318,650,016	2,481,747,896	93.4
4,075,230	4,284,660	4,287,654	3,525,525	3,836,933	49,247,593	51,873,115	94.9
1,458,240	1,606,578	929,258	943,065	2,635,251	14,229,179	12,920,763	110.1
4,153,258	15,670,666	26,504,194	2,494,833	25,391,742	178,973,310	245,503,296	72.9
49,150,051	41,683,136	68,857,600	69,126,657	62,364,601	766,522,109	700,228,621	109.5
2,288,292	1,593,855	1,314,270	2,387,450	2,415,656	37,496,393	30,385,663	123.4
289,754	205,108	336,687	420,251	460,009	5,956,207	5,421,119	109.9
4,351,949	3,370,001	3,788,191	5,928,570	5,747,370	49,306,343	48,118,106	102.5
260,309,812	284,666,745	275,060,281	248,772,326	302,101,626	3,420,381,150	3,576,198,579	95.6
1,487,796	1,443,116	1,541,248	1,303,966	1,324,248	18,050,589	19,890,880	90.7
4,953,830	5,245,560	5,135,547	4,702,688	5,514,891	61,669,689	61,743,862	99.9
179,404	145,802	169,927	197,324	281,076	4,235,102	6,275,309	67.5
26,488,888	34,690,211	37,815,078	12,076,988	1,431,854	214,226,177	174,416,065	122.8
3,085,112	4,465,823	3,686,662	4,055,031	3,990,587	45,169,019	48,231,445	93.7
10,026,514	11,419,920	10,828,052	9,879,200	11,290,406	130,877,745	130,319,625	100.4
3,441,740	4,157,236	3,708,359	3,152,554	3,888,573	44,401,871	43,937,445	101.1
20,270,282	26,584,692	28,563,923	23,594,189	25,939,767	304,652,480	287,938,819	105.8
69,933,566	88,152,360	91,448,796	58,961,940	53,661,402	823,282,672	772,753,450	106.5
8,022,157	7,730,204	11,729,674	4,751,710	38,788,240	139,151,505	133,552,590	104.2
338,265,535	380,549,309	378,238,751	312,485,976	394,551,268	4,382,815,327	4,482,504,619	97.8

2 診療業務

(1) 総括表

区 分			令和元年度	平成 30 年度	29 年 度
外 来	診 療 日 数	A	240 日	244 日	244 日
	新 患 者 数	B	3,301 人	3,284 人	3,007 人
	延 患 者 数	C	47,630 人	48,239 人	46,334 人
	平 均 通 院 日 数	D C/B	14.4 日	14.7 日	15.4 日
	日 平 均 新 患 者 数	E B/A	13.8 人	13.5 人	12.3 人
	日 平 均 患 者 数	F C/A	198.5 人	197.7 人	189.9 人
入 院	診 療 日 数	G	366 日	365 日	365 日
	病 床 数	H	150 床	150 床	150 床
	新 入 院 患 者 数	I	3,294 人	3,311 人	3,021 人
	退 院 患 者 数	J	3,307 人	3,297 人	3,033 人
	延 入 院 患 者 数	K	39,469 人	41,699 人	38,798 人
	病 床 利 用 率	L $K/G/H*100$	71.9%	76.2%	70.9%
	病 床 回 転 率	M $\{(I+J)*1/2\}/H/L$	30.6 回	28.9 回	28.5 回
	平 均 在 院 日 数	N $K/\{(I+J)/2\}$	12.0 日	12.6 日	12.8 日
	外 来 入 院 比 率	O $C/K*100$	120.7%	115.7%	119.4%
	入 院 率	P $I/B*100$	99.8%	100.8%	100.5%
	日 平 均 新 入 院 数	Q I/G	9.0 人	9.1 人	8.3 人
	日 平 均 患 者 数	R K/G	107.8 人	114.2 人	106.3 人

28 年度	27 年度	26 年度	25 年度	24 年度	23 年度
243 日	243 日	244 日	244 日	245 日	244 日
3,141 人	3,333 人	3,143 人	3,145 人	2,934 人	2,763 人
46,340 人	47,114 人	46,654 人	46,558 人	46,337 人	45,070 人
14.8 日	14.1 日	14.8 日	14.8 日	15.8 日	16.3 日
12.9 人	13.7 人	12.9 人	12.9 人	12.0 人	11.3 人
190.7 人	193.9 人	191.2 人	190.8 人	189.1 人	184.7 人
365 日	366 日	365 日	365 日	365 日	366 日
150 床					
3,026 人	3,084 人	2,954 人	2,778 人	2,757 人	2,696 人
3,025 人	3,075 人	2,948 人	2,788 人	2,761 人	2,695 人
39,098 人	40,361 人	37,895 人	40,230 人	40,665 人	41,632 人
71.4%	73.5%	69.2%	73.5%	74.3%	75.8%
28.2 回	27.9 回	28.4 回	25.2 回	24.8 回	23.7 回
12.9 日	13.1 日	12.8 日	14.5 日	14.7 日	15.4 日
118.5%	116.7%	123.1%	115.7%	113.9%	108.3%
96.3%	92.5%	94.0%	88.3%	94.0%	97.6%
8.3 人	8.4 人	8.1 人	7.6 人	7.6 人	7.4 人
107.1 人	110.3 人	103.8 人	110.2 人	111.4 人	113.7 人

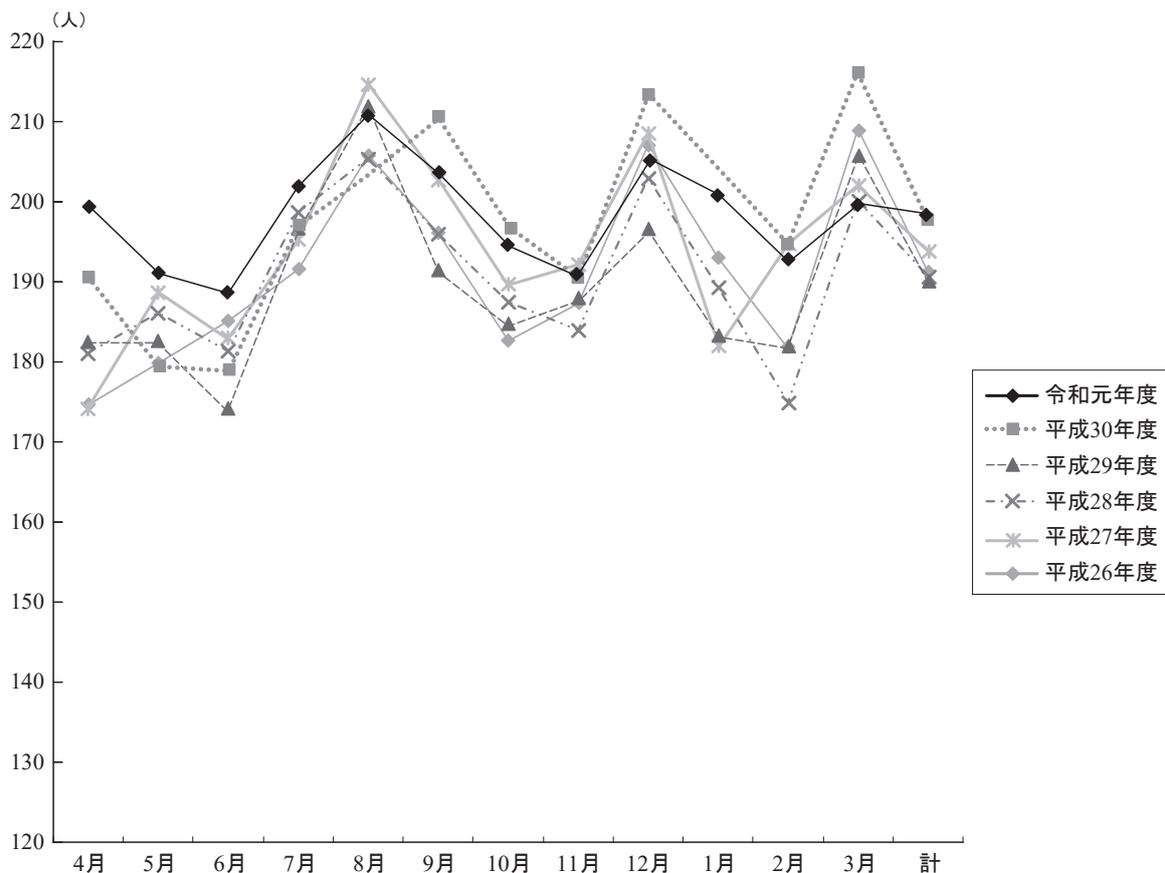
(2) 月別・科別外来患者受診の状況（人）

区分	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	一般内科	初診	55	51	48	56	68	49
	再診	183	157	149	219	207	155	186
	延数	238	208	197	275	275	204	239
内分泌代謝科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	65	36	36	68	47	40	58
	延数	65	36	36	68	47	40	58
腎臓内科	初診	1	1	0	2	2	0	0
	再診	67	59	47	89	84	56	58
	延数	68	60	47	91	86	56	58
アレルギー 感染免疫科	初診	7	6	4	7	8	7	4
	再診	225	231	188	230	202	212	216
	延数	232	237	192	237	210	219	220
血液腫瘍科	初診	3	4	2	2	0	2	2
	再診	83	59	52	113	87	56	71
	延数	86	63	54	115	87	58	73
リハビリ	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	415	414	458	470	433	403	455
	延数	415	414	458	470	433	403	455
小児精神科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	12	13	12	15	9	10	16
	延数	12	13	12	15	9	10	16
遺伝科	初診	0	2	3	4	1	1	3
	再診	26	24	34	21	44	19	20
	延数	26	26	37	25	45	20	23
眼科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	3	7	8	6	9	9	8
	延数	3	7	8	6	9	9	8
耳鼻咽喉科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	32	22	25	29	20	23	23
	延数	32	22	25	29	20	23	23
循環器科	初診	27	31	39	64	61	43	42
	再診	396	369	378	579	523	521	513
	延数	423	400	417	643	584	564	555
神経内科	初診	13	12	11	6	11	8	11
	再診	340	284	341	358	334	304	353
	延数	353	296	352	364	345	312	364
一般外科	初診	37	36	27	40	32	33	41
	再診	373	344	361	425	475	358	363
	延数	410	380	388	465	507	391	404
形成外科	初診	35	33	40	41	51	43	43
	再診	321	300	334	300	336	323	303
	延数	356	333	374	341	387	366	346
整形外科	初診	17	16	16	20	14	14	15
	再診	330	208	234	267	328	283	236
	延数	347	224	250	287	342	297	251
脳神経外科	初診	0	0	0	0	0	0	0
	再診	1	4	9	4	0	0	1
	延数	1	4	9	4	0	0	1
新生児科	初診	25	25	31	26	23	27	28
	再診	277	263	258	277	318	272	327
	延数	302	288	289	303	341	299	355
産科	初診	43	29	38	42	46	41	24
	再診	214	226	221	248	251	242	261
	延数	257	255	259	290	297	283	285
歯科	初診	18	20	19	22	16	19	20
	再診	346	349	347	393	390	295	335
	延数	364	369	366	415	406	314	355
合計	初診	281	266	278	332	333	287	286
	再診	3,709	3,369	3,492	4,111	4,097	3,581	3,803
	延数	3,990	3,635	3,770	4,443	4,430	3,868	4,089
診療実日数		20	19	20	22	21	19	21
日平均患者数		199.5	191.3	188.5	202.0	211.0	203.6	194.7

(単位：人・%)

11月	12月	1月	2月	3月	令和元年度計	平成30年度計	対前年比
41	35	51	35	17	559	526	106.3
194	193	195	175	182	2,195	2,369	92.7
235	228	246	210	199	2,754	2,895	95.1
0	0	0	0	0	0	0	—
41	43	46	31	68	579	660	87.7
41	43	46	31	68	579	660	87.7
2	0	2	1	0	11	14	78.6
58	72	64	47	78	779	795	98.0
60	72	66	48	78	790	809	97.7
7	5	6	3	5	69	44	156.8
189	230	188	181	224	2,516	2,387	105.4
196	235	194	184	229	2,585	2,431	106.3
1	0	1	2	1	20	21	95.2
57	65	71	74	75	863	915	94.3
58	65	72	76	76	883	936	94.3
0	0	0	0	0	0	0	—
440	476	437	395	418	5,214	5,976	87.2
440	476	437	395	418	5,214	5,976	87.2
0	0	0	0	0	0	2	0.0
9	12	14	12	17	151	183	82.5
9	12	14	12	17	151	185	81.6
1	1	1	1	5	23	18	127.8
31	33	33	21	36	342	219	156.2
32	34	34	22	41	365	237	154.0
0	0	0	0	0	0	0	—
9	7	6	15	6	93	95	97.9
9	7	6	15	6	93	95	97.9
0	0	0	0	0	0	1	0.0
22	25	21	18	23	283	319	88.7
22	25	21	18	23	283	320	88.4
36	41	24	22	17	447	477	93.7
466	484	428	381	444	5,482	5,221	105.0
502	525	452	403	461	5,929	5,698	104.1
10	6	12	8	14	122	137	89.1
307	331	321	307	366	3,946	4,048	97.5
317	337	333	315	380	4,068	4,185	97.2
38	38	30	26	38	416	468	88.9
385	389	343	344	443	4,603	4,648	99.0
423	427	373	370	481	5,019	5,116	98.1
36	47	37	29	47	482	449	107.3
313	364	301	278	367	3,840	3,909	98.2
349	411	338	307	414	4,322	4,358	99.2
10	13	9	11	11	166	197	84.3
198	248	228	232	364	3,156	3,358	94.0
208	261	237	243	375	3,322	3,555	93.4
0	0	0	0	0	0	0	—
0	1	2	1	4	27	21	128.6
0	1	2	1	4	27	21	128.6
29	26	33	18	18	309	316	97.8
282	316	301	249	276	3,416	3,432	99.5
311	342	334	267	294	3,725	3,748	99.4
40	39	33	37	40	452	416	108.7
223	213	213	177	214	2,703	2,325	116.3
263	252	246	214	254	3,155	2,741	115.1
20	17	18	16	20	225	198	113.6
319	337	350	320	360	4,141	4,075	101.6
339	354	368	336	380	4,366	4,273	102.2
271	268	257	209	233	3,301	3,284	100.5
3,543	3,839	3,562	3,258	3,965	44,329	44,955	98.6
3,814	4,107	3,819	3,467	4,198	47,630	48,239	98.7
20	20	19	18	21	240	244	98.4
190.7	205.4	201.0	192.6	199.9	198.5	197.7	100.4

◆1日平均外来患者の状況



(単位：人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和元年度	199.5	191.3	188.5	202.0	211.0	203.6	194.7	190.7	205.4	201.0	192.6	199.9	198.5
平成30年度	190.7	179.4	179.0	197.0	203.5	210.4	196.9	190.4	213.5	204.2	194.9	216.3	197.7
29年度	182.3	182.4	173.7	196.3	212.0	191.2	184.4	187.7	196.3	181.7	181.7	205.8	189.6
28年度	181.1	186.1	181.3	198.7	205.4	196.0	187.5	184.0	202.9	189.3	174.9	200.1	190.7
27年度	174.0	188.7	182.8	195.0	214.7	202.8	189.7	192.1	208.6	181.8	194.7	202.2	193.9
26年度	174.7	179.9	185.1	191.5	205.8	196.1	182.6	187.3	207.1	193.0	181.7	209.1	191.2

(3) 月別入退院患者数

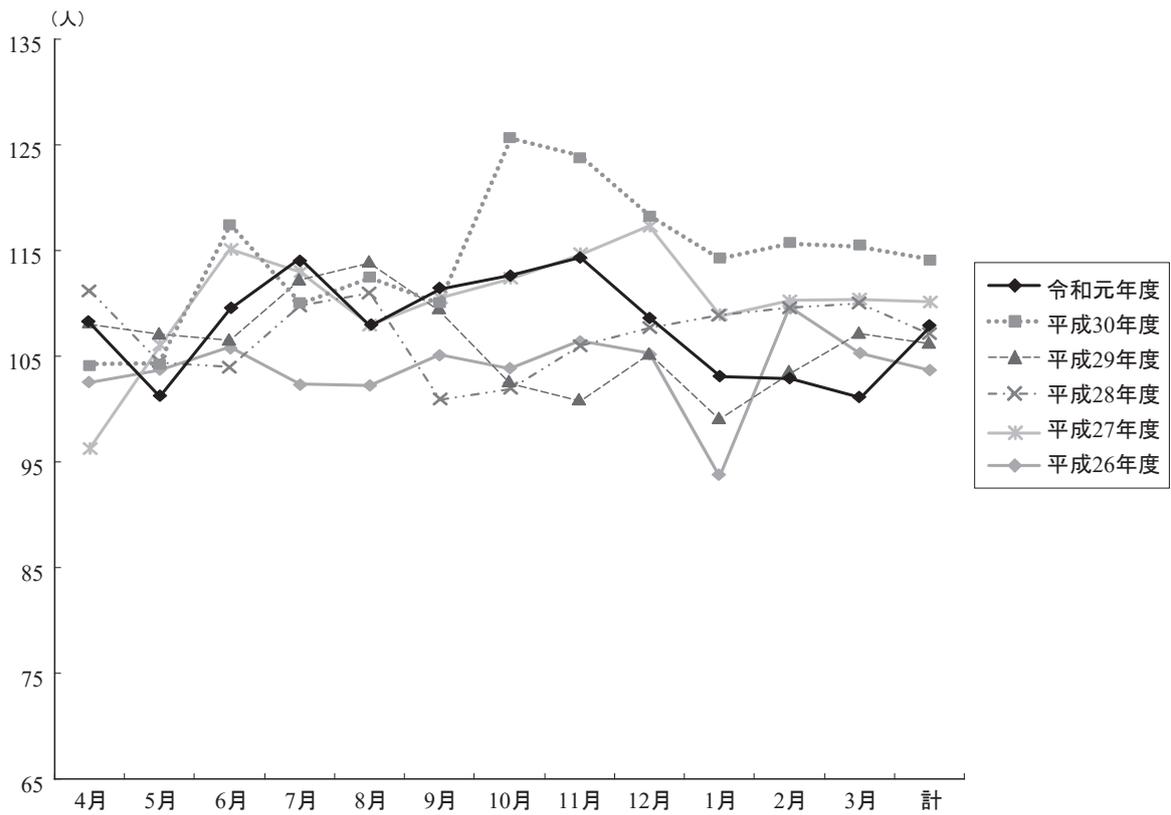
(単位：人・%)

病棟	月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和元 年度計	平成30 年度計	対前年 比
		第	入院	(6) 72	(4) 83	(7) 71	(6) 79	(4) 90	(7) 75	(2) 98	(8) 93	(7) 73	(5) 66	(2) 72	(5) 66	(63) 938
一	退院	(1) 80		(2) 79	(3) 81	(5) 89	(4) 74	(2) 98	(7) 97	(3) 82	(2) 67	(3) 71	(1) 71	(33) 974	(38) 1,014	96.1
	月末在院者数	20	22	19	20	20	24	24	21	16	18	18	17			
	延患者数	705	737	708	749	720	743	823	755	751	689	639	646	8,665	8,804	98.4
	1日平均	23.5	23.8	23.6	24.2	23.2	24.8	26.5	25.2	24.2	22.2	22.0	20.8	23.7	24.1	98.2
第	入院	(4) 93	(5) 80	(10) 102	(13) 108	(7) 111	(9) 98	(8) 100	(5) 87	(9) 98	(11) 88	(10) 92	(7) 103	(98) 1,160	(112) 1,141	101.7
二	退院	(6) 93	(5) 80	(12) 101	(13) 96	(6) 122	(9) 97	(8) 95	(6) 95	(14) 94	(10) 86	(11) 87	(7) 105	(107) 1,151	(103) 1,154	99.7
	月末在院者数	12	12	11	23	13	14	19	10	9	12	16	14			
	延患者数	509	452	582	662	655	572	643	574	582	546	552	626	6,955	8,103	85.8
	1日平均	17.0	14.6	19.4	21.4	21.1	19.1	20.7	19.1	18.8	17.6	19.0	20.2	19.0	22.2	85.6
第	入院	(10) 48	(9) 42	(12) 56	(10) 56	(17) 47	(12) 47	(14) 58	(18) 52	(13) 32	(12) 41	(12) 44	(13) 39	(152) 562	(135) 538	104.5
三	退院	(7) 57	(8) 38	(12) 57	(8) 54	(10) 59	(12) 43	(11) 61	(9) 61	(9) 48	(11) 34	(8) 50	(11) 38	(116) 600	(111) 556	107.9
	月末在院者数	17	22	21	25	20	24	24	24	12	20	18	21			
	延患者数	631	641	729	761	746	626	702	726	681	574	638	715	8,170	8,281	98.7
	1日平均	21.0	20.7	24.3	24.5	24.1	20.9	22.6	24.2	22.0	18.5	22.0	23.1	22.3	22.7	98.4
P	入院	(12) 3	(10) 4	(22) 4	(18) 5	(16) 3	(20) 2	(17) 3	(13) 7	(15) 2	(18) 3	(18) 1	(19) 4	(198) 41	(202) 59	69.5
I	退院	(14) 1	(13) 2	(24)	(20) 3	(21)	(20) 1	(19) 1	(20)	(16) 1	(20)	(19)	(22)	(228) 10	(249) 11	90.9
C	月末在院者数	6	5	7	7	5	6	6	6	6	7	7	7			
U	延患者数	207	183	213	216	187	194	167	199	181	193	200	215	2,355	2,321	101.5
	1日平均	6.9	5.9	7.1	7.0	6.0	6.5	5.4	6.6	5.8	6.2	6.9	6.9	6.4	6.4	101.2
新	入院	23	23	29	24	20	26	29	24	20	34	17	17	286	290	98.6
生	退院	(4) 25	(2) 23	(1) 26	(3) 22	(2) 17	(3) 24	(1) 21	(3) 25	(2) 22	(3) 23	(1) 24	(3) 17	(28) 269	(22) 266	101.1
児	月末在院者数	25	23	25	24	25	24	31	27	23	31	23	20			
・	延患者数	892	817	731	823	715	878	873	913	827	904	756	656	9,785	10,927	89.5
未	1日平均	29.7	26.4	24.4	26.5	23.1	29.3	28.2	30.4	26.7	29.2	26.1	21.2	26.7	29.9	89.3
熟	入院	25	26	22	32	31	25	27	(1) 22	34	28	15	20	(1) 307	(3) 299	102.7
児	退院	24	27	22	31	29	24	33	23	32	28	13	17	303	(2) 296	102.4
科	月末在院者数	8	7	7	8	10	11	5	5	7	7	9	12			
	延患者数	298	304	319	329	320	325	283	262	342	288	195	274	3,539	3,263	108.5
	1日平均	9.9	9.8	10.6	10.6	10.3	10.8	9.1	8.7	11.0	9.3	6.7	8.8	9.7	8.9	108.2
合	入院	(32) 264	(28) 258	(51) 284	(47) 304	(44) 302	(48) 273	(41) 315	(45) 285	(44) 259	(46) 260	(42) 241	(44) 249	(512) 3,294	(525) 3,311	99.5
計	退院	(32) 280	(28) 255	(51) 285	(47) 287	(44) 316	(48) 263	(41) 309	(45) 301	(44) 279	(46) 238	(42) 245	(44) 249	(512) 3,307	(525) 3,297	100.3
	月末在院者数	88	91	90	107	93	103	109	93	73	95	91	91			
	延患者数	3,242	3,134	3,282	3,540	3,343	3,338	3,491	3,429	3,364	3,194	2,980	3,132	39,469	41,699	94.7
	1日平均	108.1	101.1	109.4	114.2	107.8	111.3	112.6	114.3	108.5	103.0	102.8	101.0	107.8	114.2	94.4
	病床利用率	72.0	67.4	72.9	76.1	71.9	74.2	75.1	76.2	72.3	68.7	68.5	67.4	71.9	76.2	94.4

(注) 入院・退院欄の上段は転棟患者数

病床利用率は、運用病床数150床で算出

◆1日平均入院患者の状況



(単位：人)

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和元年度	108.1	101.1	109.4	114.2	107.8	111.3	112.6	114.3	108.5	103.0	102.8	101.0	107.8
平成30年度	104.2	104.2	117.6	109.9	112.5	109.9	125.5	124.1	118.2	114.2	115.6	115.2	114.2
29年度	108.1	107.1	106.5	112.2	113.9	109.4	102.4	100.8	105.3	99.1	103.3	107.2	106.3
28年度	111.2	104.4	104.0	109.8	111.0	100.9	101.9	106.0	107.7	108.9	109.6	110.0	107.1
27年度	96.2	105.9	115.3	113.0	108.0	110.5	112.3	114.7	117.5	108.8	110.4	110.5	110.3
26年度	102.6	103.8	105.9	102.5	102.3	105.2	103.9	106.5	105.3	93.6	109.7	105.4	103.8

(4) 市保健所・保健福祉事務所管内別新規登録患者数

(単位：人・%)

月別 管内別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和 元年度計	構 成 比	平成 30 年度計	対 前 年 比
前橋市	62	59	55	69	64	63	61	52	81	51	57	44	718	21.8	718	100.0
高崎市	60	45	52	58	64	46	49	64	40	41	36	71	626	19.0	589	106.3
安中	3	6	2	8	5	7	7	2	5	4	1	2	52	1.6	48	108.3
渋川	43	34	53	55	45	37	48	35	41	46	27	17	481	14.6	519	92.7
藤岡	1	3	6	11	8	3	6	1	3	3	3	10	58	1.8	71	81.7
富岡	3	4	2	3	7	8	9	1	3	2	2	5	49	1.5	61	80.3
吾妻	10	18	14	15	15	18	16	16	10	12	11	3	158	4.8	157	100.6
利根沼田	19	21	17	24	17	14	21	21	20	15	16	11	216	6.5	221	97.7
伊勢崎	28	30	38	38	33	47	36	29	15	28	26	23	371	11.2	349	106.3
桐生	6	6	9	4	14	5	10	10	9	10	10	9	102	3.1	102	100.0
太田	12	8	3	8	14	6	10	9	12	8	9	10	109	3.3	129	84.5
館林	1	4	3	5	2	7	2	0	3	2	0	8	37	1.1	38	97.4
県外	33	28	24	34	45	26	11	31	26	35	11	20	324	9.8	282	114.9
令和 元年度計	281	266	278	332	333	287	286	271	268	257	209	233	3,301	100.0	—	100.5
平成 30年度計	245	253	277	293	322	289	318	264	256	262	251	254	—	—	3,284	—

(注) この表は、当センターに初診で登録された患者の集計である。したがって、即入院患者数が含まれたものである。

◆地域別新規登録患者数

区 分	令和元年度	平成 30 年度	対前年比
総 計	3,301	3,284	100.5
市 計	2,440	2,473	98.7
町 村 計	538	529	101.7
県 外 計	323	282	114.5
前橋市保健所	718	718	100.0
前 橋 市	718	718	100.0
高崎市保健所	626	589	106.3
高 崎 市	626	589	106.3
安中保健福祉事務所	52	48	108.3
安 中 市	52	48	108.3
渋川保健福祉事務所	481	519	92.7
渋 川 市	286	327	87.5
榛 東 村	64	55	116.4
吉 岡 町	131	137	95.6
藤岡保健福祉事務所	58	71	81.7
藤 岡 市	58	69	84.1
神 流 町		2	—
上 野 村			—

区 分	令和元年度	平成 30 年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	49	61	80.3
富 岡 市	40	43	93.0
下 仁 田 町	3	1	300.0
南 牧 村			—
甘 楽 町	6	17	35.3
吾妻保健福祉事務所	158	157	100.6
中 之 条 町	49	48	102.1
東 吾 妻 町	55	36	152.8
長 野 原 町	18	18	100.0
嬭 恋 村	13	20	65.0
草 津 町	9	26	34.6
高 山 村	14	9	155.6
利根沼田保健福祉事務所	217	221	98.2
沼 田 市	129	139	92.8
片 品 村	7	13	53.8
川 場 村	14	4	350.0
み な か み 町	51	39	130.8
昭 和 村	16	26	61.5

(単位：人・%)

区 分	令和元年度	平成30年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	371	349	106.3
伊勢崎市	316	300	105.3
玉村町	55	49	112.2
桐生保健福祉事務所	102	102	100.0
桐生市	65	61	106.6
みどり市	37	41	90.2
太田保健福祉事務所	109	129	84.5
太田市	109	129	84.5
館林保健福祉事務所	37	38	97.4
館林市	4	9	44.4
板倉町		2	—
明和町	4		—
千代田町	3	2	150.0
大泉町	22	18	122.2
邑楽町	4	7	57.1

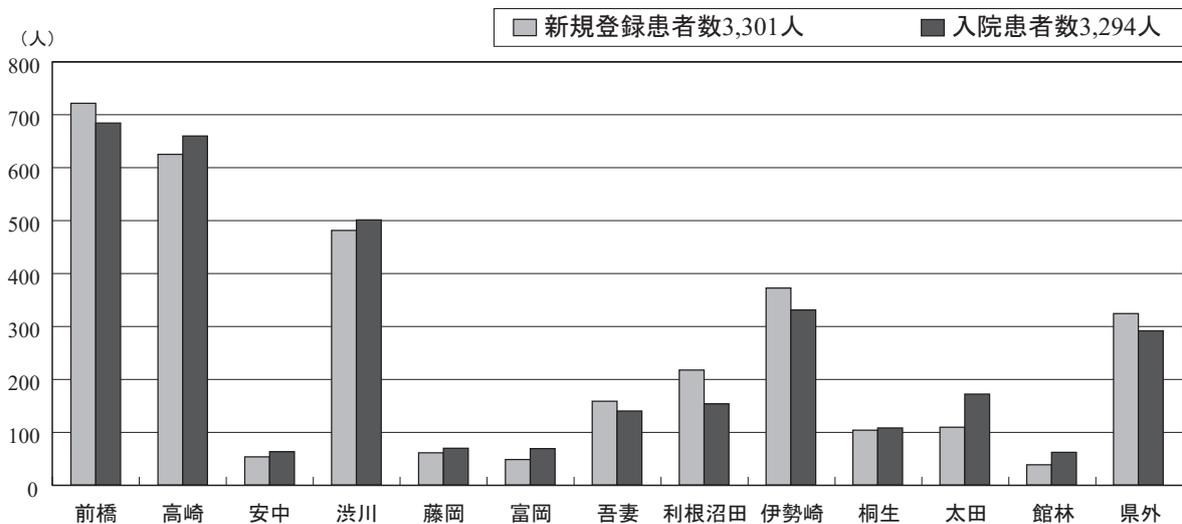
区 分	令和元年度	平成30年度	対前年比
県 外 計	323	282	114.5
北 海 道	6	1	600.0
宮 城 県	4		—
山 形 県	1		—
茨 城 県	4	7	57.1
栃 木 県	13	15	86.7
埼 玉 県	132	134	98.5
千 葉 県	14	16	87.5
東 京 都	88	69	127.5
神 奈 川 県	22	21	104.8
新 潟 県	6	1	600.0
富 山 県	1		—
山 梨 県	1	2	50.0
長 野 県	6	1	600.0
岐 阜 県	3		—
静 岡 県	4	5	80.0
愛 知 県	8	1	800.0
兵 庫 県	1	1	100.0
奈 良 県	1		—
和 歌 山 県	1		—
広 島 県	1	1	100.0
徳 島 県	1		—
福 岡 県	1		—
沖 縄 県	3		—
国 内 計	322	281	114.6
国 外	1	1	100.0

◆地域別入院患者の状況（再入院を含む）

区 分	令和元年度	平成 30 年度	対前年比
総 計	3,294	3,311	99.5
市 計	2,511	2,609	96.2
町 村 計	493	479	102.9
県 外 計	290	223	130.0
前橋市保健所	685	663	103.3
前 橋 市	685	663	103.3
高崎市保健所	659	714	92.3
高 崎 市	659	714	92.3
安中保健福祉事務所	62	83	74.7
安 中 市	62	83	74.7
渋川保健福祉事務所	499	480	104.0
渋 川 市	305	308	99.0
榛 東 村	70	62	112.9
吉 岡 町	124	110	112.7
藤岡保健福祉事務所	69	73	94.5
藤 岡 市	69	73	94.5
神 流 町			—
上 野 村			—

区 分	令和元年度	平成 30 年度	対前年比
富岡保健福祉事務所	69	83	83.1
富 岡 市	41	52	78.8
下 仁 田 町	6	5	120.0
南 牧 村	1		—
甘 楽 町	21	26	80.8
吾妻保健福祉事務所	139	151	92.1
中 之 条 町	42	51	82.4
東 吾 妻 町	54	45	120.0
長 野 原 町	15	15	100.0
嬭 恋 村	6	20	30.0
草 津 町	14	12	116.7
高 山 村	8	8	100.0
利根沼田保健福祉事務所	153	142	107.7
沼 田 市	108	89	121.3
片 品 村	7	12	58.3
川 場 村	5	4	125.0
み な か み 町	24	25	96.0
昭 和 村	9	12	75.0

◆地域別利用状況（市保健所・保健福祉事務所管内別の状況 令和元年度）



(単位：人・%)

区 分	令和元年度	平成30年度	対前年比
伊勢崎保健福祉事務所	330	362	91.2
伊勢崎市	296	318	93.1
玉村町	34	44	77.3
桐生保健福祉事務所	107	119	89.9
桐生市	76	97	78.4
みどり市	31	22	140.9
太田保健福祉事務所	171	179	95.5
太田市	171	179	95.5
館林保健福祉事務所	61	39	156.4
館林市	8	11	72.7
板倉町	2	5	40.0
明和町	1	1	100.0
千代田町	5	1	500.0
大泉町	41	12	341.7
邑楽町	4	9	44.4

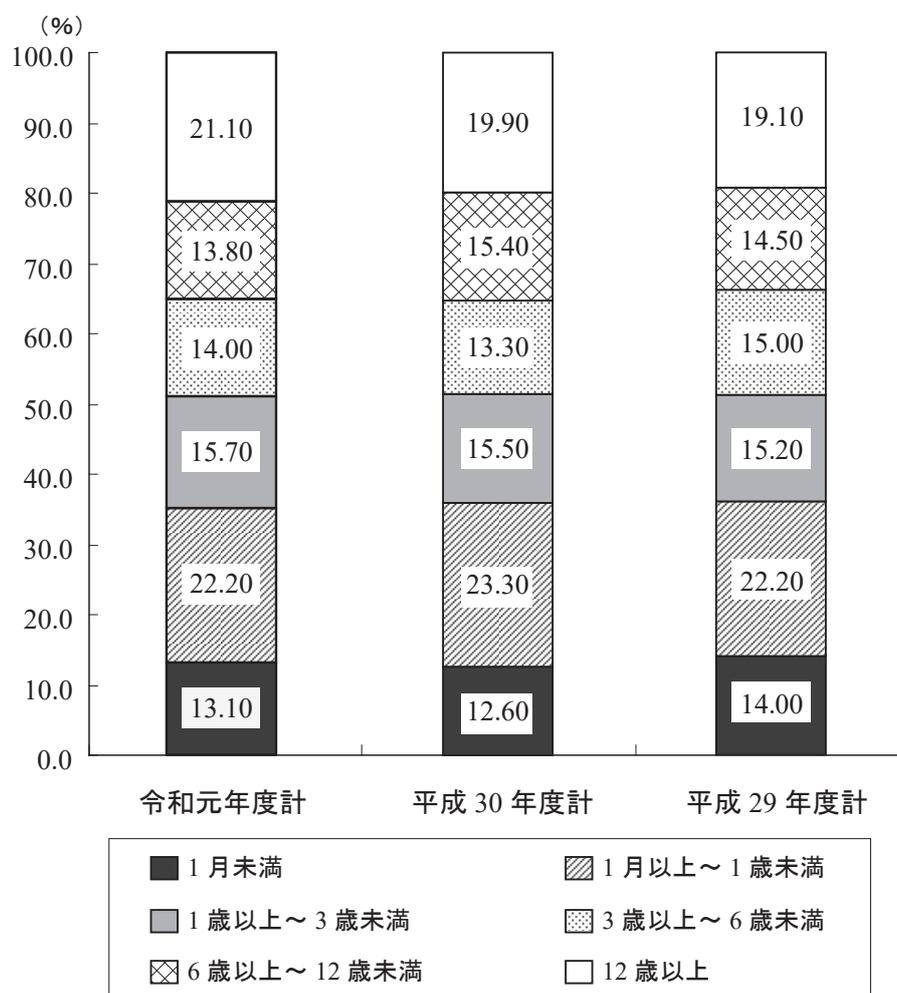
区 分	令和元年度	平成30年度	対前年比
県外計	290	223	130.0
北海道	6		—
宮城県	2		—
山形県	2		—
茨城県	3	1	300.0
栃木県	13	10	130.0
埼玉県	161	155	103.9
千葉県	8	7	114.3
東京都	53	29	182.8
神奈川県	13	10	130.0
新潟県	4	1	400.0
山梨県	1	1	100.0
長野県	8	2	400.0
岐阜県	1		—
静岡県	3	2	150.0
愛知県	9	1	900.0
広島県	1		—
徳島県	1		—
沖縄県	1		—
国内計	290	223	130.0
国外			—

(5) 年齢階層別状況（新規登録患者）

（単位：人・％）

年齢	区分	男	女	令和元年度計	平成30年度計	対前年比
1月未満		222	212	434	414	104.8
1月以上～1歳未満		360	373	733	766	95.7
1歳以上～3歳未満		275	244	519	510	101.8
小計		857	829	1,686	1,690	99.8
3歳以上～6歳未満		265	198	463	436	106.2
6歳以上～12歳未満		264	193	457	506	90.3
12歳以上		140	555	695	652	106.6
令和元年度計		1,526	1,775	3,301		100.5
平成30年度計		1,522	1,762		3,284	
対前年比		100.3	100.7	100.5	109.2	

◆年齢階層別状況（新規登録患者）平成29年度～令和元年度



(6) 救急医療

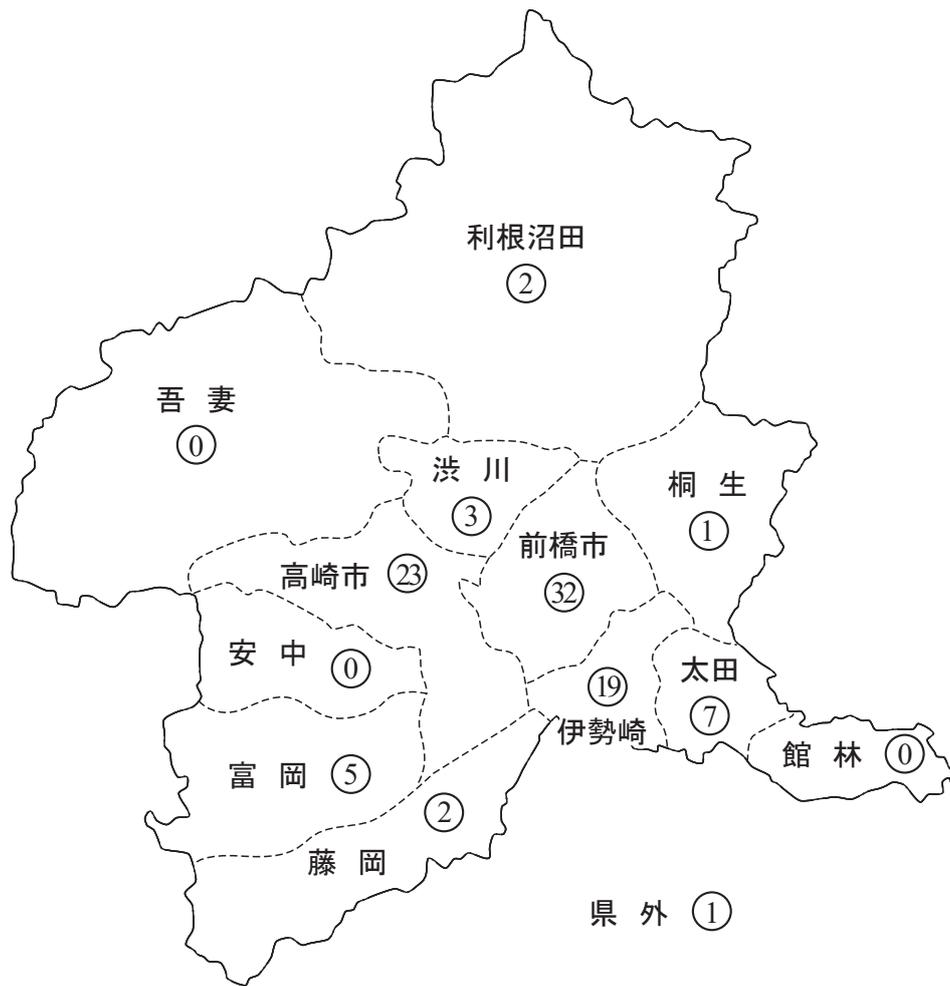
①救急医療の状況（診療状況より）

（単位：人・％）

区分		月別												令和 元年度計	平成 30年 度計	対前 年比
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
NICU車	時間外	4	1	4	5	2	5	5	3	2	4	4	4	43	32	134.4
	時間内	3	2	6	3	0	2	4	5	2	8	4	2	41	51	80.4
	休日	0	3	1	1	0	0	1	1	1	0	1	2	11	16	68.8
	計	7	6	11	9	2	7	10	9	5	12	9	8	95	99	96.0
救急車・その他	時間外	72	68	84	86	92	70	71	89	57	66	65	49	869	972	89.4
	時間内	16	12	20	12	23	9	11	18	14	7	14	11	167	176	94.9
	休日	64	102	23	42	51	50	44	37	44	85	42	22	606	550	110.2
	計	152	182	127	140	166	129	126	144	115	158	121	82	1,642	1,698	96.7
合計		159	188	138	149	168	136	136	153	120	170	130	90	1,737	1,797	96.7

（注）「時間内」とは、平日の8：30～17：15である。それ以外の時間を「時間外」に区分した。
土曜は「時間外」とした。

② NICU 車市保健所・保健福祉事務所管内別出動状況（搬入元医療機関等）



出動区分	年度		平成 30年度 出動件数	29年度 出動件数	28年度 出動件数	27年度 出動件数	26年度 出動件数	25年度 出動件数	24年度 出動件数	23年度 出動件数	22年度 出動件数	
	令和元年度 出動件数	対前年比										
救急患者	95	96.0%	99	95	90	99	55	87	57	43	41	
内訳	休日及 び時間 外	54	112.5%	48	39	40	58	31	40	32	25	22
	時間 内	41	80.4%	51	56	50	41	24	47	25	18	19
その他	17	85.0%	20	49	43	31	48	45	32	38	35	
合計	112	94.1%	119	144	133	130	103	132	89	81	76	

(注) 「その他」は、当センター入院中の患者を他の医療機関へ搬出したもの、及び他の医療機関の要請により当センター以外の他の医療機関へ搬送を行ったもの等である。

(7) 予防接種実施状況

①月別実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
B C G	2		1		2	2			1		1		9
ポ リ オ				1									1
四種混合	3	4	6	4	4	4	1	2	5	6	4	3	46
三種混合													
二種混合				1									1
麻しん・風しん	1	2	1	3		1	1		3	3	4	1	20
麻 し ん													
風 し ん													
日本脳炎		1	1	2	2	2		1	4	1	3	2	19
ヒ ブ	3	3	3	6	3	2	2		3	3	1	1	30
肺炎球菌	3	5	3	5	2	2	1	1	3	6	1		32
子宮頸がん予防													
水 痘	1	3		2	2	1	2	2	3	4	2	3	25
B型肝炎	2	4	3	4	2	1		3	3	6	1	1	30
計	15	22	18	28	17	15	7	9	25	29	17	11	213

②市保健所・保健福祉事務所管内別実施状況

	前橋市	高崎市	安中	渋川	藤岡	富岡	吾妻	利根沼田	伊勢崎	桐生	太田	館林	県外	計
B C G	3		1						2		3			9
ポ リ オ									1					1
四種混合	14	6	1	2	3				9	1	8		2	46
三種混合														
二種混合	1													1
麻しん・風しん	5	4	1	4	1				3	1	1			20
麻 し ん														
風 し ん														
日本脳炎	2	4		3	2			2	3	1	1		1	19
ヒ ブ	9	2	1	1	1				6	1	7		2	30
肺炎球菌	11	2	1	1	1				6	1	7		2	32
子宮頸がん予防														
水 痘	6	5	2	3	2		1		4	1	1			25
B型肝炎	10	2	1	1			1		8	1	4		2	30
計	61	25	8	15	10		2	2	42	7	32		9	213

③推 移

年 度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
実施件数	537	247	234	269	235	233	231	154	157	95	82	56	50	109	213

(8) 疾病分類別入院患者数

① 第一病棟

第一病棟科別入院患者数

アレルギー感染免疫・呼吸器科	507 人	48.9%
神経内科	399 人	38.5%
歯科	68 人	6.6%
循環器科	44 人	4.2%
外科（小児外科）	10 人	1.0%
一般内科（小児科）	4 人	0.4%
血液腫瘍科	3 人	0.3%
新生児科	2 人	0.2%
合 計	1,037 人	100.0%

②第二病棟

令和元年度 入院症例（他科入院で外科手術した症例も含む、重複含む）

<u>頸部</u>		イレウス（保存治療）	3
正中頸嚢胞、側頸瘻	3	イレウス（手術治療）	5
気管切開（喉頭気管分離）目的	12	<u>胆道、脾臓</u>	
<u>肺・気管支</u>		胆道閉鎖症	8
気胸	0	胆道拡張症	1
肺分画症	0	脾臓摘出目的	1
肺嚢胞性疾患	1	<u>腫瘍</u>	
<u>横隔膜</u>		神経芽腫	0
横隔膜ヘルニア	5	肝芽腫	0
<u>食道</u>		腎芽腫	0
先天性食道狭窄	1	その他の悪性腫瘍	1
先天性食道閉鎖症	4	良性腫瘍	6
食道アカラシア	0	<u>生殖泌尿器</u>	
胃食道逆流症	48	水腎症	3
<u>腹壁</u>		膀胱尿管逆流症	4
腹壁破裂	1	停留精巣（萎縮含む）	45
白線ヘルニア	0	<u>皮膚、筋、骨格</u>	
鼠径ヘルニア		リンパ節腫大	1
鼠径ヘルニア（精索水腫含む）	158	リンパ管腫	8
<u>胃</u>		血管腫	0
肥厚性幽門狭窄症	4	<u>その他</u>	
胃軸捻転	0	便秘	9
胃瘻造設目的	8	内視鏡（治療含む）	68
<u>十二指腸・小腸、結腸、腸間膜</u>		CVカテーテル敗血症	9
小腸閉鎖・狭窄	3	CVカテーテル挿入目的	21
腸回転異常	6	腸炎	15
Hirschsprung 病	4	その他	61
Hirschsprung 病類縁疾患	5		
短腸症候群	2	合計	593
消化管穿孔（新生児以外）	3		
人工肛門閉鎖目的	6		
<u>虫垂</u>			
急性虫垂炎	20		
<u>直腸、肛門</u>			
直腸肛門奇形	14		
肛門疾患	8		
<u>イレウス</u>			
腸重積症	8		

形成外科

(うちカッコ内は日帰り全身麻酔の入院患者数)

口唇裂	1	多指症・合指症	8
口唇顎裂	3	多趾症・合趾症	6
口唇口蓋裂	23	多合趾症	2
口蓋裂	5	母指低形成	1
		先天性絞扼輪症候群	1
副耳	14(8)		
耳瘻孔	13(5)	母斑	25(12)
小耳症	1	皮膚腫瘍	34(19)
埋没耳	3	血管腫・血管奇形	11(6)
折れ耳	1		
睫毛内反症	10(4)	癍痕	4
舌小帯短縮症	6(5)		
漏斗胸	15		
臍ヘルニア	21(8)		
包茎	1		

整形外科

【手術件数】90 件

関節鏡		骨、軟部腫瘍	
膝	0	摘出術	2
足	0	先天性ばね指	
関節造影		腱鞘切開	3
肩関節	1	骨関節感染症	
肘関節	1	切開、洗浄	0
股関節	6	断端形成術	1
膝関節	3	軟部組織感染症	0
足関節	3	先天性内反足	
自己血採血	4	後内方解離	1
骨生検	0	エバンス	1
筋性斜頸	1	三関節固定術	0
先天性股関節脱臼		尖足変形	
徒手整復	0	後方解離	0
観血整復	1	先天性垂直距骨	
Salter 手術	0	内外前方解離	1
減捻内反骨切術	0	脳性麻痺	
ペルテス病		股関節観血授動術	0
徒手整復	0	膝関節観血授動術	0
内反骨切り	2	足関節観血授動術	0
大腿骨頭沁り症	0	二分脊椎	
骨折観血的整復固定術	2	後方解離	0
偽関節手術	0	後内方解離	0
矯正骨切り術	2	エバンス	0
創外固定器使用手術	1*	組み合わせ	0
骨延長術		三関節固定術	0
大腿骨	1	抜釘術	20
脛骨	1	創外固定器除去手術	2
成長軟骨抑制術		計	64
大腿骨遠位	3		
脛骨近位	3		

*同時処置として重複を示す

③第三病棟

血液腫瘍科

「業務編 3. 第三病棟 (3) 血液腫瘍科」内、業務内容参照。

④新生児未熟児病棟

◆出生体重の分布

	院内出生	院外出生	総 数
500g 未満	1	0	1
500～ 999g	20	4	24
1,000～1,499g	12	2	14
1,500～1,999g	21	6	27
2,000～2,499g	36	23	59
2,500g 以上	66	94	160
計	156	129	285

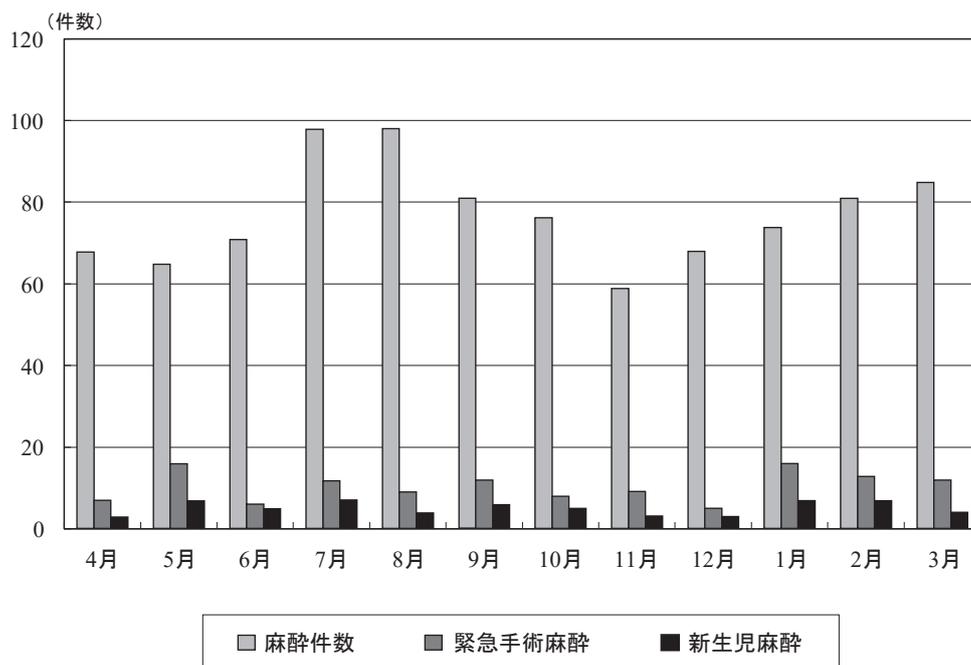
◆在胎期間の分布

	院内出生	院外出生	総 数
22 週	1	0	1
23 週	2	1	3
24 週	4	1	5
25 週	4	0	4
26 週	3	1	4
27 週	5	0	5
28 週	4	0	4
29 週	1	0	1
30 週	1	0	1
31 週	8	1	9
32 週	4	2	6
33 週	5	2	7
34 週	14	3	17
35 週	13	4	17
36 週	11	11	22
37 週	13	28	41
38 週	25	28	53
39 週	16	21	37
40 週	15	18	33
41 週	5	6	11
42 週	0	1	1
不明	2	1	3
計	156	129	285

(9) 麻 酔

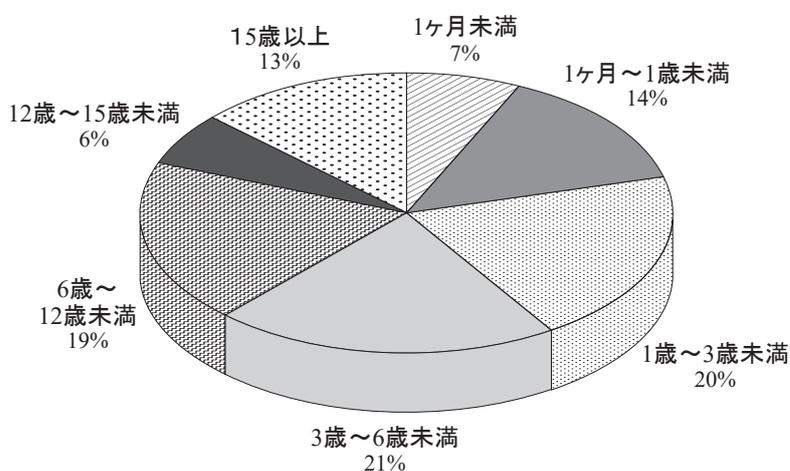
① 2019 年度 月別麻酔件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
麻酔件数	68	65	71	98	98	81	76	59	68	74	81	85
緊急手術麻酔	7	16	6	12	9	12	8	9	5	16	13	12
新生児麻酔	3	7	5	7	4	6	5	3	3	7	7	4



② 2019 年度 年齢階層別状況

1ヶ月未満	62
1ヶ月～1歳未満	129
1歳～3歳未満	185
3歳～6歳未満	191
6歳～12歳未満	177
12歳～15歳未満	56
15歳以上	124



(10) 放射線

① 依頼科別件数

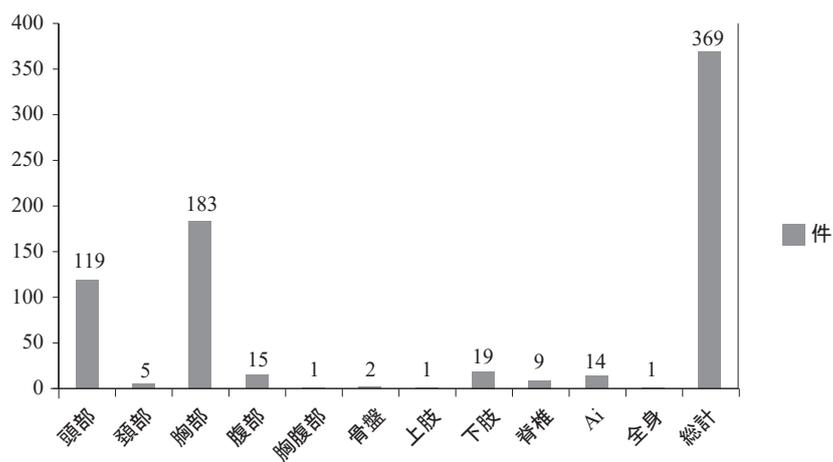
検査 依頼科	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル	フィルム コピー	総計 (件)
アレルギー科	16	33		8	54		335	267	102	815
リハビリ科							61			61
遺 伝 科		3			6		19		26	54
一 般 内 科	8	22		1	51		328	33	36	479
外 科	15	133	117	319	1,064		1,008	692	258	3,606
形 成 外 科	68	62	52		91		824	75	46	1,218
血液腫瘍科	23	125		2	132		205	101	83	671
産 科	5	49					68	156	19	297
歯 科	30	2		1			275	20	11	339
耳 鼻 科	2						2		5	9
循環器内科	126	94	92	36	28	1,223	3,418	3,924	374	9,315
心臓血管外科	1						2	529		532
新生児科	22	198	12	51	202	4	143	2,802	137	3,571
神経内科	26	147	16	41	30	1	280	308	282	1,131
腎臓内科		12		1	72		8		5	98
整形外科	25	96	4	10	69		11,768	360	215	12,547
正常新生児科	2	7			7		3	2		21
内分泌代謝科		6			12		37		1	56
脳 外 科		11					27		3	41
放射線科					3				14	17
総 計	369	1,000	293	470	1,821	1,228	18,811	9,269	1,617	34,878

② 月別件数

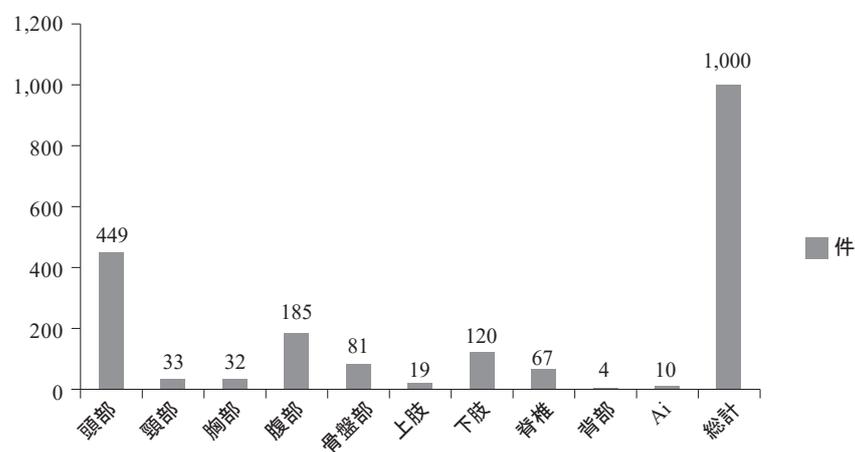
検査 検査月	CT	MRI	RI	X線TV	エコー	カテーテル	一般撮影	ポータブル	フィルム コピー	総計 (件)
4月	24	76	17	41	152	77	1,576	743	136	2,842
5月	27	83	18	43	119	82	1,208	598	156	2,334
6月	29	71	29	41	127	96	1,395	769	129	2,686
7月	36	125	36	37	183	169	1,736	1,008	132	3,462
8月	49	65	24	36	199	150	2,041	813	121	3,498
9月	32	0	29	40	153	109	1,685	778	139	2,965
10月	27	105	24	41	134	116	1,552	803	130	2,932
11月	26	85	12	41	152	110	1,298	700	114	2,538
12月	38	114	56	46	168	71	1,591	737	153	2,974
1月	35	93	12	50	150	60	1,363	747	125	2,635
2月	25	83	20	28	129	101	1,503	737	138	2,764
3月	21	100	16	26	155	87	1,863	836	144	3,248
総計	369	1,000	293	470	1,821	1,228	18,811	9,269	1,617	34,878

③検査種別件数

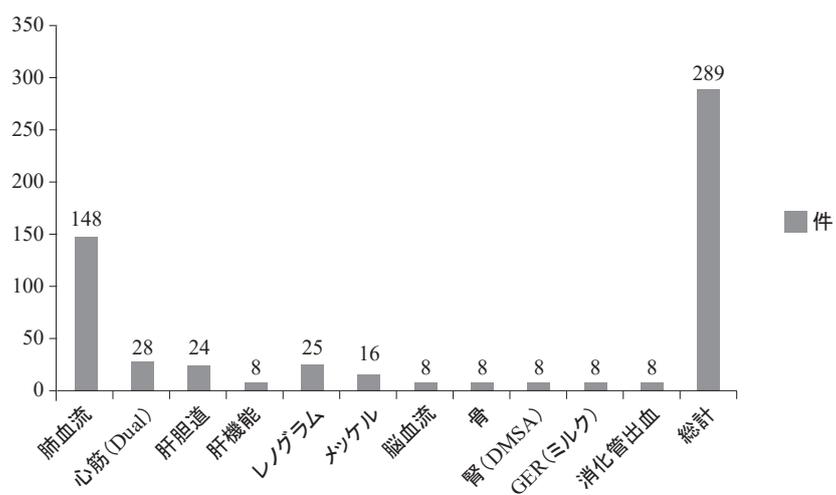
ア CT



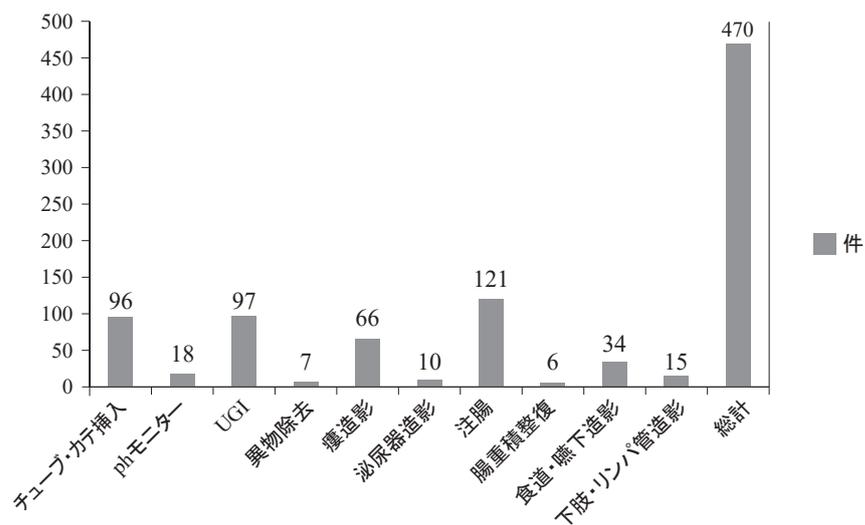
イ MRI



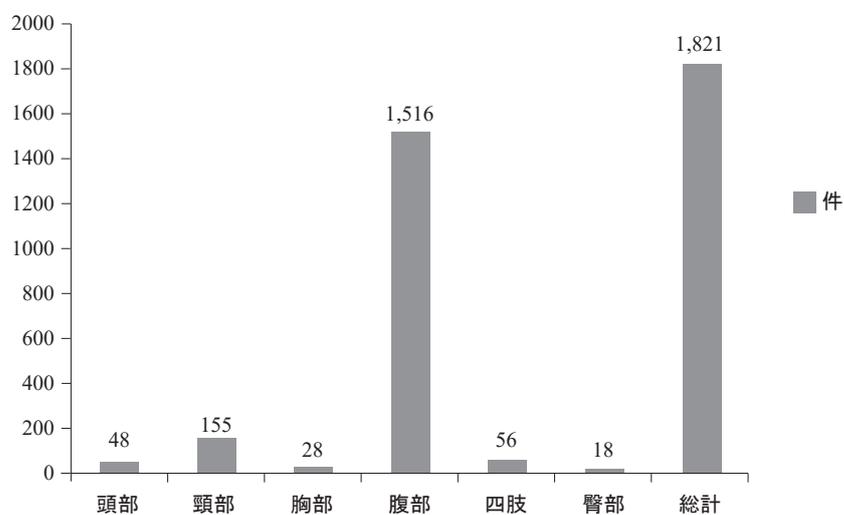
ウ RI



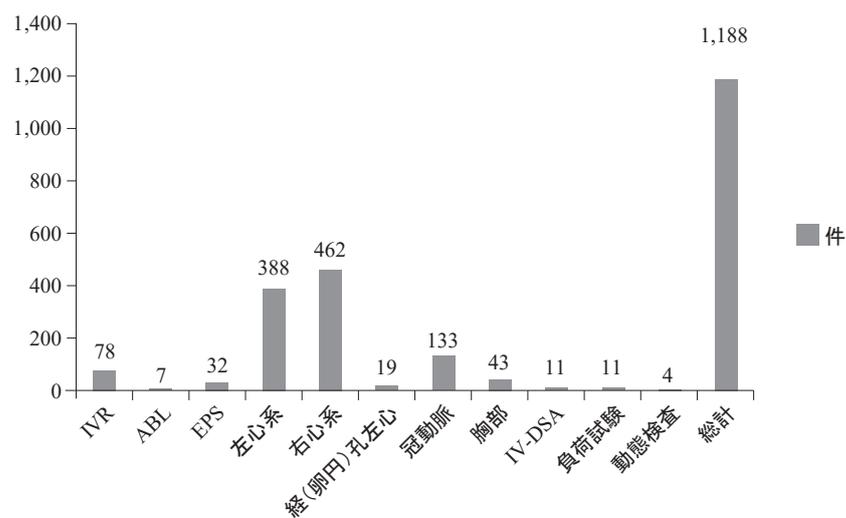
エ X-TV



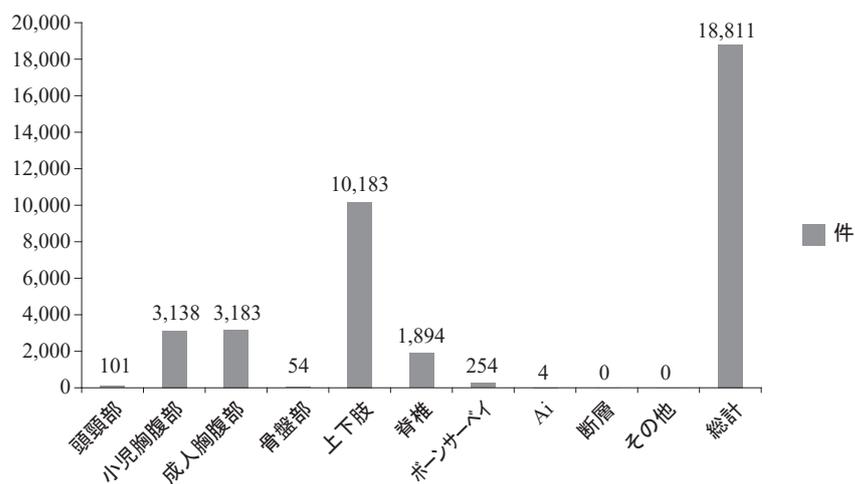
オ US



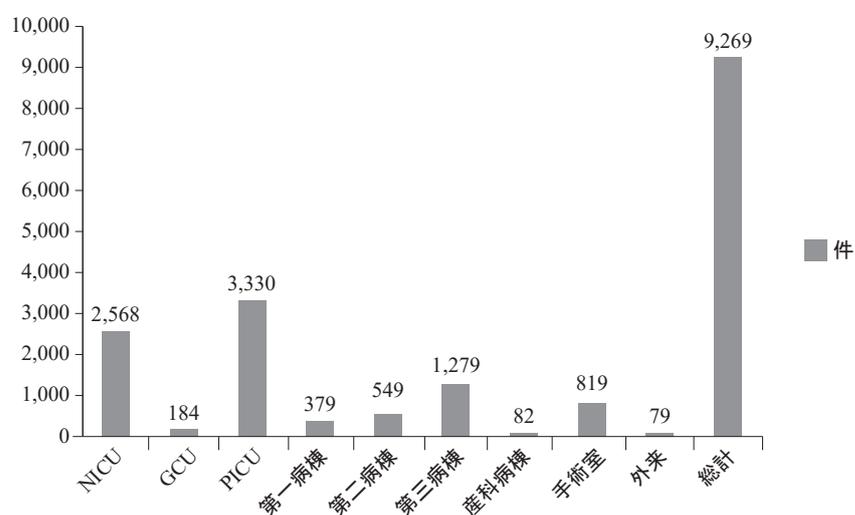
カ 心臓カテーテル



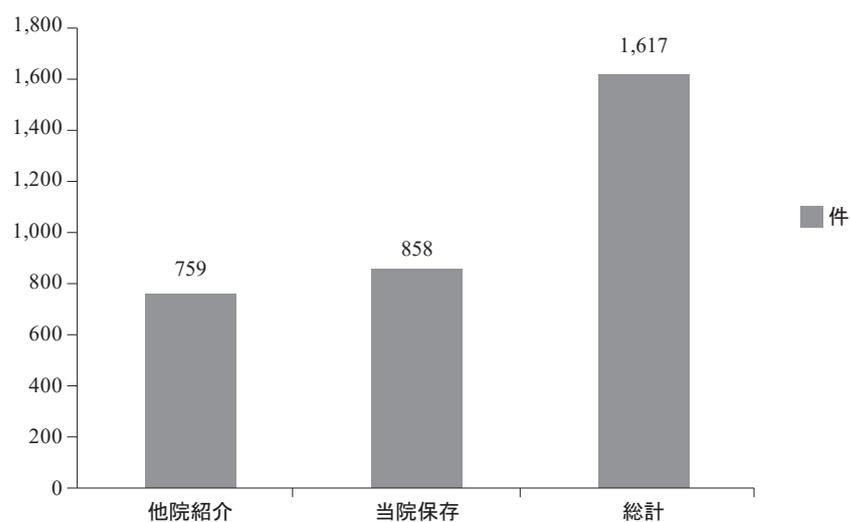
キ 一般撮影



ク ポータブル撮影



ケ 画像データコピー



(1) 臨床検査

①検査の状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生 化 学	24,430	22,845	23,749	31,413	28,509	24,697	25,138	24,368	23,625
血 液	5,693	5,419	5,501	7,090	6,888	5,806	5,695	5,567	5,041
免疫血清	2,900	2,675	2,806	3,348	3,218	2,884	2,943	2,773	2,799
一 般	1,174	1,023	987	1,290	1,284	960	929	1,013	1,223
生 理	1,003	954	1,028	1,407	1,338	1,087	1,178	1,024	988
細 菌	1,200	1,147	1,238	1,142	1,214	1,175	1,257	1,014	990
病 理	148	260	189	244	250	241	259	239	186
輸 血	325	319	333	415	372	344	366	313	284
薬物(再掲)	79	71	69	100	102	92	89	69	82
アレルギー(再掲)	393	439	266	303	239	277	224	282	241
特殊検査(再掲)	0	16	12	12	12	12	4	20	16
外部委託	773	708	703	790	857	709	697	667	863
総合計(再掲除く)	37,646	35,350	36,534	47,139	43,930	37,903	38,462	36,978	35,999

②血液製剤取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
赤 血 球 液	1 単位	2	5	9	7	4
	2 単位	53	69	53	106	62
洗 浄 赤 血 球 液	1 単位	0	0	0	0	0
	2 単位	0	0	0	0	0
小 計	55	74	62	113	88	66
新 鮮 凍 結 血 漿	120	8	3	4	19	8
	240	22	54	67	79	44
	480	0	0	0	0	0
小 計	30	57	71	100	98	52
濃 厚 血 小 板	2 単位	0	0	0	0	0
	5 単位	0	2	1	1	0
	10 単位	30	41	11	51	75
	15 単位	0	0	0	0	0
	20 単位	1	0	2	0	1
濃厚血小板HLA	10 単位	0	0	0	0	0
洗 浄 血 小 板	10 単位	14	6	0	0	0
洗 浄 血 小 板 HLA	10 単位	0	0	0	0	0
小 計	45	49	14	52	93	75
合 成 血	0	0	0	0	0	0
自 己 血	2	0	1	1	3	1
顆 粒 球 輸 血	0	0	0	0	0	0
合 計	132	180	148	266	282	194

③分割取り扱い状況

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
赤血球液	1 単位	2	5	5	14	6
	2 単位	44	44	34	64	58
小 計	46	49	39	78	101	64
濃厚血小板	5 単位	0	2	0	0	0
	10 単位	55	42	12	24	13
	15 単位	0	0	0	0	0
	20 単位	0	0	0	0	2
小 計	55	44	12	24	49	13
合 計	101	93	51	102	150	77

④幹細胞保存

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
幹細胞保存	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(単位：件、%)

1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比
23,023	22,470	24,620	298,887	307,811	97.1
4,858	5,289	5,527	68,374	69,396	98.5
2,768	2,672	2,866	34,652	37,895	91.4
1,040	951	1,212	13,086	13,078	100.1
1,034	894	1,027	12,962	12,397	104.6
1,021	896	1,100	13,394	14,667	91.3
183	134	275	2,608	2,564	101.7
324	278	330	4,003	3,931	101.8
72	68	89	982	1,131	86.8
324	212	297	3,497	4,458	78.4
4	4	13	125	250	50.0
773	607	857	9,004	8,105	111.1
35,024	34,191	37,814	456,970	469,844	97.3

(単位：件、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	対前年度比
10	12	5	6	3	5	70	332	21.1
71	56	35	72	50	60	773	487	158.7
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	0	0	
81	68	40	78	53	65	843	819	102.9
5	9	0	0	0	0	64	178	36.0
47	44	21	67	45	42	624	439	142.1
0	0	0	0	0	0	0	4	0.0
52	53	21	67	45	42	688	621	110.8
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	4	10	40.0
22	34	14	20	14	24	428	198	216.2
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	4	10	40.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	1	0	0	0	21	31	67.7
0	0	0	0	0	0	0	0	
22	34	15	20	14	24	457	249	183.5
0	0	0	0	0	0	0	0	
3	0	1	0	0	0	12	12	100.0
0	0	0	0	0	0	0	0	
158	155	77	165	112	131	2,000	1,701	117.6

(単位：bag数、%)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	対前年度比
24	19	14	12	0	11	118	189	62.4
53	25	14	26	25	37	519	207	250.7
77	44	28	38	25	48	637	396	160.9
0	0	0	0	0	0	2	0	
16	25	6	7	11	12	270	105	257.1
0	0	0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	2	0	
16	25	6	7	11	12	274	105	261.0
93	69	34	45	36	60	911	501	181.8

(単位：件)

1月	2月	3月	合計
0	0	0	0

(12) 薬 剤

① 調剤等の状況

ア 処方箋の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
外 来	枚 数	154	143	141	166	155	121
	件 数	258	245	231	292	240	203
	剤 数	1,426	1,547	1,519	2,051	1,308	1,218
入 院	枚 数	1,160	1,153	1,271	1,403	1,222	1,243
	件 数	2,600	2,543	2,935	3,170	2,709	2,831
	剤 数	15,432	12,977	14,759	15,676	14,314	14,631
麻薬 (内数)	枚 数	27	27	28	31	23	36
	件 数	27	27	28	31	23	36
	剤 数	27	27	28	31	23	36
合 計	枚 数	1,314	1,296	1,412	1,569	1,377	1,364
	件 数	2,858	2,788	3,166	3,462	2,949	3,034
	剤 数	16,858	14,524	16,278	17,727	15,622	15,849
院外処方箋	枚 数	1,288	1,214	1,145	1,352	1,241	1,200
	発行率(%)	89.3	89.5	89.0	89.1	88.9	90.8

イ 調剤件数内訳

区 分	錠 剤	散 剤	水 剤	外 用	注射薬	計
外 来	785	611	100	1,304	254	3,054
入 院	6,907	16,297	3,870	6,578	153	33,805
割 合(%)	20.9%	45.9%	10.8%	21.4%	1.1%	36,859

② 注射剤の状況

ア 注射箋等の枚数等

区 分	単 位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
個人セット	枚数	1,944	2,037	2,378	2,150	2,247	2,086
	本数	21,397	21,084	23,369	22,908	24,895	21,094
HIS (内数)	枚数	1,745	1,858	2,185	1,964	2,068	1,905
	本数	15,729	16,015	19,168	18,167	19,558	17,169
PICU (内数)	枚数	199	179	193	186	179	181
	本数	5,668	5,069	4,201	4,741	5,337	3,925
血液製剤 (外用剤を含む)	枚数	80	132	175	210	143	109
	本数	111	181	237	304	212	171
外用剤 (内数)	(枚数)	1	4	2	7	2	5
	(本数)	2	8	8	27	4	16
麻 薬	枚数	252	220	179	185	231	209
	本数	1,085	736	597	676	1,209	628
毒 薬	枚数	87	99	106	134	119	101
	本数	174	236	262	336	242	241
輸液 (高カロリー)	本数	148	238	240	187	168	159
薬品請求伝票	枚数	299	283	284	351	379	327
	本数	2,218	2,132	2,198	3,004	3,487	2,758
ビドマー	本数	6,415	6,114	6,150	8,984	7,255	6,517
合 計	枚数	2,662	2,771	3,122	3,030	3,119	2,832
	本数	31,548	30,721	33,053	36,399	37,468	31,568

(※) IVH-枚数：1日1枚として集計。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
168	127	152	168	142	128	1,765
282	251	275	288	259	230	3,054
1,525	1,716	1,874	1,620	2,189	1,877	19,870
1,341	1,307	1,216	1,112	1,056	1,201	14,685
3,088	2,993	2,710	2,658	2,560	3,008	33,805
16,455	16,189	16,253	13,895	14,436	16,111	181,128
32	27	18	26	32	46	353
32	27	18	26	32	46	353
32	27	18	26	32	67	374
1,509	1,434	1,368	1,280	1,198	1,329	16,450
3,370	3,244	2,985	2,946	2,819	3,238	36,859
17,980	17,905	18,127	15,515	16,625	17,988	200,998
1,313	1,244	1,326	1,302	1,170	1,321	15,116
88.7	90.7	89.7	88.6	89.2	91.2	89.6

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2,184	2,043	2,078	1,946	1,902	2,220	25,215
18,997	20,313	18,588	16,006	19,194	21,093	248,938
2,029	1,862	1,924	1,761	1,713	2,018	23,032
16,015	17,557	16,793	13,354	14,981	17,403	201,909
155	181	154	185	189	202	2,183
2,982	2,756	1,795	2,652	4,213	3,690	47,029
151	106	51	107	174	114	1,552
208	133	95	178	328	169	2,327
4	2	0	3	3	3	36
6	6	2	8	4	7	98
207	209	160	169	189	220	2,430
552	614	538	668	1,312	721	9,336
105	103	105	103	108	123	1,293
252	329	367	361	483	259	3,542
162	145	153	122	91	96	1,909
270	297	274	296	298	303	3,661
2,793	2,978	2,448	2,725	3,035	2,786	32,562
6,886	6,514	5,741	5,578	5,692	6,960	78,806
2,917	2,758	2,668	2,621	2,671	2,980	34,151
29,850	31,026	27,930	25,638	30,135	32,084	377,420

イ 抗がん薬調製数

区 分	単 位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
抗がん薬調製数	本数	36	65	67	79	102	89

③注射剤以外の医薬品等の払い出し状況

区 分	単 位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
薬品請求伝票	枚 数	108	111	142	160	119	116
	本 数	1,224	1,254	1,341	1,895	1,161	1,439
ビドマー支給	本 数	1,147	1,571	1,215	1,671	1,414	1,401
合 計	枚 数	108	111	142	160	119	116
	本 数	2,371	2,825	2,556	3,566	2,575	2,840

④薬剤情報件数等

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月
薬剤情報提供件数		33	43	30	45	40	33
服薬指導件数(退院時)		14	13	19	13	16	12
薬剤管理指導(保険請求分)		21	18	26	33	18	25
D I 情 報		11	15	18	22	23	16
薬剤鑑別	患者数	9	5	9	6	15	8
	延べ剤数	35	18	30	20	48	40
医薬品安全性情報報告件数		0	0	0	0	0	0
T D M 件 数		3	11	7	5	14	15

⑤製剤等の状況(種類別、製剤件数及び量)

区 分	単 位	4月	5月	6月	7月	8月	9月
散 剤	件 数	50	46	36	49	50	50
内 用 液 剤	件 数	17	17	19	12	13	15
軟 膏	件 数	4	1	4	2	4	4
坐 剤	件 数	1	0	0	1	0	0
	数量(本)	90	0	0	90	0	0
外 用 液 剤	件 数	2	0	0	2	1	1
外用液剤(無菌調製)	件 数	17	8	7	15	12	8
注射剤(無菌調製)	件 数	25	36	45	53	70	60
合 計	件 数	116	108	111	134	150	138

<主な製剤内訳>

液剤(内用)	ミダゾラムシロップ	1.3 L
	検査用トリクロールシロップ	171 本
散剤(内服)	HMS-1	439 件
	トロミ剤	53 件
軟 膏	30%カラヤ入り亜鉛華単軟膏	31.6 Kg
坐 剤	ワコビタール坐剤 2mg	0 個
	ワコビタール坐剤 10mg	180 個
無菌製剤	フラッシュ用生食(5mL)	607 本
	エタノールロック注(1mL)	270 本
	MK注腸液(2.6mL)	360 本

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
79	106	75	44	69	120	931

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
133	115	131	127	103	122	1,487
1,717	1,709	1,933	1,642	1,418	1,632	18,365
1,695	1,249	1,207	1,251	1,108	1,198	16,127
133	115	131	127	103	122	1,487
3,412	2,958	3,140	2,893	2,526	2,830	34,492

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
33	36	27	42	45	21	428
18	15	22	8	15	18	183
29	28	18	22	15	17	270
9	10	15	9	15	20	183
5	3	3	4	4	6	77
31	4	5	9	15	32	287
0	0	0	0	0	1	1
19	5	8	2	6	12	107

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
44	50	38	33	16	30	492
7	21	11	19	14	19	184
6	6	4	1	4	7	47
0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	180
1	2	1	1	0	0	11
9	10	9	8	8	9	120
64	83	59	31	46	81	653
131	172	122	93	88	146	1,509

⑥薬効別薬品購入額

(単位：円・%)

薬効分類	平成30年度	令和元年度	構成比率
中枢神経系用薬	192,406,378	123,452,859	19.24%
末梢神経系用薬	5,943,343	5,865,450	0.91%
感覚器官用薬	337,405	330,214	0.05%
循環器官用薬	27,623,956	27,061,802	4.22%
呼吸器官用薬	10,463,677	10,736,109	1.67%
消化器官用薬	3,361,155	4,458,160	0.69%
ホルモン剤	54,774,538	67,458,412	10.51%
泌尿生殖器官及び肛門用薬	789,168	991,012	0.15%
外皮用薬	1,525,105	1,300,304	0.20%
ビタミン剤	807,990	766,272	0.12%
滋養強壯剤	10,065,586	12,322,274	1.92%
血液及び体液用剤	17,087,957	18,123,153	2.82%
その他の代謝性医薬品	31,728,403	60,349,790	9.41%
腫瘍用剤	9,063,986	9,990,517	1.56%
アレルギー用薬	692,898	1,600,188	0.25%
抗生物質製剤	18,917,370	16,352,911	2.55%
化学療法剤	183,618,595	201,979,742	31.48%
生物学的製剤	71,638,251	65,788,877	10.25%
調剤用薬	4,675,720	5,335,170	0.83%
診断用薬	2,048,644	2,054,843	0.32%
麻薬	2,921,984	3,260,546	0.51%
その他	4,431,900	2,029,205	0.32%
計	654,924,009	641,607,810	100.00%

(13) リハビリテーション

①診療点数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	1,131,916	348,272	27,485	1,507,673
外 来	1,012,463	842,387	646,820	2,501,670
合 計	2,144,379	1,190,659	674,305	4,009,343

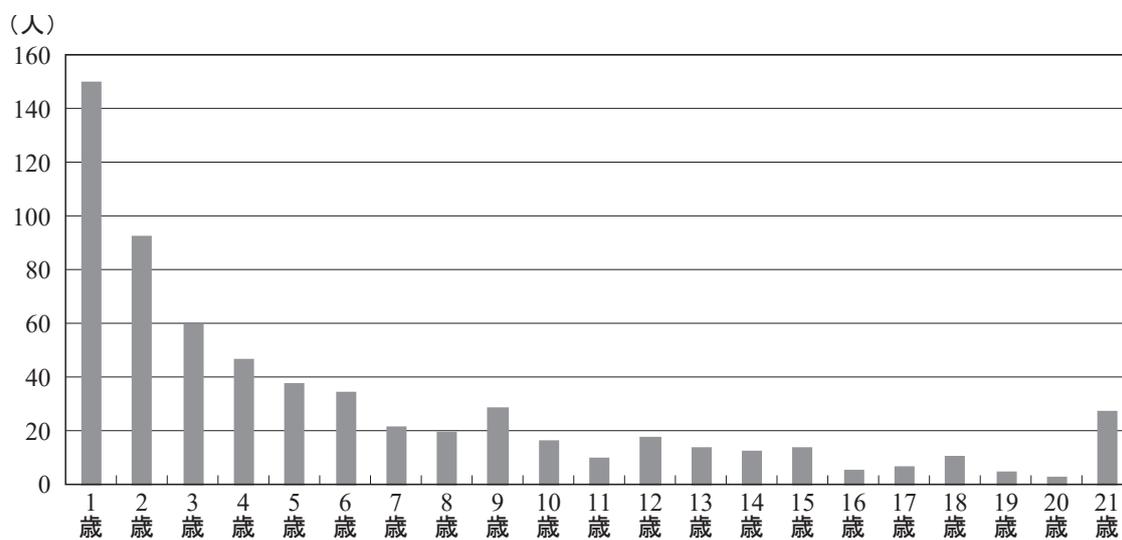
②延べ治療件数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	2,887	1,057	82	4,026
外 来	2,410	2,004	1,370	5,784
合 計	5,297	3,061	1,452	9,810

③延べ単位数

区 分	理学療法	作業療法	言語療法	合 計
入 院	5,061	1,609	108	6,778
外 来	4,808	3,911	3,038	11,757
合 計	9,869	5,520	3,146	18,535

④年齢別患者実数



⑤リハビリテーション算定区分別実績

理学療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	941	174,085	116	21,460
早期リハ加算(運動Ⅰ)	354	10,620	15	450
初期加算(運動Ⅰ)	147	6,615	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	1,346	235,550	31	5,425
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)	947	28,410	0	0
初期加算(呼吸Ⅰ)	694	31,230	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	1,825	374,125	61	12,505
早期リハ加算(心Ⅰ)	1,037	31,110	0	0
初期加算(心Ⅰ)	730	32,850	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	178	35,600	43	8,600
早期リハ加算(脳Ⅱ)	40	1,200	0	0
初期加算(脳Ⅱ)	14	630	0	0
がん患者リハビリテーション料	126	25,830	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	11	1,606	28	4,088
早期リハ加算(廃用リハⅡ)	11	330	0	0
初期加算(廃用リハⅡ)	9	405	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	479	107,775	2,786	626,850
障害者リハビリ(6歳～18歳)	143	27,885	1,573	306,735
障害者リハビリ(18歳以上)	12	1,860	170	26,350
合 計	5,061	1,127,716	4,808	1,012,463
リハ総合計画評価(医療)	14		0	

作業療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
運動器疾患リハビリテーションⅠ	0	0	6	1,110
早期リハ加算(運動Ⅰ)	0	0	0	0
初期加算(運動Ⅰ)	0	0	0	0
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ	276	46,920	0	0
早期リハ加算(呼吸Ⅰ)	108	4,860	0	0
初期加算(呼吸Ⅰ)	171	7,695	0	0
心大血管疾患リハビリテーションⅠ	138	28,290	12	2,460
早期リハ加算(心Ⅰ)	34	1,530	0	0
初期加算(心Ⅰ)	14	630	0	0
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	126	25,200	24	4,800
早期リハ加算(脳Ⅱ)	43	1,290	0	0
初期加算(脳Ⅱ)	24	1,080	0	0
がん患者リハビリテーション料	69	14,145	0	0
廃用症候群リハビリテーションⅡ	37	5,402	2	292
早期リハ加算(廃用リハⅡ)	25	750	0	0
初期加算(廃用リハⅡ)	13	585	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	769	173,025	2,674	601,650
障害者リハビリ(6歳～18歳)	80	15,600	1,179	229,905
障害者リハビリ(18歳以上)	114	17,670	14	2,170
合 計	1,609	344,672	3,911	842,387
リハ総合計画評価(医療)	12		0	

言語療法

	入 院		外 来	
	単 位 数	診療点数	単 位 数	診療点数
脳血管疾患リハビリテーションⅡ	53	10,600	82	16,400
早期リハ加算(脳血Ⅱ)	33	990	0	0
初期加算(脳血Ⅱ)	17	765	0	0
障害者リハビリ(6歳未満)	42	9,450	1,800	405,000
障害者リハビリ(6歳～18歳)	13	2,535	1,156	225,420
障害者リハビリ(18歳以上)	0	0		0
摂食機能療法(3ヶ月以内)	17件	3,145	0件	0
摂食機能療法(3ヶ月以上)	0件	0	0件	0
合 計	108	27,485	30,38	646,820
リハ総合計画評価(医療)	0		0	

(14) 栄 養

①一般食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	比率 (%)
幼児食	1	270	271	237	285	260	330	228	367	209	228	161	310	3,156	9.63
	2	502	376	445	444	586	476	662	607	557	633	555	598	6,441	19.65
学童食	1	243	92	182	332	261	178	251	349	320	152	160	127	2,647	8.07
	2	202	193	242	301	244	134	122	122	92	30	202	357	2,241	6.84
	3	273	147	136	98	113	194	184	207	197	211	179	194	2,133	6.51
	4	142	115	244	223	265	46	80	80	177	65	82	83	1,602	4.89
妊産婦食		760	814	865	796	829	827	678	592	883	710	468	720	8,942	27.27
全粥食		124	131	263	322	434	199	321	318	325	265	242	285	3,229	9.85
七分粥食		10	6	13	27	15				6	12	3	3	95	0.29
五分粥食		11	12	41	38	31	8	9	8	11	22	16	12	219	0.67
三分粥食		5	3	8	30	16				5	12	9		88	0.27
流動食		11	20	68	70	39	32	18	13	24	37	15	1	348	1.06
心カテ食		22	20	16	37	45	24	29	24	11	14	13	19	274	0.84
術前食		1												1	0.00
D A Y 食		10	9	8	11	12	12	8	7	7	7	10	11	112	0.34
歯科DAY食		34	27	31	31	30	23	33	30	30	27	29	35	360	1.10
食物負荷DAY食		13	16	12	11	11	14	10	17	15	8	9	14	150	0.46
遅延食		55	57	54	70	86	66	77	44	57	53	64	64	747	2.28
計		2,688	2,309	2,865	3,126	3,277	2,563	2,710	2,785	2,926	2,486	2,217	2,834	32,786	100.0

(注) 幼児食 1 (1歳～2歳) 学童食 2 (8歳～9歳)
 幼児食 2 (3歳～5歳) 学童食 3 (10歳～11歳)
 学童食 1 (6歳～7歳) 学童食 4 (12歳以上)

②離乳食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	比率 (%)
離乳食	初期	21	74	29	50	3	12	62	242	189	281	249	230	1,442	29.7
	中期	71	17	113	55	24	55	62	66	101	23	194	152	933	19.2
	後期	24	86	55	118	16	33	136	107	131	27	89	89	911	18.8
	完了期	54	183	100	160	94	69	73	43	147	202	198	240	1,563	32.2
計		170	360	297	383	137	169	333	458	568	533	730	711	4,849	100.0

③特別食の種類と食数

食種	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	比率 (%)
ネフローゼ食	幼児													0	0.0
	学童	12							20					32	3.3
糖尿病食	幼児													0	0.0
	学童			10							34		4	48	5.0
	妊産婦	14			4	2	2		4	5		4	8	43	4.5
高脂血症食	幼児													0	0.0
	学童			5	21	112	51		6	14	23	13	10	255	26.7
膵炎食	幼児													0	0.0
	学童	18								7				25	2.6
潰瘍食	幼児													0	0.0
	学童		60	66	40	5		10	54	44	24			303	31.7
貧血食	幼児											8	53	61	6.4
	学童													0	0.0
	妊産婦										17	27		44	4.6
低残渣食	幼児				59		2		1					62	6.5
	学童						5		6		24	46	2	83	8.7
計		44	60	81	124	119	60	10	91	70	122	98	77	956	100.0

④調乳の種類及び人数・本数

<ミルク>

種類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
普通ミルク	人数	617	709	733	801	597	722	685	776	804	709	577	603	8,333
	本数	4,321	4,980	5,110	5,235	4,259	5,030	4,554	5,384	5,706	5,230	4,185	4,155	58,149
L B W	人数	234	192	156	111	53	85	247	167	153	99	60	36	1,593
	本数	1,829	1,446	1,024	764	478	756	2,304	1,410	1,274	894	588	332	13,099
ニューMA-1	人数	10	12	32	28	15	16	54	104	37	48	48	24	428
	本数	59	61	129	90	120	122	438	904	420	390	384	191	3,308
M C T	人数	0	46	58	15	0	42	12	23	27	30	30	105	388
	本数	0	368	449	120	0	336	84	163	216	240	225	761	2,962
エレメンタル フォーミュラ	人数	6	14	9	0	6	18	30	50	33	35	58	64	323
	本数	45	67	36	0	24	72	267	264	204	224	406	450	2,059
中たんぱく低ナトリウム フォーミュラ	人数										5	18	31	54
	本数										60	172	248	480
ノンラクト	人数		8	35										43
	本数		41	234										275
低カルシウム乳	人数		1					7						8
	本数		6					42						48
ケトンフォー ミュラー	人数	2		3				2	5					12
	本数	12		18				12	27					69
ARミルク	人数	32	37	32	34	7	17	60	30	44	72	79	64	508
	本数	197	275	256	266	53	115	416	220	342	562	487	337	3,526
計	人数	901	1,019	1,058	989	678	900	1,097	1,155	1,098	998	870	927	11,690
	本数	6,463	7,244	7,256	6,475	4,934	6,431	8,117	8,372	8,162	7,600	6,447	6,474	83,975

⑤濃厚流動食・成分栄養剤の種類及び人数・本数

<濃厚流動食・成分栄養剤>

種類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
エンシュア	人数	27	17	29	42	51	27	26	34	33	13	12	12	323
	本数	186	134	131	259	290	183	162	163	186	72	68	68	1,902
エンシュアH	人数	22	28	5	0	4	10	0	0	9	0	0	0	78
	本数	92	168	15	0	15	39	0	0	44	0	0	0	373
エネーボ	人数	119	141	106	183	129	122	233	142	144	113	124	133	1,689
	本数	497	760	522	905	650	713	1,141	655	655	569	623	596	8,286
ラコーラ	人数	22	14	56	47	72	83	41	51	33	66	56	140	681
	本数	116	52	315	189	371	476	203	333	211	356	335	507	3,464
ラコーラ (半固形)	人数	26	35	65	75	27	46	47	81	55	34	54	40	585
	本数	88	152	200	189	60	133	167	245	110	70	188	107	1,709
エレンタールP	人数	164	151	112	173	157	193	188	157	163	187	181	165	1,991
	本数	1,223	1,182	685	1,134	1,044	1,394	1,351	1,106	1,174	1,236	1,135	885	13,549
エレンタール	人数	103	125	184	138	69	48	115	104	86	109	92	110	1,283
	本数	537	595	846	578	314	231	741	654	469	534	567	584	6,650
イノラス	人数							2	44	57	36	39	52	230
	本数							4	188	215	181	146	231	965
C Z - H i	人数	56	69	90	65	128	131	78	35	36	31	49	45	813
	本数	310	369	453	321	837	678	431	220	206	186	254	250	4,515
ハイネーゲル	人数	15					19							34
	本数	104					78							182
ペプタメンス タンダード	人数								12					12
	本数								46					46
ブルモケア	人数	7		7	40	18	19	64	16	7				178
	本数	39		21	127	54	65	168	28	14				516
アイソカルサ ポートソフト	人数	27	31	30	39	44	62	36	25	4	3			301
	本数	108	124	120	146	170	290	194	138	8	9			1,307
ブイアクセル	人数	30	31	30	31	21	7	31	30	31	37	67	92	438
	本数	60	62	60	38	21	7	31	30	31	37	145	278	800
テゾン	人数	7	53	69	68	36	36	19	35	65	84	147	132	751
	本数	7	105	91	74	42	54	46	98	119	141	205	194	1,176
Y H	人数						10	11			3			24
	本数						31	33			6			70
糖 水	人数		3	2	4		3			1	1	2	1	17
	本数		15	7	32		24			8	8	16	4	114
ボカリスエット	人数	66	100	140	93	88	112	94	121	70	71	63	99	1,117
	本数	175	231	324	227	255	311	304	385	271	257	215	294	3,249
G F O 水	人数	109	76	31	71	62	37	49	58	34	43	56	81	707
	本数	476	206	98	425	389	155	237	209	110	164	204	347	3,020
MCT オイル	人数	127	78	109	53	76	97	104	165	199	173	133	171	1,485
	本数	335	272	529	177	76	232	452	413	449	347	133	265	3,680
計	人数	912	952	1,065	1,122	982	1,043	1,136	1,066	970	968	1,036	1,221	12,473
	本数	4,249	4,427	4,417	4,821	4,588	5,016	5,661	4,723	4,065	3,992	4,088	4,379	54,426

⑥ NST (栄養サポートチーム)

ア NST 介入状況

男女別 NST 介入者

性別	人数(人)
男	4
女	10
計	14

年齢別

年齢	人数(人)
1歳未満	10
1～2歳	2
3～5歳	0
6～7歳	1
8～9歳	1
10～11歳	0
12歳～	0
計	14

介入後の経過

経過	人数(人)
退院(改善)	9
退院(継続)	1
退院(その他)	0
入院(改善)	0
入院(継続)	4
計	14

病棟別 NST 介入者

病棟	人数(人)
第一病棟	1
第二病棟	1
第三病棟	9
N I C U	1
G C U	2
計	14

主症状別 NST 介入者

主症状	人数(人)
嘔吐、下痢、消化不良	4
体重減少・増加不良	1
摂食嚥下	9
その他	0
計	14

イ 院内 NST 勉強会実施状況

対象	実施日	内容	参加人数
院内スタッフ	4月2日	n-3系油脂高含有製剤について	45名
院内スタッフ	5月7日	介護食について	33名
院内スタッフ	6月4日	医薬品経腸栄養剤について	48名
院内スタッフ	7月16日	増粘経腸栄養剤について	45名
院内スタッフ	7月30日	低セレン血症治療薬について	42名
院内スタッフ	9月17日	粘度変化経腸栄養剤について	46名
院内スタッフ	11月5日	粘度変化経腸栄養剤について	53名
院内スタッフ	12月3日	小児・新生児の栄養管理(Webセミナー)	35名
院内スタッフ	12月12日	小児・新生児の栄養管理(Webセミナー)	43名
R1年度新採看護師 他	1月27日	小児の栄養、消化機能と特徴	14名
院内スタッフ・外部	2月5日	『小児の摂食嚥下障害の評価と臨床対応』 —発達期嚥下調整食分類 2018 と栄養管理—	50名

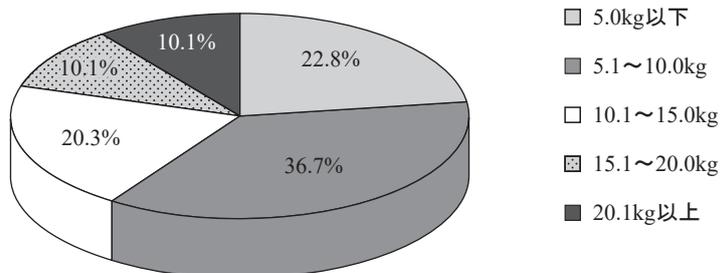
(15) 臨床工学課

①臨床業務症例数

	体外循環	心臓カテーテル検査	血液浄化療法	補助循環	内視鏡手術	NO吸入療法	ペースメーカーチェック
4月	5	14			7		2
5月	6	14	1	1	10	3	3
6月	6	14			13	2	7
7月	8	24	3	1	15	6	6
8月	6	22	5		16	2	4
9月	6	17	1	1	6	3	7
10月	8	21	1		5	1	5
11月	8	18	1		12	5	6
12月	4	11			11	2	14
1月	7	11			9	3	4
2月	7	14			8		6
3月	8	13			11	4	7
合計	79	193	12	3	123	31	71
前年比	118%	107%	240%	—	87%	89%	116%

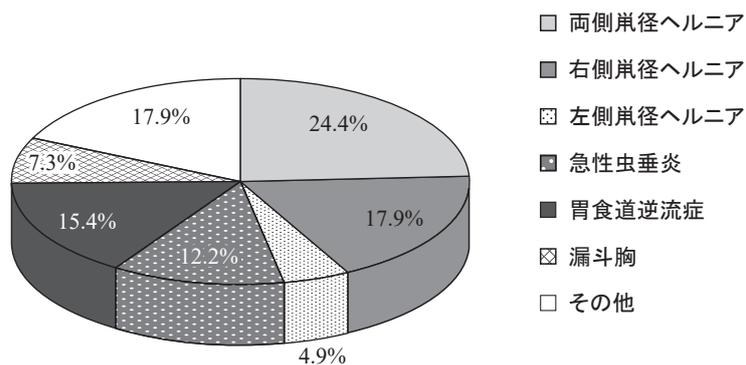
ア 体重別体外循環症例数

体 重	症例数
5.0kg 以下	18
5.1～10.0kg	29
10.1～15.0kg	16
15.1～20.0kg	8
20.1kg 以上	8



イ 疾患別内視鏡手術症例数

疾患	症例数
両側単径ヘルニア	30
右側単径ヘルニア	22
左側単径ヘルニア	6
急性虫垂炎	15
胃食道逆流症	19
漏斗胸	9
その他	22



②月別始業点検件数

機 種 名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器													
アバンス	20	18	20	22	21	18	21	20	19	19	18	21	237
エステイバ	21	18	20	23	21	18	21	20	18	18	17	20	235
アコマ	2	4	5	1	2		2	1	4	1	2	3	27
ケアステーション	58	53	60	67	64	58	63	60	57	57	54	63	714
人工呼吸器													
Trilogy	2	3	4			5		1	5	2	5	3	30
BiPAP V60	5	6	2	3	2	2	2	1	3	3	1	3	33
ハミング X	5	4	4		5	1	3	3	3	2	1	2	33
Avea									1				1
SERVO-U											2		2
ハミングビュー	2	4	7	3	8	6	6	8	6	7	5	7	69
ベネット 980										1			1
ベネット 840	6	8	8	10	8	8	10	10	6	9	9	10	102
ハミング V		1		8		2	1	1					13
インファントフロー	1	1	3	1		1	3	1	3	2	1		17
サイパップ	14	9	18	16	10	16	16	11	13	13	9	13	158
ネーザルハイフロー	21	11	21	19	13	20	20	14	16	15	15	18	203
シリンジポンプ	155	226	193	209	166	243	234	236	289	311	320	365	2,947
輸液ポンプ	95	100	101	137	117	130	124	108	132	125	136	156	1,461
経腸栄養注入ポンプ	6	2	1	7	2	4	1	2	1	4	3		33
開放型保育器	7	14	8	14	13	17	14	11	7	16	15	12	148
光線治療器	1	1	1	3								3	9
低圧持続吸引器	9	7	16	25	10	19	14	8	10	11	21	18	168
体温調節装置				1				2	1	1	2	2	9
加温加湿器	1	2	2	2	1	1	2	3	2	1	1	1	19
パルスオキシメータ		1	2	4	2	4	1	5	1	1	1	1	23
搬送用モニター												1	1
合 計	425	487	492	566	457	565	551	518	591	610	629	712	6,693

③月別人工呼吸器使用中点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Trilogy	79	62	119	79	109	103	119	134	156	113	141	150	1,364
BiPAP V60	5	5	17	30	1	1	11	3	6	10	4	6	99
ハミング X	19	20	21	44	25	23	8	16	11	5	20	20	232
Avea				10	14	2			1				27
BiPAP A40	2	2	8	3	14	8	10	10	5	6	8	5	81
SERVO-U										4	5	3	12
Babylog VN500		5											5
ASTRAL	18	15	33	29	36	26	35	24	42	48	44	52	402
ハミング ビュー	23	10	20	34	18	22	25	27	28	18	16	30	271
Vivo 40		10		1		1		3	4	6	12	2	39
ベネット 980								4	11	1	1	2	19
VOCSN												3	3
ベネット 840	99	60	87	85	89	65	66	57	48	61	79	75	871
ハミング V	16	5		8									29
インファントフロー DC	28	2	3	6			3		5	13	3		63
インファントフロー サイパップ	59	30	76	87	89	40	67	61	59	66	34	25	693
ネーザル ハイフロー	86	50	81	52	66	58	73	62	85	80	84	83	860
合計	434	276	465	468	461	349	417	401	461	431	451	456	5,070

④月別院内修理件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
シリンジポンプ	2		2	2	11	2	1	11	10	23	12		76
輸液ポンプ	1		5		2	1	2	2	2	4	1		20
光線治療器							1						1
除細動器							1						1
パルスオキシメータ	1									1			2
合計	4		7	2	13	3	5	13	12	28	13		100

⑤月別定期点検件数

機種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
麻酔器		1				1			1			4	7
シリンジポンプ										198	15		213
輸液ポンプ										93	19		112
Trilogy	11	15	9	7	9	9	6	15	8	10	7		106
パーカッション ベンチレータ		1						1					2
Avea							1	1					2
BiPAP A40		2	3		2	2		3	2		2		16
ASTRAL		3	3	1	3	1	3	2	2		2		20
ハミングビュー				1	1								2
ベネット 840						8	1						9
RTX レスピロレーター							1						1
サイパップ				1				1	1	1	1	3	8
新生児用保育器								11	14	2			27
開放型保育器								1	5	2	5		13
搬送用保育器											3		3
除細動器						4				1	1		6
人工心肺装置			1										1
補助循環用遠心ポンプ			2										2
血液浄化装置					1	3							4
体外式ペースメーカー										1		1	2
分娩監視装置								3		4	3	1	11
その他					1			1		1		1	4
合計	11	22	18	10	17	28	12	39	33	313	58	10	571

(16) 母子保健室

①精密健康診査

ア 保健福祉事務所・保健所別受診状況

管 轄		前 橋	高 崎	安 中	渋 川	藤 岡	富 岡	吾 妻	沼 田	伊 勢 崎	桐 生	太 田	館 林	県 外	計
受 診 者 数	R1年	7	16	1	21	0	1	10	8	15	1	0	0	2	82
	H30年	3	27	2	26	0	3	9	11	9	4	0	0	1	95

イ 科別・年齢別受診状況

科 名	受診者数	年 齢 別 受 診 者 数					H30年度 受診者数
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	
一 般 小 児 内 科	3				3		2
神 経 内 科	21	7	13			1	16
循 環 器 科	4		1		3		7
外 科	15	4	5		6		18
整 形 外 科	25	18	2	2	3		32
形 成 外 科	9	5	4				18
歯 科	1				1		1
そ の 他	4				4		2
合 計	82	34	25	2	20	1	95

ウ 3歳児健康診査・精密検診実施状況（再掲）

科名 \ 結果	実施者数	異常なし	要観察	要治療	H30年度 実施者数
一般小児内科	3	2	1		1
神経内科	0				1
循環器内科	3	3			3
外科	6		5	1	4
形成外科	0				2
整形外科	3	1	2		3
歯科	1			1	0
眼科	4		3	1	2
計	20	6	11	3	16

エ 1歳6か月児健康診査・精密検診実施状況（再掲）

科名 \ 結果	実施者数	異常なし	要観察	要治療	H30年度 実施者数
一般小児科	0				0
神経内科	6		5	1	5
循環器内科	1	1			2
外科	3		2	1	2
形成外科	2			2	4
整形外科	3		3		4
歯科	0				0
計	15	1	10	4	17

オ 科別受診状況及びその結果

区分 科別疾患名	受診者数	受診結果					H30年度 受診者数
		異常なし	要観察	要治療	要訓練 (重複あり)	その他 (重複あり紹介等)	
一般小児内科総数	3						2
3歳児健診再検尿	3	2	1				0
体重増加不良・低身長	0						1
その他	0						1
神経内科総数	21						16
精神運動発達遅滞	19	1	13	4	6	1	11
その他	2		2		1		5
循環器内科総数	4						6
心雑音	4	4					6
その他	0						0
外科総数	15						18
ソケイヘルニア	4		2	2			4
停留・移動精巣	8		6	2			12
陰嚢水腫	0						0
その他	3		2	1			2
整形外科総数	25						32
先天性股関節脱臼	14		14				19
O脚・X脚	1		1				4
その他	10	1	7	2			9
形成外科総数	9						18
血管腫・母斑	5		2	3			8
蒙古斑	0						1
耳介異常・副耳	1		1				1
ヘルニア	3			3			4
その他	0						4
歯科総数	1						1
舌小帯	0						1
その他	1			1			0
その他	4						2
視力検査異常	3		3				2
その他	1			1			0
総 数	82	8	54	19	7	1	95

②子どものこころの発達相談

ア 来院経路及び年齢別実施状況（実人員）

経 路	実施者数	年 齢 別							H30 年度 実施者数
		1歳未満	1～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～18	
センター内	30	0	12	7	5	4	2	0	23
電話相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前年度からの継続	18	0	3	4	8	1	2	0	14
計	48	0	15	11	13	5	4	0	37

イ 相談件数及び相談後の対応状況

相談内容	実数(延べ数)	相談後の経過			H30 年度実数 (延べ数)
		継 続	他機関紹介	終 了	
発 達 の 問 題	35(74)	10(34)	0(0)	25(40)	26 (72)
行 動 の 問 題	5(18)	0(0)	0(0)	5(18)	8 (19)
神 経 性 習 慣	5(14)	3(12)	0(0)	2(2)	1 (4)
心 身 症	2(6)	2(6)	0(0)	0(0)	1 (4)
疾病に伴う母の心理支援	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1 (1)
そ の 他	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)	0 (0)
合 計	48(113)	15(52)	1(1)	32(60)	37 (100)

発達の問題：広汎性発達障害、自閉症、精神発達遅滞など
 行動の問題：多動、不登校、いじめ、社会不適応など
 心身症：心因性腹痛、頭痛、めまい、過呼吸、摂食の問題など
 その他：育児不安、養育支援、学校・家庭環境の調整等、他

③新生児・未熟児病棟 (A) および他病棟 (B) 入院患児の退院連絡

ア 退院連絡後の状況

	退院連絡依頼数	返信数	訪問実施数	電話連絡	その他
A	203	192(94.6%)	185(96.4%)	7(3.6%)	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、訪問できなかったケースあり
B	40	41(102.5%)	39(95.1%)	2(4.9%)	
計	243	233(97.1%)	224(96.2%)	9(3.8%)	

返信数には R1 年度に依頼、R2 年度 (5 月末) までに返信が来たものも含まれるため B は依頼数より返信数が増加している。

イ 体重別退院連絡実施状況

	退院連絡票 依頼数	体 重 別 実 施 状 況				R1 年度 依頼数
		999 g 以下	1,000 ～ 1,499g	1,500 ～ 1,999g	2,000g 以上	
A	203	23	13	26	140	191
B	40	1	0	1	38	34
計	243	24	14	27	178	225

④関係機関との連携状況

①から③の事業以外の相談・問合せの数

区 分	家 族	院 内	県 保 福 児 関 相 以 外 係 の	保 健 福 祉 事 務 所	児 童 相 談 所	市 町 村	医 療 機 関	幼 学 校 ・ 稚 保 育 所 ・ 園	ス 訪 テ 問 ー シ 看 ン ヨ 護	施 設	そ の 他	計 内 訳 (電話/面接)
養育支援	513	286	0	2	87	338	3	20	21	14	4	1,288(705/583)
療育支援	25	40	0	0	19	19	0	3	1	1	0	108(68/40)
成長発達	162	43	0	0	7	41	0	19	0	2	0	274(88/186)
病 気	2	9	0	0	0	7	0	2	0	0	0	20(16/4)
受診支援	10	13	0	0	3	12	1	0	0	2	1	42(29/13)
予防接種	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4(2/2)
医療福祉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0(0/0)
保健医療	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(1/0)
患者家族会	29	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	30(1/29)
マス・ スクリーニング	11	6	2	5	4	9	35	0	0	0	17	89(85/4)
遺伝相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0(0/0)
妊娠・出産 相 談	26	67	0	0	4	65	1	0	0	0	0	163(110/53)
研修・調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0(0/0)
そ の 他	6	33	0	0	19	22	1	3	0	0	0	84(68/16)
計	787	497	2	7	143	516	41	47	22	19	22	2,103 件
電話計	61	320	2	7	135	512	40	44	20	11	21	電話：1,173
面接計	726	177	0	0	8	4	1	3	2	8	1	面接：930

⑤関係機関との連携会議

検 討 内 容	実 数	延べ数	関係機関及び()内は連携をとった延べ数	センター職員
教育機関・地 域との調整	6	6	家族(3) 市町村(4) 児童相談所(1) 教育委員会(1) 小中学校(2) 訪問看護(1)	医師、看護師、 MSW、保健師、 臨床心理士

⑥子ども虐待防止対策事業

地域医療連携室と協働して実施している。地域医療連携室(相談部門)のページ参照してください。

R1.9.11 院内研修会 「児童虐待における警察署の体制や他機関との連携について」

講師 渋川警察署 生活安全課 川井警部補

⑦心理判定・心理カウンセリング

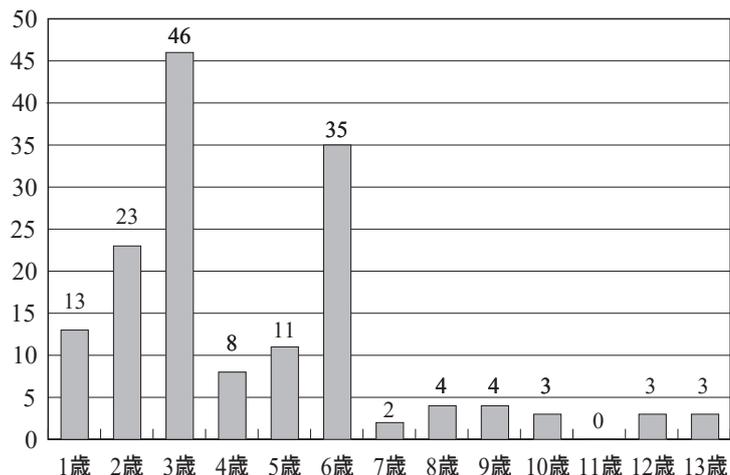
<心理判定>

ア 心理判定（実施件数及び検査数）

新版 K 式発達検査	92
WISC- IV 知能検査	54
M-CHAT	36
PARS-TR	12
描画テスト	2
DSRS-C	2
Conners 3	2
KIDS	1
田中ビネー知能検査 V	1
計	202

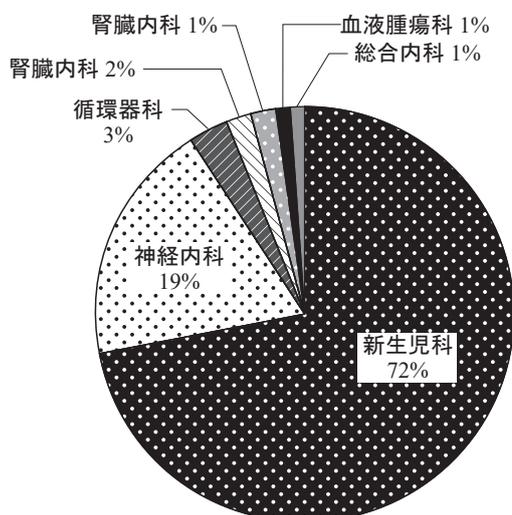
イ アの年齢別被検査者数 (n=155)

件数



※一被験者に複数の検査を実施している場合、イならびにウでは1集計としている。

ウ 依頼科 (n=180)



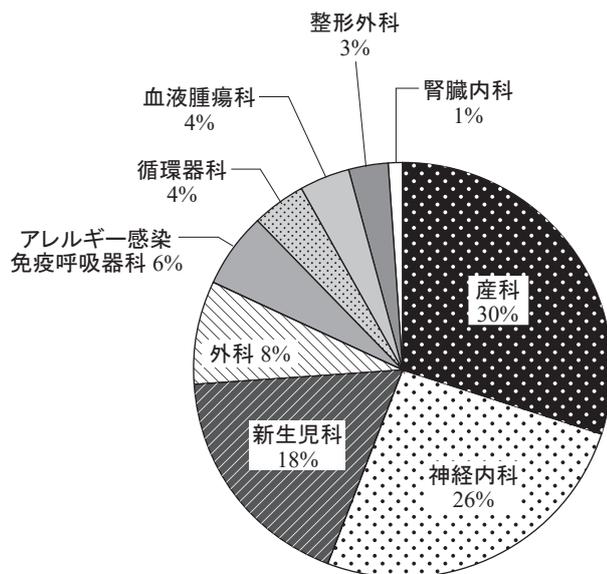
※一被験者に複数の検査を実施している場合、イならびにウでは1集計としている。

<心理カウンセリング>

ア 心理カウンセリング（実施内容及び件数）

心理カウンセリング内容	対象家族数	対象者数	述べ実施回数
気分障害	1	5	11
ストレスが関連しているもの	6	12	25
心身症状の問題	18	45	125
発達の問題	6	10	13
行動・情緒の問題	8	18	55
育児に関する悩み	7	12	48
疾病に伴う心理的家族支援	3	8	38
周産期からの心理支援（乳児退院前後も含む）	26	46	85
スタッフへのコンサルテーション	2	6	2
計	77	162	429

イ 初回心理カウンセリング実施時受診科 (n=77)



<精神科コンサルト>

11 回実施 (実人数 12 人、延人数 24 人)

⑧ 研修会等

○ 県主催の保健関係研修会 (難病関係・母子保健関係)……企画及び運営に協力

○ 学生実習等

- ・ 群馬大学医学部保健学科にて専門教育科目における授業のゲスト講師を行った。

日程：令和 2 年 1 月 6 日

内容：地域看護学方法論 I 「医療機関における保健師活動」

- ・ その他 新規看護職員研修、看護職員キャリアアップ研修・群馬大学チームワーク実習等、講義を実施した。 延べ 158 名

○ 群馬県医療的ケア児等コーディネーター養成研修実行委員会及び研修講師

○ 全国こども病院保健師等連絡会を当院主催で実施 R1.11.8 実施 8 医療機関参加

⑨ 学会・研修会参加状況

日 時	学会・研修会名	開催場所等	出席者
H31.4.19	保健予防課業務調整会議	県庁	高橋
H31.4.23	母子保健担当者会議	県庁	高橋
R1.6.20,6.21,7.11	医療対話推進者養成研修	県庁	安達保健師
R1.10.19	発達協会秋のセミナー 「発達障害・知的障害がある子の感情と欲求・動機づけ」	東京	佐藤
R1.10.27	発達協会秋のセミナー「指導に活かす発達の評価」	東京	安達
R1.11.7	地域における医療的ケアの支援に関する研修会	県庁	高橋
R1.12.17	群馬県先天性代謝等検診対策委員会	県庁	安達・高橋
R1.12.21～12.22	日本子ども虐待防止学会	兵庫県神戸市	高橋
R2.1.19	フォーカシング研修	東京	川崎心理士

日 時	学会・研修会名	開催場所等	出席者
R2.2.17	母子保健担当者会議	県庁	高橋
R2.3.4	慢性疾病児童等地域支援協議会	書面開催	高橋
R2.3.17	群馬県小児等在宅医療連絡協議会	書面開催	高橋

⑩群馬県先天性代謝異常等検査事業

事務局として患者情報の管理（精密検査対象児及び継続治療児達のフォローアップ）、予防治療及び管理体制の検討を行い、適切な療育環境を整えることを目的に、検査基準値、検査体制、支援体制の見直しを行うために、毎年、先天性代謝異常等検診対策委員会を開催している。

令和元年度は、現行のカットオフ値と陽性率の報告の他に「TSH 高値精密検査対象者の経過と発達状況に関する多施設共同研究」において、明らかに発達が遅れている人はいないという報告があり3歳と6歳時に実施していた発達検査は一旦終了することになった。また、クレチン症の名称は先天性甲状腺機能低下症に統一することとなった。

<令和元年度患者発見状況報告>

・一次検査実施実人数	13,258 人	
・再検査実施実人数	307 人	
・精密検査対象者実人数	41 人	
・患者確定人数	先天性甲状腺機能低下症	6 人 (治療中)
	シトルリン欠損症	1 人 (治療中)
	OTC 欠損症	1 人 (治療中)
	特発性高ガラクトース血症	1 人 (経過観察)

⑪ 親の会への支援

- ・ダウン症親の会（あさがお）の運営支援 2回／年 (R1.6.3 R1.11.1)
- ・13.18 トリソミー親の会（スマイル）の運営支援 2回／年 (R1.5.30 R1.11.11)
- ・口唇口蓋裂患者・家族交流会の運営 1回／年 (R1.9.12)
2回目は新型コロナ感染防止のため中止

⑫ その他

- ・令和元年度度群馬県小児保健会研究集会及び総会 (R1.8.29)
事務局として会の企画・運営に参画。

(17) 地域医療連携室

①医療相談件数（令和元年度）

ア 相談内容及び件数（地域医療連携室）

	第一病棟	第二病棟	第三病棟	新生児病棟	産科病棟	P I C U	外来	その他	合 計		
									総計	内 訳 面接/電話/ カンファレンス	内 訳 新規/継続
転院・退院・入所	518	46	64	121	7	5	54	70	885	(133/563/189)	(68/817)
ショートケア	16	2	14	0	0	0	111	1	144	(46/94/4)	(25/119)
指導管理料関係	0	2	0	0	0	0	8	1	11	(0/7/4)	(2/9)
訪問看護	99	68	61	45	0	1	248	10	532	(76/372/84)	(78/454)
多職種連携	33	9	21	134	42	2	78	88	407	(17/71/319)	(241/166)
退院後フォロー	6	4	5	6	1	0	111	0	133	(52/61/20)	(15/118)
医療費・経済	2	2	5	11	6	2	44	6	78	(28/38/12)	(21/57)
医療給付制度	21	29	172	48	7	72	416	33	798	(346/235/217)	(271/527)
福祉サービス	87	23	66	38	2	9	602	53	880	(239/466/175)	(198/682)
心理的	2	0	0	3	0	0	2	0	7	(4/0/3)	(3/4)
新生児入院面接	2	2	16	410	9	39	27	10	515	(402/85/28)	(291/224)
その他	96	45	104	51	25	28	511	132	992	(167/628/197)	(221/771)
合 計	882	232	528	867	99	158	2,212	404	5,382	1510/2620/1252	(1434/3948)

イ 公費負担医療費申請等事務取扱件数

区 分	件 数
未 熟 児 養 育 医 療	186
育 成 医 療	154
小児慢性特定疾病医療給付	577 (480)
指定難病医療給付	21 (18)
通院医療費公費負担制度	4 (3)
合 計	942 (501)

()内は継続数

ウ 身体障害者手帳

特別児童扶養手当等事務取扱件数

区 分	件 数
身体障害者手帳	※112
特別児童扶養手当	※144
障害児福祉手当	※77
その他の診断書等	1,078
合 計	1,411

※再認定を含む

②子ども虐待防止対策事業

ア 院内 CAPS 開催状況

- 令和元年5月13日「鋭利なものが臀部に刺さり、当院で手術をした事例」；児童相談所へ通告
- 令和元年5月27日「地域の健診で母が虐待していると話していた事例」；児童相談所へ通告
- 令和元年8月23日「当院受診時に大腿部と臀部に痣を確認した事例」；児童相談所へ通告、警察対応
- 令和元年9月6日、10月1日「患者の同胞が継父から暴力を受けていた事例」；児童相談所へ通告、外来受診対応協議
- 令和元年12月12日「慢性的なネグレクト家庭の事例」；児童相談所へ通告
- 令和元年2月12日「自宅浴槽で溺水し蘇生後に当院へ搬送された事例」；児童相談所へ通告、警察対応
- 令和元年2月21日「体重減少が見られ、家族の養育力が心配された事例」；児童相談所へ相談

イ 要支援事例検討会状況：年6回（奇数月、院内研修を含む）開催

月齢及び年齢	男		女		計	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
1ヶ月未満	0	0	1	1	1	1
1～6ヶ月	1(1)	1	1	2	2(1)	3
7～12ヶ月未満	1	3	1(1)	2	2(1)	5
1～2歳	4(2)	10	0	2	4(2)	12
3歳～学齢前児童	1	2	0	0	1	2
小学生	3(2)	4	1(1)	3	4(3)	7
中学生	0	0	1	1	1	1
高校生・その他	0	0	0	0	0	0
計	10(5)	20	5(2)	11	15(7)	31
(平成30年度)	12(5)	39	10(4)	21	22(9)	60

()内は前年度からの継続人数

<分類>

	身体的	心理的	ネグレクト	性的	代理ミュンヒハウゼン	障害受容	養育環境	母の精神面
令和元年度	4	0	3	0	0	0	7	1
(平成30年度)	6	0	3	0	0	0	9	4

母の精神面については、精神科または心療内科受診歴がある場合を計上。

総括編

1. 沿革

小児医療センターは、こどもたちが心身ともに健やかに生まれ、育成されることを目的として、高度専門的な総合的小児医療、保健活動を目指す施設として構想され、まず本県における小児保健医療の現状から緊急に必要な未熟児・新生児・乳児低年齢層の幼児を中心として専門的な診断治療を行うほか、母子保健活動、小児保健医療の調査研究研修を行う施設として、昭和57年4月1日に開設し、同年7月1日から全面的に診療活動を開始した。

- 昭和47年9月 建設調査検討開始
- 48年5月 群馬県小児病院調査委員会発足(会長 吉野文郁、委員17名)
- 50年1月 調査委員会「群馬県小児医療センター基本構想」を答申(規模:病床数200床程度)
- 50年6月 群馬県小児医療センター建設委員会発足(委員長 知事、委員22名)
- 52年3月 県議会「県立小児病院建設促進についての意見書」を採択
- 52年8月 小児医療センター建設促進懇談会、建設構想を作成し知事に提示
提案者: 県医師会長鶴谷孔明ほかメンバー9名
内容: 病床数60床(新生児科30、小児内科20、小児外科10)
- 53年3月 53年度当初予算7億9千万円議決(用地取得費290百万円、建設基金積立500百万円)
- 53年10月 小児医療センター建設準備室設置
- 53年12月 小児医療センター建設専門会議発足(議長 衛生環境部長、委員10名)
- 54年2月 小児医療センター建設基本方針及び基本計画決定(病床規模60床)
- 54年3月 54年度当初予算8億9千万円議決(設計委託料、基本積立等)
- 54年9月 建設基本方針及び基本計画の一部変更決定(病床規模80床)
- 54年11月 設計委託契約の締結(株式会社アルコム)
- 55年3月 55年度当初予算7億6千万円議決(本館建設費等)
- 55年10月 小児医療センター起工式
- 56年3月 56年度当初予算34億1千万円議決(建設費、医療機器購入等)
- 56年4月 小児医療センター看護要員県外研修派遣(1年間、19名)
- 57年3月 小児医療センター建設完工
- 57年3月 小児医療センターを県立病院として設置する「群馬県病院事業の設置等に関する条例」の一部改正議決
- 57年3月 医療法7条に基づく病院開設許可(80床)
- 57年4月 小児医療センター開設
- 57年5月 小児医療センター落成式
- 57年7月 診療活動を開始(川崎病患者については6月より診療開始)

◆開院後の歩み

- 昭和57年 4. 1 群馬県立小児医療センター設置、院長として神邊 譲 就任
5. 1 保険医療機関の指定(勢医 1014. 5010042)
- 〃 療養取扱機関の申出の受理(勢国医 1014. 205145)
5. 27 日本麻酔科学会麻酔指導病院認定
6. 9 結核予防法による医療機関の指定(指定番号 1572)
6. 30 母子保健法による未熟児養育医療担当機関の指定(群馬県指令保福第6号)(未熟児収容定員 20人)
7. 1 生活保護法による医療機関の指定(勢医 68号)
10. 1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される(認定期間 1982年7月1日より 1987年6月30日)
10. 12 身体障害者福祉法指定医(障第 141号) 松山四郎、小泉武宣、清水信三
12. 1 基準給食承認(食第 104号)
- 58年 1. 1 基準看護(特2類)(看護 47号)、基準寝具(寝第 127号)承認
2. 1 児童福祉法による育成医療機関(心臓血管外科)指定
5. 12 身体障害者福祉法による厚生医療担当医療機関(心臓血管外科)指定
3. 23 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令(医)第 206号)病床数及び従業員数の変更
3. 30 病院施設使用許可(医第 213号)病床増に伴うもの(98床)
5. 1 基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認(群馬県指令保第 51号)基準看護(特2類)、給食、寝具(98床)
7. 1 重症者の看護及び重症者の収容基準実施承認(群馬県指令保第 55号)看護 3床
8. 1 同 上(群馬県指令保第 62号)看護 7床、収容 2床
- 59年 3. 29 群馬県小児医療センター建設事業基金条例の廃止
4. 1 群馬大学医学部小児科学生臨床実習指定病院
4. 11 県立福祉大学校看護学科看護婦養成所の実習施設に指定
- 60年 5. 1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
- 61年 3. 1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
認定期間 1986年3月1日～1991年2月28日(認定番号 105号)
4. 1 全国自治体病院協議会群馬県支部長として神邊 譲 就任
5. 1 紹介型病院承認(許可番号(紹)第 1号)
8. 1 在宅酸素療法指導管理届出の受理(保第 810号)
9. 10 昭和 61年度全国自治体病院協議会関東地方会議主催(支部長 神邊 譲)
- 62年 3. 1 児童福祉法による育成医療機関(小腸に関する医療)指定
6. 1 在宅中心静脈栄養法指導管理届出の受理(保第 659号)
- 63年 4. 1 在宅経管栄養法指導管理実施届出の受理(保第 393号)
- 〃 基準看護(外科特3類)の承認(棟看第 1号)
5. 1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
7. 1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間 1987年7月1日～1992年6月30日
8. 1 基準看護(外科特3類→特2類)の承認
- 平成元年 2. 1 臨床修練(小児疾患)指定病院(厚生省収健政第20号)(外国医師又は外国歯科医師)
3. 1 基準看護(外科特3類)の承認(棟看第 1号)
- 2年 2. 1 在宅自己導尿指導管理実施届出の受理
7. 1 紹介外来型病院の指定(厚生省収保第 1006号)
- 3年 3. 1 日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定

- 認定期間平成3年3月1日～平成8年2月29日(認定番号105号)
- 5.1 保険医療機関指定、基準看護、基準給食、基準寝具設備実施承認
 - 4年7.1 日本小児外科学会認定医制度認定施設として認定される
認定期間1993年7月1日～1998年6月30日
 - 5年4.1 2代目院長として松山四郎 就任
〃 無菌調剤処理施設基準承認(菌)第7号
 - 10.1 基準看護内科外科特3類(棟看第1号)、未熟児・新生児特2類(棟看第47号)の承認
〃 在宅人工呼吸指導管理実施届出の受理(保第1762号)
 - 6年5.1 保険医療機関指定(勢医1014)
 - 8.1 基準看護承認特3類3病棟98床(看)第1号(特3)
 - 9.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(内科、外科各2床)
 - 10.1 新看護等の基準に係る届出、一般病棟3病棟98床(看第5号(2対1A))
 - 7年7.20 身体障害者福祉法指定医(障第110号)鈴木則夫・丸山健一・重田 誠
 - 8.1 更生医療担当医療機関指定(障第111号)
 - 11.1 夜間勤務等看護に係る届出(保第1926号)(夜看I・II)
 - 8年3.1 入院時食事療養等届(特別管理・適時適温)(保第416号)
 - 4.1 3代目院長として土田嘉昭 就任
〃 新看護等(夜間勤務等看護)に係る届出(夜看)第24号(I a-3)
〃 画像診断管理の施設基準に係る届出
〃 手術前医学管理料に係る届出(手前管)第32号
 - 11.1 院内感染防止対策に係る届出(感防)第89号
 - 9年5.1 麻酔管理料に係る届出(麻管)第18号
 - 5.2 日本形成外科学会認定医制度教育関連施設として認定(登録番号97-321U)
 - 5.26 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保第45号)
病床数の変更(内科病棟40床、外科病棟28床)
 - 9.17 身体障害者福祉法指定医(障第151号)設楽利二・小林富夫
 - 12.1 重症者の特別の療養環境基準実施承認(重第38号)内科2床増
 - 10年4.1 無菌治療室管理の施設基準に係る届出
 - 7.1 新生児特定集中治療室管理の施設基準に係る届出(新)第3号
 - 11年3.5 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第230号)外来棟増築
 - 6.1 経皮的冠動脈形成術の施設基準に係る届出(経形)第26号
 - 11.1 ペースメーカー移植術の施設基準に係る届出(ペ)第47号
〃 大動脈バルーンパンピング法の施設基準に係る届出(大)第28号
 - 11.15 病院開設許可事項の一部変更許可(群馬県指令医第217号)
病棟間の病床数の変更(外科病棟28床→30床 未熟児・新生児病棟30床→28床)
〃 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)篠原 真
 - 12.1 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出(理Ⅱ)第72号
 - 12年1.1 経皮的冠動脈ステント留置術の施設基準に係る届出(経ス)第25号
〃 経皮的冠動脈血栓切除術の施設基準に係る届出(経切)第24号
 - 3.1 夜間勤務等看護に係る届出(平成12年3月1日における病棟間の病床数移動による届出)(夜看)第75号
 - 4.1 検体検査管理加算(I)の施設基準に係る届出(検I)第7号
 - 5.1 保険医療機関の指定(勢医1014)
 - 11.22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定(障第103号)丸山憲一
 - 13年1.21 日本小児科学会認定制度施設として認定される

- 認定機関 2001 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日 (認定番号 105 号)
- 3 . 23 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 145 号) 前田昇三
 - 14年 4 . 1 1 歳未満の乳児に対する手術に係る届出 (乳外) 第 1 号
 - 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
 - 7 . 19 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
 - 病床数の変更 (内科病棟 40 床→ 45 床)
 - 7 . 26 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 西村秀子
 - 10 . 1 医療安全管理体制及び褥瘡対策の基準に係る届出 (群社局文発第 1579 号)
 - 11 . 22 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-15) 平形恭子
 - 11 . 27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-108 号)
 - 病棟間の病床数の変更 (内科病棟 45 床→ 44 床、外科病棟 27 床→ 28 床)
 - 15年 1 . 14 開設許可事項一部変更届 (標榜科目の変更)
 - 4 . 1 診療科目 (小児科、小児外科、麻酔科、放射線科に循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科を加える)・病床数 (98 床→ 103 床) の変更
 - 8 . 1 児童福祉法による育成医療機関 (中枢神経に関する医療) 指定
 - 16年 2 . 26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-169 号)
 - 新病棟の建設、旧病棟の用途変更、一般病床の増加 (103 床→ 150 床)
 - 4 . 1 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る届出 (褥) 第 20 号
 - 〃 尿道形成手術等に関する施設基準に係る届出 (2 エ) 第 17 号
 - 〃 肝切除術等に関する施設基準に係る届出 (2 カ) 第 28 号
 - 〃 食堂切除再建術等に関する施設基準に係る届出 (3 カ) 第 22 号
 - 〃 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (電池交換を含む。)に関する施設基準に係る届出 (ペース) 第 56 号
 - 〃 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術に関する施設基準に係る届出 (冠動) 第 3 号
 - 〃 1 歳未満の乳児に対する手術に関する施設基準の届出 (加乳外) 第 1 号、(乳外) 第 2 号
 - 5 . 1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入 1) 第 5 号
 - 5 . 27 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-34 号) 本館の一部構造等変更
 - 6 . 1 言語聴覚療法Ⅲの施設基準に係る届出 (言語Ⅲ) 第 2 号
 - 7 . 20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-7) 渡辺美緒
 - 8 . 9 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号) 本館の一部構造等変更
 - 11 . 20 身体障害者福祉法に基づく医師の指定 (障第 202 号-16) 村松礼子
 - 11 . 1 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 (小入 2) 第 16 号
 - 12 . 2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-121 号) 本館の一部構造等変更
 - 17年 3 . 1 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-160 号)
 - 4 . 1 4 代目院長として林 泰秀 就任
 - 〃 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出 増床 (一般入院) 第 102 号
 - 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (小入 1) 第 5 号
 - 〃 小児入院医療管理料 2 の施設基準に係る届出 増床 (小入 2) 第 16 号
 - 〃 夜間勤務等看護加算 1 の辞退 (夜勤看) 第 127 号
 - 〃 新生児特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 増床 (新) 第 3 号

- 5. 1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科の9科に、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の5科を加え14科とする)
 - // 保険医療機関指定申請 (歯科)
 - // 一般病棟 I 群入院基本料 2 の施設基準に係る届出産科 (一般入院) 第 102 号
 - // 総合周産期特定集中治療室管理料施設基準に係る届出 (周) 第 2 号 (新生児特定集中治療室管理料の辞退を含む)
- 5. 2 理学療法Ⅱの施設基準に係る届出 (医師・PT の変更) (理Ⅱ) 第 72 号
- 6. 1 病院開設届出事項一部変更届 (標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科の14科に、精神科を加え15科とする)
 - // 保険医療機関記載事項変更届 (精神科)
 - // 一般病棟 I 群入院基本料 1 の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 7. 14 褥瘡患者管理加算届出 (専任看護職員変更) (褥) 第 20 号
- 7. 27 身体障害者福祉法指定医 (群馬県指令障第 501-5 号) 鈴木尊裕、戸所誠
 - // 更生医療機関届出 (整形外科) 群馬県指令障第 501-6 号
- 8. 22 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-46 号) 外来診療室、病室名等の変更
- 10. 1 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (集) 第 13 号
- 18年 1. 1 療養環境加算の施設基準に係る届出 (療) 第 58 号
- 1. 24 無菌製剤処理加算の施設基準に係る届出クリーンベンチ増設 (菌) 第 7 号
- 2. 1 重症者療養環境特別加算に係る届出 変更 (重) 第 38 号
 - // 自立支援医療に係る指定自立支援医療機関の指定
- 3. 2 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-139 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の設置)
- 3. 31 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-164 号)
病院施設の一部構造等変更 (MRI 検査車両の撤去)
- 3. 29 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-171 号)
病院施設の一部構造等変更 (言語聴覚室)
- 4. 1 補綴物維持管理料 (補維) 第 1033 号
 - // 特定集中治療室管理料の施設基準に係る届出 (4 → 6) (集) 第 13 号
 - // 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準届出 (通手) 第 54 号
 - // 小児入院医療管理料 1 の施設基準届出 (小入 1) 第 5 号
 - // 小児入院医療管理料Ⅱ (第 1 病棟・新生児未熟児病棟) の施設基準届出 (小入 2) 第 16 号
 - // 一般病棟 7 対 1 入院基本料に係る施設基準届出 (一般入院) 第 102 号
 - // 栄養管理実施加算に係る施設基準の届出 (栄養管理) 第 116 号
 - // 単純 CT 撮影及び単純 MRI の施設基準の届出 (単) 第 56 号
 - // 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (運Ⅰ) 第 59 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準の届出 (脳Ⅱ) 第 70 号
 - // 呼吸器リハビリテーション科Ⅰの施設基準の届出 (呼) 第 29 号
 - // 歯科疾患総合指導料Ⅰの施設基準の届出 (歯総指) 第 614 号
- 5. 1 保険医療機関及び保険薬局の更新について (群社局文発 815 号)

- 7.20 身体障害者福祉法指定医指定願(群馬県指令障第 30057-2 号)
- 7.21 医療安全対策加算に係る施設基準の届出(医療安全)第 17 号
- 8.23 指定自立支援医療機関(精神通院医療)の指定手続き(保予第 30023-12 号)
- 9.29 運動器リハビリテーション科Ⅰの施設基準に係る医師及び作業療法士の追加届出(運Ⅰ)第 59 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅱの施設基準に係る作業療法士の追加届出(脳Ⅱ)第 70 号
- 10.2 診療録管理体制加算に係る施設基準の届出(診療録)第 38 号
- 11.20 ハイリスク分娩管理加算に係る施設基準の届出(ハイ分娩)第 10 号
- 19年 2.28 指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)の指定通知について(障第 30052 -13 号)
 - 4.1 病院開設届出事項一部変更届(標榜科目の変更)
(小児科、小児外科、麻酔科、放射線科、循環器科、アレルギー科、神経内科、形成外科、心臓血管外科、産科、リハビリテーション科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科、精神科の 15 科に、整形外科を加え 16 科とする)
 - 〃 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の受理(通手)第 54 号
 - 4.9 呼吸器リハビリテーション科(Ⅰ)及び医学管理料(Ⅰ)の施設基準に係る届出(医師の変更)(呼Ⅰ)第 29 号
 - 4.17 特定疾患医療給付等に関する群馬県知事との契約書について(保予第 708-2 号)
 - 〃 保険医療機関記載事項変更の届出
 - 4.23 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令渋保福第 551-2 号)
病院施設の一部構造等変更(言語聴覚室)
 - 4.27 障害者自立支援法第 59 条第 1 項の規定による指定自立支援医療機関(育成医療・更生医療)指定の変更(医師の変更)障第 30052-3 号
 - 5.31 臨床研修病院入院診療加算の届出(臨床研修)第 21 号
 - 6.19 輸血管理料Ⅰの届出(輸血Ⅰ)第 8 号
 - 7.18 褥瘡患者管理加算の施設基準に係る専任看護師の変更届出(褥)第 20 号
 - 7.27 栄養管理加算の施設基準に係る管理栄養士の変更届出(栄養管理)第 116 号
 - 8.10 麻酔管理料の施設基準に係る常勤の麻酔科標榜医の変更届出(麻管)第 18 号
 - 〃 診療録管理体制加算の施設基準に係る診療記録管理者変更の届出(診療録)第 38 号
 - 〃 大動脈バルーンパンピング法(IABP)の施設基準に係る医師の変更届出(大)第 28 号
 - 〃 ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術の施設基準に係る医師の変更届(ペ)第 47 号
 - 10.31 生活保護法指定医療機関指定申請書(歯科)健福第 839-31 号
 - 11.20 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第 166-77 号)
病院施設の一部用途等変更(医薬品情報管理室)
 - 11.30 薬剤管理指導料の届出(薬)第 118 号
- 20年 1.22 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第 166-96 号)
病院施設の一部名称及び用途等変更(無菌製剤室ほか 39 室)
 - 4.1 電子化加算の施設基準に係る届出(電子化)第 1362 号
 - 〃 妊産婦緊急搬送入院加算の施設基準に係る届出(妊産婦)第 21 号
 - 〃 医療安全対策加算の施設基準に係る(医療安全)第 17 号
 - 〃 ハイリスク妊娠加算の施設基準に係る届出(ハイ妊娠)第 26 号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出(ハイ分娩)第 19 号

- 4. 1 小児入院医療管理料 1 の施設基準に係る届出 (小入) 第 20 号
- 〃 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る届出 (機安 1) 第 32 号
- 〃 検体検査管理加算 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (検Ⅱ) 第 70 号
- 〃 検体検査管理加算 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (検Ⅰ) 第 7 号
- 〃 遺伝カウンセリング加算の施設基準に係る届出 (遺伝カ) 第 1 号
- 〃 画像診断管理加算 2 の施設基準に係る届出 (画 2) 第 7 号
- 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る届出 (菌) 第 51 号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 31 号
- 〃 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 20年 5. 12 障害児 (者) リハビリテーションの施設基準に係る届出 (障) 第 7 号
- 6. 16 医療機能評価 (Ver.5.0) 認定 認定番号: 第 JC1509 (2008/6/16~2013/6/15)
- 6. 27 障害者自立支援法第 59 条第 1 号の規程による指定自立支援医療機関 (育成医療・更生医療) の指定の変更届出 (障第 30052-4 号)
- 6. 30 一般病棟入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 〃 小児入院医療管理料 1 の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
- 〃 小児入院医療管理料 3 の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
- 7. 29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく医師の指定について (障第 30057-1 号)
- 8. 1 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術の施設基準に係る届出 (通手) 第 54 号
- 8. 15 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-56 号)
病院施設の一部構造及び用途等変更 (歯科外来の拡張)
- 9. 1 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (保育士設置) (小入 3) 第 16 号
- 9. 12 診療用エックス線装置に係る届出事項の変更の届出
エックス線装置 (透視・直接撮影 (診断用)) の更新
- 10. 1 心臓 MRI 撮影加算の施設基準に係る届出 (心臓 M) 第 7 号
- 11. 26 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-91 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 2、第二病棟授乳室)
- 21年 1. 1 小児食物アレルギー負荷検査の施設基準に係る届出 (小検) 第 11 号
- 〃 小児入院医療管理料 3 の施設基準の変更に係る届出 (小入 3) 第 16 号
- 〃 小児入院医療管理料 1 の施設基準の変更に係る届出 (小入 1) 第 20 号
- 3. 26 指定自立支援医療機関の主として担当する医師の変更について (障第 30052-16 号)
- 4. 1 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ分娩) 第 19 号
- 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
- 7. 29 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 10. 1 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る届出 (外来環) 第 97 号
- 12. 7 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-3 号)
- 22年 4. 1 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出 (病初診) 第 14 号
- 〃 障害者歯科医療連携加算の施設基準に係る届出 (障連) 第 3 号
- 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る届出 (医管) 第 155 号
- 〃 一酸化窒素吸入療法の施設基準に係る届出 (NO) 第 3 号
- 〃 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
- 5. 1 神経学的検査の施設基準に係る届出 (神経) 第 26 号
- 6. 30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-39 号)

- 病院施設の一部構造等変更 (第三病棟)
10. 1 胎児心エコー法の施設基準に係る届出 (胎心エコー) 第 6 号
10. 20 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-65 号)
病院施設の一部構造等変更 (新生児未熟児病棟)
11. 1 医師事務作業補助体制加算の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 27 号
11. 24 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 23年 4. 1 HPV 核酸同定検査の施設基準に係る届出 (HPV) 第 72 号
 // がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る届出 (がん疼) 第 50 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る届出 増床 (新 1) 第 3 号
5. 23 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-17 号)
病院施設の一部構造等変更 (本館 2 階・3 階増築)
6. 1 心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
10. 13 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-79 号)
病院施設の一部用途等変更 (生理検査室 3)
11. 1 冠動脈 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (冠動 C) 第 12 号
 // 感染防止対策加算の施設基準に係る届出 (感染防止) 第 14 号
12. 12 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 24年 2. 1 新生児治療回復室入院医療管理料の施設基準に係る届出 (新回復) 第 3 号
4. 1 CT 撮影及び MRI 撮影の施設基準に係る届出 (C・M) 第 230 号
 // 大腸 CT 撮影加算の施設基準に係る届出 (大腸 C) 第 10 号
 // 心大血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (心Ⅰ) 第 7 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) 初期加算の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 127 号
 // 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (運Ⅰ) 第 20 号
 // 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ) 初期加算の施設基準に係る届出 (呼Ⅰ) 第 29 号
 // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 // 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 // 救急搬送患者地域連携紹介加算の施設基準に係る届出 (救急紹介) 第 33 号
 // 救急搬送患者地域連携受入加算の施設基準に係る届出 (救急受入) 第 57 号
 // 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
5. 1 保険医療機関の指定 (勢医 1014)
6. 1 輸血管理料Ⅰの施設基準に係る届出 (輸血Ⅰ) 第 17 号
9. 1 先進医療に係る届出 (急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的 PCR 法による骨髄微小残存病変 (MRD) 量の測定) (先-195) 第 1 号
 // データ提出加算 1 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
10. 1 登録医制度開始
 // データ提出加算 2 の施設基準に係る届出 (データ提) 第 25 号
 // 先進医療に係る届出 (胸腔鏡下動脈管開存症手術) (先 166) 第 1 号
11. 1 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅲ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅲ) 第 66 号
11. 12 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-71 号)
病院施設の一部用途変更 (PICU 説明室等)
11. 26 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-5 号)
- 25年 1. 1 造血器腫瘍遺伝子検査の施設基準に係る届出 (血) 第 13 号
 // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) の施設基準に係る届出 (脳Ⅱ) 第 138 号

- 2.24 電子カルテ稼働開始
- 4.1 保険医療機関届出事項変更届 (開設者の変更)
 - 〃 医師事務作業補助体制加算 (40 対 1) の施設基準に係る届出 (事務補助) 第 42 号
 - 〃 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 5.14 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止) 第 15 号
- 6.7 病院機能評価 (Ver.6.0) 認定 認定番号: 第 JC1509-2 号 (2013/6/16~2018/6/15)
- 8.5 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 9.5 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-49 号)
 - 本館第二病棟 (外科) の増改築工事に伴う病棟各施設の変更
- 10.1 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
- 11.11 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-4 号)
- 11.22 診療用エックス線装置等変更届出
- 26年 1.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 6 号
- 2.17 第二病棟 (外科) 改修及び増築工事着工
- 3.5 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-114 号)
 - 本館地下 1 階及び地上 1 階の用途変更
- 4.1 5 代目院長として丸山健一 就任
 - 〃 病院開設届出事項等一部変更届 (管理者の変更)
 - 〃 DPC 対象病院に参加
 - 〃 医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1) の施設基準に係る届出 (事補 1) 第 8 号
 - 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る届出 (脈動開) 第 1 号
 - 〃 輸血管理料 II の施設基準に係る届出 (輸血 II) 第 48 号
 - 〃 輸血管理料 I の施設基準に係る辞退届 (輸血 I) 第 17 号
- 4.28 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (外来環) 第 97 号
 - 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (歯特連) 第 3 号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
- 5.9 医療安全対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (医療安全 1) 第 17 号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - 〃 薬剤指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
 - 〃 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
 - 〃 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - 〃 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 7.28 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項に基づく医師の指定について (障第 501-2 号)
- 8.1 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - 〃 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 10.1 新生児特定集中治療管理料 1 の施設基準に係る届出 (新 1) 第 3 号

- 10. 1 一般病棟 7 対 1 入院基本料の施設基準に係る届出 (一般入院) 第 102 号
- 10. 22 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-5 号)
第二病棟 (外科) の増築部分等
- 11. 25 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
- 11. 26 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (医科) の指定 (群医 276) (健福第 30236-15 号)
 - 〃 生活保護法及び中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律に基づく指定医療機関 (歯科) の指定 (群歯 185) (健福第 30236-15 号)
- 11. 28 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 6 号
- 12. 10 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30149-2 号)
- 12. 11 診療用エックス線装置等変更届出
- 12. 24 病院施設使用許可 (群馬県指令渋保福第 551-6 号)
第二病棟 (外科) の改修箇所
 - 〃 難病の患者に対する医療等に関する法律第 14 条第 1 項に規定する指定医療機関の指定 (保予第 30327-1 号)
 - 〃 児童福祉法第 19 条の 9 第 1 項の規定に基づく指定小児慢性特定疾病医療機関 (医科) の指定 (保予 30018-1 号)
 - 〃 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医の指定 (医科) の指定 (保予第 300019-1 号)
- 27年 1. 1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 6 号
- 1. 20 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
- 1. 23 第二病棟 (外科) 改修及び増築工事完成
- 1. 30 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-117 号)
本館 1 階の用途変更
- 4. 1 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - 〃 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る届出 (集 3) 第 13 号
- 5. 1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 7 号
- 5. 15 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - 〃 歯科治療総合医療管理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (医管) 第 155 号
 - 〃 医療機器安全管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (機安 1) 第 32 号
 - 〃 胎児心エコー法の施設基準に係る従事者変更の届出 (胎心エコー) 第 6 号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - 〃 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号

- 5.15 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
 - // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 7.30 身体障害者福祉法第 15 条第 1 項の規定に基づく指定医の指定 (障第 501-3 号)
- 10.9 診療用エックス線装置等変更届出
- 11.18 病院開設許可事項一部変更許可 (群馬県指令医第 166-80 号)
本館外来棟の増改築工事に伴う施設の変更
- 12.4 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - // 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 II) 第 7 号
- 28年 1.1 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る届出 (がんリハ) 第 33 号
 - // CAD / CAM 冠の施設基準に係る届出 (歯 CAD) 第 540 号
- 1.25 診療用エックス線装置等変更届出
- 2.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る辞退届 (麻管 II) 第 7 号
- 3.1 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
- 3.29 児童福祉法第 19 条の 3 第 1 項の規定に基づく小児慢性特定疾病指定医 (医科) の指定 (保予第 30334-25 号)
- 3.31 難病の患者に対する医療等に関する法律第 6 条第 1 項に規定する指定医の指定 (保予第 30326-72 号)
- 4.1 麻酔管理料 (II) の施設基準に係る届出 (麻管 II) 第 8 号
- 6.2 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ妊娠) 第 26 号
 - // ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出 (ハイ分娩) 第 19 号
 - // 麻酔管理料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (麻管 I) 第 18 号
 - // 新生児特定集中治療室管理料 1 の施設基準に係る従事者変更の届出 (新 1) 第 3 号
 - // 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (心 I) 第 7 号
 - // 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) の施設基準に係る従事者変更の届出 (脳 II) 第 138 号
 - // 運動器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (運 I) 第 20 号
 - // 呼吸器リハビリテーション料 (I) の施設基準に係る従事者変更の届出 (呼 I) 第 29 号
 - // 障害児 (者) リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出 (障) 第 7 号
- 7.1 遺伝学的検査の施設基準に係る届出 (遺伝検) 第 2 号
- 7.8 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
 - // 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出 (薬) 第 118 号
 - // 無菌製剤処理料の施設基準に係る従事者変更の届出 (菌) 第 51 号
 - // 特定集中治療室管理料 3 の施設基準に係る従事者変更の届出 (集 3) 第 13 号
 - // 感染防止対策加算 1 の施設基準に係る連携医療機関変更の届出 (感染防止 1) 第 15 号
- 10.1 医師事務作業補助体制加算 1 (40 対 1 補助体制加算) の辞退届 (事補 1) 第 8 号
 - // 医師事務作業補助体制加算 2 (40 対 1 補助体制加算) の施設基準に係る届出 (事補 2) 第 58 号

- 11. 4 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(集3)第13号
- 11. 7 一般病棟入院基本料(7対1)の施設基準に係る届出(施設基準変更に伴う経過措置)(一般入院)第102号
- 12. 7 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-65号)
本館外来棟増築工事
- 12. 27 病院施設使用許可(群馬県指令医保福第551-14号)
歯科レントゲン室
- 29年 3. 27 病院開設許可事項一部変更許可(群馬県指令医第166-111号)
建物構造等の一部変更(用途変更)
- 3. 28 本館外来棟増改築工事完成
- 6. 1 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る届出(造設前)第36号
- 7. 3 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ妊娠)第26号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 医療安全対策加算1の施設基準に係る従事者変更の届出(医療安全I)第17号
- 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(新1)第3号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
- 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
- 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 〃 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第18号
- 〃 麻酔管理料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管II)第8号
- 〃 感染防止対策加算1の施設基準に係る連携医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 7. 31 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 〃 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号
- 〃 歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(外来環)第97号
- 〃 歯科診療特別対応連携加算の施設基準に係る従事者等変更の届出(歯特連)第3号
- 〃 歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)の施設基準に係る従事者等変更の届出(医管)第155号
- 8. 1 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(30対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
- 8. 29 胎児心エコーの施設基準に係る従事者変更の届出(胎心エコー)第6号
- 11. 15 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 〃 新生児特定集中治療室管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(新1)第3号
- 12. 25 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 30年 1. 4 診療用エックス線装置等変更届出
- 1. 10 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者変更の届出(集3)第13号

- 1.24 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳Ⅱ)第138号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
 - 〃 麻酔管理料(Ⅰ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅰ)第18号
 - 〃 麻酔管理料(Ⅱ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅱ)第8号
 - 〃 小児入院管理料1の施設基準に係る従事者変更の届出(小入1)第20号
 - 〃 入院時生活療養(Ⅰ)の施設基準に係る一部業務委託の導入・従事者変更の届出(食)第104号
 - 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(心Ⅰ)第7号
 - 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(脳Ⅱ)第138号
 - 〃 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(運Ⅰ)第20号
 - 〃 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(呼Ⅰ)第29号
 - 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(障)第7号
 - 〃 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る専用施設面積変更の届出(がんリハ)第33号
- 3.1 重症者等療養環境特別加算の施設基準の辞退届(重)第38号
- 3.14 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る区分変更(64列以上→16列以上64列未満)の届出(C・M)第230号
- 4.1 6代目院長として外松学 就任
 - 〃 病院開設届出事項等一部変更届(管理者の変更)
 - 〃 医療安全対策地域連携加算Ⅰの施設基準に係る届出(医療安全1)第17号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る届出(感染防止1)第15号
- 4.26 特定集中治療室管理料3の施設基準に係る従事者、専用施設面積、機材変更の届出(集3)第13号
 - 〃 診療録管理体制加算2の施設基準に係る従事者変更の届出(診療録)第38号
- 5.1 麻酔管理料(Ⅱ)の辞退届
 - 〃 保険医療機関の指定(関厚発)第77号
- 5.11 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(40対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
 - 〃 感染防止対策加算Ⅰの施設基準に係る従事者及び連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
 - 〃 感染防止対策地域連携加算の施設基準に係る連携保険医療機関変更の届出(感染防止1)第15号
- 5.31 麻酔管理料(Ⅰ)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管Ⅰ)第80号
- 7.1 後発医薬品使用体制加算1の施設基準に係る届出(後発使1)第47号
 - 〃 乳腺炎重症化予防ケア・指導料に係る施設基準に係る届出(乳腺ケア)第14号
- 8.3 医師事務作業補助体制加算2の施設基準に係る区分変更(30対1補助体制加算)の届出(事補2)第58号
 - 〃 がん性疼痛緩和指導管理料の施設基準に係る従事者変更の届出(がん疼)第50号
- 9.1 骨髄微小残存病変量測定の施設基準に係る届出(骨残測)第2号
 - 〃 医師事務作業補助体制加算1に係る施設基準に係る届出(事補1)第35号(加算2からの区分替え)

- 9.1 レーザー機器加算の施設基準に係る届出(手光機)第165号
- 〃 口腔粘膜措置の施設基準に係る届出(口腔粘膜)第184号
- 10.1 歯科外来診療環境体制加算2の施設基準に係る届出(外来環2)第97号
- 〃 急性期一般入院基本料1の施設基準に係る届出(一般入院)第102号
- 〃 地域歯科診療支援病院歯科初診料の施設基準に係る届出(病初診)第14号
- 11.1 患者サポート体制充実加算の施設基準に係る届出(患サポ)第71号
- 〃 ヘッドアップティルト試験の施設基準に係る届出(ヘッド)第19号
- 12.5 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
- 〃 ハイリスク妊娠管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ妊娠)第26号
- 〃 ハイリスク分娩管理加算の施設基準に係る従事者変更の届出(ハイ分娩)第19号
- 12.28 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出(造設前)第36号
- 31年1.3 ペースメーカー及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出(ペ)第47号
- 〃 大動脈バルーンパンピング(IABP法)の施設基準に係る従事者変更の届出(大)第28号
- 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 3.11 遺伝学的検査の施設基準に係る一部検査委託機関の追加の届出(遺伝検)第2号
- 4.24 病院開設許可事項一部変更許可(2階産科病棟多目的室室名変更)
- 令和元年6.3 麻酔管理料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(麻管I)第80号
- 7.5 大動脈バルーンパンピング(IABP法)の施設基準に係る従事者変更の届出(大)第28号
- 〃 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算の施設基準に係る従事者変更の届出(造設前)第36号
- 〃 胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術の施設基準に係る従事者変更の届出(脈動開)第1号
- 〃 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術の施設基準に係る従事者変更の届出(ペ)第47号
- 〃 薬剤管理指導料の施設基準に係る従事者変更の届出(薬)第118号
- 〃 心大血管疾患リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(心I)第7号
- 〃 脳血管疾患等リハビリテーション料(II)の施設基準に係る従事者変更の届出(脳II)第138号
- 〃 運動器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(運I)第20号
- 〃 呼吸器リハビリテーション料(I)の施設基準に係る従事者変更の届出(呼I)第29号
- 〃 障害児(者)リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(障)第7号
- 〃 がん患者リハビリテーション料の施設基準に係る従事者変更の届出(がんリハ)第33号
- 8.29 骨髄微小残存病変量測定 of 施設基準に係る従事者及び当該検査を委託する施設の変更の届出(骨残測)第2号
- 10.30 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る撮影機器及び安全管理責任者の変更の届出(C・M)第230号
- 〃 心臓MRI撮影加算の施設基準に係る撮影機器変更の届出(心臓M)第7号
- 12.1 後発医薬品使用体制加算1の辞退届

- 12.26 CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る区分変更の届出(C・M)第230号
- 2年2.28 病院開設許可事項一部変更許可(地下1階 薬剤部事務室、医薬品情報管理室及び
薬剤部倉庫 室名変更)
- 3.11 診療用エックス線装置等変更届出

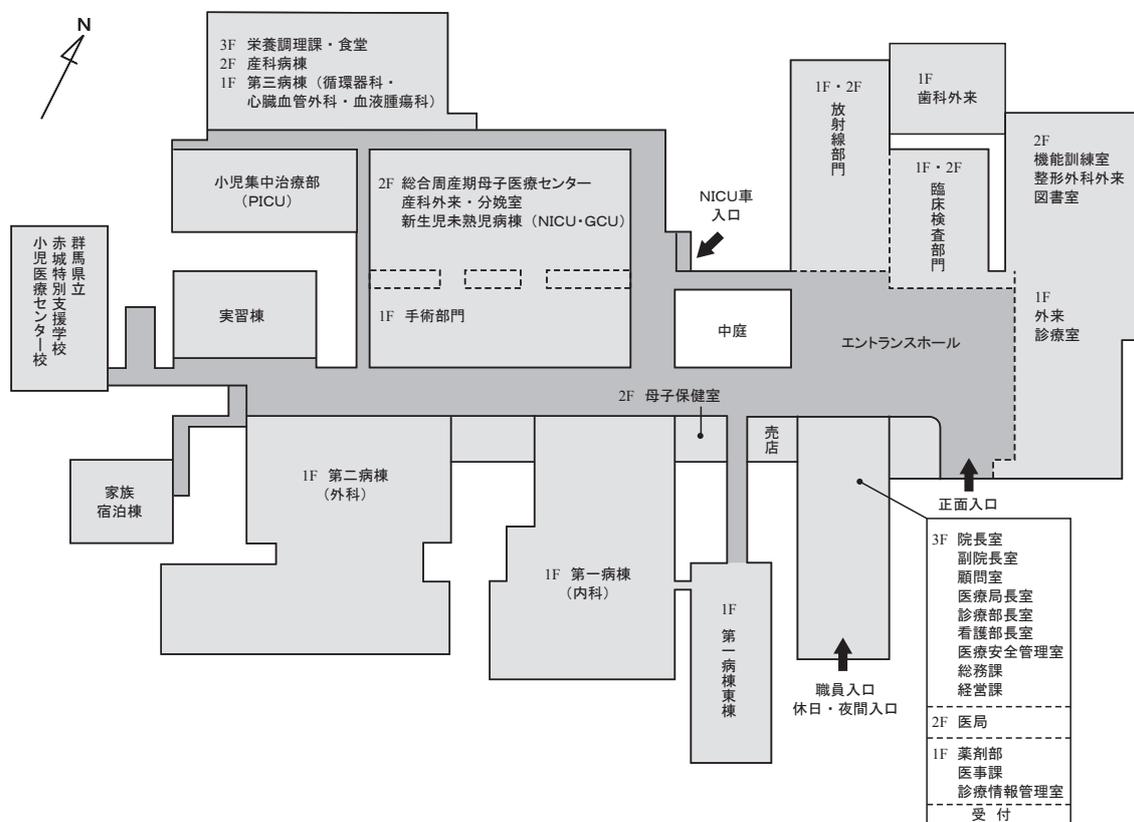
2. 施設

(1) 敷地・建物の面積

敷地		53,031.42㎡
本館	鉄筋コンクリート地下1階地上3階建	18,441.17㎡
看護師宿舎	鉄筋コンクリート地上4階建	1,170.28㎡
職員宿舎	鉄筋コンクリート地上2階建	379.61㎡
実習棟	鉄筋コンクリート地上2階建	485.00㎡
家族宿泊棟	鉄筋プレハブ平屋建	200.00㎡

(2) 病棟構成並びに建物配置図

階	病棟名	設置病床数(平成31年4月1日現在)
2階	新生児未熟児病棟	33床
2階	産科病棟	18床
1階	第一病棟	32床
1階	第二病棟	29床
1階	第三病棟	30床
1階	小児集中治療部	8床
	合計	150床



(3) 施設・設備の設置状況

(単位：千円)

区 分	事業費	年 次 別 内 訳					
		54	55	56	57	58	59
本 館	7,854,114		911,600	1,914,690		追加工事 医療ガス 配管工事等 2,857	純水製造 装置 13,525
看護師宿舎	375,519			18,653		上水槽配管 保温工事 697	
職員宿舎	120,948			73,180		273	
実 習 棟	192,044						
家族宿泊棟	43,575						
設 計	272,897	本館 64,850	本館 8,646	本館 17,354			
			宿舎 6,150				
外構工事等	627,845			494,829	追加工事 駐車場等 1,659	追加工事 植栽等 2,118	フェンス 180
敷 地	625,643	290,000		67,328		191,228	
医 療 機 器	9,277,941			502,748	760,940	2,732	18,309
備 品	394,357			27,948	31,147		
電話設置等	22,591			債権 870	ポケットベル 加入保証金 200		
				架設加入料 482			
工事事務費	5,202		1,394	3,536			
合 計	19,812,676	354,850	927,790	3,121,618	793,946	199,905	32,014

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	60	61	62	63	元	2	3
本 館	照明工事等 1,605	11,923		塩酸等貯留 槽 4,001			
看護師宿舎			クーラー 10,093				
職員宿舎			クーラー 2,883				
実 習 棟							
家族宿泊棟							
設 計		390	クーラー 700				
外構工事等	定着液保留 槽 362	駐車場舗装 等 2,331	植栽工事等 3,496	フェンス 570			
敷 地							
医 療 機 器	24,160	11,983	12,000	52,400	213,936	211,120	100,094
備 品	2,839	2,924	3,000		4,619	9,995	6,660
電話設置等							
工事事務費							
合 計	28,966	29,551	32,172	56,971	218,555	221,115	106,754

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	4	5	6	7	8	9	10
本 館	放射線棟 増築等 385,667	調理室冷房 増設等 49,247	冷凍機 更新工事等 42,035	屋上防水 工事等 12,087	冷凍機 更新工事等 75,767	中央監視 装置更新等 83,192	外来棟増設 353,619
看護師宿舎	田口住宅 124,364	改築 204,479					
職 員 宿 舎		一部改築 44,338					
実 習 棟					192,044		
家族宿泊棟							
設 計		職員宿舎等 14,420		実習棟 4,900		外来棟 15,120	
外構工事等	駐車場舗装 等 8,918	外構舗装 927		駐車場舗装 等 24,291			
敷 地	77,087						
医 療 機 器	106,149	733,654	87,173	113,753	190,495	186,144	121,241
備 品					43,394		6,369
	8,817	5,995	9,973	8,000	実習棟分 3,986	7,780	外来棟分 2,051
電話設置等	電話加入権 975	電話加入権 3,195	電話加入権 900	院内ポケベル システム更新 10,155	コードレス増設 3,018 電話加入権 450		
工事事務費	272						
合 計	712,249	1,056,255	140,081	173,186	509,154	292,236	483,280

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	11	12	13	14	15	16	17
本 館	ボイラー 純水装置 28,350	受水槽 更新工事等 20,822	R-2 冷却塔 更新工事等 14,049	内科病棟 増築工事等 24,885	新病棟建築 工事等 18,726 非常用自家 発電機整備 11,000	新病棟建築 工事等 2,417,398	
看護師宿舎							
職員宿舎							
実習棟							
家族宿泊棟	43,575						
設 計			内科病棟増 築 5,775	内科外科病 棟等改修 745	新病棟建築工 事実施設計 54,600		外構工事 (電気工事を 含む) 1,659
外構工事等							駐車場舗装等 55,293 駐車場電気 4,809
敷 地							
医 療 機 器	104,808	114,158	129,964	109,703	87,716	1,048,076	328,243
備 品	4,996	9,000	5,390	3,271	2,715	82,548	4,968
電話設置等					コードレス交 換機更新 2,346		
工事事務費							
合 計	181,729	143,980	155,178	138,604	177,103	3,548,022	394,972

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	18	19	20	21	22	23	24
本 館	集塵配管更新工事 5,985	PICUトランス増設工事 3,780	歯科改修工事 10,133		新生児病棟改修 150,433	管理棟増築建築工事 22,827	冷凍機更新工事 22,869
		新システムLAN配線 10,448			薬剤クリーンルーム空調 3,360	管理棟増築機械設備工事 4,641	電源設備改修・電気供給設備工事 58,992
看護師宿舎							
職員宿舎							
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計		歯科改修 735			新生児病棟改修 9,229		電気・空調設備改修 2,310
					管理棟改修 1,785		
外構工事等							
敷 地							
医 療 機 器	53,102	233,517	336,857	175,807	358,277	301,860	289,256
備 品	4,613	4,851	5,241	4,934	4,971	6,423	5,000
電話設置等							
工事事務費							
合 計	63,700	253,331	352,231	180,741	528,055	335,751	378,427

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(単位：千円)

区 分	年 次 別 内 訳						
	25	26	27	28	29	30	元
本 館	冷凍機(R-1)更新工事 50,400	外科病棟改修及び増築工事 302,357	変電設備更新工事 5,378	外来棟増築及び改修等工事 547,408	エントランスホール屋上防水改修 5,368	放射線棟ほか屋上防水改修工事 14,861	申請未熟児棟ほか屋上防水改修工事 34,804
	外科病棟改修及び増築工事 32,000	変電設備更新工事 11,146	ピット配管等改修工事 29,117		第二病棟ピット配管工事 20,044	B棟受水槽全目地補修工事 7,560	非常用放送設備アンプ更新工事 35,167
	NICU バックアップ空調設置 12,285		第一病棟東棟空調改修工事 7,398		B棟漏電警報器設置工事 9,537	第一病棟病室ほか床張り替え工事 2,106	第1変電室制御用整流器交換工事 18,837
					中央滅菌材料室機器配線等工事 2,043		排煙用トップライト改修工事 15,785
看護師宿舎			エアコン設置工事 2,783		熱源等改修工事 14,450		
職員宿舎			エアコン設置工事 274				
実習棟							
家族宿泊棟							
設 計	冷凍機(R-1)更新工事 1,029		外来棟増築及び改修等工事 34,744			設備改修工事 2,700	第1変電室トランス更新工事 3,672
	外科病棟改修及び増築工事 21,384						
外構工事等					駐車場舗装等 28,062		
敷 地							
医療機器	169,184	227,313	301,794	353,450	199,226	501,696	404,903
備 品	4,987	5,000	4,939	10,654	20,276	7,130	6,953
電話設置等							
工事事務費							
合 計	291,269	545,816	386,427	911,512	299,006	536,053	520,121

(注) 本表には、病院開設時の準備経費及び受贈財産は含まない。

(4) 付属設備

主なる付属設備一覧

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
熱源設備	ボイラー	2	炉筒煙管式ボイラー 蒸発量 3.6t/h 伝熱面積 32.9m ² 最大使用蒸気圧 1MPa 燃料 A 重油
	危険物地下タンク	1	コロッケ式 A 重油 容量 36,000L
	純水製造装置	1	MASP-100 型 処理水量 6 m ³ /h × 100 m ³ /cycle
	冷凍機	1	蒸気炊二重効用吸収式冷凍機 冷凍能力 1,407kw (400RT) 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 4,032L/min 11kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 6,670L/min 45kw
		1	チリングユニット 冷凍能力 450kw 冷水 1 次ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,290L/min 3.7kw 冷却水ポンプ × 1 片吸込渦巻型 1,541L/min 11kw
	冷温水発生機	2	重油炊吸収式冷温水発生機 冷凍能力 703kw (200RT) 暖房能力 588kw 冷水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 2,016L/min 30kw 温水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 1,686L/min 30kw 冷却水ポンプ × 2 片吸込渦巻型 3,340L/min 37kw
	冷却塔	4	角型開放超低騒音型 ①冷却能力 2,558kw × 1 送風機 5.5kw 口径 1,800mm × 3 ②冷却能力 537kw × 1 送風機 3.7kw 口径 1,600mm × 1 ③冷却能力 1,279kw × 2 送風機 3.7kw × 4 口径 1,600mm × 4
	冷水二次ポンプ	4	片吸込渦巻型 1,100L/min × 27m × 11kw
熱交換器	2	温水暖房系統シェルアンドチューブ型 加熱能力 128kw × 2 温水ポンプ × 2 渦巻型 500L/min 5.5kw	
空調設備	エアハンドリングユニット	19	水平型 × 11 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込 垂直型 × 8 温水コイル、冷水コイル、加湿器組込
	バックアップ用エアコン	1	パッケージエアコン 冷房能力 80kw 暖房能 90kw 送風機 シロッコファン 255m ² /min 1.5kw 押込ファン シロッコファン 255m ² /min 3.7kw

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
空調設備	全熱交換機	1	床置型給排気ファン 5.5kw × 2
	外調機	13	別置き電気式 蒸気加湿器付き × 10 別置き電気式 蒸気加湿器なし × 4 水気化式 加湿器付き × 1
	ファンコイル	463	
	給気・排気ファン	59	片吸込多翼型 (うち 24 時間運転 16 台)
	エアコン等	134	冷房能力合計 2,070kw、暖房能力合計 1,318kw
	恒温庫ユニット	1	冷却能力 1.9kw
電気設備等	高圧受変電設備	1	本線、予備線による二系統受電 受電電圧 6.6kv 受電変圧器 × 9 2,425kVA 契約電力 1,200kW
	副高圧変電設備	2	高圧変圧器 × 5 1,750KVA + 高圧変圧器 × 2 500KVA
	非常用自家発電設備	2	水冷ディーゼルエンジン 923PS 1,500rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 750KVA ガスタービンエンジン 600PS 53,000rpm 燃料 A 重油 発電機 6.6kv 500KVA
	無停電電源装置	1	容量 100KVA × 2 3相3線式 105V-210V 鉛蓄電池 200Ah
	電気時計設備	1	パネル型水晶発信式 8回線 子時計 30 個/1回線
	電話交換機	1	デジタル電子交換機 最大内線 512 回線方式
	コードレス 電話交換機	1	沖デジタルコードレスシステム 120
	放送設備	1	一般放送及び非常放送 40 系統 非常電源ユニット付き
昇降設備	低速エレベーター	9	寝台用 × 4 750kg 45m/min 荷物用 × 2 750~900kg 45m/min 乗用 × 2 480~900kg 45~60m/min 乗用 850kg 45m/min
	ダムウェーター	3	B1F ~ 2F 用 B1F ~ 1F 用 100~400kg 15~30m/min
防災設備	スプリンクラー	1	900L/min × 65~75m × 18.5kw ヘッド × 1,920 流水作動弁 × 11
	屋内消火栓	1	750L/min × 50m × 15kw 放水口 × 17 補助散水栓 × 26 60L/min

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
防災設備	自働火災報知器	843	GR型アナログ式受信機(蓄積式、自動試験機能付)255回線 煙感知式×231熱作動式×489定温式×87
	排煙機	1	29,400 m ³ /min 120mmAg 15kw 排煙口×19
	ハロゲン化物消火設備	1	ハロゲン 1301 ポンベ×6本
	二酸化炭素消火設備	1	CO ₂ ポンベ 55kg×22本
	フード消火設備	2	栄養調理課厨房及び食堂厨房 強化液 3L×各1
	火災通報装置	4	表示盤機能付 一般加入電話回線による押しボタン式
	防火水槽	1	40ton
衛生設備	上水受水槽	3	42t×2 FRP製保温型 加圧給水装置 600L/min×0.38MPa×7.5kw×2 71t×1 FRP製保温型2槽式 加圧給水装置 640L/min×0.48MPa×3.7kw×4
	井水受水槽	1	320t×1 鉄筋コンクリート製 給水ポンプ 750L/min×45m×11kw×2 加圧給水装置 1,200L/min×0.34MPa×11kw×2 925L/min×0.40MPa×3.7kw×4
	深井戸ポンプ	1	800L/min×0.83MPa×18.5kw
	貯湯槽	4	蒸気加熱式 4,000L×2 60°C 温水ボイラー加熱式 6,000L×2 60°C
	温水ボイラー	2	真空式2回路式ボイラー 465kw (暖房 150kw、給湯 315kw) 伝熱面積 9.9m ² 最高使用圧力 0.49MPa
	液酸タンク	1	4,942L 供給圧力 0.43MPa
	医療用ガスポンベ	16	笑気×4本 窒素×8本
	医療用圧空・吸引機	9	コンプレッサー 630L/min×5.5kw×3台 コンプレッサー 605L/min×5.5Kw×2台 吸引ポンプ 2,333L/min×5.5Kw×4台
	合併処理浄化槽	2	長時間ばっき+接触酸化方式 汚水量 145 m ³ /日 679人槽 流量調整担体流動浮上ろ過式 汚水量 52 m ³ /日 743人槽
	薬液処理槽	1	酸及びアルカリによる連続中和+接触ばっき方式 日平均排水量 10 m ³ /日

設備名	設置機械	数量	型式及び性能
衛生設備	RI 処理槽	1	BDO 分離接触ばつき+接触ばつき方式 RI 貯留法+希釈法 排水量 20 人 A系統 600L/日 B 系統 2,000L/日
	薬液処理槽	1	湿式 処理風量 19.9 m ³ -27KPa 30kw 乾式 処理風量 10.5 m ³ -38KPa 15kw

(5) 重要物品

主なる医療機器一覧

(購入価格 500 万円以上のもの)

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
薬局	散薬分包機(全自動)	Ai-8080(トーショー)	1	2016
検査	ヘモクロン(血液凝固計)	コアグレックス 800(シスメックス)	1	2003
	脳波計	EEG-1518 他(日本光電)	1	2004
	誘発電位筋電図検査装置	MEB-9204(日本光電)	1	2005
	全自動生化学分析装置	JCA-BM6050(日本光電)	1	2008
	血液自動分析機	XE-5000(シスメックス)	1	2009
	全自動細菌検査システム	マイクロスキャン Walkway40 plus(シーメンス)	1	2009
	脳波計	EEG-1200(日本光電)	1	2010
	全自動血液培養検査装置	VersaTREK240(コージンバイオ)	1	2011
	フローサイトメーター(自動細胞解析装置)	FACS Canto II(日本 BD)	1	2012
	凍結切片作成装置	クリオスター NX70(サーモフィッシャーサイエンティフィック)	1	2012
	超音波診断装置	Vivid E9(GEヘルスケアジャパン)	1	2012
	X線照射装置	MBR-1520A-3(日立メディコ)	1	2015
	密閉式自動固定包埋装置	ティシュー・テック VIP6(サクラファインテックジャパン)	1	2015
	全自動輸血検査装置	WADiana Compact(カインス)	1	2015
	脳波計	EEG-1218(日本光電)	1	2017
超音波診断装置	TUS-AI900(キヤノンメディカルシステムズ)	1	2017	
生化学自動分析装置	JCA-ZS050(日本電子)	1	2018	
脳波計	EEG-1214(日本光電)	1	2018	
放射線	超音波診断装置	Aplio80(東芝)	1	2004
	CR システム	REGIUS170(コニカミノルタ)	2	2004
	循環器画像解析装置	CCIP-310/W(カテックス)	1	2005
	循環器診断・治療システム	循環器診断システム INFx-8000V/JB 他(東芝メディカル)	1	2008
	一般撮影装置	Discovery XR650(GEヘルスケア)	1	2009
	外科用 X 線 TV 装置	OEC 9900 Elite(GEヘルスケア)	1	2009
	デジタル X 線透視診断装置	CUREVISTA(日立メディコ)	1	2010
	全身用コンピュータ断層装置・PACS	SOMATOM Definition AS+(シーメンス)	1	2011
	2 検出器型ガンマカメラ	Symbia Evo(シーメンス)	1	2015
	医用画像管理システム更新に伴う周辺機器	「テクマトリックス製 NOBORI サービス」導入に伴うもの	1	2017
	超伝導磁気共鳴画像診断装置(MRI)	SmartPath to dStream for 1.5T	1	2019
動画ネットワークシステム	Kada-Serve(フォトロン)	1	2019	
栄養調理	オートクレーブ	NSS-009W(サクラ機械)	1	2004
	ユニット式調乳水製造装置	CMIFSC-501E-WA-230MC2HC1V(三田理化工業)	1	2017
ME(集中管理)	人工呼吸器(新生児用)	ハミング V(メラン)	1	2003
	人工呼吸器(新生児用)	ハミング V(メラン)	1	2004

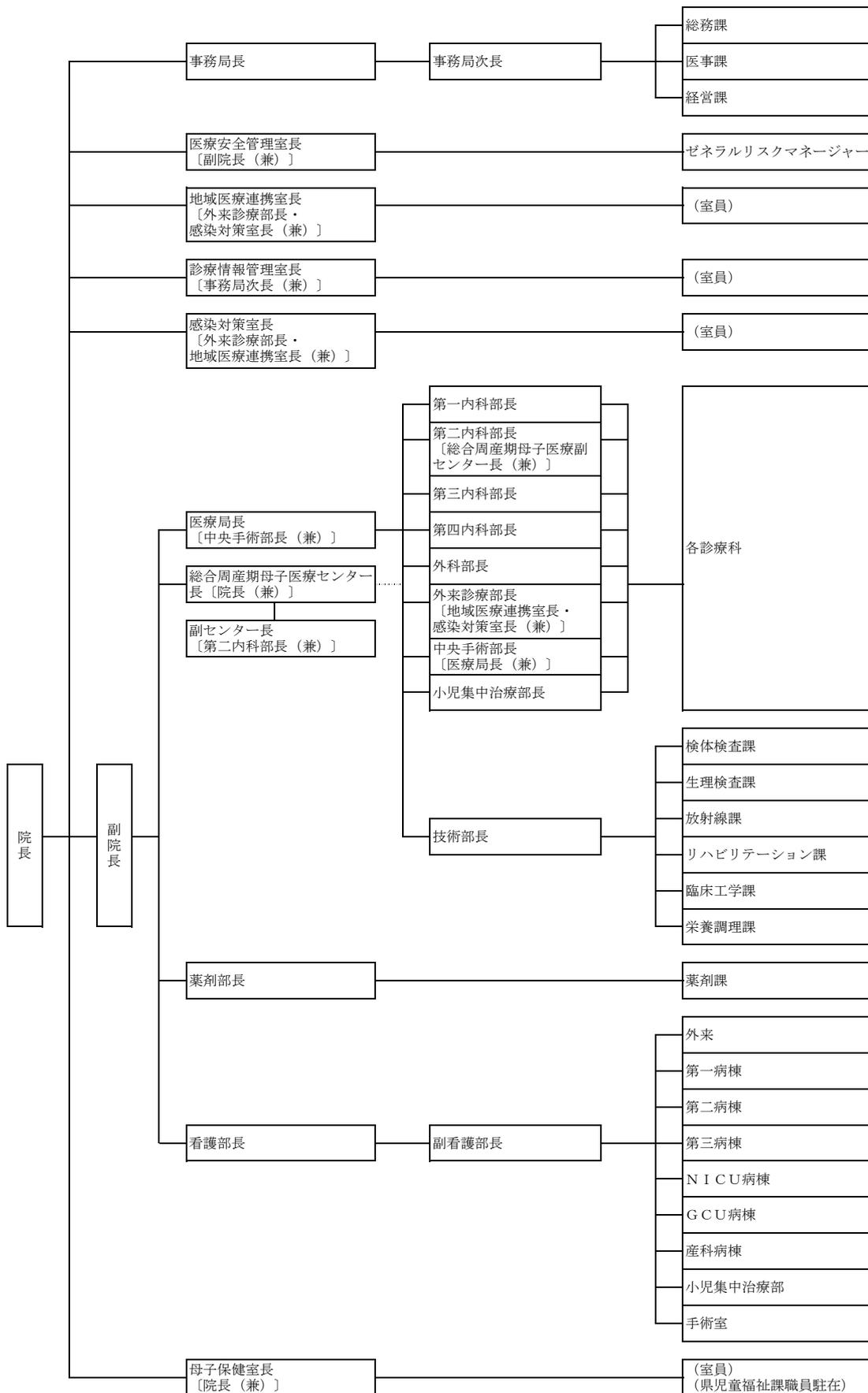
分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
ME (集中管理)	人工呼吸器 (小児用)	ハミングV (メラン)	4	2004
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングV (メラン)	1	2007
	酸素モニタ (非侵襲頭部)	NIRO-500 (浜松ホトニクス)	1	1997
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科)	1	1998
	血液浄化用装置	JUN-505 (ウベ循環)	1	2003
	人工呼吸器 (小児用)	ハミングX (メラン)	3	2010
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2011
	人工呼吸器	AVEA (米国ケアフュージュン 207)	2	2012
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (コヴィディエン)	1	2014
	人工心肺装置システム	メラ人工心肺装置 HAS II (泉工医科工業)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2015
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2016
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2018
	人工呼吸器	ハミングビュープラス (日本光電)	1	2019
外 来	超音波診断装置 (4D)	730Expert (GEBOLUSON)	1	2004
	超音波診断装置	Volson E8 (GEヘルスケアジャパン)	1	2011
	皮膚良性血管病変治療用レーザー装置	Vbeam 一式 (キャンデラ)	1	2012
	X線撮影装置	X-era Smart3D F+ セファロ (ヨシダ)	1	2016
	歯科用キャビネット一式	(ヨシダ)	1	2016
	耳鼻科診察台一式	永島医科製	1	2019
病 棟	心電図監視システム	CNS8200 8床用 (日本光電)	1	1993
	血液成分分離装置	AS-104 (フレゼニウス)	1	1997
	エンドスコープカメラ	MC-800E (日本光電)	1	1999
	セントラルモニタ (外科)	M3150B (フィリップス)	1	2004
	EOG 殺菌乾燥薫蒸装置	EOリメーカー (日本リメイク)	1	2004
	インファントウォーマ	V- 505HL (アトム)	1	2005
	生体情報管理システム	CAP2420 (日本光電)	1	2004
	超音波診断装置	Nemio (東芝)	1	2004
	患者監視用モニタ	(フィリップス)	1	2004
	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	1	2005
	生体情報管理システム ハードウェア更新	CAP2420 (日本光電)	1	2010
	赤外線酸素モニタ装置	NIRO-200NX (IMI)	1	2010
	超音波診断装置	HD11EX (フィリップス)	1	2010
	生体情報モニタリングシステム	MP50 外 (フィリップス)	1	2011
	セントラルモニタアップグレード、テレメータ更新	PIMS (フィリップス)	1	2012
	遠心型血液成分分離装置	コムテック 9008021 (アムコ)	1	2013
	超音波診断装置	iE33 (フィリップス)	1	2013
	母体胎児集中監視システム	(アトムメディカル)	1	2014
	超音波診断装置	Voluson E10 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	超音波診断装置	LOGIQ e Premium (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	シーリングペンダント (4台)	TruPort5000-1465 ICU Solo (セントラルユニ)	1	2014
	患者情報管理システム	PIMS 機能改修 (フィリップス)	1	2014
	イエロー・レーザー光凝固装置	IQ577 (トーマコーポレーション)	1	2014
	NICU 車	シビリアン (ベース車、日産自動車)	1	2014
	新生児用ファイバースコープ	Mシリーズ (町田製作所)	1	2015
	分娩監視装置	FM-20 (アトムメディカル)	1	2016
	超音波診断装置	Voluson P8 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	産科病棟セントラルモニタ	PU-621R (日本光電)	1	2017
	NICU/GCU 生体情報モニタリングシステム	(フィリップス・ジャパン)	1	2017
超音波診断装置	Voluson S8 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	2019	
I C U	人工呼吸器	ベネット 840 (タイコヘルスケア)	4	2004

分類	資産名称	構造規格	数量	取得年度
I C U	PICU モニタリングシステム	(フィリップス)	1	2004
	血液ガス分析装置 (全自動)	スタットプロファイル CCX (ノババイオメディカル)	1	2004
	人工呼吸器	ベンチレータ 840 (ピューリタンベネット)	1	2009
	超音波診断装置	Vivid S6 (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2014
	生体情報モニタリングシステム (1階)	(フィリップス・ジャパン)	1	2018
手術室	全身麻酔器	エスティパ7900ST PVSPPro (GE 横川メディカルシステム)	1	2007
	超音波メス	スミソニック ME-2400 キューサー (住友ベーク)	1	1997
	腹腔鏡手術器具	OTV-SX2 外 (オリンパス)	1	1998
	手術台 (電動油圧)	小児型特注 (ミズホ)	1	2000
	無影燈	Sola700+500 (ドレーゲル)	2	2004
	関節鏡システム	A70940A外 (オリンパス)	1	2004
	手術台 (整形外科用)	MOS-1300B (瑞穂医科)	1	2004
	気管支ファイバービデオスコープ式	BF-XP260F (オリンパス)	1	2005
	体外循環用血液パラメータモニターシステム	CDI500 (テルモ)	1	2007
	心筋保護液供給システム	HCP-5000 (泉工医科工業)	1	2007
	人工心肺装置データ記録システム	ORSYS (フィリップス)	1	2004
	術中経食道エコー検査装置	プロサウンドα 7 (アロカ製)	1	2008
	遠心型血液ポンプ	HAS-CFP (泉工医科工業)	1	2009
	全身麻酔装置	アバンスケアステーション (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2012
	腹腔鏡手術システム	1288-010-001 外 (日本ストライカー)	1	2014
	過酸化水素低温プラズマ滅菌器	ステラッド 100S (ジョンソン・エンド・ジョンソン)	1	2015
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2016
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2017
	全身麻酔器	Carestation 650Pro (GE ヘルスケア・ジャパン)	1	2018
サージカルナイフ	Domain (ガデリウス・メディカル)	1	2018	
電動式骨手術装置	日本ストライカー製	1	2019	
中央滅菌材料室	ウォッシュャーディスインフェクター	WD8668EW (GETINGE)	1	2017
	小型高圧蒸気滅菌器	HS33 (GETINGE)	1	2017
	高圧蒸気滅菌器	VSCH-G12WNR (サクラ精機)	1	2018
臨床研究室	DNA シーケンサ	ジェネティックアナライザ (アプライドバイオシステム社)	1	2005
	光分析測定装置マルチプレートリーダー	1420ARVO MX-flad (パーキンエルマー・ジャパン)	1	2005
情報システム	カルテ管理検索システム装置	システマトリーブ (イトーキ)	1	2004
	カルテ管理検索システム装置 制御機器更新	(イトーキ)	1	2012
	総合医療情報システム (電子カルテ導入)	(富士通)	1	2012
	電子カルテデータ統合分析システム	データウェアハウス (富士通)	1	2013
	臨床検査システム	Hi-LABO-S, Hi-LABO-EM, HD-TRANS (ニューコン)	1	2014
	診断書作成支援システム	MEDI-Papyrus (ニッセイ情報テクノロジー)	1	2015
	医事会計システム	HOPE SX-R (富士通)	1	2016
	監視モニターシステム	(カリーナシステム)	1	2016
	NICU 患者情報管理システム	PIMS (フィリップスエレクトロニクスジャパン)	1	2016
	PICU 患者情報管理システム	PIMS (フィリップスエレクトロニクスジャパン)	1	2016
	放射線情報システム	Dr.View/RIS (インフォコム)	1	2016
	電子カルテシステム	HOPE EGMAIN-GX (富士通)	1	2018
	手術部門患者情報システム	Fortec ORSYS (フィリップス)	1	2018
	栄養管理システム	栄養管理システム Ver.6 (SFC 新潟)	1	2019
	歯科電子カルテシステム	オブテック製	1	2019
	生体情報モニタリングシステム	フィリップス製	1	2019
	ネットワーク機器群	Cisco 社製	1	2019

3. 組 織

(1) 機 構

(令和2年3月31日現在)



4. 運 営

(1) 診療制度

当センターは、県内唯一の県立小児医療専門病院であるとともに総合周産期母子医療センターに認定されている。診療は、二次・三次救急を原則とし、未熟児・新生児・乳児、幼児、学童並びに胎児に異常が疑われる母胎を主な対象として、医療機関・保健福祉事務所等からの紹介予約制を基本としている。

ア 紹介予約制

患者の紹介予約は、医療機関・保健福祉事務所等から FAX 等を利用して行われる他、紹介状をもらった患者家族からの電話申込みによる。

当センターでは、紹介内容から患者の症状等を判断し、急を要する場合を除いて患者の都合のよい日時に予約日を指定する方法を採っている。なお、紹介医療機関等に対しては、診療後必ず診療結果を報告することとしている。

イ 外来診療

診療科及び診療時間は、次のとおりである。(令和2年3月1日現在)

◎内科系

- 総合内科 月～金曜(9時～17時)
- 神経内科 月～金曜(9時～17時)
- 循環器科 月・水曜(9時～15時30分)、火曜(13時00分～17時)、金曜(9時～17時)
- 血液腫瘍科 月・水曜(14時～17時)
- 腎臓内科 第1・3・5火曜(13時30分～16時)、第2・4木曜(13時30分～17時)、第2・4金曜(13時～16時)
- アレルギー感染免疫・呼吸器科 月・火・木・金曜(13時～17時、14時～14時30分:初診)、第1・3・5水曜(9時～17時、14時～14時30分:初診)

◎外科系

- 小児外科 火曜(9時～17時)、木曜(9時～10時30分)、金曜(13時～17時、13時～15時30分:初診)
- 心臓血管外科 月曜(14時～17時)、水曜(13時～17時)、金曜(9時30分～12時)
- 形成外科 月曜(9時～10時:初診、13時～17時)、木曜(9時～10時:初診、14時～17時)
- 整形外科 月・水曜(9時～17時:午前再診、午後初診)、金曜(9時～12時、13時～14時:リハビリテーション外来)
- 脳神経外科 第2・4火曜(13時30分～16時30分)

◎総合周産期母子医療センター

- 新生児科 月・水・木・金曜(13時～17時)、第2・4火曜(9時～12時)
- 産科 月曜(9時～17時:初診)、火曜(9時～12時:再診)、水・金曜(9時～17時:午前再診、午後初診)、木曜(13時～17時:再診)
- 胎児心臓外来 木曜(9時～12時)

○胎児超音波 スクリーニング外来	月・金曜(9時～12時)、水曜(13時～17時)
○母乳外来	月～金曜(9時～17時)
◎特殊専門外来	
○麻酔科	月曜(13時～17時)、火・木・金曜(9時～17時)
○放射線科	月曜～金曜(9時～17時)
○遺伝科	金曜(9時～17時)
○歯科・障害児歯科	月曜～金曜(9時～17時)
○耳鼻咽喉科	第1・2・4月曜(15時～17時)、第1・3・5水曜(9時～11時)
○眼科	第2・4水曜(9時～12時)
○内分泌代謝科	火・第1・3・5水曜(14時～17時)

ウ 救急対応

当センターは、救急告示病院の指定を受けていないが、医療機関からの紹介に基づく第2次・第3次救急対策を行っている。

緊急対応としては、診療時間外における管理当直として医師1名、看護師1名があたり、さらに必要な場合は電話によるオンコールで医療従事者の確保を図り、昼夜いつでも診療が可能な体制を整えている。

また、未熟児・新生児を治療しながら搬送するNICU車(新生児救急車)は、主に産科から病棟へ直接電話の依頼により出動し、24時間体制で対応している。

平成13年度、休日及び夜間における子供の救急医療体制を整備するため、小児科医及び病床等の確保を図る小児救急支援事業がスタート、北毛地区では同年9月から、当院、利根中央病院、原町赤十字病院の3病院が交代で協力することでスタートしたが、現在は当院と利根中央病院の2病院が交代で行っている。

エ 診療録管理等

診療録は外来・入院それぞれ別冊で管理するが、登録番号はともに共通の永久番号制で、保存方法は患者番号の下2桁が同じファイルを同一グループとして順次配架するターミナル・デジット方式を採用している。

また、病院内の組織横断的な診療情報管理を担うため、平成18年度から診療情報管理室を設置するとともに、同年末に入院診療情報管理システムを導入し、診療録管理・各種診療統計業務等の効率化を図った。

オ 院内総合医療情報システム

平成19年度、総合医療情報システムの入替更新に取り組み、11月医事会計システム先行稼働、平成20年2月23日(外来診療初日は25日)にオーダーリングシステムの第1次の運用を開始した。

平成20年度は5月1日に第二稼働として、放射線、生理・病理検査オーダが稼働した。6月3日、第三次稼働として注射オーダ稼働、12月には手術予約が稼働し、当初計画したオーダーリングシステムの全てが無事稼働した。

平成22年度は、PICU棟のPIMSシステム及び産科の患者情報管理システムのシステム機器更新を実施した。

平成24年度は、平成25年2月24日、総合医療情報システム(電子カルテ)及び看護支援システムが稼働し、カルテの判読性・検索性の向上を図った。

平成25年度は、歯科電子カルテシステムの整備を行い、平成25年9月2日から運用を開始した。

平成26年度は、臨床検査システムの更新を行い、平成26年12月1日から、順次、運用を開始した。

平成28年度は、NICU及びPICUの患者情報管理システム、放射線情報システムを更新した。

平成29年度は、医用画像管理システム(PACS)の更新を行い、クラウド型システムを導入した。

平成30年度は、総合医療情報システム(電子カルテ)を更新し、手術部門患者情報システムを導入した。

令和元年度は、歯科電子カルテシステムを更新した。

カ 院内ボランティア

複数のボランティア団体の活動により、患者や家族の快適な環境と楽しい時間を提供している。

○「おもちゃ図書館どんぐり」(平成9年10月～)

月2回(第2・4金曜日)、エントランスホールにおいて、診察待ちの子ども達におもちゃを貸し出し遊び相手となる活動。

○「ひまわり会」(平成12年4月～)

毎週火曜日、慢性疾患児家族宿泊施設の管理として、宿泊棟の清掃やノート等を利用したの相談活動。

○「日本クリニクラウン協会」(平成17年10月～)

月1回(第4水曜日)、長期入院患者を励ますためのクリニクラウン(臨床道化師)による病棟訪問。

○「おはなしの風」(平成20年10月～)

月に2日、病棟、外科外来での絵本の読み聞かせ等の活動。

○「花壇ボランティアひまわり」(平成22年4月～)

月1回程度、院内の花壇、中庭の花弁、植栽の管理。

○アロマセラピー(平成28年11月～)

月に2日、入院されている子どもの家族を対象として、アロマオイルを用いたハンドマッサージを行う活動。

キ 臨床研修

当院は新臨床研修制度の協力型病院として平成17年度から小児科の研修を行う初期臨床研修医を受け入れている。当院は内科系だけでも三つの病棟を擁しているため、研修方法は研修医の希望に基づいて各病棟をローテートする方法で行っている。なお、希望者には一定期間、小児外科、形成外科、整形外科、心臓血管外科、産科の研修も許可している。

令和元年度 職員のメディアへの出演実績

年 月 日	番 組 名	出 演 者 氏 名	テ ー マ
令和元年 11 月 29 日	公益財団法人日本医療機能評価機構 第 22 回 診 療 ガ イ ド ラ イ ン 作 成 グ ル ー プ 意 見 交 換 会 (動 画 配 信) https://minds.jcqhc.or.jp/s/exchange_opinions_20191129	外来診療部長 山田佳之	講演「新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症診療ガイドライン作成での工夫」及びパネルディスカッション「これから診療ガイドライン作成グループに求められること」

(2) 院内会議の状況

会議の名称	会議の目的	開催状況
管理職会議	病院の基本方針等の協議・決定	月 1 回
管理診療会議	病院管理運営事項の協議・検討、各部門業務の連絡調整	月 1 回
予算委員会	予算に関する協議・決定	随 時
医療機器等購入審査委員会	医療機器等購入の選考・審査	随 時
経営検討会議	病院経営に関する協議・決定	月 1 回
地域医療連携室運営委員会	地域の医療機関との連絡調整	随 時
在宅療養支援委員会	在宅療養に関する支援策の検討	月 1 回
臨床試験審査委員会	臨床試験の妥当性の審査	随 時
倫理委員会	医療行為に係る倫理的検討	随 時
利益相反委員会	臨床研究に係る利益相反マネジメントの審議	随 時
医療安全管理委員会	医療安全管理対策を総合的に企画、実施	月 1 回
BLS 推進委員会	BLS の推進を計画・実施	月 1 回
リスクマネジメント委員会	医療安全管理に関する小委員会	月 1 回
救急カートWG	救急カートに関する検討	随 時
診療関連死原因検討委員会	死亡原因が医療事故又は合併症のいずれかを判定	月 1 回
診療情報管理委員会	診療情報提供に関する検討	随 時
DPC コーディング委員会	適切なコーディングに関する討議	年 2 回
薬事委員会	新薬・同種同効薬品の採用・選択等の検討	月 1 回
労働安全衛生委員会	職員の労働安全衛生に関する協議・予防接種の実施	月 1 回
学術委員会	臨床研究を含めた学術活動の活性化	随 時
臨床研究室運営委員会	臨床研究室の運営・管理	随 時
自主研究事業委員会	自主研究研修事業の審査	随 時
海外学会等出席者選考委員会	海外学会等出席者の選考	随 時
年報編集委員会	病院年報編集の協議	随 時
図書委員会	図書の購入検討・管理	随 時
臨床検査委員会	精度管理報告、検査項目・院内検査の機器・試薬等検討	3か月1回
輸血療法委員会	輸血業務の適正化に関する検討事項、各部門の連絡調整	年 6 回
院内感染対策委員会	院内感染防止対策の協議	月 1 回
ICT	院内感染防止対策マニュアルの検討	月 2 回
総合医療情報システム委員会	病院における情報システムの今後のあり方を検討	随 時
総合医療システム企画会議	総合医療情報システムの課題検討	随 時
サービス向上委員会	患者サービス向上に係る取り組みの検討	隔月1回
外来診療委員会	外来診療各科の連絡調整	随 時
総合周産期母子医療センター運営委員会	総合周産期母子医療センターの運営に関する検討	随 時
中央手術部運営委員会	施設・設備に関する事項及び診療各科との連絡調整	隔月1回
医局診療会議	診療各科の連絡調整	月 1 回
子ども虐待防止チーム委員会	子ども虐待の緊急対応に関する対応方針の決定	随 時
要支援事例検討等委員会	要支援事例の情報共有と具体的支援策を検討	隔月1回
褥瘡対策委員会	褥瘡の発症予防、処置等の対策を検討	月 1 回
栄養委員会	栄養業務の改善等の検討	年 4 回
NST	NST 実施にかかる協議・検討	随 時
診療材料検討委員会	診療材料購入等に関する検討	随 時
臨床研修委員会	研修医師の指導等に関する検討	随 時
保険診療委員会	診療報酬審査減の再審査の検討	随 時
クリニカルパス委員会	クリニカルパス導入に関する検討	随 時
ホームページ委員会	ホームページの編集	随 時
防災対策委員会	防災対策・訓練計画等の検討	年 2 回
医療機器安全管理委員会	ME 機器の維持管理、購入の検討及び操作法の教育	随 時
医療ガス安全管理委員会	医療ガス設備の安全確保、良質な患者サービスの提供	年 1 回
小児集中治療部運営委員会	PICU の運営に関する方針等の協議・調整・決定	年 4 回
セキュリティ対策委員会	院内防犯体制、情報セキュリティ等の検討	随 時
ドクタークラーク委員会	医師事務作業補助者の配置・業務内容等の検討	随 時
省エネ・節電対策委員会	省エネ対策等の検討	随 時
緩和ケア委員会	緩和ケアの計画策定・教育・情報収集等の検討	年 2 回
緩和ケア WG	緩和ケアの症例検討	月 1 回
母子保健室運営委員会	母子保健室の運営に関する検討	随 時
治験管理委員会	IRB が審査する事項以外の治験の検討	随 時
臓器提供対応委員会	臓器移植提供体制の検討	随 時

令和元年度のあゆみ

平成 31 年	4 月 1 日	採用、転入、昇任・昇格等辞令交付・発令通知伝達式
	9 日	管理職会議
	24 日	管理診療会議
令和元年	5 月 14 日	管理職会議
	19 日	GCMC セミナー
	22 日	管理診療会議
	27 日	医療安全研修
	30 日	例月現金出納検査
	6 月 11 日	管理職会議
	20 日	第 1 回在宅療養支援委員会 勉強会
	26 日	管理診療会議
	7 月 9 日	管理職会議
	24 日	管理診療会議
	29 日	本監査・例月現金出納検査
	29 日	第 2 回在宅療養支援委員会 勉強会
	9 月 10 日	管理職会議
	25 日	管理診療会議
	10 月 8 日	管理職会議
	17 日	消防訓練 (第 1 回)
	17 日	第 3 回在宅療養支援委員会 勉強会
18 日	ボランティア意見交換会	
18 日	医療安全講演会	
23 日	管理診療会議	
11 月 5 日	登録医大会	
7 日	第 3 回小児脳死下臓器移植シミュレーション	
8 日	医療安全講演会	
12 日	適時調査	
12 日	管理職会議	
14 日	サービス向上委員会接遇講演会	
14 日	例月現金出納検査	
26 日	医療法に基づく病院立入検査 (医療監視)	
27 日	管理診療会議	
12 月 6 日	在宅療養支援委員会 症例検討会	
10 日	管理職会議	
22 日	クリスマス会	
25 日	管理診療会議	
27 日	仕事納め式	
令和 2 年	1 月 6 日	仕事始め式
	14 日	小児医療センター医療事故調査委員会
	14 日	管理職会議
	15 日	監査委員会事務局事務監査
	22 日	管理診療会議
	2 月 4 日	監査委員定期監査
	5 日	第 133 回小児医療センター講話会
	18 日	管理職会議
	20 日	第 4 回在宅療養支援委員会 勉強会
	21 日	新型コロナウイルス感染症講演会
	26 日	管理診療会議
	3 月 10 日	管理職会議
	19 日	消防訓練 (第 2 回)
	25 日	管理診療会議
	31 日	退職者辞令交付・転出者発令通知伝達式

職員異動状況

転入・採用			転出・退職		
所属	氏名	年月日・区分	所属	氏名	年月日・区分
看護部	本多草子 日景智行 黒岩徹美 狩野愛美 萩原里香 荒木里香 高橋夏姫 美才治祐也 中村陽子	H31.4.1 転入	看護部	小島専司	H31.4.1 転出
				田村芳子	
				石関綾	
				田島裕	
				水落宏彰	
			技術部	都丸健一	
				茂木利雄	
				上田正徳	
				神保裕子	
			事務局	井田浩	
事務局	吉澤隆雄 岡島正樹 高尾淳夫	H31.4.1 採用	事務局	猪岡忠仁	H31.3.31 退職
				能勢貴子	
				宮下昇三	
医療局	松田知子		医療局	松田知子	
看護部	野村滋 浅見雄司 清水有紀 田中由子 道崎護	H31.4.1 採用	看護部	武井貴代美	H31.3.31 退職
				金井みち子	
				阿久澤里美	
				田中満静	
				中村陽子	
				神戸祥子	
				荒木理佐	
				漆田美紀	
				坂本満里奈	
			技術部	竹内浩司	
看護部	立見可奈	R1.6.30 退職			
医療局	朴明子	R1.9.30 退職			
看護部	亀井美沙	R1.10.31 退職			
	立川美咲				
看護部	高橋明奈	R1.11.19 退職			
看護部	古堀楓	R1.12.31 退職			
技術部	下田寛貴				
	諸岡望				
	神保直樹				
技術部	青柳のどか	R1.9.1 採用			
医療局	河崎裕英	R1.10.1 採用			
	森田孝次				

◇ 編 集 後 記 ◇

令和元年度の年報をお届けします。昭和 57 年 4 月に開設した当院も、平成に続いて令和という 3 つ目の年号を迎えました。開設当初より診療科や病床数、スタッフ数も増えてきましたが、日進月歩である医療の現場において、子どもたちの健やかな生活と未来のために、スタッフ一人一人が患者さんやご家族と向き合うことには変わりありません。その一端をこの年報でご覧いただければ幸いです。

オリンピックイヤーとして華やかに幕を開けた 2020 年ですが、5 月現在 COVID-19 の流行という未曾有の状況にあります。緊急事態宣言、3 密、ステイホーム、ソーシャルディスタンスなどの馴染みのなかった言葉が既に日常となりました。感染への不安に加え、長期間の自粛や休校が子どもたちやご家族に与える影響も大きいものと思われます。当院は現在のところ患者さんの受入れはなく、医療崩壊という言葉も実感はありませんが、医療資源の確保も含め先の見えない状況であることには変わりありません。生活様式そのものが変化していくと予測される今後に向け、当院も求められる役割を全うできるよう、地域連携を深めながら、努力と工夫を重ねていければと思います。

最後になりましたが、年報作成に当たりご協力いただいた多くのスタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。

年報編集委員長 渡辺 美緒

○年報編集委員

渡辺 美緒	清水 奈保	小林 富男	浜島 昭人
丸山 憲一	山田 佳之	椎原 隆	河崎 裕英
下山 伸哉	西 明	木下 樹	浅井 伸治
岡 徳彦	京谷 琢治	松本 直樹	山口 有
富岡 千鶴子	田中 伸久	佐々木 保	臼田 由美子
島田 純子	佐藤 真理子	高橋 雪子	
外松 学 (オブザーバー)		(担当事務局 総務課)	

群馬県立小児医療センター

〒 377-8577 渋川市北橘町下箱田 779 番地
電 話 0279-52-3551 (代表)
0279-52-3555 (新生児未熟児病棟直通)
0279-52-4600 (産科病棟直通)
0279-52-7171 (地域医療連携室)
0279-52-4000 (予約専用)
F A X 0279-52-2045 (事務局)
0279-52-4216 (図書室)
0279-52-3539 (検査課)
0279-52-7333 (地域医療連携室)
0279-52-4800 (栄養調理課)